

公第8巻 (通算第19巻)

公益財団法人 日本生命済生会

日本生命病院年報



公益財団法人日本生命済生会
日本生命病院年報
2019年4月～2020年3月

公第八巻
(通算第十九巻)
(2019年4月～2020年3月)

vol. 8

2019年度

日本生命病院年報の発刊にあたって



院長 笠山 宗正

日本生命病院年報(公第8巻：2019年4月～2020年3月)をお届けします。

新築移転後2年目となった2019年度は、移転前より強化・拡大してきた病院の診療機能をいっそう充実したものにするとともに、「診療機能向上プロジェクト」を新設し中期経営計画に沿って今後の診療体制の方向性についての検討を行いました。

2019年4月に西日本で初めてとなる「乾癬センター」を開設したほか、2019年度より新しく算定を開始した「総合入院体制加算」の堅持、集中治療室8床の全稼働に向けた体制整備、手術件数増加のための手術室看護職員の充実、前立腺がん・子宮筋腫・子宮体がんに対するロボット支援手術(ダヴィンチ)の実施件数の増加、常勤の脳機能センター長を招聘しアミロイドPETを含む認知症の早期診療のための体制準備などの取り組みを行いました。また、医療の国際化に適応するため国際室を新設し、専門的な医療通訳を実施する体制を整備しました。この結果、1ヶ月あたり100名以上の外国人患者の対応を行い、大阪府の「外国人患者受入地域拠点医療機関」に登録されたほか「ジャパンインターナショナルホスピタルズ(JIH)」の認証も受けました(2020年4月)。さらに、臨床研修病院として医師教育の質の向上にも努め、卒後臨床研修評価機構(JCEP)の認定を取得しました(2020年3月)。

診療実績につきましては、多くの医療機関と地域住民の皆さまからのご支援を頂戴したおかげで、2019年度も、紹介患者数、外来患者数、新入院患者数、入院患者数、手術件数、全身麻酔手術件数、透析件数、消化器内視鏡検査件数、人間ドック受診者数、定期検診受診者数、訪問看護ステーション利用者数、同訪問件数などの項目で前年度を上回ることができました。

一方、中国武漢で発生した新型コロナウイルス(COVID-19)による感染症は日常の診療に対しても大きな負荷をかけてきました。2020年1月にわが国で初めての感染者が報告されましたが、当院では1月末に臨時院内感染対策委員会を設置し疑似症患者を受入れることを決定し、全職員を対象とした研修会で患者対応について共有化し標準予防策を徹底しました。その後は大阪府や大阪市保健所からの要請に基づいて患者の診療を継続しています。この間、マスクやガウンなどの医療用防護具について一時期逼迫する局面もありましたが、地域の医療機関をはじめとする皆さまからのご寄付のおかげで不足に至ることはありませんでした。あらためまして感謝申し上げます。

日本生命病院の母体である日本生命済生会は「済生利民(人の生活といのちを救い、人のお役に立つこと)」を基本理念として1924年(大正13年)に設立されました。現在では、他に引けを取らない充実した診療施設と医療機器を擁し27の診療科と9つの診療センターより構成される総合病院に発展してきましたが、「済生利民」の精神はいつの時代にも継続していかねばなりません。わたしたちは「心ふれあう、あったかサポート」を合言葉に、予防から治療・在宅まで一貫した最優の医療サービスを提供し、地域と社会から愛され信頼されるよう努力していきますので、皆さまには、今後も当院に対しましてさらなるご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

2019年度日本生命病院年報の発刊にあたって 院長 笠山 宗正

第Ⅰ章 軌跡

1. 日本生命病院理念と基本方針	4
2. 患者さんの権利と義務について	4
3. 施設概要	6
4. 学会認定状況	8
5. 主要医療機器	9
6. 日本生命済生会 組織図	10
7. 会議・委員会	11
8. 2019年度 業績概要	12
9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革	13
10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長	16

第Ⅱ章 病院統計

1. 全体統計	17
1) 一日平均外来患者数	17
2) 一日平均入院患者数	18
3) 患者年齢・診療圏構成	19
4) 病床稼働率	21
5) 救急患者数	22
6) 退院患者医療評価指標	23
①退院患者統計	23
②診療科別・月別・患者数	24
③診療科別・在院期間別・患者数	25
④疾病統計	26
⑤悪性新生物統計	28
⑥診療科別・月別・死亡（剖検）患者数	29
7) 手術件数	30
①診療科別・月別手術件数（手術室実施）	30
②診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）	31
2. 医事統計	34
1) 診療科別医療収入	34
2) 医療行為別医療収入	36
①外来	36
②入院	37
3. その他統計	38
1) 病院従業員数	38
2) セカンドオピニオン外来件数	38

第Ⅲ章 部門別概要〈診療科・センター・部(室)〉

循環器内科	39
消化器内科	41
総合内科	43
血液・化学療法内科	47
脳神経内科	48
腎臓内科	50
消化器外科	52
呼吸器外科	54
乳腺外科	55
心臓血管外科	56

産婦人科	57
小児科	59
神経科・精神科	61
脳神経外科	64
整形外科	65
皮膚科	66
泌尿器科	68
眼科	70
耳鼻咽喉・頭頸部外科	71
形成再建外科	73
放射線診断・IVR科	74
放射線治療科	75
麻酔・緩和医療科	76
リハビリテーション科	78
救急診療科	80
検査診断科	81
病理診断科	82
救急診療センター	83
がん治療センター	84
女性骨盤底センター	86
糖尿病・内分泌センター	87
消化器内視鏡センター	89
血液浄化センター	90
脳機能センター	91
乾癬センター	93
臨床研修部	95
輸血管理室	96
化学療法室	97
リハビリテーション室	98
中央手術管理部	100
中央臨床検査部	101
中央放射線部	103
栄養管理室	104
薬剤部	107
臨床工学室	109
臨床研究管理室	110
医療安全対策室	111
感染対策室	112
あったかサポートセンター	114
ニッセイ訪問看護ステーション	122
ニッセイケアプランセンター	124
看護部	125
国際室	134
ニッセイ予防医学センター	136

第IV章 諸活動

1. 日本医師会生涯教育講座カリキュラム	138
2. 日本生命病院医学セミナーUpdate	138
3. 1年目研修医オリエンテーション	139
4. 実習生等受け入れ	140
5. 講演会・研修会	141
6. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞	147
7. 地域活動	147
8. ボランティアについて	148
9. 広報関係（テレビ、新聞、雑誌等）	149
10. 院内行事	150

1. 日本生命病院理念と基本方針

理念

日本生命病院は公益財団法人日本生命済生会の基本理念である「済生利民」の精神にもとづき、地域に対し、予防・治療・在宅まで一貫した総合的な医療サービスを提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った最良の医療サービスを提供します。
2. 常に安全な医療とまごころの看護を実践します。
3. 人権の尊重、プライバシーの保護、並びに法令等の遵守に努めます。
4. 日々研鑽に努め、より信頼される医療人を目指します。
5. 地域・社会のニーズに対応した変革を進め、地域医療と地域社会の健全な発展に貢献します。
6. 地域から愛され信頼される、安全・安心な病院を目指します。
7. 上記6項目を継続して実現するため、健全な経営を行います。

2. 患者さんの権利と義務について

《患者さんの権利》

医療は患者さんと医療関係者とが相互の信頼関係に基づき、協力し合ってつくり上げていくものです。日本生命病院では、患者さん中心の医療サービスの実践を常に心がけ、以下の患者さんの権利を大切にします。

1. 患者さんは、良質な医療を平等に受けることができます。
2. 患者さんは、自分が受ける治療や検査に関して、効果や危険性、他の治療方法の有無などにつき、わかりやすく説明を受けることができます。
3. 患者さんは、十分な説明と情報提供を受けたうえで治療方針など自らの意思で選択することができます。また希望しない医療を拒むことや自分で医療機関を選択し、転院することもできます。
4. 患者さんは、自分が受けている医療について知ることができます。
5. 患者さんは、個人として常にその人格を尊重され、また個人情報も自分の承諾なくして第三者に開示されることはありません。

《患者さんの義務》

日本生命病院では、ご来院・ご入院されるすべての患者さんに対し、安全・安心な環境において、良質な医療サービスを提供します。患者さんにおかれましても、病院の規則を守り、職員や他の人々に迷惑をかけない責務や自分自身の健康に関する情報を正確に提供する責務がありますので、ご理解とご協力をお願いします。

1. 患者さんには、自らの過去の病歴を含む健康に関する詳細な情報、診療中の変化を正確に伝える義務があります。
2. 患者さんには、治療や検査などの治療方針について、医療者から説明があった場合は、できるだけ明確な意思表示をする義務があります。
3. 患者さんには、医療が安全かつ効果的に実施されるよう、患者さんのご本人確認を含めた診療行為に積極的に参加し、協力する義務があります。
4. 患者さんには、病院内では、当院の規則および公共の場のルールを守って他の方の迷惑にならないように行動する義務があります。
5. 患者さんには、医療費を支払う義務があります。
6. 患者さんには、医療は医学、社会、経済、倫理等の様々な要因により限界があることを認識する義務があります。

2005年7月 制定

2016年6月 改正

2019年4月 改正

3. 施設概要

1. 名 称 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院
2. 所 在 地 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1番54号
3. 竣工年月日 2018年1月5日
工事期間 2015年10月～2017年12月
4. 開設年月日 2018年4月30日
5. 構 造 鉄骨造（免震構造）
6. 延床面積 38,185.66㎡
7. 階 数 地下1階、地上14階、塔屋2階
8. 高 さ 67.99m
9. 設備概要 受 変 電：22kV特高スポットネットワーク受電（TR1.250kVA×3台）
発 電 機：非常用発電機（ガスタービン）高圧 1,500kVA
常用発電機（マイクロCGS）低圧 31kVA×10台
無停電電源：医療用100kVA、情報用100kVA
通信・信号：ナースコール、インターホン、テレビ共同受信、監視カメラ、入退室管理、
電話、LAN
熱 源 方 式：ジェネリンク機、モジュールチラー、マイクロコージェネ
空 調 方 式：空調機、ファンコイル、空冷パッケージエアコン、（放射空調）
給 湯 設 備：ガス給湯ヒーター、ガス連結式瞬間型給湯器、貯湯式電気温水器
消 火 設 備：スプリンクラー、連結送水管、泡消火、窒素ガス消火、フード消火
医 療 ガ ス：酸素、笑気、窒素、炭酸ガス、圧縮空気、吸引
エレベータ：一般乗用5台、寝台用1台、人荷用2台、非常用2台、小荷物専用3台
エスカレータ：6台
10. 許可病床数 350床

	一 般 病 棟	14階 (1,604㎡)
		13階 (1,604㎡)
		12階 (1,604㎡)
		11階 (1,604㎡)
		10階 (1,604㎡)
		9 階 (1,611㎡)
		8 階 (1,601㎡)
	女性病棟 (LDR室、新生児室)	7 階 (1,859㎡)
リハビリ 庭 園	リハビリテーション室／機械室／栄養管理室／厨房	6 階 (2,419㎡)
ニッセイ 四季彩 ガーデン	管理部門／医局／研修医スペース／看護部管理室／福祉事業局／医療安全対策室／ 感染対策室／診療情報管理室／情報システム室／国際室／技術トレーニング室／会議室／応接室	5 階 (3,577㎡)
	手術室／集中治療室／化学療法室／血液浄化センター／ 中央臨床検査部 (検体・病理・細菌検査)／薬剤部／臨床工学室	4 階 (3,577㎡)
	予防医学センター (人間ドック・健診)／消化器内視鏡センター／ 中央放射線部／臨床研究管理室	3 階 (3,577㎡)
	外来／生理検査室／採血室／栄養指導室／医事サービス部／ あったかサポートセンター／がん治療センター／糖尿病・内分泌センター／乾癬センター	2 階 (3,769㎡)
	救急診療センター／リニアック治療室／訪問看護ステーション／ あったかふれあいホール／工房／ホスピタルコリドー／レストラン・カフェ／コンビニ	1 階 (3,534㎡)
	駐車場	B1 階 (3,811㎡)

- ・第8回みどりのまちづくり賞ランドスケープデザイン部門「大阪府知事賞」(最高賞) 受賞
- ・第39回大阪都市景観建築賞 (愛称: 大阪まちなみ賞)「緑化賞」 受賞



ニッセイ四季彩ガーデン



病院外観



ホスピタルコリドー

4. 学会認定状況

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本胆道学会指導施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本アレルギー学会専門医準教育施設
- ・日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・日本透析医学会教育関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本消化管学会胃腸科指導施設
- ・日本呼吸器外科学会認定修練施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による
実施施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会
腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- ・日本精神神経学会専門医制度研修施設
- ・日本皮膚科学会専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本IVR学会専門医修練施設
- ・日本ペインクリニック学会指定研修施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本臨床腫瘍学会特別連携施設
- ・日本膵臓学会認定指導施設
- ・日本超音波医学会専門医制度研修施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本リウマチ学会教育施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施基準
管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する
委員会 ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設
- ・日本総合病院精神医学会
一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
- ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本形成外科学会専門医制度認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会認定病院
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設

(2020年3月31日現在)

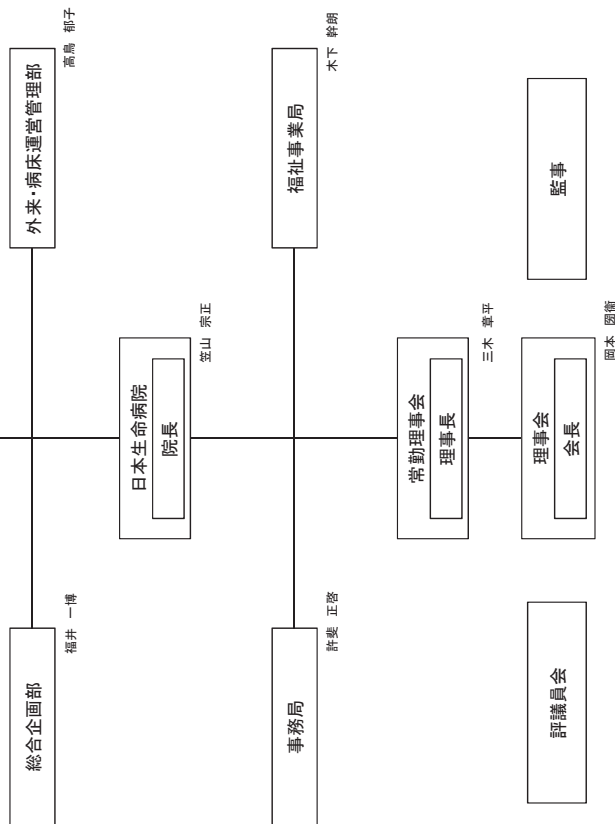
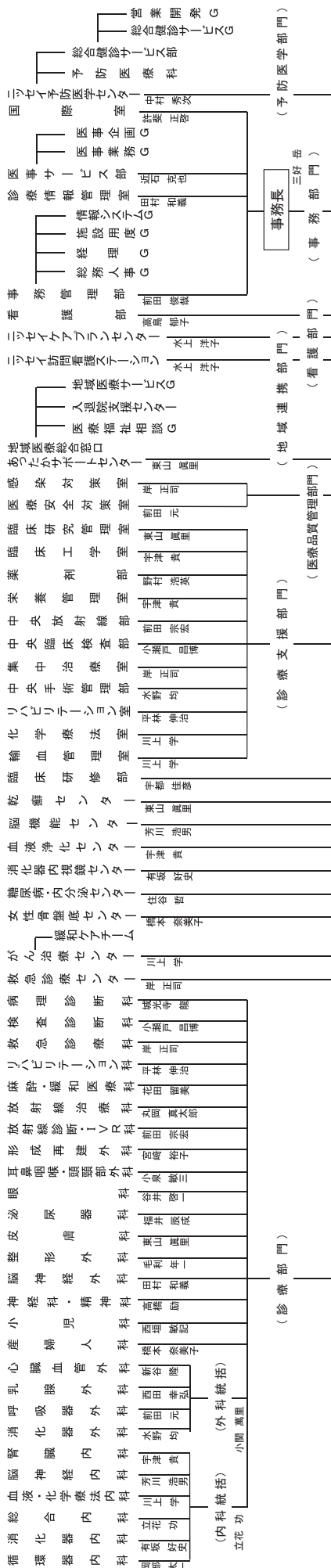
5. 主要医療機器（取得金額1,000万円以上）

品名	設置部署	数量	品名	設置部署	数量
超音波内視鏡	消化器内視鏡センター	1	汎用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD20	中央放射線部	1
超音波内視鏡観測装置	消化器内視鏡センター	1	マンモグラフィシステム AMULET	中央放射線部	2
超音波診断装置 Aplio i600	予防医学センター	4	自動注射払出機 YS-APF	薬剤部	1
内視鏡本体・スコープ EVIS LUCERA ELITE	消化器内視鏡センター	6	超音波診断装置 VIVID E9 BASIC	中央臨床検査部	1
内視鏡本体・スコープ VP-7000	消化器内視鏡センター	1	超音波診断装置 Aplio i600	中央臨床検査部	1
ステレオ定位乳腺バイオプシーシステム	乳腺外科	1	血液検査分析器 HSトランスポートーション	中央臨床検査部	1
体外衝撃波結石破碎装置 Integra	泌尿器科	1	血液分析装置 XN-3000/XN-1000	中央臨床検査部	1
マルチカラーレーザー光凝固装置	眼科	1	生化学分析装置 LABOSPECT008 a	中央臨床検査部	2
走査型超広角眼底撮影装置 CLARUS	眼科	1	微生物分類同定分析装置 バイテックMS	中央臨床検査部	1
光干渉断層計 (OCT) シラスhd-oct prus	眼科	2	遠心型血液成分分離装置 スペクトラオプティア	中央臨床検査部	1
キャビン型紫外線治療器 UV7002K-TL01	皮膚科	1	自動染色装置 ベンチマークULTRA	中央臨床検査部	1
X線一般撮影装置	中央放射線部・予防医学センター	4	自動検体搬送装置 IDS-CLAS+X-1	中央臨床検査部	1
デジタルX線TVシステム	予防医学センター	5	採血管準備装置 BC・ROBO8001RFID/P62T	中央臨床検査部	1
ポータブル撮影装置	中央放射線部	2	眼科用手術顕微鏡	手術室	1
16列治療計画用CT Aquilion LB	中央放射線部	1	白内障手術装置 センチュリオンビジョンシステム	手術室	1
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE	中央放射線部	1	高圧蒸気滅菌器	手術室	2
320列全身用X線CT診断装置 Aquilion ONE/Genesis	中央放射線部	1	過酸化水素ガス滅菌装置	手術室	1
放射線治療システム True Beam	中央放射線部	1	耳鼻咽喉・頭頸部外科用手術顕微鏡 M525 F40	手術室	1
心臓カテーテル検査装置 MCS-9000	中央放射線部	1	手術顕微鏡 OPMI LUMERA	手術室	1
大動脈内バルーンポンプ IABP	中央放射線部	1	手術室用FD搭載Cアーム Cios Alpha iV	手術室	1
X線テレビジョンシステム ZEXIRA	中央放射線部	1	透視下内視鏡用Cアーム VersiFlex VISTA	手術室	1
経皮的心肺補助装置 PCPS	中央放射線部	1	ライカ脳神経外科手術顕微鏡 M530-OHX	手術室	1
1.5テスラ全身用磁気共鳴装置 (MRI) MAGNETOM SYMPHONY	中央放射線部	1	超音波手術装置 CUSA C37-1005	手術室	1
3.0テスラ磁気共鳴断層装置 (MRI) MAGNETOM Skyra	中央放射線部	1	超音波診断装置 Aplio i600	手術室	1
デジタルガンマカメラ	中央放射線部	1	ロボット手術システム da Vinci Xi	手術室	1
PET-CT装置 Discovery IQ.e	中央放射線部	1	腹腔鏡装置 VISERA ELITE II	手術室	6
心臓用アンギオグラフィ装置 Allura Clarity FD10/10	中央放射線部	1			

6. 日本生命保險株式會社組織圖

(2020.3 現在)

患者・利用者・家族の皆さん、地域の皆さん、連携医療機関



7. 会議・委員会

会 議

・常勤理事会

理事長所管の下、常勤の理事以上がメンバーとなり、原則として毎週開催し、済生会3部門（病院、予防医学センター、訪問看護ステーション・ケアプランセンター）の基本的運営方針を協議決定する。

この他、会長や外部の理事、監事を交えた定時理事会がある。

・予算理事会 → 3月

・決算理事会 → 事業年度終了後3ヵ月以内に開催される

また評議員会が6月に開催される。

・病院運営会議

理事長の委嘱により院長が主宰し、病院幹部をメンバーとして毎週開催され、日常的な病院運営のテーマについて討議・決定する。

ただし、予算・人員・規則の問題などに関しては、常勤理事会に付議する。

・病院管理診療会議

院長を中心に、病院各科・各部の部長・担当部長、病棟師長以上等をメンバーとし、診療や病院運営に関する事項について協議、意見交換、連絡を行う。

（運営会議、病院管理診療会議ともそれぞれが独立して存在するのではなく、所定の内規の下に、課題を共有し改善を分担してより良く病院機能が発揮されることを基本的精神としている。）

委員会

各種委員会は、理事長または理事長の委嘱を受けた院長の諮問機関として、検討結果を理事会・病院運営会議に答申している。

当年度の設置委員会は次の通り。

委員会名	委員長	開催回数	委員会名	委員長	開催回数
ACLS委員会	中川 厚	9	診療録管理委員会	橋本奈美子	10
安全衛生委員会	芳川 浩男	12	治験審査委員会	水野 均	13
医療安全管理委員会	前田 元	12	DPC・質向上委員会	田村 和義	4
医療ガス安全管理委員会	住谷 哲	1	当直・救急・集中治療室検討委員会	岸 正司	6
医療機器・ディスポ検討委員会	笠山 宗正	7	透析機器安全管理委員会	宇津 貴	2
医療従事者業務検討委員会	笠山 宗正	2	日生医学賞顕彰委員会	岡部 太一	1
院内感染対策委員会	岸 正司	12	年報作成委員会	花田 留美	2
栄養・給食委員会	宇津 貴	4	病院機能向上委員会	東山 真里	8
化学療法運営委員会	西田 幸弘	2	防災管理委員会	有坂 好史	5
教育委員会	立花 功	3	放射線安全委員会	前田 宗宏	2
クリティカルパス委員会	福井 辰成	3	訪問看護運営委員会	高鳥 郁子	0
研修推進委員会	宇都 佳彦	5	薬事管理委員会	笠山 宗正	4
研修管理委員会	笠山 宗正	4	輸血療法委員会	川上 学	7
情報管理委員会	毛利 年一	2	臨床検査適正化委員会	内藤 博昭	5
褥瘡対策委員会	宮崎 裕子	3	臨床工学室運営委員会	宇津 貴	6
診療情報提供委員会	高橋 励	0	倫理委員会	中村 秀次	10

8. 2019年度 業績概要

総 収 入	12,030百万円（10,661百万円*）		
新 入 院 患 者 数	9,277人	平 均 在 院 日 数	10.9日
入 院 患 者 数（1日平均）	301人	入 院 単 価	62,679円
病 床 稼 働 率	86.2%		
外 来 延 患 者 数	244,616人	外 来 単 価	16,317円
外来患者数(1日平均)	1,011人		
紹 介 率	74.7%	逆 紹 介 率	97.7%

*（ ）内は病院単独

9. 日本生命済生会（日本生命病院）の沿革

1924年7月	財団法人「日本生命済生会」設立	1972	4	臨床研修指定病院の認定を受ける
1925	4 健康相談所（無料診療所）を開設 大地震に救護班派遣	1973	2	「日生病院医学雑誌」第1巻第1号を刊行
1930	6 緒方病院の土地、建物を譲り受け （大阪市西区新町）	1973	3	紀要「地域福祉研究」第1集刊
1931	6 日生病院（内科、外科、理学的診療科） 開院	1973	4	放射線学会「専門医修練機関」認定
1932	4 看護婦養成所を設立	1973	9	病歴図書部を新設
1932	7 産婦人科、小児科を新設	1973	10	超音波検査部「超音波カラー診断装置」 開発で機械振興会賞を受賞
1942	1 耳鼻咽喉科を新設	1974	7	創立50周年記念式典、50年史の編纂 （1979年発刊）
1947	1 眼科新設（その後皮膚泌尿器科、歯科、 整形外科新設）	1976	1	RI検査室を新設
1947	4 インターン制度の開始 （第1期生9名受入れ）	1978	3	「（新）病院建築基本構想委員会」設置
1948	9 健康保険、労災保険病院の指定を受ける	1978	4	学校、高等看護学院から看護専門学校へ 昇格
1949	7 結核病棟を設置（1973年8月、閉鎖）	1979	4	医療事務をコンピュータ化
1955	12 第二種社会福祉事業（無料低額診療）を 開始	1982	4	新病院（西区立売堀）の竣工、開院
1956	1 日生病院、本館、別館につづき新館竣工 （350床へ）	1983	3	日本生命と第一回特別委員会 （5カ年計画策定）
1956	6 健康精密検査室（人間ドック）を開設	1984	3	全科で午後外来診療を開始
1957	8 総合病院の認可を受ける	1984	4	社会事業局を福祉事業部に改組
1958	4 済生会組織、三部門体制へ （現行体制スタート）	1985	4	病理部を再設置
1958	10 甲表採用、三基準認可	1987	12	HBS社（医療経営コンサルト）の診断を 受ける
1959	10 神経科新設	1988	10	横井先生、第5回世界超音波医学学術連合 会議からパイオニア賞を受賞
1960	4 学校、准看護学院から高等看護学院 （正看護婦養成）へ	1989	2	夕食を午後6時配膳
1961	6 日本生命済生会労働組合の結成	1989	10	専門外来（10科）開始
1965	8 各診療科に部長制採用	1989	11	自動再診受付機を設置
1967	10 中央検査室を「臨床検査センター」へ 拡大、充実	1990	10	学校、創立30周年記念式典
1968	8 第1回「社会福祉カウンセリング講座」 開講	1991	4	4週6休制試行開始
1969	4 沖中重雄氏（虎の門病院長）を顧問委嘱	1991	10	地域の「健康講座」に講師派遣
1970	9 第1回「篤志解剖者慰霊祭」執行	1992	6	外科、世界内視鏡外科学会で受賞
1971	4 給与体系、退職金規定改正、 60才定年制施行	1993	2	「病院運営会議」を再開
		1993	4	MRIの稼働開始
		1993	6	全病棟「特Ⅲ類基準看護」の資格獲得
		1993	10	内科、産婦人科、人間ドックの外来領域 リフォーム工事完成

1994	3	内科外来等で予約診療開始	2005	3	電子カルテシステム稼動
1994	7	創立70周年記念式典、諸行事实施 (7～11月)、70年史の編纂開始	2006	4	血液・化学療法内科新設
1994	10	脳ドック検診開始	2006	7	DPC導入(入院医療費)
1994	10	新看護体系「2:1(A)」の承認	2007	2	土曜日閉院 4週8休制開始
1994	11	無菌治療室設置、使用開始	2007	3	7対1入院基本料算定開始
1995	2	保温保冷配膳車導入	2007	3	日生看護専門学校閉校
1995	8	日生医学賞・医学奨励賞創設、 第1回表彰式実施	2007	11	がん治療センター、低侵襲医療センター 開設
1995	8	山本前院長、和漢医薬学会から学会賞受賞	2008	4	ニッセイ総合健診クリニックオープン
1996	5	総合案内・看護相談の試行実施	2008	7	生活習慣病センター開設
1996	10	「歯科口腔外科」標榜	2008	10	乳腺外科新設
1997	2	経営改善推進本部・部会の発足	2009	3	第1回日生病院市民公開講座開催
1997	3	歯科臨床教育病院の新規指定	2009	4	大阪府がん診療拠点病院に指定
1997	3	疾病分類包括支払研究プロジェクト (医療経済研究機構)に選ばれ、参加 (全国17モデル病院)	2010	8	無料乳がん検診開始
1998	2	「日生病院だより」創刊号発行	2011	4	消化器内視鏡センター開設
1998	5	総合診療科機能発足	2012	1	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下子宮体 がん根治手術」(産婦人科)が承認される
1998	7・8	DRG/PPS分析結果報告会開催	2012	4	公益財団法人へ移行
1998	11	院外処方箋発行開始	2012	4	地域医療総合窓口 あったかサポートセンター創設
1998	11	薬剤管理指導料全科算定認可	2012	4	生活習慣病センターから糖尿病センターへ 組織名称変更
1999	3	医療材料院外SPD(物品管理システム) 始動	2012	4	厚生労働省より先進医療「前眼部三次元画 像解析」(眼科)が承認される
1999	7	インフラ工事開始 (2000年4月:3階新病棟オープン)	2012	8	320列マルチスライスCT導入
2000	3	日生訪問看護ステーションを開設	2013	4	新病院新設準備室の新設
2000	4	日生ケアプランセンター設置	2013	4	予防医学センターで「統合健診システム」 の稼働
2001	4	病院機能評価認定証取得	2013	5	厚生労働省より先進医療「腹腔鏡下仙骨隆 固定術」(産婦人科)が承認される
2001	4	「日生病院の理念」制定、「患者様の権利」 院内掲示	2013	12	ニッセイ緑の財団との共催イベント「自然 に学ぶ!自然に遊ぶ!健康キッズ」開催
2001	6	公開学術講演会開催 (講師:北村国立循環器病センター総長)	2014	1	広報誌「日生病院あったかサポート通信 『Saisei Rimin(済生利民)』」を発刊
2001	7	第1回日生病院病診連携フォーラム開催	2014	1	「金融コンシェルジュ」相談窓口開設
2002	1	開放型病院資格取得	2014	4	「変革4ヵ年計画」がスタート
2003	4	医療安全対策室設置	2014	4	病院業務改革推進本部、外来・病床運営管 理部、女性骨盤底センター、救急診療セン ター、中央放射線部、事務管理部の新設
2003	4	予防医学センター設置	2014	4	日本産科婦人科内視鏡学会 施設認定
2004	2	内科二次救急指定病院取得			

2014	5	新電子カルテシステムが全面稼働	2016	7	「入退院支援センター」をあったかサポートセンター内に設置
2014	7	日本生命済生会 創立90周年「90年小史」作成	2016	10	日本大腸肛門病学会 施設認定
2014	9	「ウィークエンド糖尿病精査入院」開始	2016	11	日本消化管学会 施設認定
2015	1	日本呼吸器内視鏡学会 施設認定	2016	12	新病院上棟式
2015	4	中央手術管理部の新設	2017	3	日本胆道学会 施設認定
2015	6	胃がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開	2017	4	形成再建外科、リハビリテーション科、心臓血管外科、放射線治療科を新設
2015	7	新病院開設許可受ける	2017	4	日本腎臓学会 施設認定
2015	9	休日診療の試験実施（9月23日、11月23日）	2017	5	日本婦人科腫瘍学会 施設認定
2015	10	新病院着工	2018	1	日本呼吸器外科学会 施設認定
2015	11	食道がんのESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を再開	2018	2	「地域医療支援病院」として大阪府より承認
2016	1	呼吸器外科新設	2018	4	日本ペインクリニック学会 施設認定
2016	3	日本産科婦人科学会の倫理委員会で承認された、不妊治療の臨床研究に係る卵巣ミトコンドリア採取手術を開始	2018	4	「日本生命病院」に改称し、江之子島へ移転・開院
2016	4	耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科に改組	2018	6	ダヴィンチによる手術開始
2016	4	内科統括・外科統括職制の新設	2018	11	神経内科を脳神経内科に改組
2016	6	日本総合病院精神医学会 施設認定	2018	12	「スマートフォン診察呼出アプリ」の運用開始
2016	7	腎臓・透析センター、腎臓内科を新設	2019	1	日本痔臓学会 施設認定

（2019年度沿革）

2019年4月1日	乾癬センターの新設、総合入院体制加算の算定開始、日本超音波医学会 施設認定
2019年5月1日	看護職員夜間配置加算16対1基準の獲得
2019年5月31日	大阪府「外国人患者受入地域拠点医療機関」に選定される
2019年7月1日	医師事務補助体制加算15対1基準の獲得
2019年10月1日	国際室の新設
2020年1月10日	人間ドック健診施設機能評価の更新審査を受審し認定を受ける
2020年1月14日	大阪まちなみ賞・緑化賞を受賞
2020年1月29日	「帰国者・接触者外来」の設置
2020年3月1日	JCEPの臨床研修評価を受審し認定を受ける

10. 日本生命済生会歴代会長、歴代理事長、日本生命病院歴代院長

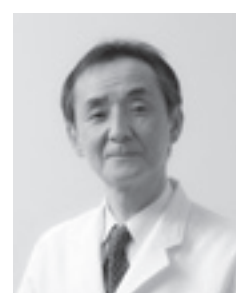
設立時の常任理事	小 河 滋 次 郎	1924年～1925年
日本生命済生会 会 長	弘 世 現	1960年～1991年
	川 瀬 源 太 郎	1991年～2000年
	小 林 幹 司	2000年～2005年
	宇 野 郁 夫	2005年～2016年
	岡 本 罔 衛	2016年～
日本生命済生会 理 事 長	手 塚 太 郎	1925年～1932年
	弘 世 助 太 郎	1932年～1936年
	成 瀬 達	1936年～1951年
	弘 世 現	1951年～1960年
	若 林 源 蔵	1960年～1968年
	浜 田 勝 巳	1968年～1980年
	浅 井 啓 三	1980年～1986年
	鳥 井 静 夫	1986年～1992年
	弟 子 丸 兆 生	1992年～1994年
	平 島 一	1994年～1996年
	沼 田 輝 夫	1996年～2002年
	小 林 三 紘	2002年～2008年
	野 崎 篤 彦	2008年～2018年
	三 木 章 平	2018年～
日本生命病院 院 長	長 雄 勝 馬	1931年～1937年
	清 水 寛 一	1937年～1946年
	勝 部 育 郎	1946年～1948年
	新 海 輝 一	1948年～1971年
	諏 訪 信 吾	1971年～1974年
	上 野 元 男	1974年、1976年～1977年
	乾 久 朗	1974年～1976年
	中 井 俊 夫	1977年～1990年
	山 本 昌 弘	1990年～2000年
	佐 藤 文 三	2000年～2004年
	宗 田 滋 夫	2004年～2008年
	寺 川 直 樹	2008年～2013年
	笠 山 宗 正	2013年～



会長 岡本 罔衛



理事長 三木 章平



院長 笠山 宗正

1. 全体統計

1 一日平均外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	55 (64)	56 (53)	52 (54)	50 (56)	50 (56)	50 (55)	54 (58)	51 (56)	54 (64)	51 (58)	51 (57)	48 (60)	52 (57)
消化器内科	81 (71)	80 (64)	80 (67)	77 (78)	80 (73)	81 (78)	80 (78)	81 (76)	85 (83)	83 (75)	79 (85)	79 (83)	80 (76)
総合内科	192 (178)	186 (170)	181 (172)	182 (174)	183 (164)	183 (174)	191 (179)	193 (183)	198 (196)	201 (189)	197 (185)	184 (183)	189 (179)
血液・化学療法内科	30 (28)	32 (28)	31 (27)	32 (29)	29 (26)	31 (30)	31 (29)	32 (29)	33 (30)	32 (30)	31 (29)	28 (30)	31 (29)
脳神経内科	29 (27)	28 (26)	27 (24)	28 (28)	26 (24)	27 (28)	29 (27)	27 (28)	33 (27)	29 (28)	29 (26)	29 (27)	28 (27)
腎臓内科	22 (14)	22 (15)	21 (13)	22 (18)	23 (16)	21 (18)	25 (18)	22 (19)	24 (19)	23 (19)	24 (20)	22 (19)	23 (17)
内 科 (計)	409 (382)	402 (355)	392 (357)	391 (383)	392 (360)	394 (382)	410 (389)	406 (391)	426 (419)	420 (400)	411 (401)	391 (402)	403 (384)
消化器外科	19 (14)	19 (16)	20 (17)	19 (15)	20 (16)	21 (17)	19 (19)	20 (20)	20 (21)	20 (20)	20 (20)	20 (20)	20 (18)
呼吸器外科	3 (2)	2 (2)	2 (2)	3 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (3)	2 (2)	2 (3)	2 (3)	2 (2)	1 (2)	2 (2)
乳腺外科	19 (18)	17 (17)	19 (17)	17 (18)	15 (16)	19 (18)	17 (19)	19 (18)	19 (19)	19 (18)	17 (19)	16 (20)	18 (18)
心臓血管外科	4 (1)	3 (2)	4 (2)	4 (3)	4 (3)	4 (4)	4 (4)	4 (3)	4 (4)	4 (4)	4 (3)	3 (4)	4 (3)
外 科 (計)	44 (35)	41 (38)	45 (38)	46 (40)	41 (37)	47 (41)	42 (45)	44 (43)	45 (47)	45 (45)	43 (44)	41 (46)	43 (41)
産婦人科	88 (93)	92 (90)	92 (98)	90 (98)	89 (96)	88 (101)	89 (96)	89 (90)	90 (101)	89 (86)	84 (88)	86 (89)	89 (94)
小児科	38 (34)	37 (34)	42 (34)	37 (37)	31 (32)	40 (35)	31 (36)	25 (38)	27 (41)	25 (36)	26 (36)	23 (42)	32 (36)
神経科・精神科	61 (60)	63 (55)	59 (54)	61 (58)	62 (53)	60 (57)	61 (55)	61 (61)	66 (62)	65 (60)	61 (57)	56 (63)	61 (58)
脳神経外科	4 (1)	4 (2)	5 (3)	5 (3)	4 (4)	4 (3)	5 (3)	5 (3)	4 (3)	5 (3)	4 (3)	4 (4)	5 (3)
整形外科	55 (56)	58 (55)	57 (54)	50 (60)	49 (51)	56 (58)	53 (58)	53 (56)	55 (55)	53 (55)	49 (52)	48 (55)	53 (55)
皮膚科	86 (93)	91 (91)	83 (89)	87 (96)	83 (88)	84 (90)	89 (89)	83 (87)	85 (90)	88 (84)	87 (82)	81 (90)	86 (89)
泌尿器科	48 (46)	49 (42)	46 (41)	45 (46)	46 (44)	48 (48)	49 (46)	48 (47)	47 (50)	51 (47)	48 (47)	47 (50)	48 (46)
眼 科	46 (40)	45 (41)	46 (44)	45 (41)	47 (40)	46 (44)	50 (43)	50 (42)	48 (44)	48 (43)	51 (44)	46 (45)	47 (42)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	52 (45)	46 (41)	49 (45)	44 (45)	43 (40)	47 (45)	46 (44)	50 (45)	50 (51)	49 (44)	48 (47)	47 (54)	48 (45)
形成再建外科	12 (13)	10 (10)	12 (9)	13 (12)	13 (10)	14 (11)	11 (12)	10 (12)	13 (15)	13 (12)	12 (10)	10 (15)	12 (12)
放射線診断・IVR科	5 (4)	5 (5)	6 (5)	7 (7)	4 (5)	5 (6)	5 (5)	5 (5)	5 (4)	3 (5)	4 (5)	3 (6)	5 (5)
放射線治療科	12 (3)	10 (5)	11 (8)	9 (6)	10 (5)	9 (6)	11 (7)	15 (11)	10 (12)	8 (9)	14 (11)	13 (13)	11 (8)
麻酔・緩和医療科	19 (19)	18 (16)	20 (17)	21 (19)	19 (17)	18 (16)	19 (20)	20 (19)	20 (18)	18 (16)	21 (18)	19 (20)	19 (18)
リハビリテーション科	15 (13)	14 (10)	14 (13)	17 (18)	14 (13)	15 (13)	17 (11)	18 (13)	18 (16)	20 (20)	19 (13)	17 (15)	17 (14)
救急診療科	13 (9)	16 (6)	13 (6)	15 (6)	17 (6)	14 (6)	16 (6)	16 (5)	20 (7)	18 (6)	16 (6)	13 (7)	15 (6)
糖尿病・内分泌センター	6 (5)	6 (12)	7 (13)	6 (17)	6 (15)	7 (17)	8 (19)	7 (16)	8 (15)	7 (17)	8 (16)	7 (15)	7 (16)
血液浄化センター	9 (1)	10 (3)	9 (4)	9 (3)	8 (3)	10 (4)	10 (5)	9 (4)	11 (6)	13 (7)	12 (7)	11 (8)	10 (5)
その他	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	1,023 (954)	1,016 (911)	1,008 (932)	995 (994)	979 (919)	1,006 (985)	1,025 (990)	1,015 (987)	1,050 (1,057)	1,038 (992)	1,019 (988)	963 (1,039)	1,011 (978)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入

[医事サービス部]

2. () 内は前年同月

2 一日平均入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計平均
循環器内科	20 (20)	20 (18)	20 (23)	18 (23)	20 (25)	16 (23)	19 (22)	24 (26)	19 (24)	17 (26)	19 (27)	14 (21)	19 (23)
消化器内科	30 (19)	27 (20)	25 (21)	26 (24)	25 (34)	30 (24)	32 (23)	35 (21)	26 (24)	26 (26)	31 (26)	29 (26)	29 (24)
総合内科	62 (39)	50 (31)	49 (48)	56 (56)	52 (49)	58 (46)	63 (44)	58 (48)	62 (42)	57 (48)	59 (62)	54 (54)	57 (47)
血液・化学療法内科	24 (28)	28 (26)	31 (25)	29 (23)	27 (29)	29 (24)	30 (23)	23 (21)	25 (20)	28 (26)	33 (25)	33 (20)	28 (24)
脳神経内科	5 (14)	10 (8)	8 (15)	11 (16)	9 (15)	7 (15)	9 (11)	8 (13)	7 (11)	6 (10)	8 (12)	7 (11)	8 (12)
腎臓内科	9 (8)	8 (11)	11 (10)	6 (10)	9 (10)	10 (11)	9 (10)	7 (10)	11 (7)	14 (8)	11 (8)	11 (9)	10 (9)
内科(計)	150 (137)	144 (115)	143 (142)	146 (166)	141 (161)	149 (144)	163 (133)	155 (138)	150 (129)	148 (143)	162 (160)	147 (165)	150 (140)
消化器外科	23 (18)	23 (17)	21 (18)	20 (19)	15 (13)	20 (18)	20 (20)	19 (19)	19 (20)	19 (18)	22 (22)	16 (23)	20 (19)
呼吸器外科	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	1 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)
乳腺外科	7 (4)	4 (3)	4 (3)	4 (4)	5 (4)	4 (4)	2 (5)	3 (5)	4 (2)	3 (2)	6 (6)	4 (6)	4 (4)
心臓血管外科	3 (0)	2 (0)	3 (1)	3 (2)	0 (2)	2 (2)	3 (2)	2 (3)	1 (4)	3 (2)	4 (2)	3 (1)	3 (2)
外科(計)	34 (24)	31 (22)	29 (23)	30 (27)	22 (21)	27 (26)	28 (28)	25 (28)	26 (28)	26 (23)	34 (30)	25 (33)	28 (26)
産婦人科	31 (33)	29 (24)	32 (37)	33 (32)	35 (33)	32 (37)	35 (36)	34 (35)	33 (39)	25 (36)	31 (40)	33 (6)	32 (35)
小児科	8 (8)	4 (5)	7 (8)	5 (7)	9 (7)	6 (10)	6 (8)	4 (7)	3 (8)	3 (6)	2 (7)	2 (33)	5 (7)
神経科・精神科	10 (9)	12 (10)	10 (9)	9 (8)	11 (9)	11 (6)	13 (6)	10 (8)	11 (8)	12 (7)	15 (7)	8 (9)	11 (8)
脳神経外科	3 (0)	3 (1)	3 (2)	2 (3)	3 (2)	5 (3)	3 (2)	3 (4)	1 (5)	1 (6)	3 (7)	4 (3)	3 (3)
整形外科	26 (25)	17 (24)	32 (33)	37 (33)	31 (26)	26 (23)	26 (26)	25 (30)	25 (30)	20 (29)	26 (31)	24 (27)	26 (28)
皮膚科	10 (7)	7 (10)	7 (9)	8 (6)	7 (10)	10 (10)	6 (12)	6 (10)	7 (8)	7 (5)	12 (7)	8 (11)	8 (9)
泌尿器科	10 (12)	7 (12)	13 (10)	11 (11)	12 (12)	8 (11)	8 (8)	11 (10)	10 (7)	9 (6)	11 (8)	9 (7)	10 (9)
眼科	2 (1)	2 (3)	1 (3)	1 (2)	2 (2)	2 (1)	2 (2)	3 (2)	2 (2)	3 (2)	2 (3)	3 (2)	2 (3)
耳鼻咽喉・頭頸部外科	9 (5)	6 (3)	6 (5)	6 (6)	5 (6)	4 (5)	4 (5)	7 (5)	5 (4)	3 (5)	5 (6)	6 (6)	6 (5)
形成再建外科	5 (2)	2 (2)	3 (4)	3 (4)	3 (4)	2 (2)	1 (2)	2 (2)	2 (3)	2 (3)	1 (4)	3 (4)	2 (3)
放射線診断・IVR科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
麻酔・緩和医療科	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
リハビリテーション科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
救急診療科	18 (9)	16 (7)	16 (10)	20 (14)	21 (18)	19 (15)	18 (12)	18 (15)	15 (20)	22 (23)	18 (25)	15 (24)	18 (16)
合計	317 (263)	279 (234)	303 (295)	313 (303)	301 (310)	301 (292)	312 (279)	303 (295)	291 (290)	281 (295)	322 (335)	288 (305)	301 (291)

(注) 1. 数値は少数第1位四捨五入
2. () 内は前年同月

[医事サービス部]

3 患者年齢・診療圏構成

外来 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳（主要区）										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	2013	2,255	85	47	2,123	1,456	310	58	68	63	23	43	102
	2014	2,161	61	51	2,049	1,397	278	62	62	72	22	46	110
	2015	2,092	75	48	1,969	1,293	293	52	82	76	30	42	101
	2016	1,894	56	47	1,791	1,190	271	44	103	59	30	29	65
	2017	1,771	55	44	1,672	1,144	216	37	118	50	28	21	58
	2018	1,909	68	42	1,799	1,147	234	38	155	69	30	37	89
	2019	2,010	83	64	1,863	1,151	228	33	154	68	50	51	128
10～19	2013	601	27	29	545	307	93	44	28	23	5	8	37
	2014	587	32	30	525	301	80	42	24	26	9	7	36
	2015	635	33	35	567	324	73	42	42	23	9	4	50
	2016	604	31	32	541	289	97	48	35	20	8	6	38
	2017	600	39	43	518	271	91	44	29	22	9	9	46
	2018	647	30	56	561	299	92	33	37	24	17	6	53
	2019	792	49	67	676	337	98	46	50	25	12	10	98
20～29	2013	2,280	264	302	1,714	838	207	91	65	113	82	58	260
	2014	2,235	270	303	1,662	818	207	89	61	108	85	47	247
	2015	2,254	255	303	1,696	791	222	88	61	112	105	44	273
	2016	2,444	317	365	1,762	792	235	88	67	115	106	49	310
	2017	2,293	284	334	1,675	809	181	73	77	139	89	38	269
	2018	2,246	281	334	1,631	788	182	88	60	108	73	55	277
	2019	2,307	275	314	1,718	800	183	96	69	122	83	49	316
30～39	2013	4,259	381	588	3,290	1,645	377	173	125	167	142	115	546
	2014	4,137	403	578	3,156	1,562	362	157	133	171	146	127	498
	2015	4,221	420	604	3,197	1,528	369	155	148	168	171	121	537
	2016	4,363	436	638	3,289	1,573	360	184	168	199	199	110	496
	2017	4,289	454	640	3,195	1,522	352	156	125	193	183	120	544
	2018	4,122	421	605	3,096	1,404	324	159	143	222	173	124	547
	2019	4,016	390	551	3,075	1,438	302	133	120	232	173	113	564
40～49	2013	4,997	612	1,020	3,365	1,233	544	276	155	135	126	126	770
	2014	5,077	653	1,000	3,424	1,229	549	269	134	133	139	137	834
	2015	5,541	718	1,152	3,671	1,340	561	328	153	162	161	123	843
	2016	5,806	722	1,245	3,839	1,385	607	341	169	162	156	140	879
	2017	5,870	689	1,283	3,898	1,417	568	288	181	180	197	149	918
	2018	5,695	671	1,147	3,877	1,427	575	296	183	171	192	150	883
	2019	5,656	613	1,039	4,004	1,575	526	303	203	183	212	170	832
50～59	2013	4,218	646	881	2,691	949	431	277	148	119	104	72	591
	2014	4,555	719	980	2,856	990	453	279	164	122	114	71	663
	2015	4,722	748	985	2,989	988	504	309	175	127	104	92	690
	2016	4,978	782	1,014	3,182	1,063	522	288	202	131	120	110	746
	2017	5,103	772	1,068	3,263	1,025	559	301	196	135	127	107	813
	2018	5,377	817	1,120	3,440	1,134	597	309	185	140	144	117	814
	2019	5,922	875	1,230	3,817	1,259	632	369	202	160	181	122	892
60～69	2013	5,769	816	1,090	3,863	1,482	556	500	263	201	102	75	684
	2014	5,725	798	1,068	3,859	1,451	589	495	278	207	105	69	665
	2015	5,789	784	1,061	3,944	1,441	600	511	308	196	113	71	704
	2016	5,883	771	1,072	4,040	1,423	654	524	330	200	116	79	714
	2017	5,633	761	1,046	3,826	1,333	618	475	330	194	129	70	677
	2018	5,512	747	986	3,779	1,300	646	435	327	177	121	76	697
	2019	5,435	814	1,002	3,619	1,249	584	384	302	164	132	77	727
70～79	2013	5,085	472	832	3,781	1,416	700	515	180	215	77	70	608
	2014	4,990	464	794	3,732	1,376	713	511	200	193	86	65	588
	2015	4,891	446	721	3,724	1,322	717	533	233	203	87	66	563
	2016	5,143	473	736	3,934	1,371	796	554	276	199	87	64	587
	2017	5,466	553	788	4,125	1,398	826	572	292	207	119	81	630
	2018	5,947	560	862	4,525	1,525	915	598	354	253	128	93	659
	2019	6,615	634	971	5,010	1,685	1,067	608	436	272	123	105	714
80～89	2013	2,539	171	309	2,059	801	356	265	82	121	74	32	328
	2014	2,574	179	280	2,115	798	388	276	86	120	66	43	338
	2015	2,718	184	275	2,259	852	414	275	96	130	73	50	369
	2016	2,834	186	294	2,354	901	450	296	117	125	73	47	345
	2017	2,887	194	328	2,365	891	482	285	109	117	56	56	369
	2018	3,094	213	308	2,573	950	573	295	138	114	81	59	363
	2019	3,527	236	376	2,915	1,032	700	348	180	123	88	60	384
90以上	2013	328	16	24	288	143	46	30	3	16	8	7	35
	2014	377	19	25	333	138	58	45	10	18	16	8	40
	2015	432	19	25	388	153	69	47	10	33	18	9	49
	2016	485	20	31	434	176	87	43	21	32	22	12	41
	2017	473	25	35	413	184	70	40	13	28	24	13	41
	2018	519	31	35	453	195	79	48	18	25	23	13	52
	2019	647	36	54	557	225	102	70	18	30	26	15	71
総計	2013	32,331	3,490	5,122	23,719	10,270	3,620	2,229	1,117	1,173	743	606	3,961
	2014	32,418	3,598	5,109	23,711	10,060	3,677	2,225	1,152	1,170	788	620	4,019
	2015	33,295	3,682	5,209	24,404	10,032	3,822	2,340	1,308	1,230	871	622	4,179
	2016	34,434	3,794	5,474	25,166	10,163	4,079	2,410	1,488	1,242	917	646	4,221
	2017	34,385	3,826	5,609	24,905	9,994	3,963	2,271	1,470	1,265	958	664	4,365
	2018	35,068	3,839	5,495	25,734	10,169	4,217	2,299	1,600	1,303	982	730	4,434
	2019	36,927	4,005	5,668	27,254	10,751	4,422	2,390	1,734	1,379	1,080	772	4,726

[診療情報管理室]

入院 年齢階級	年度	総数	大阪市内訳（主要区）										
			他府県	大阪府下	大阪市	西区	港区	大正区	住之江区	浪速区	中央区	福島区	その他の区
0～9	2013	168	9	1	158	101	27	27	4	10	3	5	4
	2014	319	16	9	294	165	70	70	12	10	9	5	17
	2015	481	21	17	443	285	84	9	16	14	7	7	21
	2016	433	16	11	406	228	100	7	27	12	7	13	12
	2017	374	19	5	350	199	87	1	39	4	6	2	12
	2018	374	19	8	347	196	61	9	36	13	4	8	20
	2019	296	8	4	284	170	53	5	27	3	11	3	12
10～19	2013	52	3	2	47	19	12	12	7	2	2	2	2
	2014	56	1	3	52	22	7	7	8	5	2	1	7
	2015	74	4	4	66	25	11	12	3	5	1	0	9
	2016	74	6	6	62	26	14	5	4	5	4	1	3
	2017	65	9	4	52	21	13	7	3	2	1	0	5
	2018	64	4	6	54	28	6	4	3	1	1	2	9
	2019	66	4	2	60	30	6	7	3	5	1	2	6
20～29	2013	367	38	39	290	114	51	51	22	14	15	16	42
	2014	433	48	50	335	135	50	50	23	18	28	13	52
	2015	410	49	44	317	109	54	23	10	30	20	11	60
	2016	466	61	75	330	107	54	17	21	22	22	15	72
	2017	454	78	87	289	100	37	16	19	27	18	11	61
	2018	465	56	67	342	140	35	23	23	27	18	16	60
	2019	442	61	81	300	115	37	21	12	28	20	9	58
30～39	2013	867	84	99	684	290	115	115	39	36	33	36	99
	2014	840	68	111	661	324	87	87	28	29	27	36	97
	2015	925	91	120	714	303	105	38	27	44	31	34	132
	2016	869	83	134	652	265	84	35	42	52	42	32	100
	2017	802	87	135	580	257	65	23	22	38	37	37	101
	2018	914	85	122	707	295	86	24	40	46	41	35	140
	2019	879	74	104	701	317	68	32	24	52	51	37	120
40～49	2013	785	78	162	545	164	96	96	52	23	23	23	136
	2014	903	113	180	610	195	92	92	63	27	24	25	161
	2015	907	104	191	612	191	87	77	28	29	38	27	135
	2016	823	91	196	536	167	85	45	21	29	26	27	136
	2017	870	99	189	582	172	82	54	38	32	47	22	135
	2018	828	85	185	558	180	90	41	30	24	35	17	141
	2019	877	71	156	650	222	81	53	38	36	43	34	143
50～59	2013	584	78	128	378	129	55	55	41	22	16	18	85
	2014	655	86	130	439	146	67	68	47	30	19	20	100
	2015	618	77	109	432	151	78	45	25	19	15	15	84
	2016	534	63	95	376	110	71	43	25	17	14	10	86
	2017	567	59	97	411	111	93	46	27	25	21	9	79
	2018	620	72	117	431	141	84	44	27	20	15	19	81
	2019	730	84	108	538	168	108	52	32	26	22	11	119
60～69	2013	1,050	118	223	709	229	104	104	106	60	18	40	141
	2014	1,037	139	167	731	257	129	125	87	49	46	25	131
	2015	967	97	152	718	223	127	110	62	41	19	10	126
	2016	857	89	109	659	217	124	86	63	36	15	11	107
	2017	874	73	132	669	221	121	86	66	31	16	12	116
	2018	866	83	127	656	212	130	74	57	36	17	11	119
	2019	879	101	111	667	211	136	75	64	34	11	9	127
70～79	2013	1,271	105	234	932	318	191	191	121	41	13	60	169
	2014	1,275	79	187	1,009	350	194	196	147	62	54	27	158
	2015	1,191	82	145	964	299	201	131	74	69	19	20	151
	2016	1,042	73	110	859	277	191	123	68	52	12	10	126
	2017	1,221	73	139	1,009	304	218	161	61	71	28	17	149
	2018	1,335	90	155	1,090	336	264	146	82	58	29	21	154
	2019	1,468	99	148	1,221	385	312	135	108	59	26	33	163
80～89	2013	790	47	103	640	230	106	106	84	34	24	42	111
	2014	845	38	84	723	243	125	126	102	36	52	22	126
	2015	857	41	79	737	255	129	110	31	55	24	14	119
	2016	810	33	72	705	260	133	97	41	44	21	11	98
	2017	897	47	75	775	279	161	92	43	48	25	15	112
	2018	973	45	77	851	314	192	96	60	34	29	19	107
	2019	1,054	46	86	922	300	254	104	55	50	27	22	110
90以上	2013	128	5	10	113	53	14	14	12	3	6	8	14
	2014	177	12	12	153	61	27	27	20	6	12	6	20
	2015	188	6	9	173	57	32	24	8	20	6	1	25
	2016	200	8	7	185	72	33	19	13	18	11	2	17
	2017	217	11	11	195	89	32	19	10	12	9	1	23
	2018	216	14	8	194	83	29	18	8	13	12	1	30
	2019	278	10	18	250	95	45	32	13	14	13	8	30
総計	2013	6,062	565	1,001	4,496	1,647	771	771	488	245	153	250	803
	2014	6,540	600	933	5,007	1,898	719	848	537	272	273	180	869
	2015	6,618	572	870	5,176	1,898	908	579	284	326	180	139	862
	2016	6,108	523	815	4,770	1,729	889	477	325	287	174	132	757
	2017	6,341	555	874	4,912	1,753	909	505	328	290	208	126	793
	2018	6,655	553	872	5,230	1,925	977	479	366	272	201	149	861
	2019	6,969	558	818	5,593	2,013	1,100	516	376	307	225	168	888

[診療情報管理室]

4 病床稼働率

		定床	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計 平均	前年度 累計平均
7階	1日平均患者数(人)	41	36	32	35	39	39	35	36	37	36	31	38	37	36	37
	稼働率		86.9%	78.2%	86.3%	94.4%	96.2%	86.3%	88.8%	90.6%	87.3%	75.3%	92.9%	89.4%	87.7%	89.3%
8階	1日平均患者数(人)	44	41	34	38	37	38	40	40	39	34	34	41	37	38	36
	稼働率		93.5%	77.9%	85.2%	84.9%	87.0%	90.5%	90.4%	88.6%	76.9%	77.9%	94.2%	83.7%	85.9%	81.8%
9階	1日平均患者数(人)	43	39	37	39	40	37	38	39	37	36	36	41	38	38	36
	稼働率		91.0%	86.3%	90.4%	93.8%	86.5%	88.8%	90.8%	85.5%	84.8%	82.6%	95.3%	89.5%	88.8%	83.7%
10階	1日平均患者数(人)	42	40	35	40	37	34	35	37	36	35	33	39	33	36	36
	稼働率		94.8%	82.9%	94.1%	88.6%	80.7%	84.4%	89.2%	86.5%	84.0%	77.4%	91.9%	78.7%	86.1%	86.8%
11階	1日平均患者数(人)	43	40	37	37	40	39	38	40	38	37	38	42	36	38	37
	稼働率		92.9%	85.4%	86.4%	92.3%	91.5%	87.6%	92.4%	88.8%	87.2%	88.6%	96.6%	83.8%	89.5%	85.4%
12階	1日平均患者数(人)	44	39	32	41	42	38	39	39	38	37	37	40	36	38	38
	稼働率		88.9%	72.9%	93.7%	94.7%	87.2%	88.7%	89.4%	87.0%	84.4%	83.5%	91.9%	82.8%	87.1%	86.4%
13階	1日平均患者数(人)	43	41	38	38	40	39	39	40	38	38	37	40	36	39	37
	稼働率		96.2%	87.7%	88.7%	93.4%	91.4%	90.9%	93.6%	88.5%	87.8%	85.5%	92.3%	83.9%	90.0%	85.2%
14階	1日平均患者数(人)	42	38	32	33	35	34	34	38	36	33	33	39	32	35	35
	稼働率		89.4%	76.0%	77.9%	83.0%	80.5%	80.5%	89.3%	86.0%	78.6%	78.3%	91.8%	77.0%	82.3%	84.4%
小計	1日平均患者数(人)	342	314	277	301	310	300	298	310	300	287	278	319	286	298	292
	稼働率		91.7%	80.9%	87.9%	90.6%	87.6%	87.3%	90.5%	87.7%	83.9%	81.2%	93.4%	83.6%	87.2%	85.3%
集中治療室	1日平均患者数(人)	8	3	3	3	3	2	3	3	3	4	3	3	2	3	2
	稼働率		37.1%	31.5%	32.9%	40.7%	21.0%	32.5%	36.3%	36.7%	48.8%	41.5%	38.4%	29.0%	35.5%	27.3%
計	1日平均患者数(人)	350	317	279	303	313	301	301	312	303	291	281	322	288	301	294
	稼働率		90.5%	79.8%	86.6%	89.5%	86.1%	86.0%	89.3%	86.5%	83.1%	80.3%	92.1%	82.3%	86.0%	84.0%

[医事サービス部]

5 救急患者数

	人 数													(内、入 院 数)														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	入院計		
循環器内科	20 (8)	29 (12)	21 (5)	26 (13)	28 (6)	17 (4)	21 (3)	36 (12)	18 (5)	17 (6)	17 (5)	20 (7)	270 (86)	16 (6)	24 (9)	17 (5)	20 (9)	23 (5)	14 (4)	18 (3)	32 (11)	14 (5)	14 (5)	13 (4)	15 (4)	220 (70)		
消化器内科	51 (10)	44 (7)	54 (10)	60 (9)	50 (10)	66 (19)	0 (0)	51 (9)	48 (7)	47 (4)	51 (10)	63 (6)	585 (101)	48 (10)	42 (6)	51 (10)	57 (7)	47 (7)	60 (15)	0 (0)	48 (9)	44 (6)	45 (4)	51 (10)	59 (6)	552 (90)		
総合内科	78 (29)	70 (15)	56 (15)	65 (19)	57 (19)	59 (24)	277 (176)	62 (25)	70 (22)	54 (20)	58 (18)	59 (21)	965 (403)	57 (23)	45 (14)	40 (11)	48 (15)	39 (10)	47 (22)	65 (51)	44 (17)	54 (20)	37 (15)	47 (14)	42 (14)	565 (226)		
血液・化学療法内科	19 (2)	19 (2)	19 (6)	16 (4)	15 (6)	13 (4)	2 (0)	10 (2)	22 (3)	20 (5)	14 (4)	16 (6)	185 (44)	15 (2)	16 (2)	17 (6)	16 (4)	13 (5)	12 (4)	0 (0)	10 (2)	20 (3)	19 (5)	14 (4)	16 (6)	168 (43)		
脳神経内科	5 (2)	7 (3)	6 (2)	11 (3)	10 (0)	7 (5)	8 (1)	10 (2)	4 (1)	7 (1)	2 (0)	4 (2)	81 (22)	4 (2)	5 (2)	5 (2)	8 (3)	7 (0)	7 (5)	8 (1)	8 (2)	4 (1)	7 (1)	2 (0)	4 (2)	69 (21)		
腎臓内科	17 (4)	10 (1)	11 (1)	5 (2)	12 (2)	10 (3)	0 (0)	5 (1)	16 (4)	10 (6)	6 (3)	8 (2)	110 (29)	10 (2)	8 (0)	10 (0)	5 (2)	12 (2)	9 (2)	0 (0)	4 (1)	14 (4)	10 (6)	6 (3)	7 (2)	95 (24)		
内科(計)	190 (55)	179 (40)	167 (39)	183 (50)	172 (43)	172 (59)	308 (180)	174 (51)	178 (42)	155 (42)	148 (40)	170 (44)	2,196 (685)	150 (45)	140 (33)	140 (34)	154 (40)	141 (29)	149 (52)	91 (55)	146 (42)	150 (39)	132 (36)	133 (35)	143 (34)	1,669 (474)		
消化器外科	8 (1)	17 (5)	12 (7)	8 (3)	6 (1)	11 (5)	26 (0)	18 (5)	7 (2)	9 (3)	10 (0)	9 (4)	141 (36)	6 (1)	15 (5)	11 (7)	8 (3)	4 (0)	8 (4)	25 (0)	15 (5)	6 (2)	8 (3)	10 (0)	8 (4)	124 (34)		
呼吸器外科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	43 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	45 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	42 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	44 (3)		
乳腺外科	1 (0)	4 (0)	4 (1)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (0)	19 (3)	1 (0)	2 (0)	3 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	10 (2)		
心臓血管外科	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (1)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (1)	15 (4)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	9 (3)		
外科(計)	11 (2)	21 (5)	16 (8)	10 (4)	8 (1)	13 (6)	73 (5)	18 (5)	11 (2)	13 (4)	13 (0)	13 (5)	220 (47)	8 (1)	17 (5)	14 (8)	9 (3)	5 (0)	10 (5)	69 (4)	15 (5)	6 (2)	12 (4)	13 (0)	9 (5)	187 (42)		
産婦人科	120 (1)	136 (3)	129 (2)	169 (5)	163 (2)	169 (4)	3 (1)	167 (3)	154 (1)	130 (3)	102 (0)	136 (5)	1,578 (30)	44 (1)	57 (2)	34 (1)	48 (5)	40 (2)	47 (3)	1 (1)	36 (3)	46 (1)	35 (2)	32 (0)	47 (4)	467 (25)		
小児科	31 (1)	20 (0)	22 (0)	18 (1)	24 (1)	24 (0)	25 (8)	13 (0)	12 (0)	13 (0)	2 (0)	3 (1)	207 (12)	30 (1)	19 (0)	22 (0)	17 (0)	24 (1)	24 (0)	18 (8)	13 (0)	11 (0)	11 (0)	2 (0)	3 (1)	194 (11)		
神経科・精神科	9 (2)	1 (1)	5 (1)	3 (0)	5 (1)	2 (0)	8 (2)	4 (1)	6 (2)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	46 (13)	4 (1)	1 (1)	3 (0)	2 (0)	4 (1)	2 (0)	6 (2)	3 (1)	4 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	32 (10)		
脳神経外科	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	5 (2)	5 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (2)	23 (13)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	3 (2)	5 (2)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (2)	21 (12)		
整形外科	10 (3)	16 (4)	21 (11)	18 (9)	15 (6)	18 (8)	10 (2)	29 (15)	11 (3)	15 (5)	8 (5)	18 (7)	189 (78)	7 (2)	7 (3)	15 (8)	12 (6)	6 (2)	6 (3)	10 (2)	20 (9)	7 (3)	12 (3)	6 (4)	10 (4)	118 (49)		
皮膚科	24 (0)	25 (1)	13 (1)	21 (1)	17 (0)	19 (0)	15 (6)	13 (1)	16 (0)	21 (0)	16 (0)	23 (1)	223 (11)	22 (0)	19 (1)	10 (1)	13 (0)	17 (0)	19 (0)	9 (3)	11 (1)	14 (0)	18 (0)	16 (0)	18 (1)	186 (7)		
泌尿器科	7 (0)	13 (2)	12 (3)	8 (1)	12 (3)	17 (4)	78 (19)	11 (5)	8 (1)	9 (2)	5 (2)	5 (1)	185 (43)	3 (0)	2 (0)	6 (1)	5 (1)	5 (0)	6 (2)	61 (17)	5 (2)	3 (0)	5 (1)	0 (0)	2 (0)	103 (24)		
眼 科	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)		
耳鼻咽喉・頭頸部外科	15 (4)	5 (1)	6 (1)	10 (4)	6 (1)	1 (0)	8 (2)	18 (6)	5 (1)	8 (2)	12 (5)	10 (3)	104 (30)	13 (4)	3 (1)	5 (0)	9 (3)	4 (1)	0 (0)	6 (2)	8 (3)	4 (1)	5 (0)	6 (2)	6 (2)	69 (19)		
形成再建外科	2 (0)	2 (1)	2 (0)	4 (1)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	4 (0)	2 (2)	1 (0)	23 (6)	2 (0)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	9 (2)		
放射線診断・IVR科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (0)		
放射線治療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
麻酔・緩和医療科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
救急診療センター	235 (149)	254 (152)	212 (141)	278 (188)	310 (221)	218 (146)	162 (10)	258 (169)	341 (218)	333 (197)	247 (161)	232 (143)	3,080 (1,895)	57 (40)	55 (43)	53 (41)	60 (52)	70 (58)	68 (50)	50 (9)	67 (50)	86 (73)	82 (66)	63 (48)	51 (40)	762 (570)		
合 計	656 (218)	673 (211)	607 (208)	723 (264)	735 (281)	663 (230)	709 (238)	705 (256)	747 (272)	703 (255)	558 (217)	615 (214)	8,094 (2,864)	342 (96)	323 (91)	304 (95)	332 (111)	319 (96)	336 (117)	337 (105)	324 (116)	331 (120)	315 (112)	274 (91)	294 (95)	3,831 (1,245)		

(注) 1. 各欄下段の()の数値は救急車で搬送された患者数 [医事サービス部、救急・当直・集中治療室検討委員会]

6 退院患者医療評価指標

① 退院患者統計

注1) 疾病分類は厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10準拠」を使用した。
2016年退院患者から、厚生労働省大臣官房統計情報部編「疾病・傷害および分類提要ICD-10 (2013年版) 準拠」を使用した。

注2) 手術分類は(財)医療情報システム開発センター監修「手術及び処置の分類 ICD・9・CM」を使用した。
2016年退院患者から、日本病学会版2003「手術及び処置の分類ICD・9・CM」を使用した。

注3) データは診療録管理システムから集計した。

注4) 実退院患者1入院、1主病名、1主手術で集計した。

	算定式	2012年度 (2012.4 -2013.3)	2013年度 (2013.4 -2014.3)	2014年度 (2014.4 -2015.3)	2015年度 (2015.4 -2016.3)	2016年度 (2016.4 -2017.3)	2017年度 (2017.4 -2018.3)	2018年度 (2018.4 -2019.3)	2019年度 (2019.4 -2020.3)
病床数(床)		350	350	350	350	350	350	350	350
一日平均在院 患者数(人)	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{365\text{日}}$	273	277	291	284	281	293	291	301
病床稼働率(%)	$\frac{\text{1日平均在院患者数}}{350\text{床}}$	78.0	79.1	83.1	81.1	80.3	83.7	83.1	86.0
平均在院日数(日)	$\frac{\text{年間延入院患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院}+\text{退院患者数})\div 2}$	12.3	12.6	12.1	12.8	12.6	12.5	11.2	10.9
実退院患者数(人)		7,490	7,435	8,119	8,244	7,573	7,963	8,736	9,282
転科数		208	192	241	278	870	791	396	426
総退院患者数		7,698	7,627	8,360	8,522	8,443	8,754	9,132	9,708
実退院患者平均 在院日数(日)	$\frac{\text{実退院患者入院延日数}}{\text{実退院患者数}}$	13.2	13.5	13.2	12.3	13.6	13.6	12.2	12.0
院内粗死亡率(%)	$\frac{\text{死亡退院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.3	2.8	2.8	2.4	2.8	3.2	2.2	2.5
院内精死亡率(%)	$\frac{\text{入院48時間超死亡数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	2.1	2.4	2.5	2.3	2.4	2.8	2.0	2.3
剖検率(%)	$\frac{\text{剖検患者数}}{\text{死亡患者数}} \times 100$	8.1	9.3	6.2	7.5	5.7	5.5	2.6	4.3
術後死亡率(%)	$\frac{\text{術後10日以内死亡患者数}}{\text{総手術数}} \times 100$	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-
帝王切開率(%)	$\frac{\text{帝王切開数}}{\text{分娩数}} \times 100$	14.2	16.6	15.7	16.8	19.4	19.1	21.2	23.0
分娩死亡率(%)	$\frac{\text{分娩による妊産婦死亡数}}{\text{分娩数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-
新生児死亡率(%)	$\frac{\text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 100$	-	-	-	-	-	-	-	-
紹介入院率(%)	$\frac{\text{紹介入院患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	39.3	41.5	39.8	40.1	41.6	37.9	38.4	39.1
対診率(%)	$\frac{\text{対診数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	45.2	47.3	40.6	43.0	49.1	49.8	51.9	51.7

[診療情報管理室]

② 診療科別・月別・患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
総数	計 9,282 男 4,235 女 5,047	840 384 456	699 310 389	727 343 384	815 378 437	852 387 465	718 343 375	825 367 458	762 338 424	817 360 457	683 313 370	745 350 395	799 362 437	231 136 95	10 7 3
循環器内科	計 666 男 434 女 232	54 36 18	58 35 23	58 39 19	61 43 18	67 47 20	49 33 16	69 42 27	57 43 14	55 28 14	41 27 14	45 30 15	52 31 21	15 8 7	- - -
消化器内科	計 1,011 男 572 女 439	86 45 41	74 44 30	88 51 37	97 63 34	89 54 35	76 47 29	84 49 35	89 49 40	88 39 49	70 36 34	78 45 33	92 50 42	33 22 11	2 2 -
総合内科	計 1,346 男 776 女 570	120 69 51	96 54 42	92 50 42	112 63 49	116 63 53	96 55 41	138 81 57	100 57 43	123 72 51	115 67 48	112 64 48	126 81 45	66 45 21	1 1 -
血液・化学療法内科	計 409 男 254 女 155	28 22 6	31 21 10	30 18 12	40 30 10	32 24 8	23 11 12	42 20 22	31 19 12	35 17 18	35 20 15	45 26 19	37 26 11	38 26 12	1 - 1
脳神経内科	計 107 男 61 女 46	8 2 6	7 4 3	10 9 1	11 9 2	13 7 6	7 4 3	9 2 7	10 6 4	9 5 4	9 4 5	6 3 3	8 6 2	4 1 3	- - -
腎臓内科	計 228 男 137 女 91	20 12 8	21 10 11	18 12 6	17 12 5	18 12 6	16 7 9	21 9 12	14 9 5	18 11 7	22 17 5	23 14 9	20 12 8	10 6 4	3 1 2
消化器外科	計 475 男 271 女 204	39 29 10	42 20 22	38 23 15	43 24 19	43 21 22	34 19 15	44 21 23	42 21 21	30 21 9	33 21 12	42 22 20	45 29 16	15 7 8	1 1 -
呼吸器外科	計 54 男 32 女 22	5 4 1	2 - 2	4 1 3	4 3 1	6 2 4	5 4 1	5 2 3	4 2 2	5 2 3	4 4 -	4 3 1	6 5 1	- - -	- - -
乳腺外科	計 168 男 2 女 166	23 - 23	16 - 16	10 - 10	18 1 17	12 - 12	17 1 16	10 - 10	11 - 11	15 - 15	9 - 9	13 - 13	14 - 14	2 - 2	- - -
心臓血管外科	計 102 男 68 女 34	12 5 7	7 4 3	6 4 2	13 8 5	6 3 3	9 7 2	7 6 1	9 9 -	7 3 4	6 4 2	9 7 2	11 8 3	- - -	- - -
産婦人科	計 1,692 男 - 女 1,692	147 - 147	130 - 130	140 - 140	157 - 157	158 - 158	123 - 123	150 - 150	146 - 146	147 - 147	111 - 111	131 - 131	152 - 152	7 - 7	- - -
小児科	計 313 男 192 女 121	45 30 15	25 16 9	34 21 13	28 17 11	34 15 19	33 25 8	28 16 12	25 13 12	19 13 6	17 11 6	14 9 5	11 6 5	- - -	- - -
神経科・精神科	計 120 男 22 女 98	13 4 9	9 1 8	6 1 5	7 2 5	15 3 12	9 1 8	8 1 7	9 1 8	8 3 5	11 1 10	15 3 12	10 1 9	1 - 1	- - -
脳神経外科	計 62 男 34 女 28	5 4 1	5 3 2	6 5 1	1 1 -	9 5 4	10 5 5	6 4 2	3 2 1	6 2 4	2 - 2	3 - 3	6 3 3	1 1 -	1 1 -
整形外科	計 359 男 150 女 209	39 11 28	20 12 8	28 10 18	40 13 27	37 16 21	29 14 15	30 14 16	32 13 19	38 18 20	16 8 8	27 13 14	23 8 15	- - -	- - -
皮膚科	計 234 男 115 女 119	24 16 8	18 9 9	16 6 10	18 4 14	20 9 11	25 12 13	18 8 10	13 4 9	21 8 13	18 12 6	22 13 9	21 14 7	- - -	- - -
泌尿器科	計 454 男 376 女 78	41 33 8	27 21 6	45 42 3	39 30 9	46 37 9	45 39 6	35 34 1	27 22 5	42 32 10	31 26 5	38 32 6	38 28 10	6 3 3	- - -
眼科	計 383 男 173 女 210	30 13 17	26 9 17	15 2 13	19 10 9	31 22 9	29 8 21	39 14 25	37 16 21	38 21 17	40 18 22	32 20 12	47 20 27	- - -	- - -
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計 312 男 152 女 160	35 20 15	25 14 11	29 16 13	24 11 13	27 12 15	20 9 11	16 9 7	31 16 15	29 12 17	20 9 11	29 15 14	27 9 18	- - -	- - -
形成再建外科	計 124 男 71 女 53	13 5 8	9 4 5	13 8 5	14 7 7	13 8 5	9 8 1	8 6 2	9 5 4	12 7 5	10 3 7	7 4 3	7 6 1	1 - 1	- - -
麻酔・緩和医療科	計 2 男 - 女 2	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -
救急診療科	計 642 男 327 女 315	51 23 28	50 28 22	39 23 16	48 23 25	54 21 33	53 33 20	58 29 29	62 31 31	71 46 25	61 25 36	50 27 23	45 18 27	32 17 15	1 1 -
予防医学センター	計 19 男 16 女 3	2 1 1	1 1 -	2 2 -	4 4 -	6 6 -	1 1 -	- - -	- - -	1 - 1	1 - -	- - -	1 1 -	- - -	- - -

[診療情報管理室]

③ 診療科別・在院期間別・患者数

診療科		総数	1～ 8日	9～ 15日	16～ 22日	23～ 31日	32～ 61日	62～ 91日	3～ 6月	6月～ 1年	1～ 2年	2年～	平均 在院日数
総数	計	9,282	5,703	1,625	717	538	519	110	62	7	1	-	12.0
	男	4,235	2,417	829	385	274	246	51	29	3	1	-	12.3
	女	5,047	3,286	796	332	264	273	59	33	4	-	-	11.7
循環器内科	計	666	423	96	58	51	29	7	2	-	-	-	10.6
	男	434	293	56	39	32	11	3	-	-	-	-	9.2
	女	232	130	40	19	19	18	4	2	-	-	-	13.2
消化器内科	計	1,011	596	229	79	50	41	10	5	1	-	-	10.4
	男	572	341	126	46	27	23	5	3	1	-	-	10.4
	女	439	255	103	33	23	18	5	2	-	-	-	10.4
総合内科	計	1,346	560	353	186	91	126	22	8	-	-	-	15.3
	男	776	325	199	113	54	66	17	2	-	-	-	14.9
	女	570	235	154	73	37	60	5	6	-	-	-	15.8
血液・化学療法内科	計	409	86	99	65	55	76	13	12	3	-	-	25.9
	男	254	56	69	36	32	49	4	8	-	-	-	23.4
	女	155	30	30	29	23	27	9	4	3	-	-	30.0
脳神経内科	計	107	11	23	21	20	24	5	3	-	-	-	28.5
	男	61	7	12	14	9	14	3	2	-	-	-	28.5
	女	46	4	11	7	11	10	2	1	-	-	-	28.5
腎臓内科	計	228	103	53	27	28	13	2	1	1	-	-	14.7
	男	137	70	31	17	13	5	-	-	1	-	-	13.2
	女	91	33	22	10	15	8	2	1	-	-	-	17.1
消化器外科	計	475	267	80	44	33	26	14	8	2	1	-	16.6
	男	271	149	51	26	22	10	7	4	1	1	-	16.4
	女	204	118	29	18	11	16	7	4	1	-	-	16.9
呼吸器外科	計	54	17	29	8	-	-	-	-	-	-	-	10.4
	男	32	12	17	3	-	-	-	-	-	-	-	10.0
	女	22	5	12	5	-	-	-	-	-	-	-	11.1
乳腺外科	計	168	111	37	11	5	3	-	1	-	-	-	8.8
	男	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.0
	女	166	109	37	11	5	3	-	1	-	-	-	8.8
心臓血管外科	計	102	72	16	5	4	3	1	1	-	-	-	8.9
	男	68	44	15	4	2	1	1	1	-	-	-	9.8
	女	34	28	1	1	2	2	-	-	-	-	-	7.1
産婦人科	計	1,692	1,481	177	17	8	9	-	-	-	-	-	6.9
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,692	1,481	177	17	8	9	-	-	-	-	-	6.9
小児科	計	313	277	29	5	1	1	-	-	-	-	-	6.0
	男	192	172	17	2	-	1	-	-	-	-	-	6.0
	女	121	105	12	3	1	-	-	-	-	-	-	6.0
神経科・精神科	計	120	10	14	17	37	25	11	6	-	-	-	35.5
	男	22	3	1	3	8	5	-	2	-	-	-	32.6
	女	98	7	13	14	29	20	11	4	-	-	-	36.2
脳神経外科	計	62	23	14	14	4	6	-	1	-	-	-	17.4
	男	34	12	9	6	4	3	-	-	-	-	-	15.3
	女	28	11	5	8	-	3	-	1	-	-	-	20.0
整形外科	計	359	71	41	59	85	83	12	8	-	-	-	26.4
	男	150	39	19	26	33	27	4	2	-	-	-	23.4
	女	209	32	22	33	52	56	8	6	-	-	-	28.6
皮膚科	計	234	99	90	22	12	9	2	-	-	-	-	12.4
	男	115	45	45	11	7	7	-	-	-	-	-	12.9
	女	119	54	45	11	5	2	2	-	-	-	-	11.9
泌尿器科	計	454	309	106	17	11	6	2	3	-	-	-	8.2
	男	376	259	90	11	8	5	1	2	-	-	-	7.7
	女	78	50	16	6	3	1	1	1	-	-	-	10.3
眼科	計	383	382	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1
	男	173	173	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
	女	210	209	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2.1
耳鼻咽喉・頭頸部外科	計	312	281	20	5	2	2	2	-	-	-	-	6.5
	男	152	135	8	4	1	2	2	-	-	-	-	7.2
	女	160	146	12	1	1	-	-	-	-	-	-	5.8
形成再建外科	計	124	86	31	4	1	1	1	-	-	-	-	7.3
	男	71	47	21	1	1	1	-	-	-	-	-	7.1
	女	53	39	10	3	-	-	1	-	-	-	-	7.5
麻酔・緩和医療科	計	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	11.0
救急診療科	計	642	418	86	53	40	36	6	3	-	-	-	10.0
	男	327	217	43	23	21	16	4	3	-	-	-	10.2
	女	315	201	43	30	19	20	2	-	-	-	-	9.9
予防医学センター	計	19	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
	男	16	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0
	女	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.0

[診療情報管理室]

④ 疾病統計

疾病別・診療科別・患者数（大分類）

コード	国際分類大項目分類	総数	循 内	消 内	総 内	血 内	脳 内	腎 内	消 外	呼 外	乳 外	心 外	産婦科	小児科
	総数	計 9,282 男 4,235 女 5,047	666 434 232	1,011 572 439	1,346 776 570	409 254 155	107 61 46	228 137 91	475 271 204	54 32 22	168 2 166	102 68 34	1,692 - 1,692	313 192 121
I	感染症及び寄生虫症	計 296 男 124 女 172	1 - 1	44 16 28	44 14 30	7 3 4	4 3 1	6 3 3	2 - 2	1 1 -	- - -	- - -	7 - 7	34 23 11
II	新生物（腫瘍） （悪性新生物（腫瘍））	計 2,792 男 1,328 女 1,464	- - -	464 312 152	497 345 152	305 196 109	- - -	2 - 2	226 147 79	40 21 19	160 2 158	2 - 2	708 - 708	- - -
III	血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	計 88 男 44 女 44	1 - 1	4 4 -	13 7 6	42 23 19	- - -	1 1 -	3 1 2	- - -	2 - 2	- - -	9 - 9	8 4 4
IV	内分泌、栄養及び 代謝疾患	計 334 男 168 女 166	6 4 2	3 - 3	257 140 117	1 1 -	2 - 2	13 2 11	2 1 1	1 - 1	- - -	- - -	1 - 1	12 8 4
V	精神及び行動の障害	計 264 男 113 女 151	- - -	1 1 -	6 2 4	- - -	2 2 -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
VI	神経系の疾患	計 149 男 77 女 72	2 1 1	- - -	7 4 3	- - -	35 19 16	3 1 2	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
VII	眼及び付属器の疾患	計 401 男 181 女 220	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	1 - 1
VIII	耳及び乳様突起の疾患	計 93 男 31 女 62	- - -	- - -	4 2 2	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	2 2 -
IX	循環器系の疾患	計 804 男 533 女 271	568 376 192	12 8 4	25 17 8	5 4 1	42 29 13	17 12 5	2 1 1	- - -	- - -	95 66 29	- - -	- - -
X	呼吸器系の疾患	計 775 男 460 女 315	21 14 7	6 2 4	304 174 130	21 13 8	6 2 4	13 6 7	3 3 -	12 10 2	- - -	1 1 -	2 - 2	122 84 38
XI	消化器系の疾患	計 720 男 357 女 363	2 1 1	424 207 217	22 9 13	3 2 1	3 - 3	2 1 1	222 114 108	- - -	- - -	- - -	4 - 4	4 3 1
XII	皮膚及び 皮下組織の疾患	計 176 男 82 女 94	1 - 1	2 2 -	17 7 10	2 1 1	- - -	1 1 -	- - -	- - -	- - -	3 - 3	2 - 2	5 2 3
XIII	筋骨格系及び 結合組織の疾患	計 291 男 128 女 163	- - -	2 1 1	53 22 31	4 3 1	3 1 2	7 2 5	1 - 1	- - -	- - -	- - -	1 - 1	9 6 3
XIV	腎尿路生殖器系の疾患	計 812 男 250 女 562	5 1 4	4 2 2	27 6 21	2 - 2	4 3 1	122 80 42	4 1 3	- - -	3 - 3	- - -	393 - 393	10 6 4
XV	妊娠、分娩及び 産じょく	計 552 男 - 女 552	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	552 - 552	- - -
XVI	周産期に発生した病態	計 93 男 47 女 46	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	93 47 46
XVII	先天奇形、変形及び 染色体異常	計 24 男 12 女 12	2 1 1	1 - 1	1 - 1	- - -	- - -	5 3 2	1 1 -	- - -	- - -	- - -	3 - 3	- - -
XVIII	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他 に分類されないもの	計 141 男 59 女 82	10 6 4	23 8 15	48 19 29	4 2 2	6 2 4	2 1 1	- - -	- - -	3 - 3	- - -	2 - 2	11 6 5
XIX	損傷、中毒及び その他の外因の影響	計 354 男 163 女 191	3 1 2	13 8 5	20 8 12	7 4 3	- - -	33 24 9	1 - 1	- - -	- - -	1 1 -	8 - 8	2 1 1
XX	健康状態に影響を 及ぼす要因及び 保健サービスの利用	計 122 男 78 女 44	44 29 15	8 1 7	- - -	6 2 4	- - -	- - -	7 2 5	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -
XXI	特殊目的用コード	計 1 男 - 女 1	- - -	- - -	1 - 1	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -

神 経	脳 外	整 形	皮膚科	泌尿器	眼 科	耳鼻科	形 成	放射診	放射治	麻酔科	リ ハ	救 急	予 防
120	62	359	234	454	383	312	124	-	-	2	-	642	19
22	34	150	115	376	173	152	71	-	-	-	-	327	16
98	28	209	119	78	210	160	53	-	-	2	-	315	3
-	-	1	112	1	-	1	1	-	-	-	-	30	-
-	-	1	52	1	-	-	-	-	-	-	-	7	-
-	-	-	60	-	-	1	1	-	-	-	-	23	-
-	4	-	2	255	-	57	64	-	-	-	-	6	-
-	1	-	2	222	-	35	41	-	-	-	-	4	-
-	3	-	-	33	-	22	23	-	-	-	-	2	-
-	-	-	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	31	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-
2	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	19	-
95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	159	-
15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93	-
80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66	-
18	37	3	1	-	-	29	-	-	-	-	-	13	-
5	23	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	10	-
13	14	2	1	-	-	16	-	-	-	-	-	3	-
-	-	-	-	-	383	-	17	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	173	-	8	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	210	-	9	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	58	-	-	-	-	-	29	-
-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	6	-
-	-	-	-	-	-	37	-	-	-	-	-	23	-
-	9	2	-	-	-	6	1	-	-	-	-	20	-
-	5	1	-	-	-	4	1	-	-	-	-	9	-
-	4	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	11	-
-	-	-	-	1	-	129	-	-	-	-	-	134	-
-	-	-	-	1	-	67	-	-	-	-	-	83	-
-	-	-	-	-	-	62	-	-	-	-	-	51	-
-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	28	-
-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	16	-
-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	12	-
-	-	-	110	-	-	7	16	-	-	-	-	10	-
-	-	-	56	-	-	1	10	-	-	-	-	2	-
-	-	-	54	-	-	6	6	-	-	-	-	8	-
-	3	185	1	-	-	-	3	-	-	-	-	19	-
-	2	76	-	-	-	-	1	-	-	-	-	14	-
-	1	109	1	-	-	-	2	-	-	-	-	5	-
1	-	-	1	176	-	8	2	-	-	-	-	50	-
1	-	-	1	131	-	3	-	-	-	-	-	15	-
-	-	-	-	45	-	5	2	-	-	-	-	35	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	3	-	5	3	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	3	-	3	1	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-
4	1	-	-	3	-	2	1	-	-	2	-	19	-
1	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	10	-
3	1	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	9	-
-	8	141	4	2	-	2	15	-	-	-	-	94	-
-	3	54	2	2	-	2	7	-	-	-	-	46	-
-	5	87	2	-	-	-	8	-	-	-	-	48	-
-	-	27	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	19
-	-	17	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	16
-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[診療情報管理室]

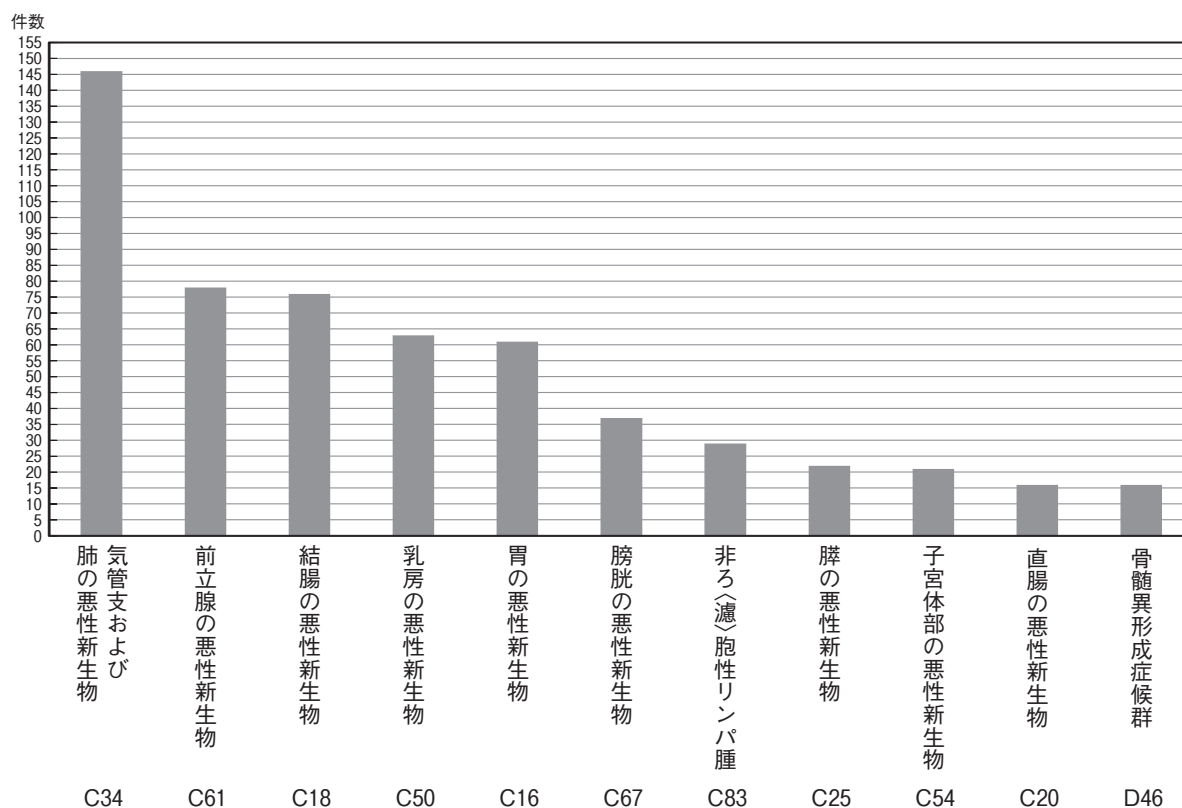
⑤ 悪性新生物統計

	算定式	2012年度 (2012.4 -2013.3)	2013年度 (2013.4 -2014.3)	2014年度 (2014.4 -2015.3)	2015年度 (2015.4 -2016.3)	2016年度 (2016.4 -2017.3)	2017年度 (2017.4 -2018.3)	2018年度 (2018.4 -2019.3)	2019年度 (2019.4 -2020.3)
悪性新生物：比率（％）	$\frac{\text{悪性新生物患者数}}{\text{実退院患者数}} \times 100$	14.7	16.0	14.5	14.6	16.2	16.4	16.2	19.5
悪性新生物：新発患者数		445	423	403	447	519	547	593	752

○ 2019年4月～2020年3月－初発がん統計トップ10（件数・平均在院日数）

ICD-10	疾患名	件数	在院日数計	平均在院日数
C34	気管支および肺の悪性新生物	146	3,874	27
C61	前立腺の悪性新生物	78	378	5
C18	結腸の悪性新生物	76	1,099	14
C50	乳房の悪性新生物	63	667	11
C16	胃の悪性新生物	61	1,103	18
C67	膀胱の悪性新生物	37	469	13
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	29	1,090	38
C25	脾の悪性新生物	22	761	35
C54	子宮体部の悪性新生物	21	209	10
C20	直腸の悪性新生物	16	237	15
D46	骨髄異形成症候群	16	565	41

[診療情報管理室]



⑥ 診療科別・月別・死亡（剖検）患者数

診療科	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	兼科 患者数	退院 患者数	粗死亡率	精死亡率	剖検率
総数	死亡 剖検	231 (10)	21 (1)	17 (2)	20 (4)	15 (-)	17 (-)	15 (1)	22 (1)	18 (-)	23 (-)	24 (1)	22 (-)	47 (2)	9,282 -	231 2.5	211 2.3	10 4.3
循環器内科	死亡 剖検	15 (-)	3 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	3 (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	3 (-)	666 -	15 2.3	13 2.0	- -
消化器内科	死亡 剖検	33 (2)	4 (1)	1 (-)	1 (-)	3 (-)	4 (-)	2 (-)	1 (-)	3 (-)	3 (-)	6 (1)	2 (-)	5 (1)	1,011 -	33 3.3	29 2.9	2 6.1
総合内科	死亡 剖検	66 (1)	6 (-)	7 (-)	6 (1)	4 (-)	1 (-)	2 (-)	5 (-)	5 (-)	8 (-)	10 (-)	6 (-)	9 (-)	1,346 -	66 4.9	66 4.9	1 1.5
血液・ 化学療法内科	死亡 剖検	38 (1)	1 (-)	3 (-)	5 (1)	3 (-)	2 (-)	4 (-)	5 (-)	3 (-)	1 (-)	6 (-)	3 (-)	11 (-)	409 -	38 9.3	35 8.6	1 2.6
脳神経内科	死亡 剖検	4 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	107 -	4 3.7	4 3.7	- -
腎臓内科	死亡 剖検	10 (3)	- (-)	2 (2)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	2 (1)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	2 (-)	228 -	10 4.4	9 3.9	3 30.0
消化器外科	死亡 剖検	15 (1)	2 (-)	1 (-)	2 (1)	- (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	2 (-)	1 (-)	1 (-)	1 (-)	4 (1)	475 -	15 3.2	14 2.9	1 6.7
呼吸器外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	54 -	- -	- -	- -
乳腺外科	死亡 剖検	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	168 -	2 1.2	2 1.2	- -
心臓血管外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	102 -	- -	- -	- -
産婦人科	死亡 剖検	7 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	2 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	1 (-)	1,692 -	7 0.4	6 0.4	- -
小児科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	313 -	- -	- -	- -
神経科・ 精神科	死亡 剖検	1 (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	120 -	1 0.8	1 0.8	- -
脳神経外科	死亡 剖検	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (1)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	62 -	1 1.6	1 1.6	1 100.0
整形外科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	359 -	- -	- -	- -
皮膚科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	234 -	- -	- -	- -
泌尿器科	死亡 剖検	6 (-)	1 (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	2 (-)	- (-)	1 (-)	5 (-)	454 -	6 1.3	6 1.3	- -
眼科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	383 -	- -	- -	- -
耳鼻咽喉・ 頭頸部科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	312 -	- -	- -	- -
形成再建外科	死亡 剖検	1 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	- (-)	- (-)	1 (-)	124 -	1 0.8	1 0.8	- -
放射線診断科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- -	- -	- -	- -
放射線治療科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- -	- -	- -	- -
麻酔・ 緩和医療科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 -	- -	- -	- -
リハビリ テーション科	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- -	- -	- -	- -
救急診療科	死亡 剖検	32 (1)	3 (-)	2 (-)	5 (1)	4 (-)	4 (-)	3 (-)	2 (-)	2 (-)	3 (-)	- (-)	2 (-)	4 (-)	642 -	32 5.0	24 3.7	1 3.1
予防医学 センター	死亡 剖検	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	19 -	- -	- -	- -

[診療情報管理室]

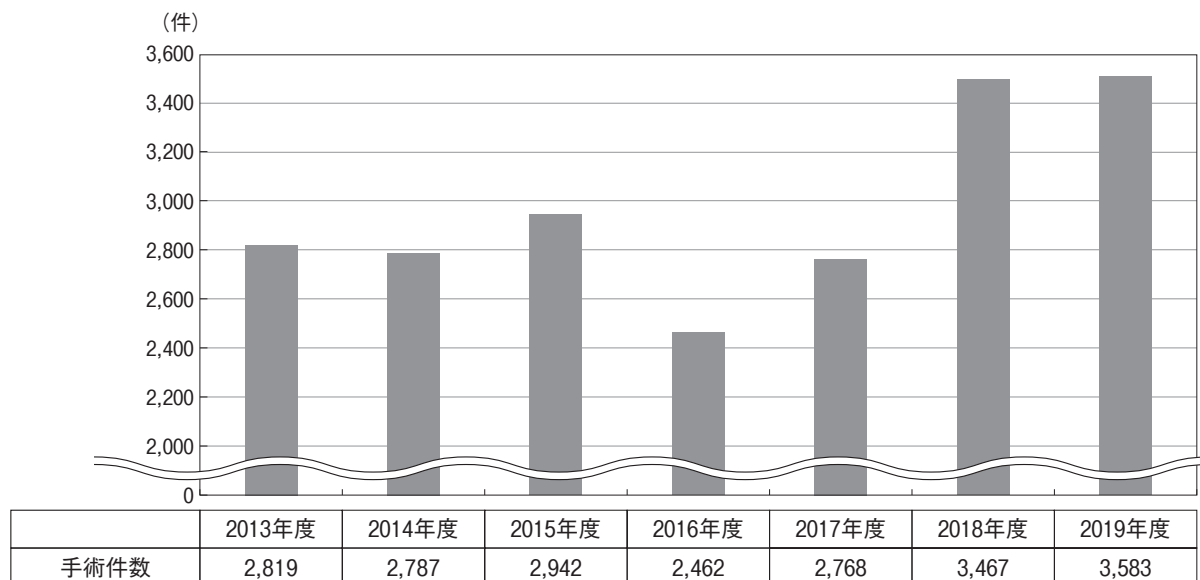
7 手術件数

① 診療科別・月別手術件数（手術室実施）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度 合計	2018年度 合計
循環器内科	2	1	0	1	1	2	3	0	2	2	1	2	17	18
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
総合内科	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
全麻	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
血液・化学療法内科	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	4	0
全麻	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
脳神経内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	30	28	28	30	26	31	31	37	27	28	24	27	347	371
全麻	27	25	26	29	23	28	29	29	20	24	22	23	305	318
呼吸器外科	4	3	3	6	6	5	5	2	5	4	5	7	55	46
全麻	4	3	3	6	6	5	5	2	5	4	5	7	55	46
乳腺外科	12	8	7	7	7	8	5	8	5	4	7	6	84	76
全麻	10	6	6	6	6	4	5	3	4	4	5	5	64	69
心臓血管外科	16	6	14	12	15	9	14	10	9	9	11	16	141	121
全麻	1	1	4	2	1	3	1	2	2	2	3	4	26	11
産婦人科	86	79	99	105	113	81	95	97	82	83	84	90	1,094	1,123
全麻	68	58	72	76	80	61	72	67	63	64	59	67	807	824
脳神経外科	1	2	3	4	2	3	2	3	0	1	4	1	26	28
全麻	1	2	3	3	1	1	1	3	0	1	2	1	19	15
整形外科	32	28	28	46	30	30	33	30	31	30	28	27	373	356
全麻	31	22	24	36	28	26	31	21	22	23	22	22	308	281
皮膚科	13	13	12	12	11	8	10	11	11	10	13	10	134	150
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	33	25	34	31	36	30	33	15	30	24	24	30	345	300
全麻	14	10	11	14	14	12	13	6	15	9	8	12	138	110
眼科	31	27	15	22	28	34	35	36	39	40	32	53	392	362
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉・頭頸部外科	25	23	19	26	14	16	15	20	20	19	19	27	243	196
全麻	19	15	17	18	14	12	11	14	13	13	15	23	184	146
形成再建外科	23	16	28	31	23	24	19	20	24	29	31	20	288	282
全麻	3	2	4	4	2	4	3	3	1	1	1	3	31	25
麻酔・緩和医療科	4	2	4	2	3	2	2	5	3	4	2	4	37	38
全麻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	312	264	294	335	315	284	302	294	288	290	285	320	3,583	3,467
全麻	178	147	170	194	175	156	171	150	145	147	142	167	1,942	1,846

手術室以外での手術、麻酔は含まれない。

[手術室]



② 診療科別・年間手術件数（総件数の内、上位のみ）

循環器内科

総件数	192
経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	111
経皮的冠動脈形成術（その他のもの）	26
ペースメーカー移植術（経静脈電極）	11
体外ペースメーカーリング術	10
経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症に対するもの）	9
経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞に対するもの）	6
大動脈バルーンパンピング法（初日）	6

消化器内科

総件数	495
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径 2 cm未満）	283
内視鏡的胆道ステント留置術	58
内視鏡的胃ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術）	31
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径 2 cm以上）	21
血管塞栓術（腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	13
内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	9
内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみのもの）	9
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	8
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	8
下部消化管ステント留置術	7
小腸結腸内視鏡的止血術	6
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術（ENBD）	6

血液・化学療法内科

総件数	11
造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（同種移植）	4
造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）（自家移植）	3
造血幹細胞採取（末梢血幹細胞採取）（同種移植）	2
造血幹細胞採取（末梢血幹細胞採取）（自家移植）	2

腎臓内科

総件数	21
経皮的シャント拡張術	13
内シャント設置術	6
内シャント血栓除去術	1
血管塞栓術（腹腔内血管等）（その他のもの）	1

消化器外科

総件数	380
腹腔鏡下胆嚢摘出術	82
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	40
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	39
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍）	16
内視鏡的大腸粘膜切除術（長径 2 cm未満）	15
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	14
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	13
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴うもの）	11
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	10
ヘルニア手術（鼠径ヘルニア）	10
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	8
胆嚢摘出術	6

呼吸器外科

総件数	55
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもの）	15
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	13
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除によるもの））	7
肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもの）	3
胸腔鏡下膿胸腔搔爬術	3
胸腔鏡下肺切除術（その他のもの）	3

乳腺外科

総件数	75
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・腋窩部郭清を伴わないもの）	20
乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わないもの）	12
乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの））	11
抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	8
乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除併施しない）	7

心臓血管外科

総件数	114
下肢静脈瘤血管内焼灼術	41
内シャント設置術	19
四肢の血管拡張術	14
ステントグラフト内挿術（腹部大動脈）	10
経皮的シャント拡張術	6
動脈血栓内膜摘出術（その他）	5
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（四肢）	4
バイパス移植術（下腿動脈）	3

産婦人科

総件数	1,000
子宮附属器腫瘍摘出術（両側、腹腔鏡）	278
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	231
腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	152
子宮鏡下子宮筋腫摘出術	54
帝王切開術（緊急切開）	42
帝王切開術（選択切開）	41
腹腔鏡下仙骨腔固定術	25
腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器使用）	23

小児科

総件数	1
新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	1

脳神経外科

総件数	23
水頭症手術（シャント手術）	15
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	5
脊髄腫瘍摘出術（髄外）	1
試験開腹術	1
脳血管手術	1

整形外科

総件数	340
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定）	76
人工関節置換術（膝）	59
人工関節置換術（股）	29
骨折観血の手術（大腿）	29
骨折観血の手術（前腕）	17
椎間板摘出術（後方摘出術）	16
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	14
人工骨頭挿入術（股）	13
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	12
骨折観血の手術（下腿）	11

皮膚科

総件数	2
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	2

泌尿器科

総件数	245
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・電解質溶液利用のもの）	64
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	38
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	20
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	18
経尿道的前立腺核出術	14
経尿道的前立腺手術（電解質溶液利用のもの）	12
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	11
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術・その他のもの）	8
膀胱腫瘍摘出術	7
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	7
経尿道的尿管狭窄拡張術	7
腹腔鏡下副腎摘出術	6

眼科

総件数	376
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・その他のもの）	360
水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	7
眼瞼下垂症手術（その他）	6
水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合・縫着レンズを挿入するもの）	3

耳鼻咽喉・頭頸部外科

総件数	290
口蓋扁桃手術（摘出）	160
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型（汎副鼻腔手術）	21
鼻中隔矯正術	20
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	12
経鼻腔の翼突管神経切除術	10
耳下腺腫瘍摘出術（浅葉）	7
甲状腺部分切除術（片葉）	7
甲状腺悪性腫瘍手術（全摘）	7
甲状腺悪性腫瘍手術（切除）	5
耳下腺腫瘍摘出術（深葉）	5

形成再建外科

総件数	92
眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	18
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	18
眼瞼下垂症手術（その他）	10
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 6 cm 以上 12cm 未満）	8
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	6
皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 6 cm 以上 12cm 未満）	4
皮膚腫瘍摘出術（露出部以外）（長径 12cm 以上）	3

麻酔・緩和医療科

総件数	8
胸水・腹水濾過濃縮再静注法	8

[診療情報管理室]

2. 医事統計

1 診療科別医療収入

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計
循環器内科	12,137	37,695	49,831	11,873	39,933	51,807	12,058	43,733	55,791	12,864	39,247	52,111	11,725	41,368	53,093	11,496	32,160	43,657	13,070	43,001	56,071
消化器内科	27,700	41,730	69,431	26,738	39,858	66,595	27,892	36,775	64,667	31,489	40,002	71,490	29,346	38,275	67,621	29,079	40,379	69,459	27,322	47,172	74,494
総合内科	74,972	85,055	160,027	76,899	72,858	149,758	79,946	65,203	145,148	80,365	80,147	160,512	86,176	77,003	163,180	77,950	79,161	157,111	92,502	96,422	188,923
血液・ 化学療法内科	39,256	49,484	88,740	38,491	59,374	97,865	37,591	69,103	106,695	45,639	68,076	113,715	36,024	57,989	94,013	40,263	57,410	97,672	41,836	66,888	108,724
脳神経内科	4,264	5,748	10,012	3,526	11,280	14,806	4,176	8,802	12,978	4,211	13,627	17,838	3,919	10,627	14,546	3,871	7,738	11,609	4,509	10,588	15,097
腎臓内科	4,921	12,191	17,113	4,715	12,992	17,707	4,941	15,799	20,740	5,502	10,338	15,840	5,897	11,896	17,793	5,066	14,468	19,534	6,065	12,415	18,480
内科(計)	163,251	231,904	395,154	162,243	236,295	398,538	166,604	239,415	406,020	180,069	251,437	431,506	173,088	237,157	410,246	167,726	231,317	399,043	185,304	276,486	461,790
消化器外科	8,526	42,215	50,741	7,591	45,438	53,029	8,330	44,679	53,009	7,766	45,606	53,372	7,381	32,528	39,909	7,526	44,536	52,062	7,716	42,370	50,086
呼吸器外科	560	6,136	6,696	423	4,668	5,091	431	5,013	5,444	737	8,306	9,044	426	8,667	9,094	431	7,539	7,970	564	7,778	8,342
乳腺外科	16,690	14,520	31,211	17,156	9,892	27,048	15,262	9,125	24,387	18,793	9,621	28,413	16,780	8,182	24,962	18,977	7,292	26,269	18,136	5,368	23,504
心臓血管外科	535	12,419	12,954	456	6,506	6,962	668	13,299	13,967	563	14,342	14,905	610	3,366	3,977	628	9,163	9,790	737	10,359	11,096
外科(計)	26,311	75,290	101,601	25,627	66,504	92,130	24,691	72,116	96,807	27,859	77,875	105,734	25,197	52,744	77,941	27,561	68,530	96,092	27,152	65,875	93,028
産婦人科	22,177	87,418	109,595	23,703	88,519	112,222	23,551	91,118	114,669	25,264	102,063	127,327	24,507	107,703	132,209	21,402	88,990	110,392	22,865	100,000	122,866
小児科	6,986	11,823	18,809	6,873	6,892	13,765	7,540	11,010	18,550	7,235	8,354	15,589	6,226	13,883	20,109	6,575	10,409	16,984	6,246	10,533	16,779
神経科・ 精神科	8,065	8,962	17,028	7,738	10,969	18,707	7,248	8,086	15,334	8,588	8,382	16,970	7,973	10,157	18,130	7,346	10,075	17,421	7,519	11,471	18,990
脳神経外科	952	3,776	4,728	1,252	4,407	5,659	1,220	5,002	6,223	1,458	4,701	6,159	907	4,752	5,658	1,235	6,507	7,742	1,192	4,302	5,494
整形外科	8,691	53,330	62,020	9,760	40,383	50,143	9,007	60,853	69,860	9,166	79,497	88,663	7,680	59,753	67,433	8,267	49,992	58,259	8,638	60,276	68,914
皮膚科	37,232	12,320	49,552	35,874	8,925	44,799	27,353	8,829	36,182	44,042	10,713	54,755	33,591	9,599	43,190	37,766	11,856	49,622	36,795	7,780	44,574
泌尿器科	12,177	19,972	32,148	15,236	17,425	32,661	13,325	23,997	37,321	15,534	24,792	40,326	13,588	25,312	38,900	13,777	18,555	32,332	15,219	16,919	32,138
眼科	6,632	6,165	12,797	7,493	5,357	12,850	8,081	2,978	11,059	8,744	4,261	13,005	8,163	6,071	14,234	8,763	6,653	15,416	8,549	7,218	15,767
耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	7,622	15,709	23,331	7,019	11,511	18,530	6,782	12,792	19,574	8,103	13,175	21,278	6,829	11,057	17,886	6,783	9,041	15,824	7,511	9,075	16,586
形成再建外科	1,346	7,136	8,482	1,241	4,627	5,869	1,712	5,651	7,363	2,054	5,801	7,855	1,818	4,681	6,499	1,808	3,482	5,290	1,416	2,657	4,073
放射線診断・ IVR科	3,250	-	3,250	3,105	-	3,105	3,430	2	3,432	4,174	-	4,174	2,539	-	2,539	3,091	-	3,091	3,328	7	3,335
放射線治療科	4,849	2,565	7,413	3,646	2,947	6,593	4,263	1,979	6,243	3,091	1,818	4,909	3,653	3,746	7,399	3,018	3,263	6,281	3,983	3,272	7,255
麻酔・ 緩和医療科	266	2,318	2,584	351	1,633	1,984	355	1,596	1,951	344	2,042	2,386	365	1,734	2,100	281	1,659	1,941	299	1,704	2,003
救急診療科	3,754	22,330	26,084	4,260	20,525	24,785	3,735	21,524	25,259	4,459	28,428	32,887	5,299	29,340	34,639	3,764	23,873	27,637	5,563	24,506	30,069
糖尿病・ 内分泌センター	480	-	480	482	-	482	499	-	499	530	-	530	509	-	509	473	-	473	538	-	538
リハビリ テーション科	409	8,457	8,866	547	9,570	10,117	348	10,634	10,982	532	11,786	12,318	547	9,920	10,467	692	9,539	10,231	592	10,048	10,640
血液浄化 センター	4,669	-	4,669	5,529	-	5,529	4,666	-	4,666	5,102	-	5,102	4,782	-	4,782	5,218	-	5,218	5,516	-	5,516
その他	32	-	32	23	-	23	16	-	16	16	-	16	23	-	23	33	-	33	26	-	26
計	319,150	569,473	888,623	322,003	536,488	858,491	314,426	577,583	892,009	356,364	635,124	991,488	327,283	587,610	914,892	325,579	553,741	879,320	348,255	612,128	960,383
占率	35.9%	64.1%	100.0%	37.5%	62.5%	100.0%	35.2%	64.8%	100.0%	35.9%	64.1%	100.0%	35.8%	64.2%	100.0%	37.0%	63.0%	100.0%	36.3%	63.7%	100.0%

[単位：千円]

11月			12月			1月			2月			3月			累計			前年度 累 計	対前年 差 額
外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計	外来	入院	計		
11,392	44,667	56,059	12,054	40,974	53,028	11,240	34,004	45,244	10,040	36,426	46,465	11,080	30,224	41,303	141,029	463,432	604,462	682,524	▲78,062
30,619	48,074	78,694	33,087	37,076	70,163	38,763	36,235	74,998	31,553	43,605	75,159	30,268	43,650	73,918	363,857	492,832	856,689	747,499	109,190
82,588	90,415	173,003	84,407	95,211	179,618	101,264	82,537	183,801	88,697	86,174	174,871	95,841	86,673	182,514	1,021,607	996,859	2,018,466	1,416,431	602,035
36,449	48,978	85,427	35,490	72,730	108,221	33,950	59,854	93,804	37,522	68,614	106,135	30,189	70,100	100,288	452,699	748,600	1,201,300	987,259	214,041
3,649	12,954	16,603	4,606	9,303	13,909	3,952	7,447	11,399	3,812	8,933	12,745	4,563	11,185	15,748	49,059	118,231	167,290	201,946	▲34,656
5,498	9,935	15,433	5,830	15,494	21,324	5,647	19,482	25,129	5,537	14,421	19,958	5,688	15,476	21,163	65,306	164,908	230,214	196,254	33,959
170,195	255,024	425,219	175,475	270,787	446,262	194,815	239,560	434,375	177,160	258,174	435,334	177,627	257,307	434,934	2,093,558	2,984,862	5,078,420	4,231,913	846,507
7,447	39,768	47,215	7,409	38,363	45,772	9,047	39,395	48,441	8,197	36,395	44,592	8,150	32,824	40,975	95,086	484,116	579,203	564,618	14,584
330	3,648	3,978	407	7,353	7,759	453	4,168	4,621	563	7,136	7,699	402	8,484	8,886	5,727	78,896	84,623	71,911	12,712
16,202	7,076	23,278	16,294	8,045	24,339	15,659	8,850	24,509	13,778	11,531	25,309	14,347	8,488	22,835	198,073	107,990	306,063	263,798	42,265
792	9,299	10,091	713	3,959	4,672	707	6,113	6,820	686	9,193	9,879	640	12,571	13,211	7,735	110,589	118,324	58,491	59,833
24,771	59,792	84,563	24,822	57,719	82,541	25,866	58,525	84,391	23,224	64,255	87,479	23,539	62,367	85,906	306,621	781,592	1,088,213	900,328	187,886
21,295	91,154	112,450	21,655	92,921	114,576	21,604	81,904	103,507	19,267	85,701	104,968	23,709	89,717	113,426	270,998	1,107,208	1,378,207	1,442,479	▲64,272
5,160	6,439	11,599	5,346	5,066	10,411	5,059	5,859	10,918	5,125	3,541	8,665	5,180	2,695	7,875	73,551	96,503	170,054	214,720	▲44,666
7,204	8,674	15,877	7,950	10,536	18,486	7,897	10,572	18,470	6,585	12,864	19,449	6,492	8,195	14,688	90,605	118,943	209,548	166,376	43,171
1,053	4,654	5,707	923	1,554	2,478	1,031	1,549	2,580	1,094	4,974	6,067	1,072	7,587	8,660	13,388	53,766	67,154	57,071	10,083
8,058	50,103	58,161	8,075	46,029	54,104	7,559	43,453	51,012	6,517	48,980	55,497	7,554	52,567	60,122	98,972	645,215	744,188	719,974	24,213
39,729	7,565	47,295	38,536	8,975	47,510	36,456	9,203	45,659	32,427	12,844	45,271	43,113	9,303	52,416	442,913	117,912	560,825	500,460	60,365
15,297	19,206	34,503	14,916	21,541	36,458	16,106	19,929	36,035	14,026	21,118	35,144	17,258	20,088	37,347	176,458	248,854	425,312	390,926	34,386
8,295	7,435	15,730	8,723	7,779	16,502	8,003	8,827	16,831	7,761	6,731	14,492	8,486	10,233	18,719	97,693	79,708	177,401	145,292	32,109
7,735	12,305	20,040	6,893	11,244	18,137	7,688	10,804	18,492	6,617	11,289	17,906	7,639	15,780	23,419	87,220	143,782	231,002	203,944	27,059
1,417	3,986	5,403	1,728	3,752	5,481	1,734	3,080	4,814	1,655	1,632	3,287	1,304	4,158	5,462	19,235	50,644	69,879	75,069	▲5,191
3,081	-	3,081	2,723	-	2,723	1,916	-	1,916	2,309	0	2,309	2,133	-	2,133	35,080	9	35,088	36,957	▲1,869
4,873	3,664	8,537	3,014	4,613	7,627	1,650	2,435	4,084	3,862	3,459	7,321	5,214	3,802	9,017	45,117	37,563	82,679	67,117	15,562
443	2,962	3,405	395	1,653	2,048	424	1,817	2,241	295	1,492	1,787	313	1,717	2,030	4,132	22,327	26,459	27,522	▲1,063
4,779	24,351	29,129	5,790	22,894	28,684	4,956	31,318	36,275	4,547	24,876	29,423	4,097	18,419	22,515	55,001	292,383	347,385	312,561	34,824
464	-	464	581	-	581	481	-	481	490	-	490	489	-	489	6,017	-	6,017	109,718	▲103,701
661	10,497	11,158	725	9,667	10,391	1,027	9,648	10,675	678	10,204	10,883	485	10,144	10,629	7,243	120,115	127,358	6,268	121,089
5,295	-	5,295	6,246	-	6,246	7,157	-	7,157	6,370	-	6,370	6,755	-	6,755	67,306	-	67,306	6,296,103	▲6,228,797
28	-	28	30	-	30	23	-	23	24	-	24	33	-	33	307	-	307	303	4
329,834	567,810	897,644	334,546	576,730	911,276	351,453	538,483	889,936	320,031	572,135	892,166	342,493	574,081	916,574	3,991,417	6,901,386	10,892,803	9,697,300	1,195,502
36.7%	63.3%	100.0%	36.7%	63.3%	100.0%	39.5%	60.5%	100.0%	35.9%	64.1%	100.0%	37.4%	62.6%	100.0%	36.6%	63.4%	100.0%		

[医事サービス部]

2 医療行為別医療収入

① 外来

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差額
初診料	4,314	4,563	4,882	5,116	4,551	4,151	4,835	4,299	4,377	4,566	4,014	4,314	53,983	54,735	▲752
再診料	12,223	12,081	11,800	12,778	12,183	11,955	12,746	11,977	12,502	11,786	10,818	11,914	144,764	142,789	1,975
指導料	32,331	32,496	29,556	37,223	33,656	34,203	34,521	31,872	37,299	35,477	30,617	39,811	409,062	353,156	55,906
処方料	14,346	12,465	14,868	19,273	15,590	13,070	11,770	17,264	19,440	22,352	21,164	12,115	193,717	210,557	▲16,840
注射料	92,358	98,011	90,040	106,182	98,638	100,746	113,716	100,547	96,375	116,604	105,282	111,759	1,230,257	801,351	428,905
処置料	6,733	7,753	6,414	7,198	6,778	6,856	7,553	7,066	7,879	8,880	7,759	8,284	89,153	60,952	28,201
手術料	3,939	3,375	4,422	4,300	3,847	4,176	4,413	5,123	6,448	5,075	3,944	4,756	53,817	59,473	▲5,655
検体検査料	89,725	89,311	89,803	97,306	91,405	88,652	94,089	89,402	90,350	89,234	80,780	89,179	1,079,236	1,037,548	41,688
画像検査料	40,107	39,577	40,875	44,134	38,482	40,740	41,455	39,169	37,956	38,170	35,899	37,786	474,350	451,587	22,764
リハビリ その他	15,897	14,531	14,652	14,658	14,758	13,641	15,443	15,683	14,622	12,837	13,995	15,909	176,628	171,231	5,397
自費	7,178	7,840	7,113	8,196	7,395	7,389	7,714	7,432	7,296	6,473	5,758	6,666	86,450	87,787	▲1,337
計	319,150	322,003	314,426	356,364	327,283	325,579	348,255	329,834	334,546	351,453	320,031	342,493	3,991,417	3,431,167	560,250

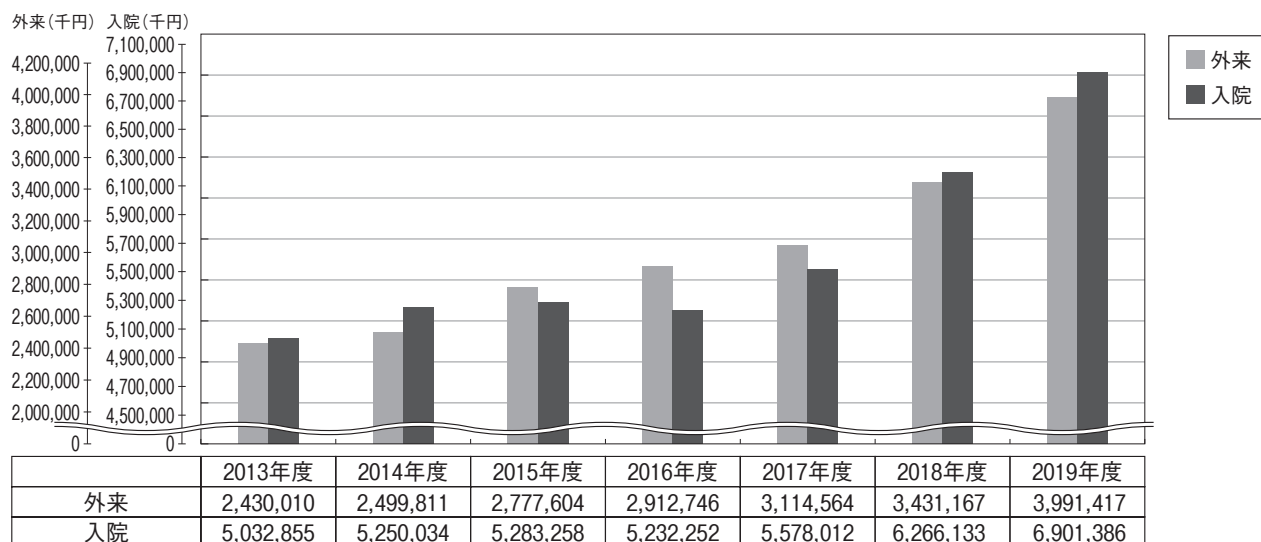
[医事サービス部]

② 入院

[単位：千円]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度 累計	対前年 差 額
診察料	359	338	362	403	400	449	396	427	538	466	309	312	4,756	5,124	▲367
指導料	6,359	5,891	6,637	6,883	6,643	5,878	6,340	6,041	6,041	6,078	6,549	7,221	76,561	71,864	4,698
処方料	7,847	7,819	7,013	7,966	6,811	7,524	9,677	8,434	13,802	6,002	8,080	7,376	98,350	64,269	34,081
注射料	13,316	14,309	17,206	19,731	19,016	13,298	23,736	16,216	25,572	14,572	11,904	14,783	203,658	73,016	130,643
処置料	4,286	3,819	4,198	3,874	3,576	3,047	2,476	2,438	3,145	4,144	3,264	3,286	41,554	35,971	5,583
手術料	138,352	129,989	149,198	172,016	145,103	129,323	148,551	127,107	125,520	124,187	125,169	137,498	1,652,014	1,578,323	73,691
検体検査料	10,465	10,204	10,384	10,688	10,150	10,812	11,497	9,941	10,322	9,461	9,165	9,890	122,977	100,277	22,700
画像検査料	1,427	1,452	1,485	1,775	1,534	1,530	1,577	1,899	1,721	1,443	1,479	1,347	18,669	12,954	5,714
リハビリ その他	11,135	12,805	12,670	14,280	13,886	12,829	13,203	14,199	14,330	12,177	13,725	14,080	159,319	132,603	26,716
入院料	47,978	54,508	50,731	55,271	56,056	53,214	61,974	58,423	62,443	53,708	53,867	51,213	659,385	535,815	123,570
DPC	267,163	240,709	262,569	281,111	265,442	259,328	270,034	268,231	256,962	254,089	277,339	274,561	3,177,539	2,990,312	187,227
食事療養費	15,337	13,987	15,088	15,767	15,272	14,760	15,998	14,939	14,743	14,000	15,208	14,188	179,289	173,839	5,450
自費	45,450	40,658	40,043	45,357	43,721	41,750	46,668	39,515	41,593	38,156	46,078	38,325	507,315	491,768	15,547
計	569,473	536,488	577,583	635,124	587,610	553,741	612,128	567,810	576,730	538,483	572,135	574,081	6,901,386	6,266,133	635,253

[医事サービス部]



3. その他統計

1 病院従業員数（2019年4月1日時点）

		職員	性別		専攻医	研修医	常勤嘱託	非常勤・パート	
			男	女					
医 師	2019年度	89	69	20	12	12	2	36	
	2018年度	85	66	19	10	12	2	48	
薬 剤 師	2019年度	15	7	8				2	
	2018年度	13	5	8				3	
放射線技師	2019年度	19	13	6					
	2018年度	17	11	6					
臨床検査技師	2019年度	33	13	20				3	
	2018年度	24	12	12				2	
理学療法士	2019年度	11	10	1					
	2018年度	10	9	1					
作業療法士	2019年度	1	1						
	2018年度	1	1						
管理栄養士	2019年度	3		3					
	2018年度	1		1				2	
ケースワーカー	2019年度	4		4					
	2018年度	3		3				1	
視能訓練士・眼鏡士	2019年度	2		2				2	
	2018年度	2		2				1	
公認心理師	2019年度	1		1					
	2018年度	0							
臨床心理士	2019年度	0						1	
	2018年度	0						2	
臨床工学技士	2019年度	10	5	5					
	2018年度	7	4	3				2	
看護師	2019年度	316	11	305				24	
	2018年度	288	6	282				23	
准看護師	2019年度	0						7	
	2018年度	0						7	
看護助手	2019年度	0						6	
	2018年度	0						10	
事務員	2019年度	44	25	19				29	
	2018年度	47	29	18				27	
一般技能労務職	2019年度	3	3					2	
	2018年度	1	1					2	
小 計		2019年度	551	157	394	12	12	2	112
		2018年度	499	144	355	10	12	2	130
ニッセイ予防医学センター	医 師	2019年度	5	3	2			2	2
		2018年度	5	3	2			2	1
	放射線技師	2019年度	5	2	3				4
		2018年度	4	2	2				14
	臨床検査技師	2019年度	0						11
		2018年度	5		5				14
	臨床心理士	2019年度	0						2
		2018年度	0						2
	看護師	2019年度	9		9				6
		2018年度	6		6				8
	事務員	2019年度	13	5	8				23
		2018年度	13	5	8				20
	一般技能労務職	2019年度	1	1					
		2018年度	1	1					
小 計		2019年度	33	11	22	0	0	2	48
		2018年度	34	11	23	0	0	2	59
訪問看護	看護師	2019年度	5		5				11
		2018年度	7	1	6				7
小 計		2019年度	5	0	5	0	0	0	11
		2018年度	7	1	6	0	0	0	7
総 計		2019年度	589	168	421	12	12	4	171
		2018年度	540	156	384	10	12	4	196

[総務人事G]

2 セカンドオピニオン外来件数（年間計）

循環器内科 1件、総合内科 1件、腎臓内科 1件、乳腺外科 1件、産婦人科 7件、計 11件

[あったかサポートセンター]

循環器内科

スタッフ 部 長：岡部太一
 担当部長：中川 厚
 副 部 長：徳岡孝仁（～2019年4月）
 副 医 長：吉川秀人、友瀨彰人
 専 攻 医：山本将平（2020年2～3月）

1. 診療内容

循環器内科では虚血性心疾患、心不全、各種弁膜症、高血圧症、脂質異常症、各種不整脈、閉塞性動脈硬化症、静脈血栓症等の診断・治療を行っている。

循環器疾患のなかでも、特に大きな課題を抱えているのが心不全である。団塊の世代が全員75歳以上になる2025年問題が指摘、心不全患者が爆発的に増加する「心不全パンデミック」も懸念されており、当科も積極的に受け入れ対応を実施している。

冠動脈造影検査についても近年は年間600件前後、経皮的冠動脈形成術（PCI）も150～200件前後で推移（うち急性冠症候群症例13例）、大きな合併症なく良好な成績を挙げている。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル検査などの救急疾患についても積極的に対応している。

近年保険診療においてPCI実施については可能な限り虚血所見の証明を必要とされており、当院ではシンチ検査や運動負荷シンチ検査にて虚血評価を実施の上、カテーテル治療を実施している。

また糖尿病患者や高齢患者の増加に伴い閉塞性動脈硬化症も増加、当科では主に診断を行い、心臓血管外科 新谷部長代理と協力のもと検査・治療を実施している。

不整脈治療について、頻脈性不整脈に対するカテーテル心筋症焼灼術については心房粗動や上室性頻拍症など心房細動以外の不整脈に対しては大阪医科大学循環器内科出身の不整脈専門医の協力のもと当院にてアブレーション治療が可能な体制を構築、また心房細動症例については当院ではアブレーション治療は実施していないが、薬物治療・アブレーション治療による治療の可否について循環器専門医が判断、必要と判断した症例については実施可能施設に紹介している。

徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）に対するペースメーカー治療（新規植込み・電池交換）についても2015年6月より一層感染面を考慮、手術に適した環境下において手術室にて吉川副医長にて植込み手術を実施している。

また2016年9月より心臓リハビリテーションを当院でも開始、主に入院患者を対象に急性心筋梗塞後のみならず心不全や閉塞性動脈硬化症などに対して実施、可能な症例に対しては入院から外来へと継続実施している。心臓リハビリテーション実施に際して安全にかつ有効に実施するため心肺運動負荷試験（CPX）実施、

嫌気性代謝閾値を相定、評価実施、運動処方を行っている。

虚血性心疾患・心不全を中心に診療を行っているが、常勤の循環器専門医2名の指導のもと循環器一般診療・内科一般疾患に対しても幅広く診療を行っている。

循環器疾患以外にもそれに付随した関連疾患の診療も他科と協力しながら行っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3) 検査スケジュール（表3）

- ・心臓カテーテル検査・冠動脈形成術：放射線部（火曜 全日、水曜・木曜・金曜 午前、尚、緊急時には適時対応）
- ・薬剤負荷心筋シンチ（金曜 午前）
- ・トレッドミル負荷心電図検査（月曜 午後）
- ・経胸壁心臓超音波検査 頸動脈超音波検査（月～金曜 全日）
- ・経食道心臓超音波検査（午後適時）
- ・下肢静脈超音波検査（月～金曜 午後）
- ・ホルター心電図検査（月～木曜、午前）
- ・CPX：心肺運動負荷試験（午後適時）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

2) 入院診療実績（表4、5）

3) 検査実績

心臓カテーテル検査件数：434件

PCI（冠動脈インターベンション治療）：175件（内、緊急14件）

ペースメーカー治療（新規/交換）：11/1件

ABL（カテーテル電気焼灼術）/EPS：2件

冠動脈CT：391件

心臓超音波検査：3,953件

経食道心臓超音波検査：16件

トレッドミル負荷心電図：112件

負荷心筋シンチ：95件

安静心筋シンチ：2件

ホルター心電図検査：192件

CPX件数：34件

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医

4名（岡部、中川、徳岡、友渕）

日本内科学会総合内科専門医 1名（岡部）

循環器専門医 3名（岡部、中川、徳岡）

日本心血管インターベンション治療学会

専門医・指導医 1名（中川）

5. 業績

学会発表

- 大西綾乃、友渕彰人、吉川秀人、中川 厚、岡部太一：造影カテーテルで冠動脈解離を生じた1例、第128回日本循環器学会近畿地方会、2019年11月、大阪市
- 田村有里、友渕彰人、吉川秀人、中川 厚、岡部太一：検診で指摘された常染色体優性遺伝性嚢胞腎に合併した大動脈弁閉鎖不全症の2例、第227回日本内科学会近畿地方会、2020年3月、京都市
- 井口謙志、吉川秀人、友渕彰人、中川 厚、岡部太一：短期間に脳梗塞を繰り返したTrousseau症候群の1例、第227回日本内科学会近畿地方会、2020年3月、京都市

研究会発表

- 大西綾乃：造影カテーテルでlarge dissectionを生じたがステント留置でBail outした症例、JMN循環器懇話会、2019年6月、大阪市
- 岡部太一：循環器疾患における抗血小板薬のマネジメント、江之子島消化管セミナー、2019年8月、大阪市
- 井口謙志：ガイドカテによる冠動脈解離のため治療方針に苦慮した狭心症、JMN循環器懇話会、2019年11月、大阪市
- 友渕彰人：動悸症状で経過観察中に冠攣縮狭心症を発症した症例について、第12回 あわぎ クリニカル カンファレンス、2019年11月、大阪市
- 中川厚：高血圧標準治療と最新の治験～心血管予防を目指して～、第8回生活習慣病フォーラム、2019年10月、大阪市
- 岡部太一：Onco-cardiology 循環器内科医の癌診療への参加、第119回ニッセイ医学セミナーUpdate、2019年10月、大阪市

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
吉川	友渕	岡部	永田	中川	吉川	岡部	岡部	岡部	中川 (予約)
中川				岡部/ 長谷川 (浩) (予約)※				友渕	

※岡部は1・4・5週の予約再診、長谷川は2・3週の初診のみ

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス	カンファレンス 心臓カテーテル	合同カンファレンス (放科・心外)	カンファレンス 心臓カテーテル	カンファレンス
午後			部長回診	カンファレンス	

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
頸動脈エコー	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
ホルター心電図		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		
末梢血管エコー		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予
トレッドミル		○ 診								
心臓カテーテル検査			○ 診	○ 診			○ 診	○ 診		
負荷心筋シンチ									○ 診	

●：紹介状・予約が必要 ○：当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	13,744	13,827	14,750	14,144	12,558
入院	12,924	12,044	10,706	8,470	6,896

表5 2019.4～2020.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
狭心症および慢性虚血性心疾患	327	5
心不全	120	23
心臓および血管の挿入物および移植片の存在	44	3
急性心筋梗塞	21	12
心房細動および粗動	19	13
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	15	21
房室ブロックおよび左脚ブロック	10	29

スタッフ 部長：有坂好史（消化器内視鏡センター長（2019年11月～））
 担当部長：湯川雅彦（消化器内視鏡センター長）（～2019年11月）
 副 部 長：村本 理、田中敏雄
 医 長：河田奈都子、荻巣恭平、花本浩一
 副 医 長：北田隆起
 専 攻 医：高木康宏（2019年 9 月）
 兼 務：中村秀次（ニッセイ予防医学センター長）

1. 診療内容

全人的な医療をモットーとして、消化器疾患全般に対する診療を行っている。外科合同カンファレンス、放射線科合同カンファレンスを継続して行い、外科・放射線科の連携のもと集学的診断治療に努めている。上部・下部消化管内視鏡検査では、NBI拡大内視鏡、色素内視鏡を用いて、食道癌、胃癌、大腸癌の早期診断など高い診断精度を目指す。胆膵疾患および消化管粘膜下腫瘍に対しては超音波内視鏡検査を駆使し、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）も導入し、診断能の向上を図っている。治療的手技としては、内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、内視鏡的食道静脈瘤結紮術に加えて、胃・食道の早期癌に対して粘膜下層剥離術（ESD）も積極的に実施しており、早期大腸癌のESDも行っている。膵・胆管領域では、総胆管結石や閉塞性黄疸に対して内視鏡的逆行性膵胆道造影・内視鏡的乳頭切開術、胆管ステント留置術等を行っている。食道や胃の進行癌だけでなく膵癌、胆管癌に対しても、化学療法、放射線療法など集学的治療を行っている。肝疾患では、B型慢性肝炎に対するエンテカビル、テノホビル、TAF投与、C型慢性肝炎に対するIFN-free DAA経口療法を積極的に実施している。肝硬変に対しては肝癌の早期発見さらに発癌抑制も踏まえたきめ細かな診療を心がけ、分枝鎖アミノ酸製剤等の栄養療法、難治性腹水に対するCART療法など、QOLおよび生存率の向上を目指した治療を行っている。肝細胞癌に対しては、外科、放射線科との緊密な連携の下、外科切除、ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓療法（TACE）等の局所治療を実施するとともに、局所コントロール不能例には分子標的治療薬も積極的に導入し、集学的治療を行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定医	4名（有坂、河田、北田、中村）
日本内科学会総合内科専門医	3名（湯川、村本、荻巣）
日本内科学会認定指導医	3名（湯川、村本、中村）
日本消化器病学会認定専門医	7名（有坂、湯川、村本、河田、荻巣、北田、中村）
日本消化器病学会認定指導医	3名（有坂、湯川、中村）
日本消化器内視鏡学会認定専門医	7名（有坂、湯川、村本、河田、荻巣、北田、中村）
日本消化器内視鏡学会認定指導医	3名（有坂、湯川、中村）
日本肝臓学会認定肝臓専門医	5名（村本、河田、荻巣、北田、中村）
日本肝臓学会認定指導医	1名（中村）
日本胆道学会認定指導医	1名（有坂）
日本膵臓学会認定指導医	1名（有坂）
日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1名（中村）
日本超音波医学会専門医	1名（河田）
日本がん治療認定医	1名（河田）

5. 業績

論文・著書

1. 有坂好史：かかりつけ医が知っておきたい膵癌高危険群の知識とマネジメント, DaiNaiKai PRESS, Vol 5:2-4, 2019年
2. 有坂好史：かかりつけ医が知っておきたい膵癌高危険群の知識とマネジメント, 大阪府内科医会会誌, 28(2):174-178, 2019年
3. 有坂好史, 荻巣恭平, 花本浩一, 増田充弘：＜画像解説＞「膵・胆管合流異常に合併した胆嚢胆管重複癌」, 胆道, 34(1):132-137, 2020年
4. 有坂好史：内視鏡室の紹介 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院 消化器内視鏡センター, 日本消化器内視鏡学会雑誌, 62(3):399-403, 2020年
5. 有坂好史, 荻巣恭平, 花本浩一：＜総説＞「胆嚢腺筋腫症の疫学と診断」, 胆道, in press

学会発表

1. 北田隆起, 中村秀次, 荻巣恭平, 河田奈都子, 村本 理, 有坂好史：当院における免疫チェックポイント阻害剤による肝障害の検討, 第55回日本肝臓学会総会, 2019年5月, 東京
2. 有坂好史, 河田奈都子, 北田隆起, 花本浩一, 荻巣恭平, 田中敏雄, 村本 理, 湯川雅彦, 中村秀次：一般病院における膵嚢胞定期フォローによる膵癌早期診断の試み -preliminary study-, 第50回日本膵臓学会大会, 2019年7月, 東京
3. 花本浩一, 有坂好史, 荻巣恭平：総胆管内にポリープ状発育を呈した胆管癌の1例, 第55回日本胆道学会学術集会, 2019年10月, 名古屋

4. 萩原恭平, 北田隆起, 花本浩一, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 有坂好史, 中村秀次:胆嚢癌を合併したIgG4関連胆管炎の1例, 第55回日本胆道学会学術集会, 2019年10月, 名古屋
5. 北田隆起, 中村秀次, 萩原恭平, 河田奈都子, 村本理, 有坂好史:ステロイド投与が奏功したテルビナフィン塩酸塩による薬剤性肝障害の1例, 第43回日本肝臓学会西部会, 2019年12月, 下関
6. 安井友紀, 有坂好史, 花本浩一, 北田隆起, 萩原恭平, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次:MSI high 腺癌にペムプロリズマブが有効であった1例, 第226回日本内科学会近畿地方会, 2019年12月, 大阪
7. 藤吉恵津子, 萩原恭平, 北田隆起, 花本浩一, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 有坂好史, 中村秀次:局所進行腺癌に対して化学放射線療法を行い手術可能となった1例, 第226回日本内科学会近畿地方会, 2019年12月, 大阪
8. 平井祐里, 萩原恭平, 北田隆起, 花本浩一, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 有坂好史, 中村秀次:壊疽性膿皮症を合併した潰瘍性大腸炎の1例, 第227回日本内科学会近畿地方会, 2020年2月, 大阪

研究会発表

1. 萩原恭平, 北田隆起, 花本浩一, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 有坂好史, 中村秀次:炎症性polypの1例, 第71回日本消化器画像診断研究会, 2019年9月, 和歌山
2. 北田隆起:薬剤性肝障害に関して, 第4回 GI FREEDOM, 2019年9月, 大阪
3. 花本浩一, 有坂好史, 北田隆起, 萩原恭平, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次:ペムプロリズマブを用いた局所進行腺癌について, 第12回あわぎクリニカルカンファレンス, 2019年10月, 大阪
4. 田中敏雄:内視鏡診断と治療について, 第120回ニッセイ医学セミナーUpdate, 2019年11月, 大阪
5. 花本浩一, 有坂好史, 北田隆起, 萩原恭平, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 中村秀次:胃とピロリ菌のお話, 第3回あわぎ消化器合同病診連携会, 2019年12月, 大阪
6. 北田隆起:～肝臓病を知る～「肝硬変の新しい治療」, 市民公開講座, 2019年12月, 大阪
7. 有坂好史:腺癌高危険群としての慢性肝炎のマネジメント, 第18回西部大阪肝疾患地域連携会, 2020年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
有坂	萩原	村本	北田	中村	村本	中村	中村	有坂	花本
北田		田中(敏)		萩原		花本		村本	
								田中(敏)	

表2 病棟スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡	胃内視鏡
午後	肝生検 大腸内視鏡	大腸内視鏡 内視鏡カンファ	肝生検 造影超音波検査 大腸内視鏡	ERCP RFA 16:30 放射線科 合同カンファレンス 病棟患者 カンファレンス	大腸内視鏡 13:30 回診				

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内視鏡 胃	● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予		● 紹・予	
内視鏡 大腸		○ 診		○ 診		○ 診				○ 診
EUS									○ 診	
ERCP			○ 診					○ 診		
膵精密エコー						● 紹・予				

●: 紹介状・予約が必要 ○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	14,908	15,255	17,192	18,594	19,449
入院	6,268	8,423	9,712	8,741	10,461

表5 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	234	2
腸の憩室性疾患	63	6
結腸の悪性新生物	49	10
胆石症	46	17
胃の悪性新生物	41	13
胆道のその他の疾患	37	15
肝および肝内胆管の悪性新生物	36	19
腸のその他の疾患	35	2
膵の悪性新生物	32	23
麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	30	13
その他の胃腸炎および大腸炎、感染症および詳細不明の原因によるもの	22	10
消化器系のその他の疾患	21	10
直腸の悪性新生物	20	5
急性膵炎	20	24

スタッフ 部長：立花 功（副院長、内科統括）

担当部長：小瀬戸昌博（検査診断科部長、中央臨床検査部長）

住谷 哲（糖尿病・内分泌センター長、ニッセイ予防医学センター担当部長）

三木俊治

医 長：宇都佳彦（臨床研修部長代行）

医 長：甲原雄平、二宮隆介

医 員：暮部博之

専攻医：鈴木茂人、飛田哲志、佐藤 恵、高木康宏（2019年4～5月）、祐實紋矢香（～2019年9月）、
加藤更紗（2019年10月～）、山本久留実（2019年10月～）、
北条未佳（2019年10月～2020年3月）、山本将平（2019年10月）

兼任：佐藤文三（名誉院長）、笠山宗正（院長）、生田武蔵（救急診療科）、

河面 聡（予防医学センター）

非常勤：宮武明彦

1. 診療内容

総合内科は内分泌・糖尿病、膠原病・リウマチ疾患・呼吸器疾患を対象に診療を行なっている。その内容は糖尿病の患者教育、経口薬やインスリンを初めとする注射薬による血糖コントロール、ケトシスや糖尿病合併症治療、クッシング症候群や甲状腺機能異常など内分泌疾患の診断・治療、SLE、強皮症、皮膚筋炎など膠原病の診断・治療、（生物学的製剤の使用を含む）慢性関節リウマチ治療、そして肺がんの診断・（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含む）薬物療法・放射線治療・緩和治療、間質性肺炎、気管支喘息、COPDなどの診断・治療である。

2017年4月より、宮武明彦医師による気管支喘息専門外来を開始し、外来を含めた喘息患者は大阪府内でも屈指の数となっている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

病床数は56～64、病棟担当医は研修医1～2名、専攻医4～7名、常勤医3名で、研修医または専攻医が担当医、専攻医または常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表3）

X線透視下気管支鏡検査：放射線部（水曜日午後）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表4）

外来延べ患者数は2012年度以降増加を続けており、2019年度は45,755人であった。

2) 入院診療実績（表4、5）

入院延べ患者数は、2018年度17,201人から大きく増加し2019年度20,685人となった。入院主治医となる専攻医が増えたことが一因と考えられる。

3) 検査実績

気管支鏡検査は全例検査入院で施行している。検査数は2017年度103件、2018年度136件、2019年度181件と着実に増加している。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会認定内科医 13名（立花、小瀬戸、住谷、三木、宇都、甲原、二宮、佐藤、笠山、宮武、河面、生田、暮部）

日本内科学会認定指導医 7名（立花、小瀬戸、住谷、三木、宇都、佐藤、笠山）

日本内科学会総合内科専門医 6名（小瀬戸、住谷、三木、宇都、甲原、河面）

日本内分泌学会専門医・指導医 4名（住谷、佐藤、笠山、宮武）

日本糖尿病学会専門医・指導医 2名（住谷、笠山）

日本リウマチ学会専門医・指導医 1名（小瀬戸）

日本アレルギー学会専門医 2名（小瀬戸、宮武）

日本アレルギー学会指導医 1名（小瀬戸）

日本呼吸器学会専門医 3名（立花、甲原、河面）

日本呼吸器学会指導医 2名（立花、河面）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2名（立花、河面）

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1名（立花）

がん治療認定医 1名（甲原）

日本高血圧学会指導医 1名（笠山）

日本人間ドック学会専門医・指導医 2名（住谷、佐藤）

日本救急医学会救急科専門医 1名（生田）

5. 業績

論文・著書

1. 住谷 哲:多様な血糖降下薬を以下に使いこなすか?～心血管アウトカム試験の結果を踏まえて～,平成31年度第1回大阪市西区医師会学術講演会,2019年4月,大阪
2. Jono M, Kinehara Y, Utsu Y, Tamura Y, Koseto M, Murakami T, Uota A, Ninomiya R, Komo S, Sumitani S, Sato B, Kasayama S, Tachibana I:Neuropsychiatric immune-related adverse events induced by pembrolizumab in a patient with lung adenocarcinoma and systemic lupus erythematosus, Intern Med, 59:569-572, 2020年
3. Kuramoto N, Koshibu M, Ishibashi M, Miyazaki A, Sumitani S, Kasayama S, Hirano T, Koga M:Two cases with Hb Andrew-Minneapolis showing high or low-normal HbA1c levels depending on the measurement method, Clin Chim Acta, 501:229-233, 2020年

学会発表

1. Hoshida Y, Ohshima S, Saeki Y, Katayama M, Miyamura T, Hashimoto A, Higa S, Ohshima H, Yagita M, Hiramatusi Y, Mitsuo A, Okamoto A, Chiba N, Sugiyama T, Nagakura S, Sugii S, Setoguchi K, Abe A, Sugaya T, Koseto M, Kunugiza Y, Yoshihara R, Tsunoda S, Fujisaki T, Fukukawa H, Matsui K, Tomita Y, Tohma S:Multi-center collaborative research of lymphoproliferative disorders in patients with rheumatoid arthritis: Results of the influence of anti-rheumatic drug and prognostic factor. ,2019 ACR/ARP Annual Meeting, 2019年11月, Atlanta, GA USA
2. 魚田晃史, 大畔健太, 宇都佳彦, 生田武蔵, 加藤更紗, 立花功, 笠山宗正, 住谷 哲:重症骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折を契機に診断されたKallmann症候群の1例, 第92回日本内分泌学会学術総会, 2019年5月, 仙台
3. 笠山宗正, 加藤更紗, 魚田晃史, 生田武蔵, 宇都佳彦, 立花功, 佐藤文三, 住谷 哲:2型糖尿病患者の肝線維化進展スコア(Fib4 index)に対するメトホルミンの影響, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
4. 加藤更紗, 魚田晃史, 宇都佳彦, 生田武蔵, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲:糖尿病性多発神経障害(DPN)重症度と血清脂質値との関連について, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
5. 角南ちえ子, 麦田盛穂, 古久保有希子, 出口暁子, 倉本訓子, 笠山宗正, 住谷 哲:週末3日間の糖尿病教育/精査入院パスの作成とその有用性, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
6. 魚田晃史, 宇都佳彦, 生田武蔵, 加藤更紗, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲:血糖降下薬多剤併用にてコントロール不良の肥満合併2型糖尿病患者に対する低用量ピオグリタゾン併用の有効性, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
7. 住谷 哲, 阪井理恵, 石井泉美, 中尾信一, 笠山宗正, 中村秀次:軽症耐糖能異常者の糖代謝異常に対する遠隔保健指導と持続血糖モニタリングの有効性の検討, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
8. 倉本訓子, 若原達哉, 玉川雄一, 住谷 哲, 小瀬戸正博, 笠山宗正, 宮崎彩子, 古賀正史, 石橋みどり, 小洪正和, 平野 勉:HbA1cがHPLC法により偽高値を示した異常ヘモグロビンHb Andrew-Minneapolisの2症例, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
9. 麦田盛穂, 片岡宏一郎, 平林伸治, 角南ちえ子, 倉本訓子, 古久保有希子, 出口暁子, 住谷 哲, 笠山宗正:インスリン抵抗性高値患者における骨格筋量および他の関連因子についての横断研究, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台

10. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法:メトホルミンの適正使用を含めて,第42回日本高血圧学会総会ランチョンセミナー, 2019年10月, 東京
11. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会ランチョンセミナー, 2019年11月, 大阪
12. 出口暁子, 松村寿美, 角南ちえ子, 高山由美子, 宇津 貴, 笠山宗正, 住谷 哲:低血糖を繰り返す1型糖尿病患者に管理栄養士として関わるーカーボカウント導入を試みてー, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月, 大阪
13. 鈴木茂仁, 祐實紋矢香, 生田武蔵, 宇都佳彦, 笠山宗正, 住谷 哲:血糖コントロールの改善にイブラグリフロジンの投与が有効であった1型糖尿病の2症例, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月, 大阪
14. 坂本彩弥, 出口暁子, 角南ちえ子, 高山由美子, 住谷 哲, 笠山宗正, 宇津 貴:FGM導入により療養に積極的に取り組むようになった2型糖尿病の1症例, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月, 大阪
15. 祐實紋矢香, 鈴木茂仁, 飛田哲志, 佐藤 恵, 生田武蔵, 宇都佳彦, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 住谷 哲, 立花 功:診断に至るまで長期間を有した下垂体前葉機能低下症の1例, 日本内科学会近畿支部主催第226回近畿地方会, 2019年12月, 大阪
16. 田中雅樹, 二宮隆介, 小瀬戸昌博, 甲原雄平, 宇都佳彦, 住谷 哲, 立花 功, 東山眞理, 田中久仁子, 高田洋子:黄色爪症候群による胸水貯留の1例, 日本内科学会近畿支部主催第226回近畿地方会, 2019年12月, 大阪
17. 鈴木茂仁, 加藤更紗, 北条末佳, 宇都佳彦, 住谷 哲, 笠山宗正, 藤澤一朗:ラトケ嚢胞から視床下部下垂体路への炎症の波及が原因と考えられた高齢発症続発性中枢性尿崩症の1例, 第30回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2020年2月, 東京
18. 田村有里, 祐實紋矢香, 鈴木茂仁, 生田武蔵, 宇都佳彦, 佐藤文三, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲:後頭部痛を契機に診断に至った汎下垂体機能低下症の1例, 第20回日本内分泌学会近畿支部学術集会, 2020年2月, 京都
19. 飛田哲志, 立花 功, 牧 大介, 前田宗宏, 内山博雅, 門田和紀:閉塞性肺疾患のCT画像を用いた気流シミュレーション, 第59回日本呼吸器学会学術講演会, 2019年4月, 東京
20. 飛田哲志, 甲原雄平, 田村慶朗, 暮部裕之, 二宮隆介, 宇都佳彦, 河面 聡, 小瀬戸昌博, 住谷 哲, 立花 功, 永井健一, 丸岡真太郎, 小山正平:Nivolumab投与中に再発したが, 集学的治療により長期間病勢コントロールしている非小細胞肺癌の一例, 第93回日本呼吸器学会近畿地方会, 2019年7月, 京都
21. 柳澤篤史, 甲原雄平, 飛田哲志, 祐實紋矢香, 暮部裕之, 二宮隆介, 宇都佳彦, 河面 聡, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 谷井啓一, 立花 功:ペムブロリズマブにより多彩な免疫関連有害事象を呈し, 投与中止後もぶどう膜炎が遷延した肺腺癌の1例, 第9回日本呼吸器学会近畿地方会, 2019年12月, 大阪

研究会発表

1. 小瀬戸昌博:リウマチ・膠原病の日常診療で留意していることー特に消化管障害に対してー, 江之島消化管セミナー, 2019年8月, 大阪
2. 佐藤文三:糖尿病治療の課題と治療薬の変遷, 協和発酵糖尿病講演会, 2019年6月, 大阪
3. 佐藤文三:日本におけるがん診療の現状・予防から最新治療まで, 中国長生人壽講演会, 2019年7月, 北京, 中国
4. 佐藤文三:生活習慣病と骨, 第2回あわぎ内分・糖尿病病診連携セミナー, 2019年7月, 大阪
5. 佐藤文三:遺伝子診断概論, 予防医学センター講演会, 2019年9月, 大阪
6. 佐藤文三:内分・内分泌学とともに半世紀。過去への振り返りと若い世代への期待, 第24回つながろう会, 2019年9月, 尼崎
7. 佐藤文三:癌と向き合うー予防診断から分子標的薬まで, 大阪医専特別講義, 2019年12月, 大阪

8. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法, Diabetes Seminar in Fukuoka, 2019年5月, 福岡
9. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性,糖尿病領域WEB講演会, 2019年12月, 大阪
10. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ー基礎治療薬としてのメトホルミン, 大阪府下市立病院薬剤部長会学術講演会, 2019年6月, 大阪
11. 住谷 哲:基礎治療薬としてのメトホルミンを再考する, Islet Equality Forum, 2019年6月, 大阪
12. 田村有里, 魚田晃史, 加藤更紗, 祐実紋矢香, 鈴木茂仁, 生田武蔵, 宇都佳彦, 立花 功, 笠山宗正, 住谷 哲:後頸部痛とふらつきを主訴として救急外来を受診した1例, 第13回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス(OEMCC), 2019年6月, 大阪
13. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物治療, 第13回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス(OEMCC), 2019年6月, 大阪
14. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法, Diabetes Mellitus Web Conference in Osaka, 2019年7月, 大阪
15. 住谷 哲:内分泌疾患と骨, 第2回あわぎ内分泌・糖尿病病診連携セミナー, 2019年7月, 大阪
16. 住谷 哲:メトホルミンを使用するにあたってのコツ, ちょっと聞きたい糖尿病診療〜今だから整理しておきたいメトホルミンのエビデンス, 2019年7月, 大阪
17. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ー基礎治療薬としてのメトホルミン, 徳島糖尿病治療セミナーーメトホルミンを再考するー, 2019年8月, 徳島
18. 笠山宗正:健康長寿のための基礎知識, OMA異業種交流会令和元年を祝第1回記念講演会, 2019年8月, 大阪
19. 鈴木茂仁, 麦田盛穂, 宇都佳彦, 生田武蔵, 祐実紋矢香, 住谷 哲, 笠山宗正:糖尿病患者の足指把持力と糖尿病性多発神経障害(DPN)との関連についての検討, 令和元年度糖尿病性神経障害を考える会, 2019年8月, 東京
20. 住谷 哲:基礎治療薬としてのメトホルミンを再考するー適正使用も含めてー, Diabetes Seminar in Aichi, 2019年8月, 名古屋
21. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性ー, 病態から糖尿病治療を考える, 2019年9月, 大阪
22. 笠山宗正:高齢になってからの骨折を防ぐためにー知って得する「骨粗しょう症」のお話, 2019年度日本生命病院市民健康セミナー 30分でよくわかる健康講座, 2019年9月, 大阪
23. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ー基礎治療薬としてのメトホルミンー, 糖尿病地域連携講演会ーDiamond Seminar in 兵庫区, 2019年9月, 神戸
24. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病治療ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性ー, Diabetes Symposium in Akashi, 2019年9月, 明石
25. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ー基礎治療薬としてのメトホルミンー, メトホルミンセミナー in 高知, 2019年9月, 高知
26. 鈴木茂仁:膵管内乳頭粘液性腫瘍の経過観察中に発見されたコハク酸脱水素酵素(SDHB)遺伝子変異を有するパングリオーマの1例, 第24回つながる会, 2019年9月, 尼崎
27. 佐藤文三:内分泌学と共に半世紀ー過去へのふり振り返りと今後への期待, 第24回つながる会, 2019年9月, 尼崎
28. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーSGLT2阻害薬を中心に, Meet the Doctor in Osaka City, 2019年10月, 大阪
29. 住谷 哲:糖尿病性腎症重症化予防を目指した血糖降下薬の選択を考える,糖尿病セミナー, 2019年10月, 大阪
30. 住谷 哲:糖尿病性腎症重症化予防を目指した血糖降下薬の選択を考える, 浪速区医師会10月度学術講演会, 2019年10月, 大阪
31. 笠山宗正:症例から学ぶ糖尿病のトータルマネジメント, 第12回あわぎクリニカルカンファレンス, 2019年10月, 大阪
32. 笠山宗正:健やかな100年ライフのためにー糖尿病を学び, 発症や進行を予防する身体づくりをー, ニッセイ・ライフプラザ本店主催医療セミナー, 2019年10月, 大阪
33. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性,糖尿病カレントフォーラムin 北摂, 2019年11月, 豊中
34. 住谷 哲:基礎治療薬としてのメトホルミンを再考する, Diamond Seminar in Hiroshima, 2019年11月, 広島
35. 宇都佳彦:内分泌疾患における一発診断, 江之子島マルチ医療フォーラム, 2019年11月, 大阪
36. 鈴木茂仁:糖尿病との付き合い方, 2019年度日本生命病院糖尿病フェア, 2019年11月, 大阪
37. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性ー, Diamond seminar in Ashiya, 2019年12月, 芦屋
38. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性ー, 糖尿病WEB Conference, 2019年12月, 大阪
39. 住谷 哲:エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法ーメトホルミンとDPP-4阻害薬併用の有用性ー, 糖尿病領域WEB講演会, 2019年12月, 大阪
40. 住谷 哲:エビデンスに基づく2型糖尿病の薬物療法ー基礎治療薬としてのメトホルミンー, Young Generation's Diabetes Meeting, 2020年1月, 大阪
41. 田村有里:ソマトスタチン誘導体により長期管理中の先端巨大症患者について, 第18回関西間脳下垂体疾患研究会, 2019年12月, 大阪
42. 田中雅樹:悪性腫瘍や感染症との鑑別に難渋した胸水の症例について, 第12回あわぎクリニカルカンファレンス, 2019年10月, 大阪
43. 甲原雄平:免疫療法(肺癌を中心に), ニッセイ医学セミナー Update, 2019年5月, 大阪
44. 立花 功:当院における重症喘息診療の実際ー「あったかサポート」による患者支援ー, 大阪重症喘息フォーラム, 2020年2月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
立花	立花	佐藤 (文)	佐藤 (文)	佐藤 (文)	佐藤 (文)	笠山	笠山	佐藤 (文) (予約)	佐藤 (文) (予約)
小瀬戸	小瀬戸	宮武	宮武	小瀬戸	小瀬戸	住谷	住谷	小瀬戸	二宮
住谷	住谷	三木	生田	宮武	宮武 (予約)	立花	甲原	宮武	宮武
宇都	佐藤 (恵)	甲原	二宮	笠山	河面	三木	鈴木 (茂)	住谷	
	飛田		小中	立花	暮部	宇都	宮武		

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス	早朝カンファレンス
午後		抄読会	気管支鏡検査	症例検討会	病棟回診

表 3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
気管支鏡						○ 診				

○：当院診察が必要

表 4 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	32,268	33,616	42,845	43,945	45,755
入院	15,679	17,016	16,802	17,201	20,685

表 5 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	467	16
2 型糖尿病	136	10
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	129	15
その他の間質性肺疾患	44	25
その他の慢性閉塞性肺疾患	35	18
アルドステロン症	30	4
全身性結合組織疾患	29	27
喘息発作重積状態	26	9
下垂体疾患（下垂体機能低下症、クッシング病、先端巨大症など）	25	8
1 型糖尿病	17	16
その他の副腎障害	17	11
尿路系のその他の障害	16	14
肺の画像診断における異常所見	13	3
呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されていないもの	11	13
気道からの出血	11	6
心不全	10	22

血液・化学療法内科

スタッフ 部長：川上 学（がん治療センター長、輸血管理室長、化学療法室長）
副 部長：加藤るり、中江吉希
専 攻 医：高木康宏（2019年6～7月）

1. 診療内容

急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液悪性疾患と、溶血性貧血、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病などの良性疾患まで、血液疾患を全般的に診療している。白血球減少が高度な場合や同種造血幹細胞移植後等、免疫不全が高度な場合には無菌室で治療を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

主として外来13診で外来診療を行った。そのほか適宜必要に応じ、外来化学療法や骨髄穿刺・生検・輸血などの診療も外来化学療法室や中央処置室において行われた。

2) 病棟体制（表2）

部長含め3名の常勤医にて診療を行った。当科が開催および参加したカンファレンスのスケジュールを表2に示す。

3) 検査スケジュール

骨髄穿刺・骨髄生検は、中央処置室および入院病床で行われ、主治医が検鏡診断するとともに必要時検討会にて判定された。

4) 外来化学療法

多くの化学療法レジメンは、入院治療に引き続き外来通院でも継続され、外来化学療法室スタッフや薬剤師との協力のもと施行された。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数はのべ7,481名（昨年度比+415）であった。
外来化学療法数は、900件（昨年度比+48）であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院延べ数10,383（昨年比+1,515）であった。疾患の内訳を表4に示す。

同種末梢血幹細胞移植を6件行った。

自家末梢血幹細胞移植を1件行った。

4. 認定医・専門医など

日本内科学会 総合内科専門医 3名（川上、加藤、中江）

日本血液学会専門医 血液指導医 2名（川上、中江）

日本血液学会専門医 1名（加藤）

日本造血細胞移植学会 造血細胞移植認定医 1名（川上）

日本がん治療認定医機構 がん治療専門医 2名（川上、加藤）

日本老年学会 老年病専門医・指導医 1名（中江）

5. 業績

学会発表

- 中江吉希, 竹本雅子, 加藤るり, 川上 学, 小川啓恭: 難治性ホジキンリンパ腫に半合致同種造血幹細胞移植施行後, 15年を経て発症した移植後リンパ増殖性疾患, 第42回日本造血細胞移植学会総会, 2020年3月, 東京

研究会発表

- 中江吉希: イキサゾミブの効果と副作用管理, 多発性骨髄腫研究会, 2019年9月, 大阪Webカンファ

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
加藤 (る)	川上	川上 (予約)	川上 (予約)	川上	中江	加藤 (る)		中江	川上

表2 カンファレンススケジュール

・症例検討会	(週1回)
・抄読会	(月2回)
・血液標本検討会	(適宜)
・内科合同カンファレンス	(月1回)
・内科・地域合同症例検討会	(年1回)

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	7,239	6,622	6,862	7,066	7,481
入院	9,931	8,328	8,435	8,868	10,383

表4 2019.4～2020.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	92	29
骨髄異形成症候群	71	22
多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	28	25
骨髄性白血病	22	44
非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫の その他および詳細不明の型	21	19
リンパ性白血病	21	39
ろ〈濾〉胞性リンパ腫	17	18
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	17	16
その他の無形成性貧血	13	20
無顆粒球症	11	13

スタッフ 部長：芳川浩男（特任副院長）（2019年11月～）

部長代行：仁科拓也

浅野彰彦

副 部 長：佐藤智彦

専 攻 医：高木康宏（2019年 8 月）、山本将平（2019年12月～2020年 1 月）

兼 任：森 悦朗（顧問）

1. 診療内容

神経内科部門は2013年 4 月より循環器・神経内科から分離独立し、浅野彰彦と仁科拓也の 2 名で発足したが、同年 6 月より佐藤智彦が加わり 3 名体制で運営していた。また2017年より前東北大学神経内科教授の森悦郎先生に特任顧問に就任いただき認知症分野の充実も図っていたが、2019年11月に前兵庫医科大学脳神経内科教授の芳川浩男が主任部長となり、4 人体制となった。

めまいや痺れ、頭痛といった身近な症状の相談から、脳梗塞をはじめとする脳血管障害やパーキンソン病等の変性疾患に至るまで、様々な疾患の診断と治療に対応してきたが、入院対象となったのは脳梗塞が最も多く、次にパーキンソン病関連疾患となっている。

脳梗塞後遺症や難病疾患（パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症など）の在宅療養においては、地域の先生による往診での訪問診療や訪問看護スタッフと連携を密にして、病状の変化に柔軟に対応してきたが、今後ともより一層努力していく所存である。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表 1）

日勤帯のどの時間帯も脳神経内科医師が対応できるように分担している。当科の佐藤医師は救急診療センターも兼務となっており、救急要請に対しても柔軟に対応している。

2) 病棟体制

仁科医師と佐藤医師が主治医となり運営しているが、毎週月曜日の回診と火曜日のカンファレンスで主科と共観の全患者の病状と治療方針を情報共有している。救急診療センターとの連携は佐藤医師を中心にチームとして対応している。

3) 検査スケジュール

脳神経内科医師が担当する予約検査は針筋電図のみであるが、脳波や誘発電位検査は中央臨床検査部と各病棟などと連携して、適宜施行している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表 2）

循環器・神経内科の一部門として計算した時期が長く、神経内科単独のデータはまだ 5 年目であるが、延べ外来患者数は順調に増加している。また

診療内容も一般内科疾患の割合が減少し、より神経内科疾患に特化した状況に変化している。

2) 入院診療実績（表 2、3）

外来同様、神経内科疾患に特化した入院患者となり、平均在院日数が17日から27日に延びたため、入院延べ患者数は大きく減少した。入院中の患者満足度に注目していきたい。

3) 検査実績

CT・MRA・RIなど各種検査は部門別の統計となっており、当科単独の実績としては計算していない。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会の教育機関としての認定を受けている。

日本内科学会認定医	2 名（仁科、芳川）
日本内科学会総合内科専門医	1 名（仁科）
日本神経学会専門医	3 名（仁科、芳川、森）
日本循環器学会専門医	1 名（仁科）
日本老年精神医学会専門医	1 名（芳川）
日本認知症学会専門医	1 名（森）
日本脳卒中学会専門医	1 名（森）

5. 業績

論文・著書

1. Takeda Masanaka, Kasama Shuhei, Watanabe Shohei, Kimura Takashi, Yoshikawa Hiroo: Transient epileptic amnesia in a temporal lobe epilepsy patient with amygdala enlargement: a case study. ,Psychogeriatrics, 20(2):235-6, 2020年
2. Yamamoto A, Kimura T, Watanabe S, Yoshikawa H: Clinical characteristics of patients with myasthenia gravis accompanied by psychiatric disorders, Neurol Clin Neurosci, 7:65-70, 2019年
3. Wolf J, Danno D, Takeshima T, Vancleef L, Yoshikawa H, Gaul C: The Relation between Emotion Regulation and Migraine: A Cross-cultural Study on the Moderating Effect of Culture.,Cephalalgia,:https://doi.org/10.1177/0333102419885394, 2019年11月
4. Yuki Maeda, Nami Nakagomi, Akiko Nakano-Doi, Hiroto Ishikawa, Yoshiki Tatsumi, Yoshio Bando, Hiroo Yoshikawa, Tomohiro Matsuyama, Fumi Gomi and Takayuki Nakagomi: Potential of Adult Endogenous Neural Stem/Progenitor Cells in the Spinal Cord to Contribute to Remyelination in Experimental Autoimmune Encephalomyelitis. , Cells, 8:1025-1046, 2019年9月

5. 芳川浩男:中毒性末梢神経障害 末梢神経障害による神経障害性疼痛 病態と治療, CLINICAL NEUROSCIENCE, 37:1381-1383, 2019年
6. Ukon Shinichiro, Watanabe Shohei, Tatsumi Yoshiki, Hashiguchi Akihiro, Takashima Hiroshi, Yoshikawa Hiroo: Mitochondrial malformation in the optic nerve of a transgenic mouse model of Charcot-Marie-Tooth Type 2A expressing mitofusin 2S245R, Hyogo Ika Daigaku Igakkai Zasshi (Acta Med Hyogo), 44(1):59-67, 2019年
7. 芳川浩男:レビー小体型認知症と血管性認知症, 透析患者の管理, 知りたいこと。知るべきこと。、中西 健(監修), 倉賀野隆裕(編集), 237-243, 1版, 2019年, 東京医学社, 東京

学会発表

1. Nishi Masamitsu, Kimura Takashi, Furuta Mitsuru, Suenaga Koichi, Matsumura Tsuyoshi, Fujimura Harutoshi, Jinnai Kenji, Yoshikawa Hiroo. :Differences in splicing defects between cortex and white matter of Myotonic Dystrophy Type 1 brain. , 第60回日本神経学会学術大会, 2019年5月, 大阪
2. Nishi Masamitsu, Kimura Takashi, Furuta Mitsuru, Suenaga Koichi, Matsumura Tsuyoshi, Fujimura Harutoshi, Jinnai Kenji, Yoshikawa Hiroo. :Differences In Splicing Defects Between Cortex And White Matter Of Myotonic Dystrophy Type 1 Brain., 12th International Myotonic Dystrophy Consortium Meeting, 2019年6月, Gorteburg
3. 吉積一樹, 芳川浩男:クリーゼからの離脱にエクリズマブが有効であった浸潤型胸腺腫合併重症筋無力症の1例, 第37回日本神経治療学会学術集会, 2019年11月, 横浜
4. 武田正中, 西 将光, 渡邊将平, 笠間周平, 木村 卓, 芳川浩男:てんかん性健忘を呈した患者の臨床的検討, 第53回日本てんかん学会学術集会, 2019年11月, 神戸
5. Ukon S, Watanabe S, Tatsumi Y, Takashima H, Hashiguchi A, Yoshikawa H: Mitochondrial Malformation in the Optic Nerve of a Transgenic Mouse Expressing Mitofusin 2 S245R, Peripheral Nerve Society (PNS) Annual Meeting 2019, 2019年6月, Genova
6. 吉積一樹, 山本麻未, 山田隆平, 佐々木絢子, 徳原悠介, 谷仲裕美子, 西 将光, 森口紗矢香, 坂本 峻, 右近紳一郎, 渡邊将平, 笠間周平, 木村 卓, 武田正中, 芳川浩男:悪性胸腺中皮腫に伴う抗Ma2抗体陽性傍腫瘍性脳炎の1例, 日本神経学会第113回近畿地方会, 2019年3月, 大阪
7. 谷仲裕美子, 山本麻未, 佐々木絢子, 徳原悠介, 吉積一樹, 西 将光, 坂本 峻, 森口紗矢香, 右近紳一郎, 末永浩一, 渡邊将平, 笠間周平, 木村 卓, 武田正中, 曾根 淳, 芳川浩男:成人型神経核内封入体病の1例, 日本神経学会第114回近畿地方会, 2019年7月, 大阪
8. 徳原悠介, 渡邊将平, 右近紳一郎, 佐々木絢子, 谷仲裕美子, 吉積一樹, 西 将光, 森口紗矢香, 坂本 峻, 山本麻未, 笠間周平, 木村 卓, 武田正中, 芳川浩男:当施設における多系統萎縮症の臨床像の変遷, 第60回日本神経学会学術大会, 2019年5月, 大阪
9. 坂本 峻, 木村 卓, 安藤久美子, 武田正中, 梶山幸司, 芳川浩男:MRtrix3による大脳皮質基底核症候群の拡散強調MRI画像解析, 第60回神経学会学術総会, 2019年5月, 大阪
10. 平塚真理, 渡邊将平, 藤原史奈子, 佐々木絢子, 徳原悠介, 吉積一樹, 谷仲裕美子, 西 将光, 森口紗矢香, 坂本 峻, 右近紳一郎, 末永浩一, 山本麻未, 笠間周平, 木村 卓, 武田正中, 芳川浩男:治療抵抗性であった抗セントロメア抗体陽性感覚性ニューロパチーの一例, 日本神経学会第115回近畿地方会, 2019年12月, 大阪

11. Takeda Masanaka, Okada Fumiaki, Tachibana Hisao, Kasama Shuhei, Yoshikawa Hiroo: Pain in patients with multiple system atrophy: a pain-related evoked potential study, International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, 2019年9月, Nice
12. Danno D, Wolf J, Saigo K, Kitamura S, Ishizaki K, Miyahara J, Kikui S, Yoshikawa H, Takeshima T: Clinical characteristics of hemiplegic migraine: a clinical study of 31 case in Japan, 13th European Headache Congress, 2019年5月, Athens
13. Danno D, Wolf J, Ishizaki K, M+C22:E24iyahara J, Kikui S, Yoshikawa H, Hirata K, Takeshima T: Cranial autonomic symptoms and central sensitization in migraine patients using validated central sensitization inventory, International Headache Society, 2019年9月, Dublin
14. 石田哲朗, 仁科拓也, 佐藤智彦:痙攣, 片麻痺で発症した成人インフルエンザ脳症について, 第225回日本内科学会近畿地方会, 2019年9月, 大阪

研究会発表

1. 芳川浩男:パーキンソン病の診断と治療, 江之子島マルチ医療フォーラム, 2019年11月, 大阪
2. 芳川浩男:脳神経内科医の役割, 第122回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2020年1月, 大阪
3. 佐藤智彦:痙攣, 片麻痺で発症した成人インフルエンザ脳症について, 第12回あわぎクリニックカンファレンス, 2019年10月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
佐藤 (智)	仁科	芳川	芳川	仁科	佐藤 (智)	芳川	森 (脳機能 障害外来 (予約))	浅野 (予約)	浅野 (予約)
			仁科		芳川 (物忘れ外来 ※)		芳川		
							佐藤 (智)		

※2・4週

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	6,641	6,313	6,342	6,553	6,881
入院	5,055	5,353	5,294	4,547	2,943

表3 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
脳梗塞	41	28
パーキンソン〈Parkinson〉病	10	29
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	4	26
一過性脳虚血発作および関連症候群	4	12
自律神経系の障害	4	19
肺炎(誤嚥性肺炎を含む)	4	40
炎症性多発(性)ニューロパチ〈シ〉ー	3	13
浮腫、他に分類されないもの	3	40

スタッフ 主任部長：宇津 貴（血液浄化センター長、栄養管理室長、臨床工学室長）

副 部 長：水本 綾（2019年11月～）

医 長：光本憲祐

専 攻 医：新宮昂史（～2019年9月）

1. 診療内容

急性腎不全などの急性腎疾患、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの慢性腎疾患から末期腎不全に至るまで、腎疾患全てを対象にしている。特に、糖尿病性腎臓病に関しては、早期腎症から末期腎不全まで、インスリン導入などの血糖管理を含めた総合的な治療を行っている。

末期腎不全に対しては適切な時期に透析療法（血液透析、腹膜透析療法など）への導入を行うとともに、慢性透析療法による血管合併症の検査・治療を行い予後の改善に努めている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本内科学会認定医	3名（宇津、水本、光本）
日本内科学会総合内科専門医	2名（宇津、水本）
日本腎臓学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）
日本糖尿病学会専門医	1名（宇津）
日本高血圧学会専門医・指導医	1名（宇津）
日本透析医学会専門医・指導医	2名（宇津、水本）

5. 業績

論文・著書

1. Kawarada O, Kume T, Zen K, Nakamura S, Hozawa K, Akimitsu T, Asano H, Ando H, Yamamoto Y, Yamashita T, Shinozaki S, Odashiro K, Sato T, Yuba K, Sakanoue Y, Uzu T, Okada K, Fitzgerald P, Honda Y, Yasuda S. : Difference in Cardiac Function Response to Stenting Between Atherosclerotic Renal Artery Disease with and without Heart Failure, ESC Heart Fail, 6:319-327, 2019年
2. Uzu T, Takamori K, Fujino Y, Fukui T: A Case of Idiopathic Chyluria with Nephrotic-range Proteinuria and Hypothyroidism., Intern Med. Intern Med., 58:1307-1309, 2019年
3. 吉田めぐみ, 金崎雅美, 中川健二, 中村寿伸, 川添智道, 吉田均, 武田尚子, 荒木信一, 宇津 貴: 周術期の透析液カリウム濃度補正による血清カリウム値とカリウム除去量の変化, 日本透析医学会雑誌, 52:357-361, 2019年

4. 宇津 貴: 透析患者の血圧管理, 大阪透析研究会会誌, 37: 109-111, 2019年

5. 光本憲祐, 宇津 貴: 血液透析を離脱し得た, 血栓性微小血管症(TMA)を呈した悪性高血圧症の1例, 大阪透析研究会会誌, 37:143-148, 2019年

学会発表

1. 宇津 貴: 超高齢化社会における慢性腎臓病の問題点～薬学療法の視点から(シンポジウム), 医療薬学フォーラム, 2019年7月, 広島市
2. 光本憲祐, 新宮 昂史, 桂 浩, 前田 元, 宇津 貴: 横隔膜交通症に対して胸腔鏡併用横隔膜縫縮・被覆術にて腹膜透析を継続し得た, Cornelia de Lange症候群の1例, 日本透析医学会総会, 2019年6月, 横浜市
3. 田口 貴, 田中恵介, 加藤千尋, 吉岡佑太, 高山理恵, 岡崎浩也, 三木和美, 河村理香, 安藤圭子, 光本憲祐, 福井辰成, 宇津 貴: 血液透析開始時タイムアウト制の取り組み, 日本透析医学会総会, 2019年6月, 横浜市
4. 柳澤篤史, 新宮昂史, 光本憲祐, 宇津 貴: 腎機能低下を契機に診断された腫瘍随伴性高Ca血症の1例, 日本内科学会近畿地方会, 2019年12月, 大阪市

研究会発表

1. 光本憲祐: 腹膜透析における至適透析, Terumo PD Dr. Ns セミナー, 2019年7月, 大阪市
2. 宇津 貴: 超高齢化社会における糖尿病診療の実際とPitfall, 此花区医師会学術講演会, 2019年6月, 大阪市
3. 宇津 貴: 高血圧・糖尿病患者の透析を防ぐために, 福島区医師会学術講演会, 2019年11月, 大阪市
4. 宇津 貴: 治療抵抗性高血圧への対応とMR拮抗薬の位置づけ, 港区医師会学術講演会, 2020年1月, 大阪市
5. 宇津 貴: これからの糖尿病性腎臓病診療, 糖尿病 病診連携講演会 in 岐阜, 2019年5月, 岐阜市
6. 宇津 貴: 病態から考えた糖尿病性腎臓病診療の実際, 糖尿病セミナー おおさか, 2019年6月, 大阪市
7. 宇津 貴: 腎症予防を見据えた糖尿病治療, Maple and Beans DM Conference, 2019年6月, 箕面市
8. 宇津 貴: 「腎不全ネットワーク」とは?, 腎不全ネットワークの会, 2019年6月, 大阪市
9. 宇津 貴: 糖尿病腎臓病抑制のために～SGLT2阻害薬を実臨床でどう活かすか～, 2型糖尿病患者の腎症を考える, 2019年7月, 大阪市
10. 宇津 貴: CKD患者の降圧薬治療, 大阪西部腎臓病 病診連携セミナー, 2019年10月, 大阪市
11. 宇津 貴: 糖尿病腎臓病を抑制するために, 盛岡内科医会, 2019年10月, 盛岡市
12. 宇津 貴: 超高齢社会における糖尿病性腎臓病への対応, Diabetes Online Seminar, 2020年3月, 大阪市
13. 宇津 貴: 病態から考えた糖尿病性腎臓病診療の実際と療養指導(教育講演), 大阪病院給食研究会, 2019年7月, 大阪市

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
宇津	宇津	水本	水本	光本	光本	光本	宇津	水本	宇津
		宇津							

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
腎生検				○ 診				○ 診		

○：当院診察が必要

表 3 年度別外来・入院延べ患者数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	675	2,681	4,268	5,476
入院	1,072	3,620	3,392	3,488

※2016.7～腎臓内科を新設

表 4 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
腎生検目的	40	-
透析導入	20	-
慢性腎不全	46	16
心臓および血管のプロステシス、挿入物および移植片の合併症	29	9
慢性腎炎症候群	20	5
肺炎（誤嚥性肺炎を含む）	11	38
2型糖尿病性腎症	11	9
反復性および持続性血尿	10	11
尿路系のその他の障害	10	21
ネフローゼ症候群	8	15
急性腎不全	8	28
心不全	7	13
全身性結合組織疾患	6	27
のう〈嚢〉胞性腎疾患	5	11

スタッフ 主任部長：水野 均（中央手術管理部長）
副 部 長：生島裕文、山下晋也、永井健一
兼 任：小関萬里（特任顧問、外科統括）

1. 診療内容

当科は、消化器外科ならびに一般外科の手術治療を中心に診療を行っている。上部消化管（生島、永井）、下部消化管（水野、山下）、肝胆膵（小関）の消化器外科のすべての領域の疾患に対応している。頻度の多い疾患としては、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患、胆石症や鼠径ヘルニア、虫垂炎などの良性疾患などである。手術は腹腔鏡手術を積極的に導入しており、虫垂炎や胆石症のみならず、食道癌、胃癌、大腸癌等の悪性疾患や鼠径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術を第一選択として行っている。

手術以外には、緩和治療、消化器癌化学療法にも積極的に取り組んでおり、皮下埋め込み型中心静脈リザーバーを用いた外来化学療法や終末期の栄養療法を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外科外来1～3診で、表のような予定で外来診療を行っている。院内／院外からの時間内の緊急診療の依頼には原則、断らない対応をしている。

2) 病棟体制（表2）

表2の通りである。

研修医1名と常勤医5名が病棟診療を担当している。緊急の業務は、外来診察、検査、手術などの担当でない者が病棟代理として対応している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は表3の通りである。

2) 入院診療実績（表4）

入院患者数は表4の通りである。

手術症例（重複例、他科協力症例を含む）は418例で、そのうち全身麻酔が372例であった。鏡視下手術は272例であり、全身麻酔症例の73.1%が鏡視下手術であった。

主な悪性腫瘍切除手術は、食道癌2例（全例鏡視下手術）、胃癌29例（内20例が腹腔鏡手術）、結腸、直腸癌56例（内52例が腹腔鏡手術）、肝癌、肝転移9例、乳頭部癌、膵腫瘍7例、であった。

主な良性疾患手術は胆嚢摘出術が93例（内88例が腹腔鏡手術）、ヘルニア手術（鼠径、大腿、腹壁癭痕、閉鎖孔）72例（内52例が腹腔鏡手術）、虫垂切

除30例（全例腹腔鏡手術）であった。良性疾患の手術では、患者さんの希望などにより細径鉗子を用いた手術や、単孔式手術を取り入れ、より低侵襲の手術を行っている。

3) 検査実績

上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査を行っている。

4. 専門医・指導医など

日本外科学会専門医 5名（小関、水野、生島、永井、山下）

日本外科学会指導医 2名（小関、山下）

日本消化器外科学会専門医 2名（小関、山下）

日本消化器外科学会指導医 2名（小関、山下）

日本消化器病学会専門医 3名（小関、水野、山下）

日本大腸肛門病学会専門医 1名（山下）

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

4名（小関、水野、永井、山下）

日本内視鏡外科学会技術認定医

1名（水野）

5. 業績

論文・著書

- 古結敦士, 大野典子, 小山佐知子, 川上 学, 宇津 貴, 水野 均: 中規模急性期病院における臨床倫理に関する取り組み, 医療・生命と倫理・社会, 15:34-46, 2019年

学会発表

- 永井健一, 山下晋也, 生島裕文, 水野 均: 偽還納により腸閉塞が改善せず緊急手術を要した鼠径ヘルニアの1例, 第32回日本内視鏡外科学会総会, 2019年12月, 横浜
- 山下晋也, 北田隆起, 萩原恭平, 河田奈都子, 田中敏雄, 村本理, 湯川雅彦, 有坂好史, 中村秀次, 水野 均, 小関萬里: 待機的手術を施行した穿孔を伴う虫垂憩室炎2切除例, 第105回日本消化器病学会総会, 2019年5月, 金沢
- 山下晋也, 永井健一, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里: A Case of Protein-Losing Rectal Cancer, 第74回消化器外科学会総会, 2019年7月, 東京
- 山下晋也, 永井健一, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里: 透析中の直腸(RS)癌D2郭清術後253番リンパ節転移に対し腹腔鏡下リンパ節摘出術を施行した1例, 第74回日本大腸肛門病学会学術集会, 2019年10月, 東京
- 山下晋也, 高橋秀和, 永井健一, 生島裕文, 水野 均: 経肛門の内視鏡下腫瘍摘出術を施行した直腸GISTの1例, 第32回日本内視鏡外科学会総会, 2019年12月, 横浜
- 田中雅樹, 山下晋也, 松尾 遥, 永井健一, 生島裕文, 水野 均, 小関萬里: 術前診断が可能であった蛋白漏出を伴う直腸癌の1切除例, 第119回日本外科学会定期学術集会, 2019年4月, 大阪

研究会発表

1. 水野 均:日本生命病院消化器部門の現状報告, 第3回あわぎ消化器合同病診連携会, 2019年12月, 大阪
2. 生島裕文, 山下晋也, 永井健一, 水野 均, 小関万里:上部消化管手術と栄養, 第3回あわぎ消化器合同病診連携会, 2019年12月, 大阪
3. 安井友紀, 生島裕文, 山下晋也, 永井健一, 水野 均, 小関万里:腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術後に発症した胆石症に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例, 第14回関西ヘルニア研究会, 2019年11月, 大阪

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
水野	水野	交代	交代	山下	山下	永井	交代	小関	小関
生島	生島								
小関※									

※11:00まで

表 2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	早朝 術後回診	早朝 術後回診	早朝 術後回診		早朝 術後回診
午後				部長回診、 術前術後 症例検討	消化器外科・ 消化器内科合同 カンファレンス

表 3 外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	3,776	3,446	3,764	4,403	4,761
入院	4,106	4,778	5,902	6,801	7,185

表 4 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
結腸の悪性新生物	71	13
胆石症	60	9
そけい〈鼠径〉ヘルニア	49	6
胃の悪性新生物	41	20
急性虫垂炎	33	7
直腸の悪性新生物	23	20
消化器系のその他および部位不明確の 良性新生物	16	6
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	13	15
食道の悪性新生物	11	87
結腸、直腸、肛門および肛門管の 良性新生物	11	3
その他および部位不明の胆道の悪性新生物	10	33
脾の悪性新生物	10	57

呼吸器外科

スタッフ 部長：前田 元（特任副院長、医療安全対策室長）
副 部 長：富田栄美子（2020年1月～）

1. 診療内容

当科は2016年1月より1名体制で診療を開始し、2017年4月より常勤医2名となった。その後、2019年4月より再び1名となり、手術に際しては大阪大学呼吸器外科に応援を依頼して行ってきた。2020年1月より2名体制に戻り、常時手術が可能な体制となった。

対象疾患としては肺癌が最も多く、総合内科で診断および病期判定を行った後に紹介されるケースがほとんどである。その他の疾患としては、自然気胸、転移性肺腫瘍、肺真菌症、縦隔腫瘍、膿胸などである。胸腔鏡下手術を主体に行っている。

病棟回診やカンファレンスは消化器外科と合同で行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 専門医・指導医など

日本外科学会指導医・専門医	1名（前田）
日本呼吸器外科学会指導医・認定登録医	1名（前田）
日本胸部外科学会指導医	1名（前田）
日本外科学会外科専門医	1名（富田）
日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医	1名（富田）

5. 業績

論文・著書

1. Miki M, Yasuoka S, Tsutsumi F, Nakamura Y, Maeda H, Takeuchi Y, Miki K, Kitada S, Maekura R. Human airway tripsin-like protease enhances interleukin-8 synthesis in bronchial epithelial cells by activating protease-activated receptor 2. *Arc Biochem Biophys* 663:167-73, 2019.
2. Tomita E, Matsuo S, Tsukamoto Y, Fukuhara K, Akashi A. Diffuse alveolar septal amyloidosis with wild-type transthyretin with spontaneous lung hematoma. *Ann Thoac Surg* 107:131-133, 2019.
3. 富田栄美子, 伊 亨彦, 内海朝喜, 松村晃秀. 胸膜肺全摘術を施行したChronic expanding hematomaの1例. *日呼外会誌* 34:30-34, 2019.
4. 富田栄美子, 福原謙二郎, 高瀬直人, 塚本吉胤, 明石章則. 左上葉気管支分岐異常領域に発生した肺癌に対する1手術例. *肺癌* 60:60-65, 2019.

5. 富田栄美子, 福原謙二郎, 明石章則. 緊張性気胸を来した先天性気管支閉鎖症の1例. *日呼外会誌* 34:161-165, 2019.

学会発表

1. 富田栄美子, 福原謙二郎, 明石章則. P. gingivalisによる有癭性膿胸の1例. 第36回日本呼吸器外科学会学術集会 2019年5月, 大阪.
2. 富田栄美子, 福原謙二郎, 明石章則. 手術をした月経随伴性気胸の3例. 第36回日本呼吸器外科学会学術集会 2019年5月, 大阪.
3. 富田栄美子, 福原謙二郎, 明石章則, 塚本吉胤, 高瀬直人, 簀智幸政, 片上信之, 根来俊一. 胸腔内原発滑膜肉腫の1例. 第60回日本肺癌学会学術集会 2019年12月, 大阪.
4. 富田栄美子, 福原謙二郎, 明石章則, 塚本吉胤, 高瀬直人, 簀智幸政, 片上信之, 根来俊一. PSAが正常値を示した前立腺癌多発肺転移の1例. 第60回日本肺癌学会学術集会 2019年12月, 大阪.

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
	前田 (元)			富田		前田 (元)			

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前		手術			
午後		手術		病棟回診 カンファレンス	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	45	303	467	524	508
入院	133	680	578	482	529

※2016.1～呼吸器外科を新設

表4 2019.4～2020.3入院患者の疾患

疾患名	件 数	平均在院日数
気管支および肺の悪性新生物	29	11
気胸	7	6
呼吸器の続発性悪性新生物	5	13
膿胸（症）	5	11
呼吸器系の良性新生物	2	8
縦隔腫瘍	4	8

乳 腺 外 科

スタッフ 部 長：西田幸弘
副 部 長：中内千暁

1. 診療内容

乳癌検診に関しては、マンモグラフィと超音波検査を初診当日に施行し即日結果を出すことで、正常の方は1日で診察終了となる。腫瘍のある方は当日中に病理検査等を施行し1～2週間後には結果を出すシステムである。治療に関しては、専任のがん化学療法看護認定看護師常駐の化学療法室にて、初回入院の後は術前・術後ともに通院での外来化学療法を行っている。専任医師による放射線療法は、温存療法後、再発、転移すべてに対応している。手術に関しては術前化学療法が必要かの判断後、乳房温存術、全摘術を施行し必要に応じて再建術も施行しており、再建術は当院形成再建外科にてすべての術式に対応できる。RI+色素法によるセンチネルリンパ節生検では、より確実なOSNA法を併用しており、より正確な診断を目指している。診断部門では、微細な石灰化に対する診断としてステレオガイド下マンモトーム生検も実施している。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）
2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本乳癌学会専門医 1名（中内）
日本乳癌学会認定医 1名（西田）
日本乳癌学会評議員 1名（西田）
がん治療認定医 2名（西田、中内）
日本消化器外科学会認定医 1名（西田）
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会
マンモグラフィ読影認定医 2名（西田、中内）
日本外科学会専門医 2名（西田、中内）

5. 業績

学会発表

1. 西田幸弘, 中内千暁, 大島千春, 水越 梓: The Practice of Team Medical Care and the Community Medicine Plan in Our Hospital, 第57回癌治療学会学術集会, 2019年10月24日～26日, 福岡県

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
中内 (予約)	中内 (予約)	西田 (予約)	西田 (予約)	中内 (予約)	中内 (予約)	手術	手術	西田 (予約)	西田 (予約)

表2 外来・病棟体制

	月	火	水	木	金
午前				手術	
午後	回診 病棟カンファ		検査 超音波・ステレオ ガイド下吸引生検	検討会 抄読会	

表3 外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	4,737	4,978	4,371	4,441	4,309
入院	1,834	1,374	1,541	1,402	1,504

表4 2019.4～2020.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
乳房の悪性新生物	133	8
その他の部位の続発性悪性新生物	10	19
乳房の良性新生物	9	2
呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	7	8
乳房の詳細不明の塊〈lump〉	3	2
乳房の画像診断における異常所見	3	2

心 臓 血 管 外 科

スタッフ 部長代行：新谷 隆

1. 診療内容

2018年4月から「血管外科」を専門とした常勤医師による診療を開始した。下肢閉塞性動脈硬化症を主とした末梢動脈疾患に対して薬物・運動療法を第一として、適応に応じて血管内治療や外科的バイパス術などの血行再建術を実施している。下肢静脈瘤に対しては低侵襲である血管内焼灼術や従来のストリッピング術や硬化療法も行っている。また腎臓内科と連携し慢性腎不全患者の透析用血管アクセス治療も行っている。内シャント作製、修復と内シャント血管内治療も積極的に行っている。2019年度より腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術を開始した。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

水曜日、金曜日の午前に血管外科外来を行っている。
金曜日の午後に大阪大学心臓血管外科の医師による心大血管を対象とした専門外来も行っている。

2) 病棟体制（表2）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本外科学会専門医 1名（新谷）
日本心臓血管外科専門医 1名（新谷）
日本脈管学会専門医 1名（新谷）

5. 業績

論文・著書

- 新谷 隆：膝窩動脈分岐異常により重症虚血化を呈した腓骨動脈遠位部の血栓塞栓症の一例，日本血管外科学会雑誌，28:373-376, 2019年

学会発表

- 新谷 隆：当院における鬱滞性潰瘍に対する治療方針，第47回日本血管外科学会，2019年5月，名古屋
- 新谷 隆：下肢静脈瘤に対するラジオ波焼灼術における術後中期の他覚的評価，第39回日本静脈学会，2019年7月，名古屋
- 新谷 隆：冠動脈バイパス術やペースメーカー留置などの既往のためにパスキューラー・アクセス作製の術式選択に苦慮した一例，第60回日本脈管学会，2019年10月，東京
- 新谷 隆：末梢側吻合部に内側足底動脈を選択しグラフト開存と救肢を得た一例，第34回日本血管外科学会近畿地方会，2020年2月，大阪

研究会発表

- 新谷 隆：上腕静脈に作製された内シャントの感染性仮性瘤破裂の一例，大阪心臓血管外科の会，2019年7月，大阪
- 新谷 隆：腰動脈，下腸間膜動脈コイル塞栓に難渋した一例，EVAR workshop，2019年11月，大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
				新谷				新谷	今岡

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前			カンファレンス		
午後		手術		手術	

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2017年度	2018年度	2019年度
外来	81	735	930
入院	0	625	938

※2017.1～心臓血管外科を新設

表4 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
下肢の静脈瘤	35	2
アテローム（じゅく〈粥〉状）硬化（症）	24	11
大動脈瘤および解離	22	9
その他の動脈瘤	6	7
動脈の塞栓症および血栓症	5	35
血管腫およびリンパ管腫、全ての部位	2	12

スタッフ 部長：橋本奈美子（女性骨盤底センター長）
 担当部長：佐伯典厚
 副部長：尾崎公章（～2019年8月）、潮田至央、吉見佳奈（～2020年1月）
 医 長：高山敬範、八田幸治、岡 藤博、矢野悠子、田中絢香
 副医長：沈 嬌
 専攻医：菊池香織

1. 診療内容

婦人科は、良性腫瘍に対する内視鏡手術（腹腔鏡下手術・子宮鏡手術）を主として行っており、婦人科手術の半数以上を占めている。婦人科悪性腫瘍に対しては、広汎子宮全摘術・傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術、化学療法、放射線治療を行っている。また、2018年度より子宮筋腫、子宮体癌に対するロボット支援手術、2019年度からは骨盤臓器脱に対するロボット支援手術を導入している。

骨盤底疾患に対しては「女性骨盤底センター」にて従来の膣式子宮全摘術、膣壁形成術などに加え、メッシュを利用した修復術（TVM）や腹腔鏡下仙骨膣固定術（LSC）、尿失禁に対してはTOT手術を行っている。

周産期においては、自然分娩を基本とし、助産師外来・母乳育児相談・マタニティビクス・ヨガを取り入れている。また妊婦の方に安心して出産していただけるように産科医療補償制度に加入している。

2. 診療体制

- 1) 外来診察スケジュール（表1）
- 2) 病棟体制（表2）
- 3) 検査スケジュール（表3）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表4）
- 2) 入院診療実績（表4、5）

2019年度

- ・分娩数：444件
- ・総手術総数：1,145件

腹腔鏡下手術

- 腹腔鏡下膣式子宮全摘術 231件
- 腹腔鏡下子宮附属器腫瘍摘出術 230件
- 腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術 151件
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
（ロボット支援4件含む） 9件
- 腹腔鏡下膣式子宮全摘術
（ロボット支援；悪性含む） 23件

子宮鏡下手術

- 子宮鏡下子宮筋腫摘出術 50件
- 子宮内膜ポリープ切除術 59件

開腹手術

- 子宮悪性腫瘍手術 14件

- 子宮附属器悪性腫瘍手術（卵巣癌） 7件
- 開腹単純子宮全摘術 9件
- 帝王切開術 83件
- 骨盤臓器脱（女性骨盤底センター）
- 腹腔鏡下仙骨膣固定術 25件
- 膣壁形成術 23件
- 子宮脱手術（子宮全摘術及び膣壁形成） 13件
- 膣閉鎖 10件
- 腹圧性尿失禁
- 中部尿道スリング手術（TOT手術） 6件

4. 認定医・専門医など

- 日本産科婦人科学会専門医 10名
（橋本、佐伯、尾崎、潮田、吉見、高山、八田、矢野、岡、沈）
- 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 7名
（橋本、佐伯、尾崎、吉見、高山、八田、矢野）
- 日本内視鏡外科学会技術認定医 3名
（橋本、佐伯、高山）
- 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医 2名
（尾崎、潮田）
- 日本性感染症学会専門医 1名（佐伯）
- 母体保護法指定医 7名
（橋本、佐伯、尾崎、高山、田中、岡、沈）
- 日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医 4名
（橋本、尾崎、潮田、沈）
- 麻酔標榜医 1名（八田）

5. 業績

論文・著書

1. 橋本奈美子：子宮内膜細胞診陰性で子宮鏡下切除後に明らかになった若年子宮体がんの2症例，臨床婦人科産科，74：290-296，2020年
2. Jiao Shen, Ayako Hosoi, Fujihiro Oka, Yuko Yano, Koji Hatta, Takanori Takayama, Kana Yoshimi, Kimiaki Ozaki, Noriatsu Saeki, Namiko Yada-Hashimoto: Cervical Choriocarcinoma in a Patient with no Previous History of Pregnancy and Histopathological Diagnosis: A Case Report, International Journal of Case Studies in Clinical Research, 4:19-32, 2020年

学会発表

1. 橋本奈美子：TLHはロボット支援下でどう変わるか，どう変えるか，第32回日本内視鏡外科学会，2019年12月，横浜
2. 橋本奈美子：ロボット支援下でTLHはどう変わるか，どう変えるか，第32回近畿内視鏡外科研究会，2019年9月，大阪

3. 高山敬範, 八田幸治, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 当院で経験した Parasitic myoma の検討, 第32回日本内視鏡外科学会, 2019年12月, 横浜
4. 高山敬範, 菊池香織, 岡 藤博, 沈嬌, 矢野悠子, 八田幸治, 吉見佳奈, 潮田至央, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 腹式子宮筋腫核出術から18年後に偶発的に発見された Parasitic myoma の一例, 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2019年9月, 京都
5. 八田幸治, 高山敬範, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 腹腔鏡下子宮摘出後に発症した5mmポートサイトヘルニアの2症例, 第32回日本内視鏡外科学会, 2019年12月, 横浜
6. 沈嬌, 細井文子, 岡 藤博, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 尾崎公章, 佐伯典厚, 船渡孝郎, 橋本奈美子: 妊娠歴不明の子宮頸部絨毛癌の一例, 第71回日本産科婦人科学術講演会, 2019年4月, 名古屋
7. 岡 藤博, 菊池香織, 沈嬌, 矢野悠子, 八田幸治, 高山敬範, 吉見佳奈, 潮田至央, 佐伯典厚, 橋本奈美子: 卵巣成熟嚢胞性奇形腫から発生した腹膜偽粘液腫に対し腹腔鏡手術を行った一例, 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 2019年9月, 京都
8. 吉見佳奈, 井本蓉子, 椎名昌美, 橋本奈美子, 武田 卓: 女子高生は, 中学3年でPMS症状を自覚する, 第38回日本思春期学会総会・学術集, 2019年8月, 東京

研究会発表

1. 菊池香織, 佐伯典厚, 橋本奈美子: ロボット支援腹腔鏡下単純子宮全摘術後に起きるポートサイトヘルニア予防のための当院での工夫, 第32回近畿内視鏡外科研究会, 2019年9月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
橋本	橋本	佐伯	佐伯	橋本	橋本	吉見	吉見	佐伯	佐伯
高山	高山	八田	八田	潮田	潮田	岡	岡		菊池
矢野	矢野	沈	沈		菊池				

表2 病棟体制

	月	火	水	木	金
午前	抄読会 周産期 カンファレンス		部長回診		
午後		病理/ CTGカンファ (月1回)		術前 カンファレンス	画像 カンファレンス

表3 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
子宮鏡検査		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予		○ 紹・予
パッドテスト								○ 紹・予		○ 紹・予

○: 当院診察が必要

表4 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	23,187	21,677	21,241	23,092	21,479
入院	13,381	12,624	12,143	12,643	11,684

表5 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
子宮平滑筋腫	426	7
単胎自然分娩	339	7
卵巣の良性新生物	143	7
子宮内膜症	107	7
女性性器脱	74	7
子宮頸（部）の異形成	71	3
女性性器のポリープ	61	3
子宮体部の悪性新生物	40	7
既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	39	9

スタッフ 部 長：赤木幹弘（～2019年11月）、西垣敏紀（2019年12月～）
副 部 長：田中篤志（～2019年 9 月）、中長摩利子（2019年10月～）
医 員：藤田真祐子

1. 診療内容

当科では、午前診は感染症を中心とした一般小児科診療、午後診では各医師の専門性から、小児神経・代謝疾患、小児内分泌疾患、アレルギー疾患を中心に診療してきた。また、院内出生児全員の診察を行っている。

2019年度は赤木部長、田中副部長と藤田医員の三人体制で一般小児科診療と新生児の診療を開始、10月より田中副部長の退職に伴い中長副部長が着任した。また、12月からは赤木部長の異動に伴い、西垣部長が着任した。

当科は大阪大学医学部附属病院小児科専門研修プログラムの関連施設となっている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2020年 3 月の外来診察スケジュールを表1に示した。

2) 病棟体制

病床数はおおよそ一般病棟7床、新生児病棟 4 床である。2018年 4 月30日の病院の新築移転後 1 年が経過、病棟の運営も円滑に行われた。小児科カンファレンスを週 1 回、産婦人科との周産期カンファレンスを週 1 回行っている。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

外来患者数は7,706人と前年度から1,214人減であった。

2) 入院診療実績（表2、3、4）

入院患者数は1,843人と前年度から814人減であった。近年、接種可能なワクチンの増加と接種率の高まりから小児の感染症は減少しており、感染症に対しての治療GLの変化、両親共働き家庭の増加も関連した入院基準の変化などが、入院減少にも関係していると考えられる。

4. 認定医・専門医など

日本小児科学会専門医	5 名（赤木、田中、藤田、中長、西垣）
日本小児神経学会専門医	2 名（赤木、西垣）
日本感染症学会専門医	1 名（赤木）
ICD	3 名（赤木、田中、西垣）
臨床遺伝専門医・指導医	1 名（西垣）

5. 業績

学会発表

- 山下朋代, 若原珠美, 小出竜雄, 田中裕子, 岡本伸彦, 武内俊樹, 上原朋子, 鈴木寿人, 小崎健次郎, 西垣敏紀: 自閉スペクトラム症と特異的顔貌、乳歯の早期萌出を認めた Helsmoortel-Van der Aa症候群の1例, 第61回日本小児神経学会, 2019年5月, 名古屋
- 木野 稔, 石崎優子, 伊藤謙吾, 北畑英樹, 浜本芳彦, 西垣敏紀, 福田弥一郎, 田中英高, 益田元子, 森口久子, 中尾正俊, 茂松茂人: 保育園における育児支援に関する課題についての調査, 第25回日本保育保健学会, 2019年5月, 神戸
- 木野 稔, 石崎優子, 伊藤謙吾, 北畑英樹, 浜本芳彦, 西垣敏紀, 福田弥一郎, 田中英高, 益田元子, 森口久子, 中尾正俊, 茂松茂人: 小規模保育施設の現況調査: 地区医師会での連携と実態把握, 第25回日本保育保健学会, 2019年5月, 神戸
- 福井聖子, 久保 馨, 西垣敏紀, 武知哲久, 村上城子, 田尻 仁: 大阪府#8000における外因系傷病の相談の現状, 第30回日本小児科医会総会フォーラム, 2019年6月, 京都
- 中長摩利子, 長坂博範: 消化管にアフタ性病変を認めたA20ハプロ不全症の13歳男児例, 第46回日本小児栄養消化器肝臓学会, 2019年11月, 奈良

研究会発表

- 箕浦悠太郎, 山下朋代, 若原珠美, 小出竜雄, 田中裕子, 吉田葉子, 西垣敏紀: 運動時意識消失による転倒を契機に診断された先天性QT延長症候群の5歳、3歳兄弟例, 第26回大阪小児科医会 救急・新生児研修会, 2019年4月, 大阪
- 藤尾 光, 小出竜雄, 山下朋代, 若原珠美, 田中裕子, 三輪谷隆史, 西垣敏紀: ネコ由来感染症の2例 家庭での子供とペットとの関わり, 感染症のマネジメントについて, 第27回大阪小児科医会 救急・新生児研修会, 2019年9月, 大阪
- 西垣敏紀: 重大事故を減らすために, 大阪府医師会 就学前児保健研修会～嘱託医と考える園での困りごと, 2020年2月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
西垣	西垣 (乳幼児 健診 (予約))	西垣	池原 (予防 注射 (予約))	池原	藤田 (真) (1ヵ月 健診 (予約))	西垣	西垣	西垣	藤田 (真) (フォロー アップ (予約))
中長		藤田 (真)		西垣		中長	池原 (アレルギー (予約))	藤田 (真)	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	8,656	7,434	7,936	8,920	7,706
入院	3,261	3,553	2,935	2,657	1,843

表3 2019.4～2020.3—小児科入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
肺炎	61	6
急性気管支炎	17	5
ウイルス性およびその他の明示された腸管感染症	11	5
急性細気管支炎	11	7
喘息	10	7
尿路系のその他の障害	10	7
部位不明のウイルス感染症	9	6
川崎病	9	12
紫斑病およびその他の出血性病態	8	9
急性鼻咽頭炎〔かぜ〕〈感冒〉	7	5
喘息発作重積状態	7	6
その他の体液、電解質および酸塩基平衡障害	5	5

表4 2019.4～2020.3—新生児入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	40	4
周産期に発生したその他の呼吸器疾患	22	6
妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	8	9
周産期に特異的なその他の感染症	7	7

スタッフ 部 長：高橋 励
副 部 長：鈴木由貴、青木保典
専 攻 医：高木清司（2019年4～6月）

1. 診療内容

最近の特徴的な診療分野として「認知症」、「産業精神医学」を掲げている。

まず「認知症」については、脳神経外科、脳神経内科、神経科・精神科で構成する脳機能センターの診療実数が外来・入院とも著増している。指導者として、森悦郎先生、池田学先生に加え、2019年秋より前兵庫医科大学脳神経内科教授の芳川先生がセンター長に着任され、センターカンファレンスにおける症例提示もますます活発で、涵養に適した環境となった。認知症に関する治験業務も引き続き行っている。

当科医師では鈴木を主務として、青木・木藤・高橋がかかわる。当科は3年間の後期研修（精神科専門医研修）の一部担当を開始したため初年度である2019年度に在籍した高木は、他院精神科では難しいと思われる高次機能障害症例のスーパービジョンを受けることができた。

次に「産業精神医学」では（1）産業医、地域企業、院内からの紹介症例診療以外に、（2）高橋は予防医学センターと連携し、企業が対応に苦慮する事案についてのセカンド＝オピニオン外来を続けている。

（1）（2）のような事例化への対応にとどまらず、職場改善方法論の開発が昨今重要なテーマである。例えば職場復帰をめぐる多職種の連携、ストレスチェックの活用、働き方改革、将来の労働人口の高齢化を見据えたトータル＝ヘルス＝プロモーション（THP）や企業の社会的責任（CSR）など難しい問題が山積しており、幅広い視野を持った取り組みが求められる。

これらに対する当科の取り組みとして、（3）高橋による独自のストレスチェック解析法を開発を続けている。（4）高橋と丸山心理士は予防医学センターの関藤心理士と、予防医学センター経由で提携する特例子会社（障害者重点雇用企業）において相談・指導業務の他に、健康経営等のプロジェクトへの参加・提言を行っている。（5）高橋は、職場の物理的環境に始まり社員の健康状態に至るまでの要因を鳥瞰し一貫して対応することの重要性に気づき、2019年度の課題としてまずは労働衛生コンサルタント国家資格試験を受験し合格した。（6）江川と高橋は、産業精神保健に関する研究会を、院外の精神科医・産業医と定期的に行っている。

有床総合病院精神科のルーティン業務（一般・専門外来診療、院内他科連携、入院診療）について報告する。

当科の一般外来では（1）うつ病・パニック障害などのうつ病圏、（2）全般的不安障害などの神経症圏、（3）適応障害などストレス関連疾患の、診療所・院内他科からの紹介例が多い。

専門外来は一般診療の枠内で時間を確保して行っている。（4）「慢性疲労（症候群）」（高橋）では、一般の精神科では対応が難しい慢性疲労・各種の心身症（身体表現性障害）・一部の慢性疼痛などの紹介を総合病院・医療センター・大学病院等から受けてきた。（5）「認知症」は脳機能センターにかかわる医師全員が担当する。昨今は社会構造の変化を反映し、（1）～（4）に比して、認知症周辺の高齢者の精神的な問題（老年期うつ病など）の割合が著増しているが、当科では鈴木を主務とする脳機能センターの枠組みを生かして対応できている。また高齢者の身体因性精神医学・神経精神医学的診療は院内他科との連携を通じて行うことが多い。また（6）顕在・潜在的な発達障害にどのように対応するかは当科の課題であるが、症例数としてはそれほど多くない。

院内他科との連携には、（4）のように心身の問題を一元的に特定できない症例の併診（高橋）の他、コンサルテーション・リエゾン＝サービス（CLS）や緩和ケアのコンサルテーション（相談）・リエゾン（直接診療）の枠組みも用いて対応している。他科入院患者が従来合併する精神疾患、せん妄・適応障害の新たな発症、高齢初発のてんかん（青木）など診療数も多く、他科からの転科入院も増えている。

入院診療は、総合病院精神科の入院病床が全国的に減少しているため紹介入院先として機能している。一般医療法に基づき、他科との混合病棟体制であるため、受け入れには原則的にADLが概ね自立し行動制限の必要が無い症例との条件があるが、昨今入院患者の特性にも外来と同様（5）（6）の変化がある。（5）の入院や身体科からの転科などADL低下症例への対応スキル向上のため、特に当科は病棟・病院全体と連携する意義がある。

緩和ケア業務については、（1）高橋は他病院が主催する研修会の精神・心理部門に協力している。（2）丸山心理士が院内緩和ケア業務に定期参加している。（3）がん診療拠点病院の要件として、当院主催の緩和ケア研修会が2020年度に再開するが、当科からは高橋・青木・丸山心理士が協力する。

2. 診療体制

神経科・精神科の主要医師は青木・鈴木・高橋（以上常勤）、木藤（非常勤）の4名である。木藤は複数日の外来診療を担当しているが常勤には復帰していない。専攻医として高木が2019/4月～6月の3か月間在籍した。江川功・山川麻貴が外来診療をそれぞれ半日/週担当した。

1) 外来診療スケジュール（表1）

2診～3診での完全予約制で行っているが、随時予約外の対応は必要であり、診察室としてはDブロックの2～3診・カウンセリング室、Bブロックの1～2診が常時稼動する状態であり、受け入れの円滑化をはかるために、初診患者はあったかサポートセンター経由の紹介を前提にしている。

診療・心理検査（脳機能センター引田）において、脳機能センターと協働する業務も多い。また治療の質向上のため、完全予約制で心理士（丸山）によるカウンセリングを行う症例もある。

2) 検査体制（表2）

当科では心理検査、脳波検査、脳画像検査を多用する。

まず心理検査は一般分野と認知機能分野に分かれる。一般分野では重症度（うつ状態など）の半定量的評価、性格・人格特性の定性的評価を行っている。認知機能分野では、「認知症専門」をうたう多くの病院でスクリーニングレベルの検査にとどまっているが、当院では高次機能障害や神経疾患の特定に不可欠なバッテリーを施行可能である。次に脳波検査はてんかん診療や、他科連携における症候性・器質性病態の推定において有用である。認知症に対する画像検査も頻用されている（頭部MRIの定量的計算・定性的評価法、脳血流SPECT、DLB/ParkinsonismへのDATscan, 心筋MIBG検査など）。

神経精神医学を重視する立場から検血・検尿など一般身体検査も行う。アルツハイマー病（AD）のリスクファクターは生活習慣病のそれと大きく重なり、初期認知症や軽度認知障害（MCI）の認知機能マネージメントのため生活習慣病モニタリングは有効である。

特殊な検査として、当科では以前より認知機能低下の生理学的評価を積極的に行っている（例：パルスオキシメトリーの援用、注意機能測定ソフトウェアの独自開発）。青木は認知症の客観的な初期診断・病態把握を可能にする脳波分析手法を開発したが、続々と研究論文を産出しており、複数の認知症性疾患の臨床・治験に用いられている。

3) 病棟体制

非常勤医を除いて、外来での主治医が入院加療をも受け持ち、3名が13～14床を目標に加療を行っている。

4) CLSおよび緩和ケア業務体制

青木が中心になり、緩和ケア業務とCLSを一体化した枠組みでリエゾン（＝直接診療）を行う他、主要メンバーが随時コンサルテーション（＝相談）を受ける。丸山心理士は血液・化学療法内科と連携し「無菌室化学療法カウンセリング」を続けている。

5) 心理士業務体制

認知機能検査は2名の心理士が分担している。丸山は心理カウンセリング・一般心理検査・緩和ケア・産業精神保健・認知機能スクリーニングなど多彩な業務に従事する。引田（脳機能センター）は神経心理学を専門に研究しており、高度な認知機能検査バッテリーを操る。

6) 教育体制の診療体制への包含

(1) 大阪大学医学部学生の臨床実習を毎年行っている。前述の業務のうち一般・専門外来診療・院内他科連携・心理検査・脳波検査について、常勤医3名・非常勤医1名・心理士2名の6名が、専門分野に応じて実習・講義を分担する。

(2) 精神科の前期研修は研修協力病院（水間病院・藍野病院）で行われるべき業務が殆どであるため、当科は精神科の最終レポート作成過程のみにかかわる。しかし前期研修医にとっては、むしろ院内他科連携の実務を通して得る精神科領域の経験がより有意義と考えられる。

(3) 新専門医制度に関連して、学会による教育施設認定に積極的である。

①精神科を専門とする医師のための、日本精神神経学会の専門医研修認定施設（大阪大学、やまと精神医療センターとの連携型）を維持している。

②神経精神医学（身体的問題が大きく関与する精神医学分野）のサブスペシャリティを目指す精神科上級医のための、日本総合病院精神医学会の特定研修施設であったが、2019年度は施設認定の格上げをはかるため、高橋が同学会専門医・指導医試験を受験し合格した。

(4) 公認心理士制度に関連して、武庫川女子大学大学院の修士学生を対象に、公認心理師資格取得のための病院実習を毎年行っている。

(5) 脳機能センターカンファレンスを月1回、科内の薬物療法勉強会を月2回程度行っているが、別に2020年度から、臨床精神医学の全般にわたるカンファレンスを準備している。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

前述の社会構造変化を反映した患者層の変化が生じており、良質な高齢者診療の導入・維持に人手がかかるため、患者数の増加は徐々にある。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院数にも1)と同様の変化が影響しており、目標値に達することがまだ少ないが、2018年度より目

標値に接近している。有効な病床利用への方法論として、近医精神科との通信・勉強会などのネットワーク強化に努め、紹介増をはかっている。

4. 認定医・専門医など

- ・日本精神神経学会専門医 2名（高橋、鈴木）
- ・同 指導医 2名（高橋、鈴木）
- ・日本総合病院精神医学会特定指導医 1名（高橋）
- ・同 専門医および指導医の資格者（未登録） 1名（高橋）
- ・精神保健指定医 2名（鈴木、青木）
- ・日本医師会認定産業医 2名（高橋、鈴木）
- ・同 認定産業医の資格者（未登録） 1名（青木）
- ・厚生労働省労働衛生コンサルタントの資格者（未登録） 1名（高橋）

5. 業績

論文・著書

1. Aoki Y, Kazui H, Pascal-Marqui RD, Ishii R, Yoshiyama K, Kanemoto H, Suzuki Y, Sato S, Hata M, Canuet L, Iwase M, Ikeda M. : Neuropsychobiology. EEG Resting-State Networks in Dementia with Lewy Bodies Associated with Clinical Symptoms., 77(4) :206-218, 2019年
2. Aoki Y, Kazui H, Pascual-Marqui RD, Ishii R, Yoshiyama K, Kanemoto H, Suzuki Y, Sato S, Azuma S, Suehiro T, Matsumoto T, Hata M, Canuet L, Iwase M, Ikeda M. : Clin EEG Neurosci, EEG Resting-State Networks Responsible for Gait Disturbance Features in Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus., 50(3) :210-218, 2019年

研究会発表

1. 木藤友実子:「認知症」, 第1回西区精神疾患講座, 2019年5月, 大阪
2. 木藤友実子:「認知症を理解する」, 認知症の方を介護している家族のつどい拡大版－認知症講演会・座談会, 2019年11月, 大阪
3. 木藤友実子:「認知症の診断・治療について」, 第2回西区精神疾患講座, 2019年12月, 大阪
4. 高橋 励:座長「統合失調症の薬物治療エビデンス」, 第1回精神科治療を考える会, 2019年7月, 大阪
5. 丸山加奈:「ストレスとの上手な付き合い方」, 癌患者さん・ご家族のためのニッセイあったか茶論, 2019年6月, 大阪
6. 丸山加奈:「ストレスとの上手な付き合い方ーリラクゼーション方法を取り入れてー」, 令和元年度日本生命病院新人研修会, 2019年7月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
高橋 (励)	鈴木 (由)	木藤	森 (物忘れ 外来)	木藤	木藤	江川	青木	高橋 (励)	高橋 (励)
青木			山川	鈴木 (由)	鈴木 (由)	木藤		青木	青木
				高橋 (励)		池田 (物忘れ 外来)		鈴木 (由)	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
脳波				○ 診		○ 診		○ 診		○ 診
心理テスト	○ 診	○ 診	○ 診	○ 診			○ 診	○ 診	○ 診	○ 診

○：当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	15,568	15,073	14,573	14,193	14,848
入院	4,072	3,749	3,600	2,904	4,012

表4 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	"平均 在院日数"
うつ病エピソード	61	35
身体表現性障害	9	30
神経系のその他の変性疾患、 他に分類されないもの	7	42
その他の不安障害	6	48
統合失調症	5	37
てんかん	5	7
めまい〈眩暈〉感および よろめき感	4	23
アルツハイマー〈Alzheimer〉病の認知症 (G30-+)	3	34
持続性妄想性障害	2	35
双極性感情障害〈躁うつ病〉	2	19
アルツハイマー〈Alzheimer〉病	2	84
睡眠障害	2	30

脳 神 経 外 科

スタッフ 部 長：田村 和義

1. 診療内容

当科も2018年4月に新設されて2年が経過した。慢性硬膜下血腫、水頭症、脳腫瘍、脳出血などの治療は軌道に乗ってきている。また、カテーテルを用いた血管内治療も大阪大学および関連施設の応援を得て、治療を始めた。脊椎疾患の小侵襲手術も開始しており、脊髄腫瘍も整形外科と共同して手術を行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2、3）

4. 認定医・専門医など

日本脳神経外科学会専門医 1名（田村）

日本脳卒中学会専門医 1名（田村）

日本脊椎外科学会認定医 1名（田村）

5. 業績

論文・著書

- 田村和義, 梅垣昌士, 宮尾泰慶, 松本勝美, 芝野克彦, 木谷知樹, 米延策雄, 佐々木 学: 骨粗鬆症胸腰椎椎体骨折に伴う脊柱管狭窄症に対する手術戦略, 脊椎外科 Spinal Surgery, 33: 193-195, 2019年

学会発表

- 田村和義: 腰椎腹腔短絡術における合併症と回避の工夫, 第78回日本脳神経外科学会 学術総会, 2019年10月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
				田村				田村	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2018年度	2019年度
外来	690	1,089
入院	1,079	1,016

※2018.4～脳神経外科を新設

表3 2019.4～2020.3ー入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
水頭症	35	17
その他の非外傷性頭蓋内出血	5	16
頭蓋内損傷	3	9
髄膜の良性新生物	2	20
脳内出血	2	30
椎間板障害	2	3
腰椎および骨盤の骨折	2	22
体内プロステシス、挿入物および移植片の合併症	2	17

整 形 外 科

スタッフ 部 長：毛利年一

副 部 長：行方雅人、平塚雅之（2019年7月～）

医 長：高橋和孝（～2019年6月）

専 攻 医：佐々木うらら（～2019年12月）、河野壮太郎（2020年1月～）

1. 診療内容

当科は、関節外科、脊椎外科、骨折外傷を3本柱として診療を行ってきた。

関節外科では膝および股関節の関節症や関節リウマチに対して人工関節手術や外来での保存療法を行ってきた。特に人工関節の進歩はめざましく、耐用性に優れたセラミックやクロスリンクポリエチレンなどを使用して患者様の負担を減らすよう最小侵襲手術を行っている。

脊椎外科では下肢痛で歩行が困難になっている腰部脊柱管狭窄症患者に対する開窓術や椎体間固定術を主に行っている。

外傷では高齢者の骨折が増加しており、骨粗鬆症治療とともにできるだけ早期の手術を心がけている。また、ロコモティブシンドロームが世間に認知されつつあり、この領域の診療は今後も必要不可欠で力を入れていくべき分野だと考えられる。

また、当科はリハビリテーション室と密接に連携し、早期退院・早期社会復帰を目標に治療に当たっている。手術患者に対しては手術前からリハビリテーションを行うだけでなく、術後早期から集中して運動療法を行ってきた。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

整形外科1、2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制（表2）

病床数は28、常勤医4名が担当し診療を行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は前年度並より微減した。

2) 入院診療実績（表3、4）

手術件数は増加したが、入院患者数は微減した。

4. 専門医・指導医など

日本整形外科学会認定リウマチ医 2名（毛利、平塚）

日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション認定医
2名（行方、平塚）

日本整形外科学会認定整形外科専門医 3名
（毛利、行方、平塚）

5. 業績

学会発表

1. 佐々木うらら, 毛利年一, 平林伸治, 渡辺温子, 山添直子, 福田志穂美, 柳川友加, 佐原啓太: DVTスクリーニング検査で診断した人工膝関節全置換術TKA後早期にBaker嚢腫の破裂した症例, 日本超音波医学会第46回関西地方会学術集会, 2019年10月, 大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
行方		毛利		交代 (初めの 方のみ)		行方 (予約)		毛利 (予約)	
平塚 (予約)	手術	河野 (予約)	手術		手術	平塚	手術	河野	
		辻(成) (乾重関節 外来) (予約)							

表2 病棟体制

月		火	水	木	金
午前	午後	術前カンファ			
					部長回診

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	12,548	13,965	13,696	13,609	12,846
入院	9,379	8,533	10,070	10,207	9,648

表4 2019.4～2020.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件 数	平均在院日数
大腿骨骨折	49	35
脊椎障害	44	26
変形性脊柱障害	42	27
膝関節症 [膝の関節症]	37	33
整形外科的経過観察ケア	26	4
下腿の骨折、足首を含む	24	35
肩および上腕の骨折	21	15
椎間板障害	18	15
股関節症 [股関節部の関節症]	17	30
前腕の骨折	17	6
腰椎および骨盤の骨折	10	44

スタッフ 部長：東山真里（副院長、あったかサポートセンター長、臨床研究管理室長）
副 医 長：田中久仁子
医 員：高田洋子
専 攻 医：山下千佳紗

西区では数少ない重症皮膚疾患の入院治療が可能な施設である。乾癬やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹、円形脱毛症、尋常性白斑、強皮症などの難治性疾患、皮膚外科、小児皮膚疾患、高齢者皮膚疾患、分子標的抗ガン剤による皮膚障害及び皮膚疾患全般について質の高い医療の提供を目指す。大阪大学皮膚科学教室や、その関連病院と密な連携をとり病院間及び病診連携を重視している。皮膚疾患患者のQOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。11月15日に「皮膚の日の催し」として患者対象の学習会を皮膚科医師と看護師で開催。皮膚腫瘍の診断治療、スキンケアなどにつき講演した。

医療設備：薬浴室（外来、病棟とも）、全身型紫外線照射装置2機（UVA、ナローバンドUVB）、部分型紫外線照射装置、手足用ナローUVB/UVA照射装置、エキシマライト、凍結療法（スプレー式）、表在超音波装置

1. 診療内容

専門外来：【乾癬外来】年間初診患者数は尋常性乾癬が約150名、乾癬性関節炎が35名で再診は延べ700名余り。掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎の初診も増加（1）治療内容 1. 外用療法 2. 光線療法（入浴PUVA療法またはナローバンドUVB照射-全身型、エキシマライト、手足用ナローUVB/UVA照射） 3. 内服療法（レチノイド、シクロスポリン、アプレミラスト、メトトレキサート） 4. 生物学的製剤。これらより個々の患者に最適な治療を選択（2）乾癬センターとして扁桃炎・高脂血症・糖尿病など乾癬を悪化要因や心血管系イベントを含む併存症につき関連診療科と連携して精査。（3）重症、難治例にはアダリムマブ、インフリキシマブ、ウスティヌマブ、セクキヌマブ、プロダグマブ、イキセキズマブ、グセルクマブ、リサンキズマブなどの種々の生物学的製剤を積極的に導入し特に乾癬性関節炎にも奏効。乾癬・掌蹠膿疱症に関する臨床治験や臨床研究も実施。（4）乾癬性関節炎は整形外科医と診断・治療につき連携。2013年より関節エコーを用い早期診断の向上をはかっている。（5）療養を支援する場として大阪大学皮膚科学教室と協力して大阪乾癬患者友の会の事務局も務める。定期的に学習会も開催。【アトピー外来】重症例では光線療法やシクロスポリン療法、生物学的製剤も併用。悪化原因の精査、スキンケア指導、関連科との連絡を密に総合的に診療を行う。QOLを尊重し病気の悪化や再発の防止を

目標にきめ細かい生活指導に力を入れている。【エキシマ治療】308nmのエキシマライトを用いて難治な爪乾癬・尋常性乾癬・アトピー性皮膚炎・尋常性白斑・環状肉芽腫などの治療を行い良好な結果を得ている。

【皮膚外科手術】良性悪性腫瘍、ケロイド、褥瘡、糖尿病性壊疽などは形成外科医と協力し治療。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療 主治医制で再診は予約制。

原則3診体制で診療。初診外来あり（月、水曜は東山担当）。再診外来は月～金（午前）。専門外来：乾癬外来は火（午前・午後）、木（午前・午後）、全予約制（ただし初診は、あったかサポートセンター経由のみ予約可）。アトピー外来は金（午前）

手術：水曜午前は局所麻酔

2) 病棟体制（表3、4）

病棟担当医は常勤医3名で、主治医となって診療を行った。新入院患者数は19名/月、入院患者数年間のべ患者数は2,901名、1日平均8名で、帯状疱疹、重症乾癬、アトピー性皮膚炎、水痘、じんま疹、蜂窩織炎、薬疹、多型紅斑、丹毒、皮膚良性腫瘍/悪性腫瘍、下腿潰瘍、自己免疫性水疱症など。乾癬の短期教育入院や、食物アレルギー、薬疹の原因薬精査なども行った。

形成外科と協力して褥瘡回診を行っている。

3) 検査スケジュール（表2）

月曜・水曜の午後にパッチテスト・光線テスト・皮膚生検などを行っている。

表在エコー検査は随時。

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

2019年度の外来延べ患者数20,722名、1日平均86名
紹介患者数 48名/月
年間手術件数134件

2) 入院診療実績（表3、4）

3) 検査実績

皮膚生検数 300件/年

4. 専門医など

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医 1名（東山）

5. 業績

論文・著書

1. 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 菅井順一, 東山眞里, 根本 治: 頭部病変を有する尋常性乾癬患者における外用療法の治療実態調査, 日臨皮会誌, 36(4):513-525, 2019年
2. Yoko Takata 1, MD, Mari Higashiyama 1, MD, PhD, Aya Tanaka 2, MD, PhD, Shoko Suzuki 2, MD, Hiroyuki Miura 2, MD, PhD, Sakuhei Fujiwara 2 MD, PhD: Alogliptin-induced Bullous Pemphigoid Associated With HLA-DQB1*03:01: A Case Report, Int J Dermatol, 58(7): e132-e133, 2019年
3. 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 菅井順一, 東山眞里, 根本 治: 頭部病変を有する尋常性乾癬患者における外用療法治療実態調査～1ヶ月時点の治療効果検証の重要性～, 日臨皮会誌, 37(1):067-074, 2020年
4. 山下千佳紗, 田中 文, 白井洋彦, 園延尚子: Sjogren症候群に合併した皮膚AAアミロイドーシス, 皮膚病診療, 41(4): 329-322, 2019年
5. 東山眞里: 紅斑症, Nice病態・治療論[11]皮膚/耳鼻咽喉/眼/歯科・口腔疾患, 片山一朗, 阪上雅史, 五味文, 岸本裕充, 48-50, 48-50, 第1版, 2019年, 南光堂, 東京
6. 草壁みのり, 夏秋 優, 山西清文, 高田洋子, 東山眞里: フランスでのIxodes ricinusによるマダニ刺症で感染したライム病の1例, 皮膚の科学, 18(6):360-365, 2019年

学会発表

1. 東山眞里, 安部正敏, 伊藤寿啓, 島田辰彦, 菅井順一, 根本 治: 頭部病変を有する尋常性乾癬患者における外用療法の治療実態調査, 第34回 日本乾癬学会学術大会, 2019年8月, 京都
2. 高田洋子, 東山眞里, 西本知子, 田中久仁子: Lichen planuspigmentosus-inversusと扁平苔癬を合併した1例, 第118回 日本皮膚科学会総会, 2019年6月, 名古屋
3. 山下千佳紗, 田中 文, 白井洋彦: 当院における免疫グロブリン大量療法後に血小板減少をきたした水疱性類天疱瘡の検討, 第118回 日本皮膚科学会総会, 2019年6月, 名古屋
4. 高田洋子, 東山眞里, 田中久仁子, 山下千佳紗, 辻 真紀, 辻成佳: ウステキヌマブ投与中に新規に乾癬性関節炎を発症した4例, 第34回 日本乾癬学会学術大会, 2019年8月, 京都
5. 東山眞里: 皮膚科医から見た乾癬性関節炎, 第31回 日本リウマチ学会中部支部学術集会中部リウマチ学会ランチョンセミナー, 2019年9月, 新潟
6. 東山眞里: 乾癬治療におけるIL-17Aの意義 複雑化するピラミッド計画—QOLの向上を目指した乾癬治療選択には, 第70回 日本皮膚科学会中部支部学術大会ランチョンセミナー, 2019年10月, 金沢
7. 高田洋子, 田中久仁子, 横井一範, 東山眞里, 山下千佳紗: クラリスロマイシンが著効した顔面播種状粟粒性狼瘡の1例, 第70回 日本皮膚科学会中部支部学術大会, 2019年10月, 金沢
8. 田中久仁子, 西本知子, 山下千佳紗, 高田洋子, 東山眞里: トニックウォーターによる固定疹の2例, 第49回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会, 2019年11月, 横浜

研究会発表

1. 東山眞里: 乾癬治療におけるイクセキズマブへの期待, Meet The Expert, 2019年4月, 大阪
2. 東山眞里: 乾癬を知っていますか, 第18回高砂市医師会市民公開講座, 2019年4月, 高砂
3. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療～複雑化するピラミッドからの選択～, Muse Meeting in Nakagawachi, 2019年7月, 大阪
4. 東山眞里: QOLの向上のための乾癬治療—どう選択する 外用から生物学的製剤まで, 乾癬治療を考える会in淡路, 2019年7月, 洲本
5. 東山眞里: 当院におけるリサンキズマブの使用経験・安全性, スキリジ発売記念講演 in 大阪, 2019年9月, 大阪
6. 東山眞里: リウマチ医と皮膚科医のより良い連携を目指して PsAの診断と治療の実践 皮膚科医の立場から, PsA Forum in 岡山, 2019年11月, 岡山

7. 東山眞里: QOLの向上をめざした乾癬治療—外用療法の3つの鍵, 神戸市乾癬治療を考える会, 2019年11月, 神戸
8. 東山眞里: QOLの向上を目指したチームで支える乾癬治療—生物学的製剤も視野に入れて, Derma in 能代2019, 2019年11月, 能代
9. 高田洋子・東山眞里・田中久仁子・山下千佳紗・辻成佳: 多数の併存症を認めた長期外用療法のみで加療されていた乾癬性紅皮症・関節炎, 第2回 あわぎ乾癬セミナー, 2019年11月, 大阪
10. 東山眞里: 乾癬治療の進歩 病気を克服する患者力を磨こう, 第36回乾癬フォーラム, 2019年12月, 東京
11. 東山眞里: 掌蹠膿疱症診療における他科連携の重要性 皮膚科医の立場から, SCOPE 2020. 1. 25, 2020年1月, 東京
12. 東山眞里: QOLの向上を目指した乾癬の治療選択, 第2回東京ベイエリア皮膚疾患フォーラム, 2020年1月, 東京
13. 東山眞里: 冬のスキンケア, 大阪府医師会生涯教育講座, 2019年12月, 大阪
14. 東山眞里: 抗がん剤治療時の皮膚障害と予防(スキンケア), がんサロン(院内), 2019年5月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
診察室	甲斐		乾癬外来2 辻(真) (予約)		アレルギー外来 山下		辻 (真)		山下	
	東山 (予約)	検査 パッチ テスト 生検 等 (予約)	辻(成) (予約)	乾癬外来 東山 (予約)	東山 (予約)	検査 光線 テスト 生検 (予約)	乾癬外来2 高田 (予約)	乾癬外来 東山 (予約)	アトピー 外来 田中 (久) (予約)	
	田中 (久)		高田	乾癬外来3 田中 (久) (予約)	高田 (予約)		田中 (久)	乾癬外来3 山下 (予約)	高田	
外来 処置室	山下 (予約)		乾癬外来 東山 (予約)		局麻手術 平野・田中 (久) (予約)		乾癬 東山			

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
パッチテスト 皮内テスト 光線テスト 皮膚生検		○ 診								

○: 当院診察が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	26,005	25,726	23,831	21,976	20,722
入院	3,821	3,296	3,799	3,202	2,901

表4 2019.4～2020.3—入院患者の疾患(上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
帯状疱疹 [帯状ヘルペス]	99	9
蜂巣炎 (蜂窩織炎)	56	13
乾せん (癬)	14	16
丹毒	6	10
アトピー性皮膚炎	6	10
類天疱瘡	5	47

スタッフ 部 長：福井辰成
副 部 長：湊のり子
医 長：金光俊行

1. 診療内容

当科は泌尿器疾患および男性生殖器疾患を対象に診療を行なった。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は、人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも、前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

泌尿器科外来1～2診で外来診療を行った。

2) 病棟体制

病床数は10～20、病棟担当医は、常勤医が主治医となって診療を行った。

3) 検査スケジュール（表2）

膀胱鏡検査：泌尿器科膀胱鏡検査室（月～金曜日）

尿流検査：泌尿器科検査室（月～金曜日）

膀胱内圧測定、尿道抵抗測定：泌尿器科検査室（火・木曜日）

逆行性尿路造影、尿道膀胱造影、排尿時膀胱造影（火曜日）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

外来患者数は延べ11,507人であった。

2) 入院診療実績（表3、4）

入院患者は延べ3,643人であった。

3) 治療実績

経直腸的前立腺生検術は105例に対して行った。前立腺癌に対し2018年5月より導入されたロボット手術による前立腺全摘除術は20例に行った。腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術は昨年7例だったが今年は0例となった。去勢抵抗性前立腺癌に対しては2014年より認可されたエンザルタミドやアビラテロンを使用することで治療の幅を広げ良好な治療成績を納め、また患者数も着実に増加している。また去勢抵抗性前立腺癌骨転移に対し塩化ラジウム（Ra-223）を用いた治療を行った。

膀胱癌に対する外科的治療は、経尿道的電気切除術80例、尿路変向2例（自排尿型代用膀胱形成術0例・回腸導管造設術2例）に対して行った。膀胱癌の治療あるいは膀胱内再発予防として、再発しやすい癌に対してBCG膀胱内注入療法を施行した。膀胱固有筋層に浸潤する膀胱癌に対しては、再発した場合致命的となる実験的な膀胱温存療法ではなく、標準的治療である根治的膀胱全摘除術を行い、尿路変向としてQOLの良い自排尿式代用膀胱形成術を多く行うようにしているが回腸導管造設術が2例となった。

前立腺肥大症に対する外科的治療として、経尿道的な前立腺切除術（経尿道的核出術を含む）を27例、行った。特に腫大が高度な場合には、バイポーラ電気メスを用いた経尿道的核出術（TUEB）を主にを行い、さらに高度な場合は恥骨後式前立腺被膜下摘除術を行うが本年度は2例であった。

腹腔鏡下手術は腎、副腎、腎盂尿管疾患、その他20例に行った。根治的腎全摘除術7例、腎部分切除術2例、副腎摘除術6例、腎尿管全摘除術4例、後腹膜リンパ嚢摘出術1例である。手術時間はやや延長するが、開腹手術に比べて術後の鎮痛剤の投与量が著しく減量でき、患者様のQOLが良好で、術後の回復期間が短く、在院日数も短縮できる。

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して体外衝撃波碎石術（ESWL）を26例に行っている。経尿道的膀胱碎石術を3例に、経尿道的尿管碎石術を58例に行い全例に対しレーザーを用いて碎石を行った。

4. 認定医・専門医など

日本泌尿器科学会専門医	3名（福井、湊、金光）
日本泌尿器科学会指導医	3名（福井、湊、金光）
日本がん治療認定医機構認定医	2名（福井、金光）
日本医師会認定産業医	2名（福井、金光）

表 1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
交代	交代	黒田	福井	交代	手術	湊	湊	藤田 (昌) [*]	福井
湊	湊	金光	特殊 検査			福井	特殊 検査	金光	手術

※ 2・4 週は福本

表 2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
膀胱内圧測定 尿流検査 前立腺エコー 逆行性腎盂造影		○ 診		○ 診				○ 診		○ 診

○：当院診察が必要

表 3 泌尿器科年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	11,518	11,007	11,422	11,353	11,507
入院	3,462	3,467	3,481	3,441	3,643

表 4 2019.4～2020.3—入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
前立腺の悪性新生物	109	6
膀胱の悪性新生物	82	11
腎結石および尿管結石	50	4
前立腺肥大（症）	41	7
閉塞性尿路疾患および逆流性尿路疾患	40	7
腎盂の悪性新生物	14	9
腎盂を除く腎の悪性新生物	11	18
尿管の悪性新生物	11	10
急性腎盂腎炎	11	9
疾病および病態の疑いに対する 医学的観察および評価	11	2

眼 科

スタッフ 部長代行：谷井啓一
副 部 長：辻川 睦（2019年7月～）
副 医 長：馬場圭太

1. 診療内容

当科は日本眼科学会の研修指定病院で、大阪大学眼科学教室と連携し、白内障・緑内障・角結膜疾患・糖尿病網膜症を中心に、地域の基幹病院としての立場から眼科疾患全般に対応できるよう努めている。

2016年度は、大阪大学眼科教室からの非常勤医師による外来診療のみであったが、2017年8月に谷井部長代行が赴任し、常勤医体制を再開した。

最新の設備を用いた質の高い医療の提供と、患者様に満足していただける説明・啓蒙を診療指針に掲げている。また、病診連携を積極的に進めており、患者様の眼科かかりつけ医との連絡を密に取っており、かかりつけ医よりの紹介→当科での手術等の急性期治療→かかりつけ医への逆紹介という基本方針で診療を行っている。

ほとんどの科を網羅する日本生命病院の一診療科として、全身状態のよくない症例や、眼科単科では対応困難な症例の眼科治療も他科と連携しながら行っており、さらにニッセイ予防医学センターとも協力し、眼底検診による疾患の早期発見・予防に努めている。また、眼科疾患の難病認定申請に関する検査および臨床調査個人票の発行や、身体障害者手帳申請に関する検査および診断書・意見書の発行、視覚障害者スポーツに関するサポートも行っている。

2. 診療体制

- 1) 外来診療スケジュール（表1）
- 2) 検査スケジュール（表2）

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表3）
- 2) 入院診療実績（表3、4）

4. 認定医・専門医など

日本眼科学会専門医 2名（谷井、辻川）
日本網膜硝子体学会・眼科PDT研究会
光線力学療法認定医 1名（谷井）
視覚障害者用補装具適合判定医師 1名（谷井）
ICD 1名（谷井）
臨床研修指導医 1名（谷井）
日本医師会認定産業医 1名（谷井）
日本体育協会認定スポーツドクター 1名（谷井）
日本障がい者スポーツ協会認定障がい者スポーツ医 1名（谷井）

5. 業績

論文・著書

1. Shizuka Koh, Takayuki Hamno, Michiko Ichii, Keiichi Yatsui, Naoyuki Maeda, Kohji Nishida: Transient Cornea Verticillata of Unknown Etiology, Cornea, 0:1-2, 2019年

学会発表

1. Keiichi Yatsui, Shizuka Koh, Takayuki Hamno, Michiko Ichii, Naoyuki Maeda, Kohji Nishida: Spontaneous disappearance of cornea verticillata of unknown etiology, 37th congress of the ESCRS, 2019年9月, Paris
2. 谷井啓一, 高 静花, 濱野高行, 一井倫子, 前田直之, 西田幸二: 原因不明の一過性渦状角膜混濁を認めた1症例, 第73回日本臨床眼科学会, 2019年10月, 京都
3. 馬場圭太, 河嶋瑠美, 松下賢治, 中村 誠, 西田幸二: 緑内障インプラントチューブ閉塞に対して内視鏡下手術が有用であった1例, 第30回日本緑内障学会, 2019年9月, 熊本

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
谷井	手術	馬場	特殊検査	谷井	手術	辻川	特殊検査	谷井	特殊検査
辻川		辻川		馬場		駒井		馬場	

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
光凝固 YAG 蛍光造影 硝子体注射 ボトックス				○				○		○

○：当院診療が必要

表3 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	14,144	8,146	8,217	10,452	11,418
入院	1,213	0	231*	769	795

*2017.8～眼科常勤医体制の再開

表4 2019.4～2020.3入院患者の疾患

疾患名	件数	平均在院日数
白内障	376	2
眼瞼のその他の障害	3	2
結膜のその他の障害	2	2
水晶体のその他の障害	1	3
網脈絡膜の炎症	1	10

スタッフ 主任部長：藤田信哉（～2020年1月）
 部 長：小泉敏三（2020年2月～）
 副 部 長：小泉敏三（～2020年1月）、金澤成典（2020年2月～）、細野研二
 専 攻 医：藤田裕人

1. 診療内容

中耳疾患（慢性中耳炎、鼓室硬化症など）、内耳疾患（突発性難聴、メニエール病、頭位めまい症など）、顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群など）、鼻疾患（慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎）、および頭頸部腫瘍・がん、等の診療に注力している。近年は頭頸部腫瘍への診療体制をととのえ、診断（PET、NBI内視鏡、即時の内視鏡下生検）、治療（抗がん剤や分子標的薬などの薬物治療、定位放射線治療、再建を含めた拡大手術）などを複数診療科と連携しながら実施している。また、耳科手術では、従来の慢性中耳炎に対する鼓室形成術に加え、メニエール病に対する内リンパ嚢開放術や顔面神経麻痺に対する顔面神経減荷術にも取り組んでいる。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

一般診療：月～金曜日am
 （火：手術日のため初診のみ）

専門診療：腫瘍（水、金pm 金澤）
 補聴器（木pm、金pm 細野）
 めまい（水pm:小泉）
 難聴・中耳炎（金pm:小泉）

初診時に原則的に耳鼻咽喉科領域の各専門の医師が診療を担当する方針としている。

2) 病棟体制

耳鼻咽喉・頭頸部外科は10床の定床数（9階病棟）で入院診療を行っている。外来診療担当医が、引き続き入院診療も主治医として診療を行っている。頭頸部がん症例については、複数医師で患者を担当している。

3) 検査スケジュール

- ・聴力検査：月～金曜日am・pm
- ・めまい・平衡機能検査（カロリック、VEMP含む）：月～金曜日am・pm
- ・ABR検査：随時
- ・補聴器適合検査：木・金曜日pm
- ・ENOG検査：随時・即時
- ・内耳造影MRI検査：水・金曜全日
- ・超音波検査、鼻咽頭内視鏡検査：随時・即時
- ・嚥下内視鏡検査：随時・即時

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表3）

耳鼻咽喉領域の急性炎症疾患、難聴やめまいなどの急性耳疾患、頭頸部癌（口腔癌、咽喉頭癌、甲状腺癌など）、補聴器、などの専門外来が充実し、外来診療患者数は増加傾向である。近隣の医療施設からの紹介や救急患者を積極的に受入れ、その患者の症状が安定すれば逆紹介も行っている。大阪市西区やその周辺地域の基幹病院としての役割を果たしている。また専門外来には大阪府広域からの患者を受け入れている。

2) 入院診療実績（表3、4）

近年、手術件数増加に伴い入院件数の増加もみられる。また、従来から急性炎症疾患（扁桃炎、急性喉頭蓋炎など）、急性めまいや急性感音難聴、顔面神経麻痺の加療も実施している。2020年度から頭頸部がんに対する放射線治療や薬物治療の入院件数も大幅に増えている。

3) 検査実績

聴力検査：1,195件
 めまいセット標準検査：147件
 VEMP,カロリック検査：180件
 内耳造影MRI検査：54件
 頸部超音波検査：731件
 鼻咽頭内視鏡検査：1,541件

4. 認定医・専門医など

日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医

	3名（小泉、金澤、細野）
補聴器相談医	2名（小泉、細野）
補聴器適合検査認定医	2名（小泉、細野）
がん治療認定医	2名（金澤、細野）
頭頸部がん専門医・指導医	1名（金澤）
日本東洋医学会漢方認定医	1名（細野）
身体障害者福祉法15条指定医	3名（小泉、金澤、細野）

5. 業績

論文・著書

1. 細野研二, 赤羽 誉, 藤田信哉, 小泉敏三, 藤田裕人, 西本知子, 田中久仁子, 高田洋子, 山下千佳紗, 横井一範, 辻 成佳, 東山眞里:扁桃腺皮膚疾患に対する扁桃誘発試験の検討と扁桃摘出術の有用性について, 日本生命病院医学雑誌, 47:7-13, 2019年
2. 細野研二, 赤羽 誉, 大山寛毅, 岡安 唯, 藤田裕人, 小泉敏三, 藤田信哉:保存的治療にて治癒した咽頭・食道粘膜下膿瘍例, 小児耳鼻咽喉科, 112:383-390, 2019年
3. 藤田信哉:【メニエール病ー押さえておきたい診断・治療のコツ】聴覚・平衡機能検査と診断, ENTONI, 1:12-20, 2019年

学会発表

1. 藤田信哉, 小泉敏三, 松村八千代, 岡本英之, 山中敏彰, 北原 紘:心因性めまいにおけるラバー負荷検査の有用性について, 第79回日本めまい平衡医学会, 2019年11月, 富山
2. 小泉敏三, 細野研二, 藤田信哉, 中島 崇, 覚道真理子, 岡安唯, 北原 紘:市中病院における内リンパ嚢手術症例の検討, 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2019年5月, 大阪
3. 藤田信哉, 松村八千代, 山中敏彰, 岡本英之, 北原 紘:急性低音障害型感音難聴の再発例, メニエール病移行例の検討, 第120回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 2019年5月, 大阪
4. 藤田裕人, 西村忠己, 細野研二, 小泉敏三, 藤田信哉, 山中敏彰, 北原 紘:アブミ骨手術の術後気骨導差に影響を与える因子についての検討, 第29回 日本耳科学会総会・学術講演会, 2019年10月, 山形
5. 小泉敏三, 藤田裕人, 細野研二, 藤田信哉, 北原 紘:難治性遅発性内リンパ水腫に対する治療法の選択, 第350回日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会, 2019年9月, 大阪
6. 小泉敏三, 藤田裕人, 細野研二, 藤田信哉, 伊藤妙子, 北原 紘:難治性遅発性内リンパ水腫に対する治療法の選択, 第29回日本耳科学会総会・学術講演会, 2019年10月, 山形

研究会発表

1. 小泉敏三:危険なめまいを見逃さない 救急医療におけるめまい診断のポイント, 日本生命病院医学セミナー Update, 2019年6月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
宮下				小泉	小泉 (めまい)	金澤	金澤 (腫瘍)	小泉	小泉 (難聴・中耳炎)
細野		担当医 (初めての 方のみ)		金澤	金澤 (腫瘍)	細野	細野	細野	金澤 (補聴器)
交代 ※1				藤田 (裕)	藤田 (裕)	宮下	細野 (補聴器 第1・3・5)	藤田 (裕)	藤田 (裕)

※ 1・3・5週は小泉、2週は金澤、4週は藤田 (裕)

表2 検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
聴力検査 平衡機能検査 味覚検査	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)	○ (予約)
聴性脳幹反応		○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)
顔面神経検査	○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)		○ (予約)	
内耳造影MRI					○ (予約)				○ (予約)	

○: 当院診察が必要

表3 耳鼻咽喉科年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	13,327	11,618	10,579	11,159	11,506
入院	4,603	4,436	2,278	1,860	2,051

表4 H29.4～H30.3ー入院患者の疾患 (上位のみ)

疾患名	件数	平均在院日数
扁桃およびアデノイドの慢性疾患	43	6
前庭機能障害	36	5
急性扁桃炎	25	5
慢性副鼻腔炎	18	5
睡眠障害	17	4
扁桃周囲膿瘍	14	4
大唾液腺の良性新生物	12	6
顔面神経障害	10	8
声帯および喉頭の疾患、他に分類されないもの	8	6
反復性および持続性血尿	8	6
甲状腺の悪性新生物	7	9
甲状腺の良性新生物	6	7
その他の難聴	6	8
毛細血管の疾患	6	3
乾せん〈癬〉	6	7
血管運動性鼻炎およびアレルギー性鼻炎 〈鼻アレルギー〉	5	5
鼻および副鼻腔のその他の障害	5	9

形 成 再 建 外 科

スタッフ 部長代行：藤原敏宏（～2019年9月）、宮崎裕子（2019年10月～）
副 医 長：大島 遙

1. 診療内容

形成再建外科では体表の外傷や腫瘍、変形、異常を取り扱っている。また治らない傷や目立つ傷あと、眼瞼下垂、がんの切除およびその修復（頭頸部再建や乳房再建など）の治療も行う。疾患の根治のみでなく、整容性に配慮した治療を心がけている。

外傷については全身を対象に対応しており、特に露出部である顔面や四肢を多く治療している。擦過創、挫滅創、裂創、剥脱創、咬創、熱傷、凍傷など幅広い外傷に対応している。顔面骨骨折も変形や機能障害の程度に応じて手術をしている。皮膚、皮下腫瘍については理学所見を中心にエコー、CT、MRIなどの画像検査を組み合わせる複合的に病態を診断し、皮膚科と合同カンファレンスを行い、治療計画を立てている。また、切除した腫瘍については同カンファレンスにて病理診断の検討会を行っている。眼瞼疾患については眼瞼下垂を中心に、睫毛内反症などの治療を行っている。顔面神経麻痺においては静的再建やボトックスによる痙攣の治療を主に行っている。乳房再建では人工物や自家組織（広背筋皮弁、腹直筋皮弁、腹部穿通枝皮弁など）を用いた再建方法の中から患者に合った治療方法を選択している。褥瘡については皮膚科と合同で治療を行っており、入院患者の褥瘡治療は形成外科及び皮膚科、多職種を含めた褥瘡対策チームで対応している。糖尿病性足壊疽や重症虚血肢などの難治性創傷は他科と連携の上治療を行っている。この他にも副耳、耳瘻孔、ケロイド、腋臭症、陥入爪の治療も行っている。

2. 診療体制

1) 外来診療スケジュール（表1）

外来診療は原則1診体制。初診、再診共に1診体制で対応している。月、火曜日は大島が担当。水、金は宮崎が担当。また緊急の外傷も随時引き受けて対応している。

2) 病棟体制

病棟は宮崎、大島ともに担当。形成外科内でも情報を共有し、対応できるようにしている。共観患者に関しても同様に行っている。

3) 手術スケジュール

主には月曜日と金曜日午後に局所麻酔の手術、全身麻酔や臨時の局所麻酔の手術に関しては、全科共通枠で必要に応じ、対応している。手術は全て中央手術室で行っているが、外傷や緊急性のある小手術に対しては外来処置室にて対応している。

3. 診療実績

- 1) 外来診療実績（表2）
- 2) 入院診療実績（表2）
- 3) 手術実績（表3）

4. 認定医・専門医など

日本形成外科学会専門医 2名（宮崎・大島）
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師 1名（宮崎）
下肢静脈血管内焼灼術実施医 2名（宮崎・大島）

5. 業績

学会発表

1. 藤原敏宏：乳癌術後の放射線照射により生じた放射線潰瘍症例におけるリスク因子検討，第62回日本形成外科学会総会・学術集会，2019年4月，北海道

研究会発表

1. 大島 遙：比較的稀な部位に発生したGlomus tumor，第48回大阪形成外科医会，2019年10月，大阪

表1 外来診療スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
大島		大島		宮崎				宮崎	

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2017年度	2018年度	2019年度
外来	2,742	2,911	2,907
入院	1,097	1,083	869

※2017.4～形成再建外科を新設

表3 2019.4～2020.3入院患者の疾患（上位のみ）

疾患名	件数	平均在院日数
良性脂肪腫性新生物（脂肪腫を含む）	24	5
皮膚のその他の悪性新生物	18	8
眼瞼のその他の障害	16	5
皮膚のその他の良性新生物	6	6
頭蓋骨および顔面骨の骨折	5	3
外科的および内科的ケアのその他の合併症、他に分類されないもの	5	12

放 射 線 診 断 ・ I V R 科

スタッフ 部 長：前田宗宏
副 部 長：小林美登利、牧 大介
兼 任：内藤博昭（特任顧問）

1. 診療活動

各種画像診断（CT、MRI、単純X線、マンモグラフィ、消化管造影、排泄性尿路造影、血管造影など）、各種IVR（肝細胞癌に対する塞栓・動注、消化管出血や産科出血などの止血、B-RTO、胆道穿刺・ドレナージ、膿瘍穿刺・ドレナージ、ラジオ波焼灼術、生検など）、核医学診断（SPECT、PET/CT）を行っている。

4名の放射線診断専門医（常勤）が、大阪大学ならびに大阪市立大学の専門医（非常勤）の支援を得て、質の高い画像診断とIVRを実践している。

2. 臨床実績（2019年4月1日から2020年3月31日）

- 1) 画像診断CT 15,033例、MRI 7,013例、単純X線 1,083例、消化管造影 4例、SPECT 843例、PET/CT 413例
- 2) 血管系IVR 39例（動注・塞栓術（肝癌）16例、止血術（消化管、腎臓）5例、子宮動脈塞栓術5例、副腎静脈サンプリング10例、B-RTO 2例、腎腫瘍塞栓術 1例）
- 3) 非血管系IVR 44例（経皮的生検（肺・縦隔・肝・後腹膜）21例、経皮的膿瘍ドレナージ（腹腔内・後腹膜・腸腰筋・肝）14例、経皮経肝の胆道穿刺・吸引・ドレナージ8例、RFA（肝癌）1例

3. 認定医、専門医など

日本医学放射線学会放射線診断専門医 4名（前田、小林、牧、内藤）
日本IVR学会専門医 2名（前田、牧）

表1 検査スケジュール

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
IVR		○						○		○

※放射線診断は毎日実施

表2 外来検査スケジュール

検査項目	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
単純撮影	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹	★ 紹
CT(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
MRI(単・造)	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
骨塩定量	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
乳房撮影	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予		● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
RI	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予	● 紹・予
PET/CT	● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予			● 紹・予	● 紹・予

●：紹介状・予約が必要 ★：紹介状のみにて検査可

表3 年度別外来延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
放射線診断・IVR科	4,586	4,244	1,268*	1,249	1,166

※2017.4～放射線科から放射線診断科（2018.4から放射線診断・IVR科）に改組、放射線治療科を新設

放 射 線 治 療 科

スタッフ 部長代行：丸岡真太郎

1. 診療内容

2017年4月より「放射線治療科」を新設し、診療を開始した。

がん治療の三本柱の一つである放射線により各種がんに対する放射線治療を行っており、根治目的の放射線治療だけでなく、がんによる各種症状を和らげるための緩和的照射も行っている。2018年5月より新リニアック装置TrueBeamに機器更新を行い、体幹部定位照射をはじめとした高精度放射線治療を行っている。

主な対象疾患は下記の通り

頭頸部腫瘍、消化器腫瘍（食道癌、膵臓癌、肝臓癌等）、泌尿器科腫瘍（前立腺癌、膀胱癌等）、婦人科腫瘍（子宮頸癌、卵巣癌等）などの悪性腫瘍に対する放射線治療
頭蓋内腫瘍、肺腫瘍、肝腫瘍に対する定位放射線治療
ケロイド等の良性疾患に対する放射線治療
骨髄移植前処置としての全身照射

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

部位別治療件数

総計	194件
造血器・リンパ	37件
婦人科	20件
頭頸部	5件
乳腺	33件
消化器	14件
泌尿器	17件
肺縦隔	67件
その他	1件

4. 認定医・専門医など

日本医学放射線学会放射線科専門医 1名（丸岡）
日本医学放射線学会放射線治療専門医 1名（丸岡）

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
丸岡	丸岡	立川	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡	丸岡

表2 年度別外来延べ患者数

	2017年度	2018年度	2019年度
放射線治療科	2,208	1,952	2,624

※2017.4～放射線治療科を新設

スタッフ 部 長：花田留美
副 部 長：玉井 裕、藤原優子
医 長：鈴木史子（～2020年1月）
常勤嘱託：岡田俊樹、三上麻紀子、鈴木史子（2020年2月～）
非 常 勤：植松弘進

1. 診療内容

診療内容としては、主に手術麻酔管理、ペインクリニック外来、緩和医療をおこなっている。

1) 手術麻酔管理

手術時の麻酔だけでなく、術前評価、手術麻酔、術後診察を一連として麻酔管理としている。

予定手術においては、外来受診可能な状態の患者さんのみ術前診察を麻酔科外来で週5日行っている。術前診察で、患者さんの全身状態の評価を行い、最も適した麻酔法を選択する。全身麻酔はもちろん脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・ブロック等も行い、重症患者の場合局所麻酔でも全身管理に携わることもある。麻酔法およびその合併症について患者さんに十分に説明し、理解していただき、信頼関係を確立するためにも術前診察は非常に重要であり、時間をかけている。

できるだけベストな状態で手術に臨めるように他部門とも連携している。まず、術前問題点を早期に把握するため麻酔科管理症例については、2017年より全例入退院センターにてスクリーニングを兼ねて麻酔科術前問診票を記入いただき、術前問題点があれば各科に連絡し、早期に手術認定看護師の介入、術前禁煙指導、呼吸器内科での治療や呼吸器リハビリ、術前体重コントロールのための栄養指導、薬剤部への入院前の内服薬の把握などを依頼し、麻酔科での術前診察が行われるまでに問題点が少しでも改善され、周術期合併症のリスク軽減がなされるようなシステムを構築している。緊急手術では、適宜術前診察を行うが、新病院移転後は当日緊急手術においても、迅速に効率よく手術まで行えるように手順を整理した。

術後疼痛管理も積極的に行っており、PCA（Patient Controlled Analgesia）装置を用いて鎮痛薬を持続投与の上、疼痛時に患者さんがボタンを押して鎮痛薬を追加投与する方法を使用している。

2) ペインクリニック外来

週3日開設し、他科、他院からの紹介患者を主に診察している。急性痛のみならず、当院で癌治療中の患者の疼痛管理にも積極的に取り組んでいる。

3) 緩和医療

2008年2月より緩和ケアチームが発足し、入院中は依頼患者に主治医と連携しながら直接介入で対応し、主に身体症状の軽減に携わっている。チームでの回診とカンファランスは、週に1回月曜日に行い、薬剤部、認定看護師、ソーシャルワーカー、放射線治療医、臨床心理士と常に連携しよりよい症状緩和を目指している。

4) その他

当院のプログラムでは初期研修中の1年目の1～2ヶ月は麻酔科を研修する。初期研修中に到達すべき経験目標としての基本的手技のうち、気道確保、静脈ルート確保、腰椎穿刺、気管挿管の技術に関しては、当科にて確実に身につけさせるように指導している。また、将来どの診療科に進んでも役に立つように緩和医療にも積極的に参加してもらい、基本的な医療用麻薬の使い方やその他の症状緩和への対応などができるように、そして研修医の行動目標としての「医療人として必要な基本姿勢や態度」を身につけてもらえるように指導することを心がけている。

また、2019年度も、2018年度に引き続き地域に貢献できるように救急救命士の挿管実習を1名受け入れた。患者さんのご理解のもと、快くご協力いただき、無事に規定症例数の実習を終了することができた。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

2) 病棟体制

麻酔科は手術室業務が主なため病棟体制はとっていないが、麻酔業務の傍ら緩和ケアチームの診療に従事している。手術室での麻酔業務の合間に、緩和ケアチーム介入患者の疼痛などの身体症状管理を緩和ケア認定看護師と連携して行っている。

3. 診療実績

2018年度は移転により手術室が5室から7室に増加して、2019年度はさらに麻酔科スタッフも1名増員できたため、総手術件数3,583例、うち麻酔科管理手術件数2,298例に増加した。そのうち予定症例は2,193例、緊急症例は105例であった。(2018年度は、総手術件数3,467例、麻酔科管理手術件数2,082例でそのうち予定手術1,979例、緊急手術103例)直近5年間は年々、総手術数、麻酔科管理手術数ともに増加しており、最近では、90才以上の麻酔科管理症例も増加してきている。

2016年4月より整形外科の脊椎専門開設に伴う腹臥位手術や呼吸器外科の分離肺換気などの特殊な麻酔症例数の割合も増加し、2017年には形成再建外科、2018年度はさらに脳神経外科、心臓血管外科が加わり、症例も多彩になっている。また、血液浄化センターを有していることもあり、透析患者の手術も増えて症例も複雑化しているが、常勤スタッフが増えたことにより時間がかかる術前診察も問題なく対応することができた。

常勤スタッフが増えたことにより、気管支ファイバー検査で局所麻酔下での施行が難しい症例において、今年度は手術室外の全身麻酔の依頼にも対応することができた。

ペインクリニック外来では、2018年度より大阪大学から月曜日にペインクリニック専門医を招聘し、新病院移転後は、手術室での外来透視ブロックも再開された。超音波ガイド下ブロックなども積極的に行えるようになった。

- 1) 外来診療実績(表2)
- 2) 入院診療実績(表2)

4. 専門医・指導医など

日本麻酔科学会指導医・専門医 3人(花田、岡田、藤原)
日本麻酔科学会専門医 2人(玉井 鈴木)
麻酔科標榜医

6人(花田 岡田、玉井 藤原 鈴木 三上)
日本ペインクリニック学会専門医 2人(花田、植松)

5. 業績

研究会発表

1. 城野美里, 岡田俊樹, 三上真紀子, 玉井 豊, 藤原優子, 花田留美: Forestier病合併患者の麻酔経験, 第65回関西支部学術集会, 2019年9月, 大阪
2. 玉井 豊: がんサバイバーの癌以外の痛みに対するオピオイド使用についての検討, 大阪緩和ケア連携カンファランス, 2019年5月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
戸崎 (術前)	戸崎 (術前)	玉井 (ペイン)	玉井 (術前)	玉井 (術前)	玉井 (術前)	藤原 (優) (術前)	藤原 (優) (術前)	花田 (ペイン)	花田 (術前)
植松 (ペイン)		岡田 (術前)	岡田 (術前)	藤原 (優) (術前)	鈴木 (術前)	岡田 (術前)	三上 (術前)	三上 (術前)	三上 (術前)
三上 (ペイン)									

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	4,393	4,849	5,268	4,410	4,704
入院	0	38	50	60	37

表3 2019.4~2020.3 ブロック実績

ブロック名	件数
超音波ガイド下ブロック	110
透視下神経ブロック	20
高周波熱凝固	13
その他外来ブロック	70

リハビリテーション科

スタッフ 部長：平林伸治

1. 診療内容

2017年4月よりリハビリテーション科はリハビリテーション医療を専門に開始した。リハビリテーション練習を提供する疾患は以下のものである。外来診察にて最初にリハビリテーションの目標やゴールを説明する。

- 1) 急性期疾患で入院された方の回復を促進する。
- 2) 慢性疾患の急性増悪で入院された方の在宅生活につなげる。
- 3) 回復期・維持期の方は、在宅で行うリハビリテーションが中心のため当院で行うことは指導や、リハビリテーションができているかの確認である。実際の練習指導は在宅チームや介護保険によるチームに連携して繋いでいる。

リハビリテーションの目的やゴールは障害全部が元通りに戻ることではなく、地域や在宅で適応して生活できるように調整していくことであり、そのために相談や援助を行う診療科である。

リハビリテーション医の診療はリハビリテーション依頼のあった初診患者さんと現在実施中の患者さんの問題解決や障害の強い患者さんを再診したりリハビリテーションカンファレンスを実施したりして良い結果が出せるようにリハビリテーション室で回診・診療している。

ジストニアや運動器領域の筋痙縮にボツリヌス毒素やバクロフェンを使用した治療やリハビリテーション指導を行っている。

2. 診療体制

外来診察スケジュール、月曜から金曜の午前中に実施。

3. 診療実績

毎日リハビリテーション室や病棟・病室にてリハビリ提供している人数は1ヵ月ごとに算出した平均は105人(95～121)で年間延べ人数25,389人である。初診後に新規リハ開始した患者は1日9.1人(8～12)である。

2019年 月別に集計したリハビリテーション提供した1日患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
提供人数	101	97	110	112	104	100	104	104	107	111	121	95

2019年 月別に集計した新規開始患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新患者数	160	178	179	210	171	173	177	191	176	228	173	186

4. 認定医・専門医

日本リハビリテーション医学会 専門医、指導医(平林)
 日本義肢装具学会 専門医 (平林)
 日本超音波医学会 専門医、指導医 (平林)
 日本整形外科学会 専門医 (平林)
 日本職業災害学会社会医学系 専門医、指導医(平林)

5. 業績

論文・著書

1. 白川 桂, 安達幸恵, 泉本亮二, 阪本拓也, 四釜淳子, 片岡宏一郎, 平林伸治, 村上輝明(救急診療科), 生田武蔵(救急診療科), 岸 正司(救急診療科):早期治療によりADLが自立したWernicke脳症患者の身体機能の回復経過について, 日生医誌, 47:27-32, 2019年
2. 福井信佳・谷合義旦・永井栄一(関西医療福祉大学), 夏梅隆・松下卓也(大阪労災病院), 川村 慶・西野誠一・松本成将(川村義肢):骨格構造型能動上腕義手の製作と使用経験, 日本義肢装具会誌, 35:69-73, 2019年
3. 西村真人(山口労災病院中央リハビリテーション部), 松尾善美(武庫川女子大学健康スポーツ学部), 根来政徳・箕岡尚利(大阪労災病院中央リハビリテーション部), 岡元進一(中国労災病院中央リハビリテーション部), 田中彰博(大阪労災病院循環器内科):心疾患入院患者の離職実態調査, 総合リハ, 47:691-696, 2019年
4. 安達幸恵, 平林伸治, 岸 正司(救急診療科):転倒後に横紋筋融解症と診断された症例のリハビリテーションと地域連携, 日本職災医誌, 67:350-354, 2019年

学会発表

1. 麦田盛穂, 片岡宏一郎, 平林伸治, 角南ちえ子, 倉本訓子, 出口睦子, 住谷 哲, 笠山宗正:2型糖尿病患者におけるインスリン抵抗性と骨格筋量との関連について, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
2. 安達幸恵, 泉本亮二, 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 藤岡栄悟, 四釜淳子, 平林伸治:がん治療中にギランバレー症候群を発症した2症例, 第3回日本リハビリテーション医学会春季学術集会, 2019年11月, 静岡
3. 泉本亮二, 安達幸恵, 阪本拓也, 白川 桂, 藤岡栄悟, 片岡宏一郎, 藪田拓武, 平林伸治:胸腰椎圧迫骨折後の骨格筋量変化, 第3回日本リハビリテーション医学会春季学術集会, 2019年11月, 静岡
4. 平林伸治:在宅で転倒したままで発見された症例のリハビリテーション, 第56回日本リハビリテーション医学会, 2019年6月, 神戸
5. 柿塚晴奈, 四釜淳子, 安達幸恵, 片岡宏一郎, 平林伸治:呼吸器疾患患者の摂食嚥下治療, 第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2019年9月, 新潟

6. 福井信佳(関西医療福祉大学 保健医療学部 リハビリテーション学科), 大澤 傑(大阪行岡医療大学 医療学部 理学療法学科):装飾用義手の使用実態調査, 第56回日本リハビリテーション医学会, 2019年6月, 神戸
7. 白川 桂:入院患者におけるphase angleと運動機能との関連性について, 第6回日本予防理学療法学会, 2019年10月, 広島
8. 白川 桂, 安達幸恵, 泉本亮二, 岸本 大, 廣田将史, 田中孝, 藤岡栄悟, 井手康裕, 阪本拓也, 麦田盛穂, 四釜淳子, 片岡宏一郎, 平林伸治:ビタミン不足における運動機能の回復について-5症例の報告-, 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2019年6月, 神戸

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
平林		平林		平林		平林		平林	

表2 年度別外来延べ患者数

	2017年度	2018年度	2019年度
外来	3,459	3,819	4,015

※2017.4 リハビリテーション科 新設

救 急 診 療 科

スタッフ 主任部長：岸 正司（救急診療センター長、感染対策室長、集中治療室長）
副 医 長：山村 武（～2019年9月）、生田武蔵
兼 任：暮部裕之（総合内科）
専 攻 医：高島大幸、高森啓成、山本将平（2019年11月）

1. 診療内容

救急外来初診患者の診察に加え、救急車にて来院された患者の初期対応を行い、必要に応じて各専門分野診療科や他院への紹介を行う。内科専攻医および、臨床研修医のプライマリケア、救急全般に対する診療能力の向上を目指した研修プログラムも担っている。

2. 診療体制

1) 外来診察スケジュール（表1）

3. 診療実績

1) 外来診療実績（表2）

2) 入院診療実績（表2）

4. 認定医・専門医など

日本救急医学会指導医 1名（岸）
日本救急医学会救急科専門医 2名（岸、生田）
日本内科学会認定内科医 2名（生田）

5. 業績

論文・著書

- Matsuyama T, Iwami T, Yamada T, Hayakawa K, Yoshiya K, Irisawa T, Abe Y, Nishimura T, Uejima T, Ohishi Y, Kiguchi T, Kishi M, Kishimoto M, Nakao S, Hayashi Y, Sogabe T, Morooka T, Izawa J, Shimamoto T, Hatakeyama T, Fujii T, Sado J, Kawamura T, Shimazu T, Kitamura T : Prognostic Impact of Serum Albumin Concentration for Neurologically favorable Outcome in Patients Treated with Targeted Temperature Management After Out-of-Hospital Cardiac Arrest: A Multicenter Prospective Study, Ther Hypothermia Temp Manag., 8(3):165-172, 2018年
- 廣瀬智也, 越宗厚子, 床櫻喜裕, 杉本雄太, 山田知輝, 岸 正司, 山吉 滋:交通渋滞が問題となった熊本地震における域外搬送時のカーナビゲーションの違いによる移動時間の検討,大警病医誌, 35:14-17, 2019年
- 安達幸恵, 岸 正司, 平林伸治:転倒後に横紋筋融解症と診断された症例のリハビリテーションと地域連携, 日職災医誌, 67:350-354, 2019年

学会発表

- 岸 正司, 草野孝文, 松岡哲也, 行岡正雄:大阪府における外国人観光客への救急医療の実態に関するアンケート調査, 第47回日本救急医学会総会, 2019年10月, 東京
- 岸 正司, 草野孝文, 伊原郁夫, 馬場武彦, 松岡哲也, 木野稔, :大阪府における外国人観光客の救急医療の実態についてのアンケート調査(最終報告), 第43回大阪府医師会医学学会総会, 2019年11月, 大阪
- 草野孝文, 岸 正司, 伊原郁夫, 馬場武彦, 松岡哲也, 木野稔:大阪府における高齢者救急医療の実態についてのアンケート調査(最終報告), 第43回大阪府医師会医学学会総会, 2019年11月, 大阪

表1 外来診察スケジュール

月		火		水		木		金	
午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
生田	生田	暮部	暮部	暮部	生田	暮部	生田/高森	生田	暮部
岸/高森	岸/高森	岸/高島	岸/高島	岸/高島	岸/高島	岸/高森		岸/高森	岸/高島

表2 年度別外来・入院延べ患者数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
外来	4,106	6,182	3,339	3,371	3,745
入院	3,756	3,939	4,597	5,830	6,559

検 査 診 断 科

スタッフ 部 長：小瀬戸昌博（総合内科担当部長、中央臨床検査部長）

1. 診療内容

日常診療において、診断・治療を行うには、正確かつ迅速な検査が求められる。

当院は地域医療支援病院として病診連携を進める上で、高度で専門的な検査を行うことや、患者さんへの継続的なケアを安定して受けていただくために、病診連携検査（CT、MRI、消化管検査、生理検査）を行っている。

検査診断科では、特に地域のかかりつけ医の先生方へ生理検査として、各種超音波検査（頸部エコー、甲状腺エコー、心エコー、腹部エコー、血管エコー）や呼吸器、循環器、神経学的検査を病診連携検査として行っている。

地域の様々な医療機関がその機能を十分に発揮しながら相互に連携することで、地域の患者さんを総合的、効果的かつ継続的にケアし、患者さんのための医療を目指していく。

病 理 診 断 科

スタッフ 部長代行：城光寺 龍

1. 診療内容

組織診断・細胞診断・病理解剖が当科の主な業務である。

日本病理学会認定登録病院、日本臨床細胞学会認定病院を取得している。病理学的診断を正確に行うために、臨床各科との密な情報交換を行い、臨床医が正確な診断と最適な治療法の選択ができるようにしている。またCPCを開催し、臨床医だけでなく研修医の教育・研修の質の向上にも取り組んでいる。

診断および検査精度の向上を図るために、日本臨床細胞学会及び日本臨床衛生検査技師会の外部精度管理に参加、更に免疫組織学および遺伝子検査手法を積極的に取り入れて、病理学的診断を正確に行うように努めている。

診療体制としては、病理診断管理加算Ⅰの算定を行なっているほか、病理部門システム（松波ガラスPathwindow）にて、標本作製過程へのバーコード導入により検体取り違い防止のための機構を導入しているほか、デジタル画像の報告書への添付も行っている。

新規診療内容としては、液状化細胞診（Thinprep）を非婦人科以外の材料へ広げ、標本作製の標準化および省力化を行っている。

一部医療機関との間で検査（免疫染色）の受託を行っている。

また診療上必要と思われる検査に関しても順次導入を行っている。

2. 診療体制

部長代行：城光寺 龍

（病理専門医、細胞診専門医、臨床研修指導医）

非常勤医師 2名（大阪大学、大阪警察病院より）

臨床検査技師（中央臨床検査部兼任）：

5名（細胞検査士3名）

事務職員（中央臨床検査部兼任）：1名

3. 診療実績

検査実績（表1）

組織診断：5,715件

細胞診断：11,307件

術中迅速診断：124件

病理解剖：10件（内科系8件、剖検率4.7%）

表1 検査実績

	組織診件数	細胞診件数 (うち予防医学センター)	術中迅速	剖検
2015	4,067	10,795(3,490)	127	16
2016	4,128	8,584(1,746)	111	14
2017	4,634	6,509(0)	93	12
2018	5,050	6,953(0)	134	5
2019	5,715	11,307(4,602)	124	10

2019年度はCPCの開催は9回行われ、内容は下記の如くであった。

- 第294回 8月5日：脾臓癌（消化器内科）
- 第295回 11月7日：脾臓癌術後、直腸癌術後（消化器外科）
- 第296回 11月8日：後天性血友病（血液・化学療法内科）
- 第297回 12月3日：急性心筋梗塞（救急診療科）
- 第298回 12月23日：腹部大動脈瘤破裂（総合内科）
- 第299回 1月24日：脾臓癌術後、脳出血および脳梗塞、誤嚥性肺炎（脳神経外科）
- 第300回 2月18日：心筋梗塞、糖尿病性腎症（腎臓内科）
- 第301回 2月18日：左室肥大（腎臓内科）
- 第302回 3月24日：後天性囊胞腎随伴腎細胞癌、十二指腸潰瘍（腎臓内科）

4. 業績

論文・著書

1. 細井文子, 尾崎公章, 岡藤 博, 沈嬌, 八田孝治, 矢野悠子, 高山敬範, 吉見佳奈, 佐伯典厚, 橋本奈美子, 城光寺龍: 当院で漿液性卵管上皮内腫瘍Serosus tubal intraepithelial carcinoma (STIC)を認めた2症例., 日生病院医学雑誌, 47:18-23, 2019年

学会発表

1. 城光寺龍, 三毛麻子, 佐藤和明, 森井英一: 外陰部に発生した近位型類上皮肉腫の1例, 第108回日本病理学会総会, 2019年5月, 東京
2. 尾崎公章, 細井文子, 城光寺龍: 細胞診で診断しえた子宮頸部内分分泌癌(小細胞癌)の1例, 第60回日本臨床細胞学会総会(春季大会), 2019年6月, 東京
3. 細井文子, 尾崎公章, 城光寺龍: 卵巣成熟嚢胞性奇形腫由来の境界悪性粘液性腫瘍から発生した腹膜偽粘液腫の一例, 第60回日本臨床細胞学会総会(春季大会), 2019年6月, 東京
4. 大嶽雄也, 隅田裕子, 角田道久, 水口洋一, 城光寺龍: 子宮原発悪性リンパ腫の一例, 第58回日本臨床細胞学会総会(秋季大会), 2019年11月, 岡山

研究会発表

1. 城光寺龍: 卵巣腫瘍の1例., 第19回大阪病理カンファレンス (OPEN), 2019年7月, 大阪
2. 城光寺龍: 腎臓腫瘍の1例, 第19回大阪病理カンファレンス (OPEN), 2019年7月, 大阪
3. 城光寺龍: 縦隔腫瘍の1例, 第20回大阪病理カンファレンス (OPEN), 2019年10月, 大阪

救 急 診 療 セ ン タ ー

スタッフ センター長：岸 正司（救急診療科主任部長、感染対策室長、集中治療室長）

副センター長：中川 厚（総合内科）、毛利年一（整形外科）

山村 武（～2019年9月）、生田武蔵（以上救急診療科）、宇都佳彦、暮部裕之（以上総合内科）、
佐藤智彦（脳神経内科）、生島裕文（消化器外科）、田村和義（脳神経外科）、行方雅人（整形外科）、
田中篤志（～2019年9月）（小児科）、大島 遥（形成再建外科）

専攻医：高島大幸、高森啓成（以上救急診療科）、鈴木茂仁、飛田哲志、佐藤 恵、高木康宏、
祐實紋矢香（以上総合内科）、新宮昂史（腎臓内科）、菊池香織（産婦人科）、
高木清司（神経科・精神科）、佐々木うらら（整形外科）、山下千佳紗（皮膚科）、
藤田裕人（耳鼻咽喉・頭頸部外科）

高崎かおり、新部里美、牧田佐和子、横田ひろみ、鈴木あかね、湯浅賀容子、河合洋子、
飯田志帆（以上看護部）

足立充司（薬剤部）、玉川雄一（中央臨床検査部）、藤丸泰一（中央放射線部）、出口暁子（栄養管理室）
重谷政憲（総務人事G）、宮本浩樹（診療情報管理室）

〈臨床研修医1年目〉

大西彩乃、落合 進、熊ノ郷有希、平井祐里、安井友紀、柳澤 篤、井口謙志

1. センターの概要

地域の救急医療における役割を意識しながら、その
中核として円滑に機能するよう心がけている。

センター長（救急科専門医、指導医）、救急診療科ス
タッフのみならず、関連する診療科を代表する副セン
ター長、内科当番医、外科系・内科系各科担当医（こ
れらの指導の下で臨床研修医等も）が、総合力で救急
患者の診療にあたっている。

2. 主な対象疾患

- ・重症度、内因・外因を問わず、当センター受審が
必要と判断する急性病態
- ・紹介すべき診療科が特定しづらい病態

3. 主な検査と治療

- ・救急室における呼吸・循環管理（人口呼吸器など）
- ・ポータブル画像撮影
- ・超音波検査
- ・創傷処置
- ・小手術
- ・洗浄処置

スタッフ センター長：川上 学

花田留美、玉井 裕、藤原優子（以上麻酔・緩和医療科）、田中敏雄（消化器内科）、
立花 功、甲原雄平、二宮隆介（以上総合内科）、高橋 励（神経科・精神科）、
水野 均（消化器外科）、前田 元（呼吸器外科）、西田幸弘（乳腺外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、福井辰成（泌尿器科）、小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、
前田宗宏（放射線診断・IVR科）、丸岡真太郎（放射線治療科）、
小山佐知子、大島千春、水越 梓、村上弘子、西川由佳子、増田ますみ、阪井理恵（以上看護部）、
宮 麻紀子（薬剤部）、浅野正宏（中央臨床検査部）、矢野勝之（中央放射線部）、
田中 孝（リハビリテーション室）、本家裕子（あったかサポートセンター）、丸山加奈（神経科・精神科）、
出口暁子（栄養管理室）、岩本愛佑美（医事サービス部）

1. 診療内容

「大阪府がん診療拠点病院」として、引き続き各領域で内容の充実に取り組んだ。

【主たる業務】

- 1) がんに関する集学的治療の充実
- 2) 緩和ケアチームの運営、緩和ケアに関する教育研修
- 3) がん治療に関する相談対応、情報提供
- 4) がん患者に対する口腔ケアの啓蒙と推進
- 5) がん登録の推進

【具体的内容】

1) 集学的治療

- ①多診療科・多職種が参加するカンサー・ボードを月1回の頻度で開催した。当番診療科（表1）の経験症例を中心に、それ以外の診療科における症例や緩和ケアチームが介入した症例に関する診断・治療方針の検討を行った。また、免疫チェックポイント阻害剤使用後に発生する免疫関連副作用やがんゲノム医療に関する大阪府下の体勢構築の進捗状況などに関して情報共有を行った。

②レジメン登録

化学療法運営委員会と連携し、レジメンの審査を行い、化学療法の安全確実な実施体制を構築した。

2) 緩和ケア

- ①緩和ケアチームによる介入、週1回の回診とカンファレンスを開催した。緩和ケアチーム依頼件数は239件であった。
- ②緩和医療啓発のための講演会の開催
2019年5月28日「がん支持療法に役立つ漢方薬」の演題で、芝大門いまづクリニック 今津嘉宏医師による講演会を開催した。
2020年2月3日「いまを幸せに生きる エンド・オブ・ライフ（EOL）ケアとACP（人生会議）」の演題で、（公財）田附興風会医学研究所 北野病院 緩和ケア科 梶山 徹医師による講演会を開催した。
- ③がん対策推進基本計画に定められているPEACEに基づく「緩和ケア研修会」については、日本生命

病院では開催しなかったが、他施設で開催された研修会への参加を推進し、1名が参加した。

3) 相談支援

①がん患者指導管理料イの算定

がんの診断を受けた患者に対して、PEACE研修会を受講した医師と有資格看護師（がん性疼痛看護認定看護師・乳がん看護認定看護師・がん化学療法認定看護師）とが共同して指導した場合に算定できるものであるが、219件に対して行った。

②がん患者指導管理料ロの算定

がん患者の心理的不安を軽減するための指導を152件に対して行った。

③がん患者指導管理料ハの算定

抗悪性腫瘍の投薬又は注射の必要性などについての説明を133件に対して行った。

④がん相談

がん治療に関する相談1,696件受けた。

⑤がんサロン（あったか茶論）の企画・運営

院内スタッフおよび院外講師を招いたミニ講座の企画および茶話会による交流の場の提供を行った。（表2）

4) がん患者に対する口腔ケアの啓蒙と推進

口腔ケアサポートチームの発足

- ・抗がん剤治療や放射線治療に伴う口腔合併症を軽減し、QOLの向上を目的として、大阪市西部圏域6歯科医師会の協力を得て、歯科医師と院内の他職種スタッフから成る口腔ケアサポートチームを発足した。
- ・2019年12月11日に「口腔機能障害の診方～問診を中心に～」の演題で、医療法人 美和会 小谷 泰子医師による講演を開催した。
- ・2019年12月12日「がん薬物療法を受ける患者の口腔健康管理」の演題で、西区歯科医師会 マキタ 歯科医院 槇田 雅之医師による講演を開催した。
- ・2019年12月27日から週1回の病棟ラウンドを9階病棟から開始した。

5) がん登録

がん登録を行い、大阪府がん登録事業に参加した。

表 1

開催月	当番診療科	参加人数
2019年		
4月	泌尿器科	37名
5月	消化器内科	38名
6月	緩和ケアチーム リハビリテーション科	44名
7月	放射線治療科	39名
8月	血液・化学療法内科	32名
9月	総合内科	26名
10月	放射線診断・IVR科	24名
11月	消化器外科	31名
12月	薬剤部 がん相談支援センター	39名
2020年		
1月	産婦人科	49名
2月	乳腺外科	32名
3月	泌尿器科	28名

表 2

開催月	テーマ	講師
2019年		
4月	治療中の爪と手のケア／ハンドケア	(株)スヴェンソン／看護部 看護師（医療リンパドレナージセラピスト・臨床アロマ講師認定）
5月	治療中に気をつけたい皮膚トラブル	皮膚科部長 医師（副院長）
6月	ストレスと上手な付き合い方	精神・神経科 公認心理師
7月	自分に合うリハビリカラーはどんな色？	ひといろプロジェクト カラーコーディネーター
8月	血液検査データの見方	中央臨床検査部長 臨床検査技師
9月	受けておこう！がん検診	ニッセイ予防医学センター 看護師長
10月	あなたが大切にしていることは？	看護部 乳がん看護認定看護師
11月	がん相談支援センターを利用しよう！&個別相談会	がん相談支援センター がん性疼痛看護認定看護師／認定がん専門相談員（MSW）
12月	安心して食べよう！年末年始	栄養管理室 管理栄養士
2020年		
1月	治療と血糖値と体重管理	看護部 糖尿病認定看護師
2月	これで安心！排便管理	看護部 がん化学療法看護認定看護師／薬剤部 薬剤師
3月	ヨガでほっこり	開催延期

女性骨盤底センター

スタッフ センター長：橋本奈美子

尾崎公章（～2019年8月）、潮田至央、吉見佳奈（～2020年1月）、高山敬範、八田幸治、岡 藤博、矢野悠子、沈 嬌、田中絢香、菊池香織（以上産婦人科）、山下晋也（消化器外科）、福井辰成、湊のり子（以上泌尿器科）、吉村恵利子、上久保沙友梨、吉岡眞奈、中西咲弥花（以上看護師）、藤本玲奈（助産師）、古久保有希子（薬剤部）、倉本訓子（中央臨床検査部）、山田純子（中央放射線部）、藤岡栄悟、安達幸恵（以上リハビリテーション室）、出口暁子（栄養管理室）、津野百合香（医事サービス部）

1. 診療活動

今般日本の高齢化はますます増加傾向にあり、女性の平均寿命は87歳と先進諸国の中でも上位に位置しており、それに伴い疾病構造は変化してきた。婦人科疾患領域では骨盤内臓器脱がその最たる疾患で、軽症まで含めると50歳以上の女性の約半数が罹患すると言われる、米国では女性の11%が手術を受けている。

骨盤内臓器脱は直接的な死因にはならないが、QOL（生活の質）をひどく低下させる疾患である。臓器脱の特徴として、どこに受診してよいか分からず、治療が遅れるという現状がある。また、腹圧性尿失禁も、比較的侵襲の低い手術によって著明に改善するものの受診をためらう女性が多い。

当センターは、これらの疾患を治療しより良い社会生活を再び過ごすことができるよう、サポートするために設立された。

1) 治療部門

〈外科的治療〉

- ・骨盤内臓器脱（膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤・小腸瘤・肛門脱）：腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC、RSC）、TVM手術、腔式子宮全摘術、脛壁形成術、会陰形成術、マンチェスター術、ル・フォー脛閉鎖術 等
- ・腹圧性尿失禁：中部尿道スリング手術（TOT手術）

●LSC（腹腔鏡下仙骨脛固定術）について

当院は2013年5月に全国で2番目にLSCの先進医療を取得した。2016年度診療報酬改定により保険収載された。2020年度診療報酬改定によりロボット支援下手術（RSC）が保険収載予定となり、当院でも2020年3月より導入した。

●TVM手術について

2010年より保険収載された、主に膀胱瘤に対する経脛メッシュ手術。疼痛・びらんなどの合併症のため2019年4月米国FDAより経脛メッシュ製品使用中の通達があった。現在、国内産メッシュを用いて施行可能であるが、当院では対象症例を限定し、慎重な対応を行っている。

【2019年度 入院手術件数】

LSC	25件
脛壁形成 (Native Tissue Repair; NTR) 他	23件
腔式子宮全摘 (VT)	13件
脛閉鎖	10件
TVM	2件
TOT	3件
合計	76件

〈保存的治療〉

- ・リハビリ指導（骨盤底筋体操）
- ・栄養指導（肥満等食事指導）
- ・切迫性尿失禁、過活動性膀胱（OAB）に対する薬物治療
- ・産褥尿漏れ（助産師外来）
- ・ペッサリー装着・指導

【2019年度 栄養指導件数】

合計32件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	3	3	5	4	3	6
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	4	2	1	1	0	0

【2019年度 リハビリ：骨盤底筋運動指導人数】 合計101件

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	5	10	10	10	9	8
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	9	8	8	4	8	12

2) 広報（サービス）部門

総合受付、予防医学センターでのパンフレット配布

スタッフ センター長：住谷 哲

中川 厚（循環器内科）、宇都佳彦、鈴木茂仁、祐實紋矢香（～2019年9月）、
北条未佳（2019年10月～2020年3月）（以上総合内科）、宇津 貴、光本憲祐、
新宮昂史（～2019年9月）（以上腎臓内科）、生田武蔵（救急診療センター）、福井辰成（泌尿器科）、
大島 遥（形成再建外科）、細野研二（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、
角南ちえ子、高山由美子、和田仁美、町田友里、北理香子、宇垣政江、石井泉美（以上看護部）、
古久保有希子（薬剤部）、倉本訓子（中央臨床検査部）、麦田盛穂（リハビリテーション室）、
出口暁子（栄養管理室）、徳山由佳（予防医学センター）、山中裕也（総合企画部）、
木下奈美（医事サービス部）

1. 診療内容

院内の各診療科医師および各部署のスタッフからなる糖尿病・内分泌センターのもとで活動を継続している。

2. 診療体制

糖尿病・内分泌センターでは、糖尿病患者および過食・運動不足などの生活習慣が関与する肥満・脂質異常症・高尿酸血症・高血圧症などの患者を中心に多職種スタッフによる診療を行っている。患者の日常の代謝動態や生活習慣上の問題点を把握し、疾病の進行や合併症の発症・進行を抑制することを目的としている。

1) 外来診察スケジュール

毎週月～金曜日の5日間、糖尿病看護認定看護師や管理栄養士を含む糖尿病療養指導士の資格を持つスタッフが中心となり、病態の評価および指導を行った。

2) 病棟体制

入院中の糖尿病患者を対象に、総合内科・看護部・栄養管理室・リハビリテーション室・中央臨床検査部・薬剤部の協力を得て、糖尿病に関する集団指導（糖尿病ふれあい教室）を週2日実施した。またDMT（Diabetes Management Team）回診を毎週水曜午後に行った。

3. 診療実績

1) 外来診療実績

①オーダーメイド糖尿病診療

30分枠の完全予約制で、患者の安静時代謝量・摂取エネルギー量・運動エネルギー量・身体能力を測定・評価し、患者毎の病態と生活習慣に応じた個別の栄養指導・運動指導・生活習慣指導を実施した。これらの指導は患者の病態や治療効果を考慮し複数回実施している。2019年度に当センターを受診した患者数は延べ2,111名（2018年度は1,890名）であった。

②糖尿病合併症の管理

糖尿病足病変のハイリスク患者を対象として糖尿病神経障害の評価と診断、足ケア、潰瘍・壊疽防止のための指導を実施した（糖尿病合併症管理）。2019年度における実施件数は121件（2018年度は99件）であった。

また、糖尿病腎症患者を対象に、医師・看護師・管理栄養士による透析予防のための指導も実施した（糖尿病透析予防指導管理）。2019年度における実施件数は754件（2018年度は389件）であった。

2) 入院患者の診療

①糖尿病集団指導

〈糖尿病ふれあい教室講師〉

鈴木茂仁、生田武蔵、加藤更紗、祐實紋矢香（総合内科）、宇津貴、光本憲祐、新宮昂（腎臓内科）、角南ちえ子、高山由美子（看護部）、野村浩英、古久保有希子、森岡浩子、宮原阿友美（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史、安達幸恵（リハビリテーション室）、倉本訓子、玉川雄一、渡辺温子、山下唯（中央臨床検査部）、徳山由佳（予防医学センター）出口暁子、松村寿美、坂本彩弥（栄養管理室）

2019年度における糖尿病ふれあい教室の参加患者数は延べ162名（2018年度は244名）であった。

3) 活動

①日本生命病院糖尿病フェアの開催

糖尿病の発症と進行抑止のために有益な情報提供を行うため、世界糖尿病デーにあわせて糖尿病に関する正しい理解のための啓発活動を実施した。当センターのスタッフを中心に、血糖測定、血管年齢測定、頸動脈エコー、医療相談などを実施した。

〈日時〉2019年11月22日（金）11：30～13：30

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

- ・血糖測定
- ・筋肉量・握力測定
- ・血管年齢測定
- ・栄養相談
- ・服薬相談
- ・医師相談 など

②公開セミナーの開催

患者および一般市民を対象に公開セミナーを開催した。

『2019年度第1回ニッセイ市民健康セミナー』

〈日時〉2019年6月29日（土）14：00～16：00

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

第1部

講演1：「美味しく減塩！腎症予防！」

（栄養管理室 坂本彩弥）

講演2：「眼瞼下垂のおはなし

～まぶたが開けにくくありません

か？～」

（形成再建外科部長代行 藤原敏弘）

第2部

「アマチュア落語寄席」

（桂文喬主宰 落語研究会）

『日本生命病院 糖尿病ランチ&セミナー』

〈日時〉2020年1月31日（金）12：00～14：00

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

第1部

バランス弁当の試食会

「バランス弁当～和食～を試食しよう」

第2部

講演1

「糖尿病と有酸素運動について」

（リハビリテーション室 新井聖章）

講演2

「糖尿病の最近の話題」

（糖尿病・内分泌センター長 住谷 哲）

講演3

「水溶性食物繊維のはたらき

～食後の血糖値抑制・排泄改善～」

（太陽化学株式会社 中川博樹氏）

③糖尿病患者友の会「錦会」に対する支援活動

糖尿病患者会の関連行事に対して支援活動を行った。

『第45回錦会総会』

〈日時〉2019年4月26日（金）12：00～15：00

〈場所〉日本生命病院1F あったかふれあいホール

〈内容〉

第1部

病院給食（糖尿病食）の試食会

第2部

講演：糖尿病・内分泌センター長 住谷 哲

4. 業績

論文・著書

1. 住谷 哲：そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第7回 TECOS, プラクティス, 36:363-365, 2019年
2. 住谷 哲：そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第8回 EMPAREG-OUTCOME, プラクティス, 36:489-492, 2019年
3. 住谷 哲：そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第9回 LEADER, プラクティス, 36:649-652, 2019年
4. 住谷 哲：そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第10回 PIONEER 6, プラクティス, 36:774-777, 2019年
5. 住谷 哲：続・そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第1回 DPP, 糖尿病プラクティス, 37:105-108, 2020年
6. 住谷 哲：続・そこが知りたかった 糖尿病の大規模臨床試験 第2回 ADDITION Cambridge, 糖尿病プラクティス, 37:239-242, 2020年

消化器内視鏡センター

スタッフ センター長：湯川雅彦（～2019年11月）、有坂好史（2019年11月～）

副センター長：有坂好史（～2019年11月）

村本 理、田中敏雄、萩原恭平、河田奈都子、花本浩一、北田隆起（以上、消化器内科）、
宇都佳彦（総合内科）、中村秀次、大山摩佐子、河面 聡（以上、予防医学センター）、
水野 均、生島裕文、永井健一、山下晋也（以上、消化器外科）、
芳賀宣子、榎本知奈美、村上真紀、杉浦理絵、佐藤麻衣子（以上看護部）、
足立充司（薬剤部）、浅野正宏（中央臨床検査部）、加藤千尋（臨床工学部）、
堤 貴司（総合企画部）（～2019年6月）

1. 診療内容

消化器内視鏡センターは、日本生命病院内視鏡室、ニッセイ予防医学センター内視鏡室、消化器内科、消化器外科を有機的に連携することにより消化器内視鏡関連業務の質の向上を目指している。安全、安心な苦痛の少ない内視鏡検査を心がけ、内視鏡検査のトレーニングを希望する医師を指導している。予防医学センターでの人間ドック、企業健診で要検査となられた方を対象に、日本生命病院での検査、加療を行い、消化器内科、消化器外科の連携により消化器癌の早期発見、早期治療を目指す。また、地域医療連携室経由で、上部内視鏡検査を直接予約できるよう便宜をはかり、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、日本大腸肛門病学会、日本消化管学会、日本膵臓学会、日本胆道学会の指導施設としての役割を果たしていく。

a. 検査・治療部門

上部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

内視鏡的静脈瘤結紮術（EVL）

内視鏡的胃瘻造設術（PEG）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

胆道系内視鏡

内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）

内視鏡的乳頭括約筋切開術（EST）

内視鏡的採石・砕石術

内視鏡的ステント挿入術（ENBD・ERBD tube）

超音波内視鏡（EUS）

超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）

超音波内視鏡下膵仮性嚢胞ドレナージ

管腔内超音波検査法（IDUS）

下部消化管内視鏡

通常内視鏡検査

内視鏡的粘膜切除術（EMR）

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

超音波内視鏡（EUS）

上部内視鏡検査：5,788件

下部内視鏡検査：2,312件（人間ドック込み）

予防医学センター 上部内視鏡検査：5,778件

b. 学術部門

研修医・コメディカル対象：カンファレンス

内視鏡室の通年での研修医への開放

c. 広報（サービス）部門

地域医療連携室経由での内視鏡業務開放

血 液 淨 化 セ ン タ ー

スタッフ センター長：宇津 貴

副センター長：福井辰成

水本 綾（腎臓内科）（2019年11月～）、吉川秀人（循環器内科）、光本憲祐（腎臓内科）、

新谷 隆（心臓血管外科）、湊のり子（泌尿器科）、金光俊行（泌尿器科）、

新宮昂史（腎臓内科）（～2019年9月）

河村理香、柏井由美子、安藤圭子、賀戸ひとみ、源 真子、村上智美（以上看護部）、

池田久雄（薬剤部）、加藤千尋（臨床工学室）、出口暁子（栄養管理室）、萩原佑気（医事サービス部）

1. 診療内容

腎臓内科・泌尿器科の医師スタッフ、看護部、ME部門、薬剤部、栄養管理部などの他職種が共同して診療を行うことを特徴としている。新病院移転後は外来透析を開始し、透析ベッドも3床から20床へ増床したため、他施設での外来透析患者の入院対応など幅広く対応している。2018年4月から心臓血管外科医師も当センターのメンバーに加わり、ブラッドアクセスの造設・再検を積極的に行っている。

また生理検査室の協力を得て、SPPを用いたフットケアなどにも新しく取り組んでいる。

2. 診療実績

透析導入患者 23名

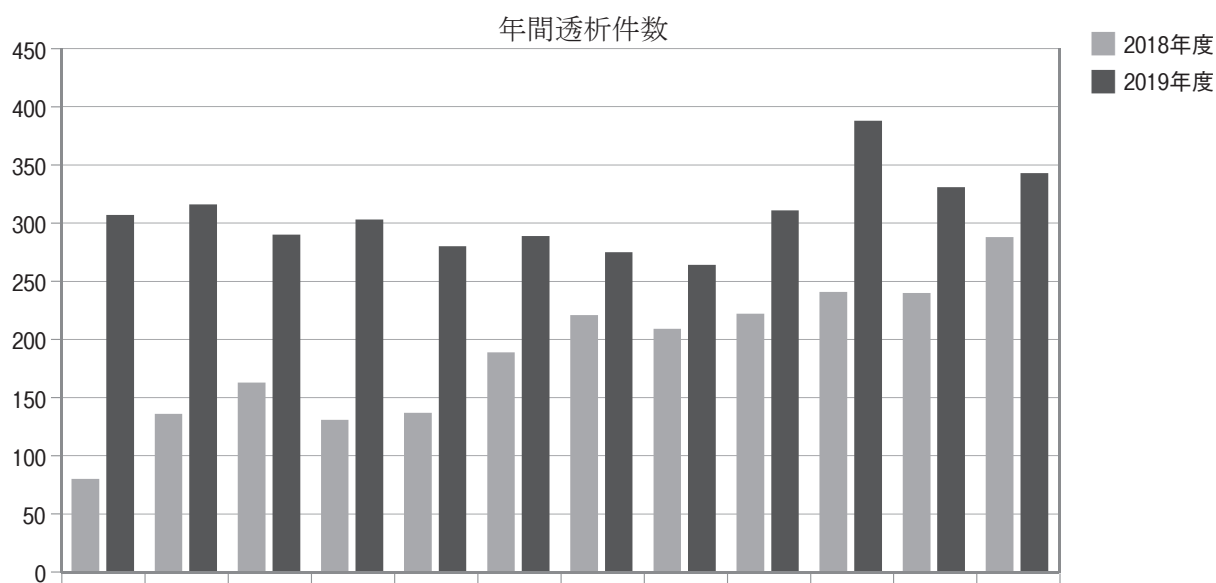
内シャント手術件数 25件

シャントPTA件数 19件

3. 専門医・指導医など

日本透析医学会専門医・指導医 2名（宇津・水本）

図1 2019年度 月別血液透析延べ件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
2018年度	80	136	163	131	137	189	221	209	222	241	240	288	2257
2019年度	307	316	290	303	280	289	275	264	311	388	331	343	3697

スタッフ センター長：笠山宗正（院長）（～2019年10月）、

芳川浩男（特任副院長、脳神経内科部長）（2019年11月～）

顧問：森 悦郎

仁科拓也、佐藤智彦（以上脳神経内科）、高橋 励、青木保典、鈴木由貴、

木藤友実子（以上神経科・精神科）、田村和義（脳神経外科）、酒井亜紀子、姉川友里江、

町田友里、井上けい子、森山綾乃、日高結衣、石川奈津美、福田洋子（以上看護部）、

阪本昂平（総務人事G）

1. 診療内容

新病院の新築・移転に際してはその基本構想に「高齢社会を支える診療機能の強化」「健康寿命延伸に向けた予防医療・先制医療の推進」を掲げ、認知症に係る診断・治療の強化を重点課題とした。この目的のために2017年4月に認知症疾患医療センター準備室（室長：森悦朗顧問）を新設し、具体的な検討と準備を進めてきた。

そして2018年4月に、認知症の予防・早期診断・治療を中心に脳機能障害をきたし得る疾患について幅広く診療する観点から、名称を「脳機能センター」とし、脳神経内科、神経科・精神科、脳神経外科の各診療科と看護部を中心としたチームによる体制を整備し診療を開始した。2019年11月芳川特任副院長が脳神経内科主任部長に赴任後は、笠山院長から芳川特任副院長にセンター長が変更された。

脳機能センターでは、種々の認知症性疾患や軽度認知障害（認知症前駆状態）、さまざまな原因による記憶障害、言語障害、高次脳機能障害に対する診療・セカンドオピニオン・コンサルテーションを実施してきた。治療法のみならず介護法にも原因疾患の診断と病態の把握が大きく関わるため、専門医による診察、詳細な神経心理評価、先進的な画像検査などを用いることにより原因疾患を診断することが重要である。認知症性疾患に対する治療から介護法や社会資源の利用についての指導までを含め、病態に合わせた治療を実施した。

2. 診療体制

外来診療では、脳神経内科および神経科・精神科の両診療科で、対象疾患の診療を行ってきた。特に、毎週月曜日午前と火曜日午後には神経科・精神科による「物忘れ外来」、隔週の水曜日午後には脳神経内科による「物忘れ外来」、木曜日午後には「脳機能障害外来」の専門外来を実施した。

認知症性疾患の診療においては、脳神経内科医、神経・精神科医、脳神経外科医が連携し診療を行った。3.0テスラMRI、脳血流SPECT、DATスキャン、MIBG心筋シンチグラムなどの高度医療器を用いた画像診断を行うとともに、公認臨床心理師および言語聴覚士による認知機能評価、認知症看護認定看護師による看護を実施した。

正常圧水頭症が疑われた患者については入院により精密検査を行い、適応となる患者に対しては脳神経外科でシャント手術を施行した。

3. 診療実績

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、前頭側頭型認知症、原発性進行性失語症、特発性正常圧水頭症、脳血管障害や外傷性脳損傷などに伴う高次脳機能障害などの診療を中心に行ってきた。入院および外来患者数を含む診療実績は脳神経内科および神経科・精神科の項に記す。

また、1ヵ月に1～2回、脳機能センターの全体カンファレンスを実施し、診断・治療困難な症例についての検討、診療技術の向上のための勉強会および情報共有を行った。

また、レビー小体型認知症を対象とした新規薬剤の臨床治験に参加した（継続中）。

4. 認定医・専門医など

日本神経学会専門医	3名（森、芳川、仁科）
日本神経学会指導医	2名（森、仁科）
日本認知症学会専門医	1名（森）
日本認知症学会指導医	1名（森）
日本老年精神医学会専門医	1名（芳川）
日本脳卒中学会専門医	2名（森、田村）
日本脳神経外科学会専門医	1名（田村）
日本精神神経学会専門医	2名（高橋、鈴木）
日本精神神経学会指導医	2名（高橋、鈴木）

5. 業績

論文・著書

1. Takeda Masanaka, Kasama Shuhei, Watanabe Shohei, Kimura Takashi, Yoshikawa Hiroo : Transient epileptic amnesia in a temporal lobe epilepsy patient with amygdala enlargement: a case study., Psychogeriatrics, 20(2):235-6, 2019年
2. Chang YT, Mori E, Suzuki M, Ikeda M, Huang CW, Lee JJ, Chang WN, Chang CC.:APOE-MS4A genetic interactions are associated with executive dysfunction and network abnormality in clinically mild Alzheimer's disease., Neuroimage Clin, 21:101621, 2019年

3. Itabashi R, Shigehatake Y, Yazawa Y, Endo K, Saito T, Fukuma K, Furui E, Mori E.: Phased changes in strategies can reduce delay of intravenous thrombolysis administration to 15min., J Neurol Sci, 403:59-64, 2019年
 4. Nakajima M, Kuriyama N, Miyajima M, Ogino I, Akiba C, Kawamura K, Kurosawa M, Watanabe Y, Fukushima W, Mori E, Kato T, Sugano H, Tange Y, Karagiozov K, Arai H.: Background risk factors associated with shunt intervention for possible idiopathic normal pressure hydrocephalus: A nationwide hospital-based survey in Japan., J Alzheimers Dis, 68:735-744, 2019年
 5. Watanabe H, Ikeda M, Mori E.: Logopenic progressive aphasia with neologisms: a case report., BMC Neurol, 19:299, 2019年
 6. Yasaka M, Minematsu K, Toyoda K, Mori E, Hirano T, Hamasaki T, Yamagami H, Nagao T, Yoshimura S, Uchiyama S; RELAXED study group.: Rivaroxaban administration after acute ischemic stroke: The RELAXED study., PLoS One, 14:e0212354, 2019年
 7. 佐竹祐人, 森 康治, 佐藤俊介, 繁信和恵, 森 悦朗, 池田学: 複数の医療施設を経由し, スムーズに福祉施設入所になげられた前頭側頭型認知症の一例., 精神科治療学, 34:691-697, 2019年
 8. 森 悦朗: 神経心理学の役割., 神経心理学, 35:64-69, 2019年
 9. 森 悦朗: レビー小体型認知症(DLB)に対する治験., 老年精神医学雑誌, 30:751-757, 2019年
 10. 森 悦朗: ドネペジルによるDLB治療の最新知見., 老年精神医学雑誌, 30:108-112, 2019年
 11. 森 悦朗: レビー小体型認知症の病態と診断., 日本医事新報, 4961:18-22, 2019年
 12. Mugikura S, Mori N, Kikuchi H, Mori E, Takahashi S, Takase.: Relationship between decreased cerebral blood flow and amnesia after microsurgery for anterior communicating artery aneurysm., Ann Nucl Med, 34:220-227, 2020年
 13. Watanabe H, Ikeda M, Mori E.: Primary progressive aphasia as a prodromal state of dementia with Lewy bodies: A case report., Front Neurol, 11:49, 2020年
- 学会発表**
1. 吉積一樹, 芳川浩男: クリーゼからの離脱にエクリズマブが有効であった浸潤型胸腺腫合併重症筋無力症の1例, 第37回日本神経治療学会学術集会, 2019年11月, 横浜
 2. 武田正中, 西 将光, 渡邊将平, 笠間周平, 木村 卓, 芳川浩男: てんかん性健忘を呈した患者の臨床的検討, 第53回日本てんかん学会学術集会, 2019年11月, 神戸
 3. 平塚真理, 渡邊将平, 藤原史奈子, 佐々木絢子, 徳原悠介, 吉積一樹, 谷仲裕美子, 西 将光, 森口紗矢香, 坂本 峻, 右近紳一郎, 末永浩一, 山本麻未, 笠間周平.: 治療抵抗性であった抗セントロメア抗体陽性感覚性ニューロパチーの一例, 日本神経学会第115回近畿地方会, 2019年12月, 大阪
- 研究会発表**
1. 芳川浩男: パーキンソン病の診断と治療, 江之子島マルチ医療フォーラム, 2019年11月, 大阪
 2. 芳川浩男: 脳神経内科医の役割, 第122回日本生命病院医学セミナーUpdate, 2020年1月, 大阪

スタッフ センター長：東山眞里（副院長、皮膚科部長）

田中久仁子、高田洋子、山下千佳紗（以上皮膚科）、辻成佳（整形外科）、友渕彰人（循環器内科）、北田隆起（消化器内科）、住谷 哲（総合内科）、佐藤智彦（脳神経内科）、宇津 貴（腎臓内科）、精神科医師、細野研二（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、谷井啓一（眼科）、平林伸治（リハビリテーション科）
高山由美子、山下利子、竹永由佳、灰谷直美（以上看護部）、
千原亜紀子（薬剤部）、片岡宏一郎、廣田将史（以上リハビリテーション室）、
松榮優子（あったかサポートセンター）
出口暁子（栄養管理室）、谷口真理子（臨床研究管理室）

1. センターの概要

乾癬は炎症性角化症に分類される難治性皮膚疾患で、約12%以上の患者に関節炎を併発する。いまだ完全に病因は解明されていない。皮膚症状、関節症状のため乾癬患者さんのQOLは身体的、精神的にも著しく障害されている。また有病率は増加傾向にあり人口の0.34%、43万人と推定される。乾癬の治療は最近10年で生物学的製剤の登場など新薬の開発も進み治療は飛躍的に進歩した。患者の重症度に応じた積極的な治療が求められる。一方近年乾癬は多くの併存症（メタボリック症候群、高脂血症、心血管系障害、糖尿病、関節炎、ぶどう膜炎、肺気腫、慢性腎不全、炎症性腸炎、骨粗鬆症、鬱病など）があり全身の炎症性疾患と認識されている。乾癬は皮膚のみならずトータルマネジメントを要する疾患である。乾癬患者のQOL及び生命予後の改善をめざして①最適な治療により早期かつ安全に皮膚症状・関節症状を寛解に導く②併存症の早期診断や治療により乾癬患者の健康状態の改善を図るとともに、合併症の発症を予防し心身ともに健全な状態に導く③大学やその他の医療機関と協力して乾癬に関する病態の解明、治療の進歩に貢献しうる臨床研究、臨床治験を行うことを目標に2019年4月に乾癬センターを開設した。当センターでは院内関連診療科、多職種の密なる連携による乾癬のトータルマネジメントを実践している。

2. 診療内容

1) 乾癬の皮疹の治療

適切な重症度の評価（皮疹の重症度・QOL障害・併存症）のもと、個々の患者のニーズに応じた最適な治療を患者とともに決定。外用治療、外用指導を重視し光線治療はエキシマライト、手足型光線照射機器、全身型ナロー照射機器、入浴PUVA療法などを選択。内服療法（エトレチナート・シクロスポリンA、アプレミラスト、メトトレキサート）は重症度、合併症、年齢などを考慮し選択。また既治療で効果不十分な患者には生物学的製剤も積極的に使用。

皮膚疾患ケア看護師（日本皮膚科学会認定）が、外

用指導、看護相談、生物学的製剤自己注射指導も行ない、患者さんの早期寛解をサポートしている。

2) 乾癬性関節炎の早期診断・治療

辻成佳医師（整形外科・リウマチ医、非常勤医）が火曜日に乾癬センターで乾癬性関節炎の患者の診断と治療を行っている。皮膚科医と密な連携により治療方針を決定。乾癬性関節炎の早期診断・治療に努めている。診察・関節エコー・骨単純撮影・MRI・血液検査などを実施し診断。治療は内服薬・生物学的製剤・リハビリテーションなどを行う。

3) 併存症の早期診断・予防

1. 院内関連診療科とのチーム医療

初診時 採血（高脂血症・糖尿病・肝機能障害・高尿酸血症・腎障害・感染症）血圧・体重・身長・BMI・腹囲測定、症例により頸部動脈エコーを施行。併存疾患が疑われると院内関連診療科へ紹介。紹介頻度の高い診療科一整形外科・リハビリ科・総合内科・循環器内科・腎臓内科・耳鼻科・脳神経内科・精神科・予防医学センターなどと横断的に乾癬患者の併存症の予防と治療を行う。また定期的に関連診療科、コメディカルスタッフとのカンファレンスを開催。

2. 外来での集団患者指導プログラム

当センターでは乾癬・乾癬性関節炎の早期改善・悪化予防・併存症の治療のため栄養指導・リハビリ指導・看護指導・看護相談・薬剤指導などを火曜日と木曜日の午後に実施。指導内容は、リハビリテーション科理学療法士による運動指導、看護師による生活指導や外用指導、管理栄養士による栄養指導（糖尿病・高脂血症・高尿酸血症・肥満など）

2019年2月より薬剤師により、薬剤について効果、副作用、注意点などに関して指導を行っている。

4) 乾癬に関する乾癬に関する病態の解明、治療に関する臨床研究、臨床治験

乾癬の病態や治療については、まだ完全に解明されはしない。当センターでは大阪大学や全国の乾癬治療施設と協力して乾癬に関する病態の解明、治療に関する共同研究を行っている。また院内の他科連携により臨床研究も今後すすめて行く予定。

また乾癬・乾癬性関節炎の新薬の臨床治験も実施している。

5) 地域医療機関との連携

2018年11月より乾癬、乾癬性関節炎に特化した、セミナーを当院で主催し、2019年11月7日に第2回「あわぎ乾癬セミナー」を開催。治療、診断について、講演や症例検討を行った。

3. 診療実績

①2019年度初診患者数

尋常性乾癬約150名、乾癬性関節炎35名

②患者指導件数

栄養指導 集団指導のみで79名

リハビリ体操指導 22名・個人指導 3名

臨床研修部

スタッフ 部長代行：宇都佳彦（総合内科）

医師：中川 厚（循環器内科担当部長）、水野 均（消化器外科主任部長）、
八田幸治（産婦人科）、岸 正司（救急診療科主任部長、救急診療センター長）

初期研修医：2年目 石田哲朗、城野美里、田中雅樹、田村友里、藤吉恵津子

1年目 大西彩乃、落合 進、熊ノ郷有希、平井祐里、安井友紀、柳澤 篤、井口謙志

事務：重谷政憲（総務人事G担当部長）、谷由美子（総務人事G主任）、阪本昂平（総務人事G）

1. 活動内容

新研修制度の開始に伴い、2005年度臨床研修部が創設された。各年度当院単独型（日本生命病院研修プログラム）での定員4名に加え、大阪大学、神戸大学からの1年目たすきがけ研修医が当院で研修を行う。ローテート科の変更など、個々の研修医の要望に柔軟に対応している。2018年度より、2年目研修医に日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）の基本的臨床能力評価試験を受験してもらい、研修医の臨床能力評価と研修プログラムの評価・改善に役立てることとした。

2019年度にはより一層の研修環境の充実を目指し、卒後臨床研修評価機構（略称JCPEP）を受審し、認定を受けた。

2. 実績

1) マッチング試験（2019年8月17日）

男性19名 女性24名、計43名が受験し、前年度より11名多かった。

小論文テーマ「医師・医学研究者にとって働き方改革とは」

募集定員4名マッチし、出身大学は愛知医科大学1名 京都府立医科大学1名 川崎医科大学1名 大阪大学1名であった。

2) JAMEP基本的臨床能力評価試験受験（2020年1月23日27日28日）

2年次研修医5名

3) 病院見学学生

男性49名、女性42名、計91名。

4) 病院説明会への参加

レジナビFair（2019年7月7日インテックス大阪）
ブース訪問学生：6年生：6名、5年生：100名、
4年生：12名、計118名

eレジフェア（2019年10月13日 西日本）

ブース訪問学生：5年生：11名、4年生：52名、
3年生1名 計64名

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科部長、がん治療センター長、化学療法室長）
玉川雄一（中央臨床検査部）

1. 診療内容

輸血管理室では、病院内で行われる輸血業務の全般を行い、管理している。業務は、厚生労働省が策定した「輸血療法の実施に関する指針」（改訂版）及び「血液製剤の使用指針」（改訂版）に基づいて行っている。

2. 診療体制

1) 輸血の管理体制

①担当技師

玉川が担当技師として輸血検査業務の指導を行っている。時間外・休日は、検査技師が24時間体制で輸血検査を行っているが、必要に応じて担当技師がバックアップをしている。

②責任医師

川上が責任医師として、輸血副作用や輸血業務に関するコンサルテーションに応じている。

③輸血療法委員会

院内の各職種（医師、看護師、薬剤師、検査技師、医事担当）からなる委員会を2ヵ月に1回開催し、血液の使用状況調査、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症の把握などを含め、輸血業務の効率化・安全性向上のための対策などについて検討している。

3. 診療実績

1) 血液製剤の使用状況

①赤血球液（RBC）	3,132単位
自己血	58単位
②新鮮凍結血漿（FFP）	476単位
③血漿交換療法におけるFFP	28単位
④アルブミン	1,594.5単位
濃厚血小板	8,130単位

*FFPおよびアルブミンの使用量は、適正とされる基準

FFP/RBC比 = $(② - ③) / ① = 0.14 < 0.54$

アルブミン/RBC比 = $④ / ① = 0.51 < 2$

を満たしていた。

2) 血液製剤の廃棄状況

RBC 26単位、FFP 22単位、PC 0単位

3) 2019年度における変更点

①造血幹細胞輸注時の電子カルテでの照合

自家・同種造血幹細胞移植に用いる末梢血幹細胞、骨髓血、臍帯血の保管及び患者への輸注時における照合を輸血管理システムで管理する運用を開始した。幹細胞の保管は電子カルテ上の「自己血採血依頼指示」から行うが、同種移植において照合を可能にする目的で、保管を患者（レシピエント）の電子カルテ上で行う運用を、2019年7月から開始した。

②テムセルHS注の輸血管理システムでの管理

血液・化学療法内科にて、同種造血幹細胞移植後の難治性移植片対宿主病（GVHD）の治療に用いるヒト（同種）骨髓由来間葉系幹細胞『テムセルHS注』の保管・輸注を、輸血管理システムで管理する運用を2019年10月から開始した。

③危機的出血時における出血非常事態宣言の運用

出血非常事態（24時間以内に循環血液量に相当する量の出血を認める・予測する、または100mL/分以上の急速輸血を要する場合）が発生した場合、赤血球10単位、新鮮凍結血漿 12単位、血小板10単位を輸血する大量輸血プロトコール（MTP）を迅速に実施する手順を作成した。手術室における運用を2020年3月2日から開始した。

4. その他

輸血教育講演会（年1回）

2020年1月24日「輸血による止血戦略 大量出血、中心静脈カテーテル挿入への対応」と題して、血液・化学療法内科 川上による輸血療法講演会を開催した。参加者は109名であった。

化 学 療 法 室

スタッフ 室 長：川上 学（血液・化学療法内科部長、がん治療センター長、輸血管理室長）

看 護 師：大島千春（がん化学療法看護認定看護師）、増田ますみ、里井景子（以上看護部）

1. 診療内容

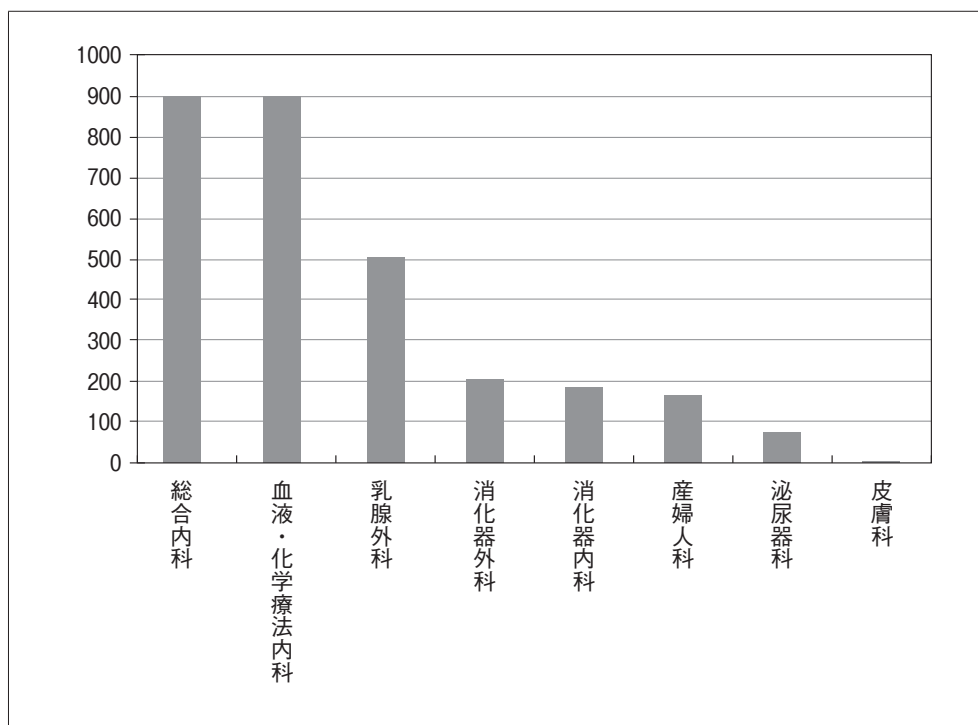
外来通院での抗がん剤治療、関節リウマチなどの膠原病や乾癬などの自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与などの専用治療室として運用、外来化学療法加算を算定している。特に、消化器・一般外科、乳腺外科、産婦人科の症例は、がん化学療法看護認定看護師が化学療法開始前にカウンセリングを主体とする面談を行い、患者及び家族の治療に関する疑問や不安の軽減に努めている。また、入院から外来移行時にオリエンテーションを行い、滞りない外来治療への移行をサポートしている。治療中は、患者及び家族に副作用のセルフモニタリングを指導し、自宅で起こった副作用の対処は随時電話相談を受けながら、速やかに対応できる体制を整えている。また、患者さんのプライバシーに配慮し、希望者には個室ベッドの運用を開始した。

2. 診療実績

化学療法室利用者件数は、総数3,163件（前年度比+500）で、その内化学療法加算の算定（点滴抗がん剤の投与）件数は2,947件（前年度比+509）で、診療科別の内訳は図1の通りであった。尚、総合内科、消化器内科、皮膚科の集計には、各々関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎、乾癬に対する生物学的製剤の投与が含まれている。

尚、個室の利用は29件であった。

図1 2019年度 診療科別化学療法加算算定件数



スタッフ 室長：平林伸治（リハビリテーション科部長）

理学療法士：片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将史、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、安達幸恵、
泉本亮二、井手康裕、新井聖章、藪田拓武

作業療法士：鶴谷高志、妹尾昌洋、阪本拓也

言語聴覚士：四釜淳子、柿塚晴奈、渡部宏幸

1. 診療内容

各診療科からのリハビリテーション（以下 リハ）依頼に対し、身体機能の向上を目標に理学療法士と作業療法士、言語聴覚士が連携し合いながら最良のリハ医療を提供してきた。

リハの内容は、急性期の運動器疾患・脳血管疾患・呼吸器疾患・悪性疾患・循環器疾患の患者などを中心に実施し、それぞれの疾患に対応した個別のプログラムを実践してきた。運動器リハは関節の変性や炎症疾患、体幹・上・下肢の外傷や骨折、熱傷瘢痕による関節拘縮、高齢者の方の運動器不安定症などの患者が対象となり、2019年度は9,744件の実績があった（前年度より16%増）。脳血管疾患等リハは脳梗塞、脳出血、ギランバレー症候群等、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患（筋萎縮性側索硬化症）、末梢神経障害、皮膚筋炎、多発性筋炎などの患者が対象となり、6,182件の実績があった（前年度より6%増）。呼吸器リハは肺炎、無気肺、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、全身麻酔手術をする患者の手術前後の呼吸機能訓練を要する患者が対象となり、2,065件の実績があった。がんリハは消化器疾患、呼吸器疾患、血液疾患、乳がんなどの患者に対し治療により生じた疼痛、筋力低下、障害等に対して二次的障害を予防し、運動機能の低下や生活機能の低下予防・改善を目的とする患者が対象となり、5,611件の実績があった（前年度より22%増）。心大血管疾患リハは、心筋梗塞、心不全、不安定狭心症、閉塞性動脈硬化症、ペースメーカー植え込み術などの患者に対し、運動耐容能の向上や運動習慣の習得を目標とする患者が対象となり、3,248件の実績があった。廃用症候群リハは、外科の開胸開腹手術、泌尿器科手術、婦人科手術後などの廃用予防、嚥下障害、脱水症、皮膚疾患、胆のう炎などの患者が対象となり、6,747件の実績があった（前年度より71%増）。

総合計件数は33,597件で、前年度より18%増加した。

早期リハを継続して行うために、連休を中心に休日にもリハを実施し、早期離床を促した。

地域連携としては、退院後の生活について不安を抱えている入院患者に対して退院前に自宅を訪問してきた。手すりなどの環境整備を確認したり、自助具の活用方法について指導を行った。退院後の生活においてADLなどの支障が出てきた場合は訪問看護ステーションを通じて訪問リハを実施し、在宅でのADL指導や運動方法を説明しQOLの向上に努めた。

地域への情報発信として運動領域における講演を院内外で行った。

予防領域においては、ウィークエンド糖尿病・メタボ精査入院などにおいて個々の患者に対する運動機能評価

を行い、その結果をもとにオーダーメイドの運動指導を行った。

チーム医療においては、リハカンファレンスの定期的な開催や循環器内科部長回診・乳腺外科部長回診・整形外科部長回診・NST回診・RST回診や、糖尿病回診などに同行するとともに、緩和ケアカンファレンスなどへの参加を行い、ADLを阻害している現象の把握や原因の追求を行った。また、糖尿病ふれあい教室での運動指導、女性骨盤底センターからの紹介に対する骨盤底筋体操の指導など、他職種との連携を図りながらリハの専門性を発揮した。言語聴覚士による言語機能訓練や摂食嚥下機能療法を実施し、口腔機能の改善や食糧提案に向けて取り組んだ。

リハの質向上においては、院内での勉強会はさることながら院外での講習会や研修会にも自主的に参加し、最新の情報を収集しその内容をスタッフ間で共有した。さらに心臓リハ指導士（1名）、呼吸療法認定士（2名）、糖尿病療養指導士（2名）、がんのリハビリテーション研修会修了者（15名）などの資格を有するとともに、関連学会である日本リハビリテーション医学会、日本心臓リハビリテーション学会、呼吸ケアリハビリテーション学会、ペインクリニック学会などに所属し、最良の医療が臨床の中で活かせるよう努めた。学術活動においては、病院の特性を生かした症例を対象にデータを集め、リハ医療を向上させるために関連学会にて発表や論文投稿を行った。

リハ教育分野においては、リハ関連学科の大学や専門学校から実習生を積極的に受け入れ、教育しやすい環境を整備した。

2. 施設基準

- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅱ）

3. 業績

論文・著書

1. 白川 桂、安達幸恵、泉本亮二、阪本拓也、四釜淳子、片岡宏一郎、平林伸治、村上輝明（救急診療科）、生田武蔵（救急診療科）、岸 正司（救急診療科）：早期治療によりADLが自立したWernicke脳症患者の身体機能の回復経過について、日生医誌、47:27-32、2019年
2. 安達幸恵、平林伸治、岸 正司（救急診療科）：転倒後に横紋筋融解症と診断された症例のリハビリテーションと地域連携、日本職災医誌、67:350-354、2019年

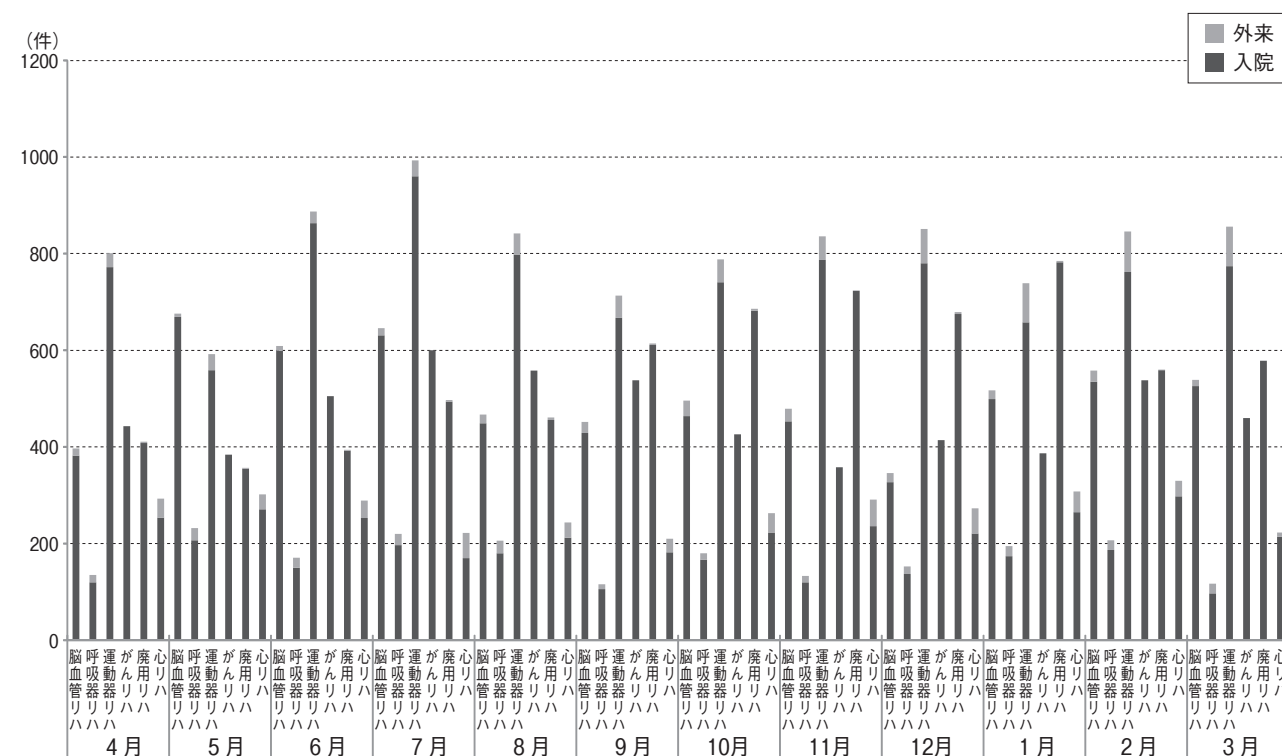
学会発表

1. 麦田盛穂, 片岡宏一郎, 平林伸治, 角南ちえ子, 倉本訓子, 出口陸子, 住谷 哲, 笠山宗正: 2型糖尿病患者におけるインスリン抵抗性と骨格筋量との関連について, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 仙台
2. 安達幸恵, 泉本亮二, 白川 桂, 片岡宏一郎, 麦田盛穂, 廣田将史, 田中 孝, 藤岡栄悟, 四釜淳子, 平林伸治: がん治療中にギランバレー症候群を発症した2症例, 第3回日本リハビリテーション医学会春季学術集会, 2019年11月, 静岡
3. 泉本亮二, 安達幸恵, 阪本拓也, 白川 桂, 藤岡栄悟, 片岡宏一郎, 藪田拓武, 平林伸治: 胸腰椎圧迫骨折後の骨格筋量変化,

第3回日本リハビリテーション医学会春季学術集会, 2019年11月, 静岡

4. 柿塚晴奈, 四釜淳子, 安達幸恵, 片岡宏一郎, 平林伸治: 呼吸器疾患患者の摂食嚥下治療, 第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 2019年9月, 新潟
5. 白川 桂: 入院患者におけるphase angleと運動機能との関連性について, 第6回日本予防理学療法学会, 2019年10月, 広島
6. 白川 桂, 安達幸恵, 泉本亮二, 岸本 大, 廣田将史, 田中孝, 藤岡栄悟, 井手康裕, 阪本拓也, 麦田盛穂, 四釜淳子, 片岡宏一郎, 平林伸治: ビタミン不足における運動機能の回復について-5症例の報告-, 第56回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2019年6月, 神戸

図1 2019年度 月別脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・がんリハ・廃用リハ・心リハ件数



	4月						5月						6月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	382	120	772	443	408	254	669	207	559	384	355	271	599	150	863	505	392	253
外来	15	15	29	0	3	39	7	25	33	0	2	31	10	21	24	0	2	36

	7月						8月						9月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	631	197	960	600	494	170	449	180	798	558	456	212	429	106	667	538	611	182
外来	15	23	33	0	3	52	18	26	44	0	5	32	23	10	46	0	3	28

	10月						11月						12月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	464	167	741	426	682	223	453	120	787	358	723	236	327	137	780	414	675	221
外来	32	13	47	0	4	40	26	13	49	0	1	55	19	16	71	0	4	52

	1月						2月						3月					
	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ	脳血管リハ	呼吸器リハ	運動器リハ	がんリハ	廃用リハ	心リハ
入院	499	174	658	387	782	265	535	187	762	538	559	298	526	97	774	460	578	214
外来	18	21	81	0	3	43	23	20	84	0	1	32	13	20	82	0	1	9

中央手術管理部

スタッフ 部 長：水野 均（消化器外科主任部長）
部 長 代 理：花田留美（麻酔・緩和医療科）
医 師：小関萬里（特任顧問、外科統括）、前田 元（特任副院長、呼吸器外科）
西田幸弘（乳腺外科）、新谷隆（心臓血管外科）、
橋本奈美子（産婦人科）、田村和義（脳神経外科）、毛利年一（整形外科）、
東山眞里（副院長、皮膚科）、金光俊行（泌尿器科）、谷井啓一（眼科）、
小泉敏三（耳鼻咽喉・頭頸部外科）、藤原敏宏（形成再建外科）（～2019年9月）
看 護 師：木下園子、下山優子、湯川恵理
医療技能職：野村浩英（薬剤部）、三木和美（臨床工学室）
事 務：寺野純一（情報システムG）、田中大輔（施設用度G）

1. 概要

中央手術管理部は手術室の効率的な運営等を目的として、2015年4月に中央管理部門の一つとして新設され、現在に至っている。2016年1月に呼吸器外科が新設。2017年4月には形成再建外科が皮膚科から独立した。8月からは眼科手術も再開された。2018年4月に新築移転・開院し、手術室は旧病院の5室から7室に増え、新しい診療科として脳神経外科と心臓血管外科が加わった。これらの結果、2019年度の手術件数は3,583例で、このうち全身麻酔手術数は1,942例であった。手術件数は116例増加した。（前年度は手術件数3,467例、全身麻酔件数1,846例）

2. 診療内容

〈主たる業務〉

- 1) 医療機器、手術材料、薬剤並びに手術枠等、手術室全般の適切な運営管理
- 2) 安全で質が高くかつ効率的な手術室運営の企画実施

3. 診療実績

- 1) 毎月第2週月曜日に「中央手術管理部定例会」を開催し、効率的な運営のために各診療科の実績や要望に応じて手術枠の変更を随時行っている。また、手術室で発生したインシデント・オカレンスの共有を行うことにより、更に安全な手術室運営を目指している。その他、各診療科の担当者により新規購入物品のプレゼンテーションを行うことにより、手術室内にある物品に対して共通の認識を持つための取り組みを行い、コスト削減、効率的な運用を行っている。

- 2) 2015年度より情報システム室との協働で「手術申込状況共有システム」を電子カルテ上で構築し、いつでも誰でもが手術申込状況を確認することができるようになっている。学会等で手術が入らない場合には手術枠の放出を行い、他の診療科が利用することによって効率的な運用を行っている。予定手術枠に対する占有率は、麻酔科関与ありのもので平均84.3%であった。
- 3) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた前立腺癌、子宮体癌、子宮筋腫の手術は確立され、臨床工学技士と協働し「ロボット支援手術の緊急対応に関するマニュアル」の作成を行った。2020年3月より仙骨腔固定術保険適用開始に伴い施設基準要件を満たし、2020年4月以降の保険適用開始を目標とした活動を開始した。
- 4) 2019年12月、大量出血に対する非常時対応の取り決めの運用についての検討が開始された。

中央臨床検査部

スタッフ 部長：小瀬戸昌博（総合内科担当部長、検査診断科部長）

特任顧問：内藤博昭

医療技能部長／技師長：浅野正宏

1. 組織体制

常勤：29名（育休2名含）。パート・再雇用等：2名。
（2020年3月末時点）

2. 主な実績

◇以下の4事項を組織目標とした。

- 1) 部門間の連携を強め、効果的な業務を推進する。
 - ・各部門・日当直マニュアルの全てを見直した。
 - ・採血業務を患者サービスの起点と位置づけ、待ち時間20分を目安にスタッフ全員が採血業務を担当し安定した運用になった。
- 2) 各部門の生産性向上を図る。
 - ・ターン・アラウンド・タイム；TATによる業務検証を行い、各部門の検査結果報告までの所要時間の標準化に取り組み、概ね明確にすることができた。
 - ・臨床検査に関わる情報発信と集約手段の標準化に取り組み始めた。
- 3) 医療技術向上のための知識・技能取得に努め、スペシャリストとゼネラリストを両立する。
 - ・勉強会の定期開催：全13回
 - ・中検主催以外の研修会、勉強会にすべてのスタッフが6回以上参加した。
 - ・学術発表、講演、論文等は5回実践した。
 - ・人間力を培うための人材育成研修開催：全6回
- 4) 経営的視点での各部門の管理のための行動力を高める。
 - ・PDCAサイクルの実践の実績を重ね、減価償却、経費削減をマネジメントに盛り込んだ。

◇検体検査室【生化学、免疫、血液、止血凝固、尿一般】

- 1) 生化学・血液凝固止血・輸血・血液ガスを含む「緊急出血検査」セットの見直しをした。
- 2) 可溶性インターロイキン2受容体抗体を院内測定にした。
- 3) 生化学検査 基準値の見直し
日本臨床検査標準協議会；JACCLSの共用基準値を採用（前回、2017年に採用した項目を除く）した。
- 4) その他、BUNの試薬（アンモニアの影響を回避）変更。血清カルシウム測定試薬を測定系が安定している酵素法へ変更。アルカリフォスファターゼ（ALP）、乳酸脱水素酵素（LDH）を国際臨床化学連合；IFCC対応（試薬・基準値変更）した。

◇微生物検査室

- 1) クロストリディオイデス・ディフィシル検査におけるグルタミン酸デヒドロゲナーゼ；GDHとトキシンの検査体制を新設した。
- 2) 薬剤感受性試験の測定法と試薬の一部変更
試薬・資材の安定供給を目的に液体希釈法、ディスク法等に変更した。
- 3) 抗酸菌培養法の検出感度・特異性を上げるため、液体培地と固形培地の併用検査にした。

◇生理検査室

検査依頼枠と検査のための患者向け案内文の見直しをした。

◇病理検査室と輸血検査、予防医学センター検査室については、病理診断科と輸血管理室、予防医学センターの項を各々参照にされたい。

◇精度管理

臨床検査の第三者評価として、日本臨床検査技師会、日本医師会、大阪府医師会、大阪府臨床検査技師会精度管理調査に参加し、いずれも良好な評価を得ることができた。

◇臨地（学生）実習

2大学、1専門学校の計5名の実習生を受け入れた。

3. 業績

論文・著書

1. Noriko Kuramoto, Masakazu Koshibu, Midori Ishibashi, Ayako Miyazaki, Satoru Sumitani, Soji Kasayama, Tsutomu Hirano, Masafumi Koga: Two case with Hb Andrew-Minneapolis showing high or low-normal HbA1c levels depending on the measurement method, Clinica Chimica Acta, 501:229-233, 2020年

学会発表

1. 大嶽雄也, 隅田裕子, 角田道久, 水口洋一, 城光寺龍: 子宮原発悪性リンパ腫の一例, 第58回日本臨床細胞学会秋季大会, 2019年11月, 岡山市
2. 倉本訓子, 若原達哉, 玉川雄一, 住谷 哲, 小瀬戸昌博, 笠山宗正, 宮崎彩子, 古賀正史, 石橋みどり, 小沢正和, 平野 勉: HbA1cがHPLC法により偽高値を示した異常ヘモグロビン Hb Andrew-Minneapolisの2症例, 第62回日本糖尿病学会学術集会, 2019年5月, 仙台

中央臨床検査部 2019年度 主な実績

(件)

部門	領域	項目名	2017年度	2018年度	対2017年度 %	2019年度	対2018年度 %
検体検査	生化学	血糖	93,721	95,738	2.1	102,325	6.9
		HbA1c	56,101	59,658	6.3	61,959	3.9
		総蛋白	92,625	96,563	4.2	102,106	5.7
		電解質	93,818	97,629	4.0	102,163	4.6
		APTT	10,961	11,739	7.0	13,120	11.8
		血液ガス（動・静・臍帯）	3,991	5,024	25.8	6,553	30.4
	血液学	血算	121,833	127,567	4.7	128,373	0.6
		骨髓検査	227	221	-2.6	254	14.9
	一般（尿）	尿定性	51,449	56,753	10.3	57,293	1.0
	便潜血	ヒトヘモグロビン	29,961	32,845	9.6	33,063	0.7
	免疫学	アデノウイルス（迅速抗原検出キット）	679	656	-3.3	423	-35.5
		RSウイルス（迅速抗原検出キット）	173	176	1.7	101	-42.6
		インフルエンザウイルス（迅速抗原検出キット）	1,700	1,180	-30.5	1,128	-0.4
		StreptA（迅速抗原検出キット）	730	669	-8.3	472	-29.4
		CEA	11,110	12,401	11.6	15,620	25.9
		CA19-9	5,480	6,386	16.5	8,124	27.2
		シフラ	728	1,557	113.8	1,988	48.5
		ProGRP	1,194	1,338	12.0	1,515	13.3
		PSA	6,296	6,566	4.2	7,338	11.8
		TSH	13,634	15,178	11.3	16,634	9.6
		インスリン	6,451	6,462	0.1	7,158	10.8
		HBsAg	13,922	15,396	12.9	15,791	2.6
		HCVAb	13,412	14,568	4.6	14,922	2.4
	輸血学	血液型	5,340	6,296	17.9	6,184	-1.8
		交差適合試験	1,533	1,668	8.1	1,893	11.8
微生物検査	一般細菌培養	呼吸器	2,220	2,372	22.6	2,634	11.0
		消化器	744	968	30.1	931	-3.8
		泌尿器・生殖器	1,948	2,390	22.6	2,388	0.0
		血液・穿刺液	3,746	4,159	11.0	4,614	10.9
		その他	1,359	1,684	23.9	1,681	-0.1
生理検査	超音波	心臓	3,550	3,923	10.5	3,950	0.7
		頸動脈	1,110	1,093	-2.5	1,056	-0.3
		四肢血管	956	1,369	43.2	1,252	-8.5
		経食道心臓	17	14	-17.6	17	21.4
		腹部	4,919	5,073	3.1	4,991	-1.6
		腎動脈	101	197	95.0	255	29.9
		脾精密	136	80	-42.1	92	15.0
		腹部造影	26	24	-8.3	19	-20.8
		表在	719	718	-0.2	715	-0.4
	心電図	安静	11,195	12,090	7.9	12,297	1.7
		CVR-R（自律神経R-R間隔）	192	180	-6.2	175	-2.8
		マスター運動負荷試験	341	277	-18.7	200	-27.8
		トレッドミル運動負荷試験	206	126	-38.9	116	-7.9
	肺機能	一般	4,321	4,909	44.0	4,688	-4.5
		呼気中一酸化窒素濃度（NO）	2,030	1,978	-2.5	2,334	18.0
		精密	67	52	-22.3	55	5.8
	他の循環器・呼吸器系生理	24時間ホルター心電図	275	257	-6.5	180	-30.0
		24時間自動連続血圧	68	35	-48.5	43	22.9
		簡易睡眠時無呼吸（SAS）	87	92	5.7	91	-1.0
		ABI・TBI（足関節上腕血圧比・足趾上腕血圧比）	1,394	1,332	-4.5	1,136	-14.7
		SPP/TCPO2（皮膚還流圧測定/経皮酸素分圧測定）	—	54	—	62	14.8
		CPX（心肺運動負荷試験）	8	13	62.5	33	153.8
		アデノシン負荷心筋シンチ	138	118	-14.5	87	-26.3
	神経系生理	神経伝導	234	234	0.0	205	12.3
		脳波	274	299	9.1	305	2.0
	耳鼻科系生理	平衡機能検査（VOG、重心動揺、VEMP）	206	346	67.9	389	12.4
		聴力検査（純音、語音、ティンパノ、OAE）	1,212	1,747	44.1	1,881	7.7
		神経検査（ABR、味覚、ENoG）	21	25	19.0	32	28.0

中央採血室 採血患者数

※ 65,829

73,514

※2018年5月より新病院移転と新採血システムになったため、4月分を除外している。

※輸血学 交差適合試験の2017年度、2018年度 集計を上記に訂正する。

中 央 放 射 線 部

スタッフ 部 長：前田宗宏（放射線診断・IVR科部長）

担当部長：長澤浩造（技師長）

在津裕明、新谷泰正、藤丸泰一、山田純子、中濃智絵、北埜希望、谷川鮎美、白石奈菜、芝 理賀、
勘田雅浩、矢野勝之、安藤 真、奥 昂祐、越智由知、坂田航矢、安部 弘、川畑孝司

1. 診療内容

質の高い検査・治療の提供にスタッフ全員で取り組んでいる。また、24時間検査体制にも対応し、緊急検査の充実に取り組んでいる。

2. 診療体制（機器）

CT	2台（320列・320列）
MRI	2台（3.0T・1.5T）
PET/CT	1台
RI	1台
リニアック	1台
治療計画用CT	1台（16列）
一般撮影	2台
X線TV	2台
乳房撮影	1台
骨塩定量	1台
アンギオ	2台
結石破碎	1台
外科用イメージ	3台
ポータブル	2台

4. その他

1) 取得資格

第1種放射線取扱主任者	1名
健診マンモグラフィ認定技師	6名
放射線治療専門放射線技師	3名
放射線治療品質管理士	2名
胃がんX線検診技術部門B資格	1名
放射線管理士	2名
放射線機器管理士	2名
X線CT認定技師	3名
臨床実習指導教員	1名
診療放射線技師実習施設指導者	10名

3. 診療実績（2019年度 検査件数）

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
CT	1,213	1,189	1,231	1,382	1,176	1,306	1,414	1,252	1,201	1,264	1,145	1,223	14,996
MRI	573	590	626	664	636	595	591	596	589	526	518	554	7,058
RI	78	66	79	91	73	81	84	73	67	67	68	66	893
PET/CT	50	36	30	47	29	27	29	38	30	31	34	34	415
単純X線	2,610	2,632	2,595	2,588	2,479	2,466	2,705	2,494	2,391	2,537	2,262	2,501	30,260
MMG	107	98	93	127	88	115	115	110	103	98	101	94	1,249
リニアック(新患)	9	20	12	13	19	13	22	19	13	13	19	20	192

栄 養 管 理 室

スタッフ 栄養管理室長：宇津 貴（腎臓内科主任部長、血液浄化センター長、臨床工学室長）

副 部 長：出口暁子

松村寿美、坂本彩弥

*栄養サポートチーム（NST） 水野 均、大野典子、小山佐知子、田中敬子、四釜淳子、
千原亜紀子、出口暁子

1. 診療内容

糖尿病、腎臓病、心臓病、脂質異常症など食事療法を必要とする患者に対する個別食指導及び集団食指導を実施している。

また、入院患者には、栄養管理計画書を作成し、栄養管理によって疾患の治療に貢献できるように努めている。栄養サポートチーム（NST）を通して、必要な患者に対して低栄養の改善、食事内容の見直し、栄養補給法についてのアドバイスを行っている。

2. 診療体制

1) 指導スケジュール（表1）

栄養指導室で入院個別食事指導および外来個別食事指導を、糖尿病・内分泌センターと同診察室で外来個別食事指導と集団食事指導を実施している。

2) 病棟体制（表2）

病棟を担当制として、受け持ち病棟の対象患者を中心に食事指導を行った。

3. 診療実績

各診療科への食事指導依頼を行い件数増加に繋がった。

1) 外来個別食事指導の実績（表3）

糖尿病・内分泌センターでの指導件数を含む外来個別食事指導件数は、前年度に比して約27件／月増加した。

2) 入院個別食事指導の実績（表3）

入院個別食事指導件数は、前年度に比して約10件／月増加した。

3) 集団食事指導の実績（表3）

糖尿病教育入院などの患者を対象に実施した。前年度に比してやや減少した。

4) 診療科別個別指導の実績（表4）

前年度に比して腎臓内科、総合内科、循環器内科、消化器外科の指導依頼が増加した。

5) 入院食事提供の実績（表5）

特別食の依頼は前年度より増加した。

6) NST活動実績（ラウンド回数：44回）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人	15	19	25	25	25	21	31	27	12	9	18	17	244

・主治医のほか病棟、医療スタッフからの依頼があり対応した。

・NST勉強会：2019年 9月13日

「摂食嚥下障害に対するリハビリテーション」

講師：言語聴覚士 四釜淳子 参加者：120名

7) 病棟での取り組み

癌化学療法治療者のQOL改善のために、昼食・夕食において特別選択食の導入とともに、低菌食の導入も行なった。

*がん化学療法患者向け特別選択食の件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
食	130	327	242	195	355	377	422	334	271	263	240	330	3,486

8) 新しい取り組み

- ・外来：乾癬センターでの集団指導（毎週木曜日）
- ・入院：心臓リハチームの集団指導（毎週月曜日）

9) 患者を対象とした活動

糖尿病・内分泌センター及び糖尿病患者会（錦会）と共同で実施した。（1， 5）

1. 2019年6月29日

2019年度第1回ニッセイ市民健康セミナー

「美味しく減塩！腎臓予防」坂本彩弥

2. 2019年11月22日 日本生命病院糖尿病フェア

「栄養相談と果糖糖質クイズ」栄養管理室

3. 2019年12月18日 がん茶論

「年末年始の食事アドバイス」出口暁子

4. 2020年1月10日 よくわかる健康講座

「健康で病気にならない食生活」出口暁子

5. 2020年1月31日 糖尿病ランチ&セミナー

18名参加（時短！美味しい減塩料理）

6. 院外敷地内阿波座大食堂とのコラボ事業

昼食メニュー「バランス定食」を毎月監修

（献立内容、献立・栄養バランス、栄養価計算を含む）

10) イベント食の提供とメッセージカードの新設

- ・暦行事食に加え、食育イベント食を新規に提供した。
- ・季節に合わせて、食生活に関するメッセージを記したカードを、月3回配布した。

4. その他

1) 所属学会

日本病態栄養学会	1名
日本静脈経腸栄養学会	1名
日本褥瘡学会	1名
日本栄養改善学会	1名
日本栄養士会	1名

2) 取得資格

日本糖尿病療養指導士	2名
介護支援専門員	1名
調理師	1名

5. 業績

学会発表

1. 出口暁子, 大 典子, 小山佐知子, 田中敬子, 四釜淳子, 千原亜紀子, 水野 均:褥瘡治療中 下痢にて悪化しNSTと協力し とろみ経腸栄養食を活用して治療した1例, 第11回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会, 2019年6月, 大阪
2. 出口暁子, 松村寿美, 角南ちえ子, 高山由美子, 宇津 貴, 笠山宗生, 住谷 哲:低血糖をを繰り返す1型糖尿病患者に管理栄養士として関わる一カーボカウント導入を試みて一, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月, 大阪
3. 坂本彩弥, 出口暁子, 角南ちえ子, 高山由美子, 住谷 哲, 笠山宗生, 宇津 貴:FMG導入により療養に積極的に取り組むようになった2型糖尿病の1症例, 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 2019年11月, 大阪
4. 出口暁子, 岩本真澄, 加藤るり, 川上 学, 宇津 貴:癌・化学療法中の免疫低下レベルにあわせた無菌食・低菌食の提供の試み, 第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 2020年1月, 京都
5. 出口暁子, 山下利子, 高山由美子, 宇津 貴, 田中久仁子, 高田洋子, 山下知沙子, 東山眞里:皮膚科, 乾癬センターの開設に併せた チーム医療による積極的栄養管理の介入, 第13回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2020年2月, 大阪

6. 坂本彩弥, :多職種連携による血液透析患者への栄養指導の試み, 第13回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2020年2月, 大阪
7. 松村寿美, 坂本彩弥, 出口暁子, 角南ちえ子, 住谷 哲, 笠山宗正, 鈴木茂仁:1型糖尿病患者への応用カーボカウント導入目的入院について, 第13回日本医療マネジメント学会 大阪支部学術集会, 2020年2月, 大阪
8. 出口暁子, 山下利子, 高山由美子, 田中久仁子, 高田洋子, 山下知沙子, 東山眞里:乾癬センターの栄養指導について, 第8回リウマチ合同カンファレンス 学術集会, 2019年9月, 新潟

研究会発表

1. 出口暁子, 山下利子, 高山由美子, 宇津 貴, 田中久仁子, 高田洋子, 山下知沙子, 東山眞里:皮膚科・乾癬センターにおける生活習慣病指導の試み, 第24回大阪府栄養士会研究発表会, 2020年3月(6月), 大阪
2. 坂本彩弥:糖尿病患者対象料理教室 調理指導「手作り簡単!おいしい減塩料理」, 第36回 大阪糖尿病協会顧問栄養士会 患者対象料理教室, 2019年10月, 大阪
3. 出口暁子:昼食メニュー「バランス定食」監修(献立内容・バランス・栄養価計算), 院外敷地内 あわぎ大食堂とのコラボ事業, 2019~2020年4月~3月, 大阪

表1 個別食事指導スケジュール

	月	火	水	木	金
診察室	松村	出口	松村／坂本	坂本	出口／松村
病棟	坂本	松村	坂本／松村	出口	松村／出口
糖尿病・内分泌センター	出口	坂本	出口	松村	坂本

表2 担当病棟

病 棟	担 当
4階ICU	出 口
7階	出 口
8階	出 口
9階	松 村
10階	松 村
11階	坂 本
12階	坂 本
13階	松 村
14階	坂 本

表3 個別・集団栄養指導実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
外来個別	80	90	101	103	91	106	105	107	115	88	96	96	1,178	98	1,022	85
DM外来個別	85	96	91	97	88	96	91	96	102	92	92	84	1,110	93	1,195	100
DM透析予防	65	55	63	68	68	53	75	54	80	55	58	60	754	63	390	33
入院個別	108	107	99	99	114	73	97	75	88	85	86	88	1,119	93	1,090	91
集団	10	20	26	21	21	12	15	7	15	14	10	6	177	15	64	5
合計	348	368	380	388	382	340	383	339	400	334	342	334	4,338	362	3,761	313

疾患別個別栄養指導件数 (集団指導含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均	前年累計	前年平均
胃腸病	20	14	16	20	17	12	15	17	16	9	13	13	182	15	137	11
肝臓病	3	8	4	2	3	6	5	6	2	6	2	5	52	4	63	5
糖尿病	58	61	63	69	75	62	74	58	73	69	60	54	776	65	2,210	184
腎臓病	32	29	41	36	29	26	31	23	31	21	35	31	365	30	295	25
高血・心臓・高脂	59	68	66	64	66	64	64	68	67	59	60	73	778	65	902	75
肥満症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
術後食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵臓食	11	12	6	5	10	5	9	5	8	5	10	6	92	8	77	6
その他	5	5	4	6	5	2	4	5	6	4	2	2	50	4	13	1
合計	188	197	200	202	205	177	202	182	203	173	182	184	2,295	191	3,697	308

表4 診療科別個別栄養指導実績（糖尿病・内分泌センター・集団含まず）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均
循環器内科	18	32	30	23	33	25	24	25	25	21	21	26	303	25
消化器内科	27	22	16	19	22	18	25	19	23	15	13	20	239	20
総合内科	45	46	58	52	56	44	47	41	53	51	52	44	589	49
血液・化学療法内科	4	1	2	5	3	3	5	4	4	5	3	4	43	4
腎臓内科	22	20	22	25	21	18	26	15	25	15	24	24	257	21
脳神経内科	1	1	1	3	3	1	3	3	1	3	1	3	24	2
消化器外科	10	16	13	12	11	7	7	11	6	11	17	7	128	11
整形外科	2	2	4	2	3	4	2	2	5	3	3	4	36	3
神経科・精神科	6	2	1	1	0	0	0	2	0	1	0	2	15	1
皮膚科	9	11	5	9	9	9	12	14	18	14	17	18	145	12
泌尿器科	4	4	6	6	5	3	6	4	6	6	2	6	58	5
産婦人科	24	23	27	33	26	34	35	27	25	21	17	16	308	26
乳腺外科	5	4	4	3	1	3	3	1	0	1	5	2	32	3
小児科	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5	0
耳鼻咽喉・頭頸部外科	1	1	7	2	2	3	2	5	3	1	2	2	31	3
呼吸器外科	1	1	0	2	1	1	0	4	3	2	1	1	17	1
形成再建外科	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	5	0
救急診療科	3	7	1	3	4	3	1	6	4	1	1	3	37	3
その他	6	3	1	2	2	3	2	1	2	2	1	2	27	2
合計	188	197	200	202	205	179	202	184	203	173	182	184	2,299	192

表5 患者給食数

患者給食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年累計
常食	8,707	7,489	8,208	8,723	9,416	9,444	9,549	9,186	9,699	8,433	9,625	9,155	107,634	98,329
軟菜食	4,248	4,319	3,939	4,484	4,430	4,246	4,301	3,693	4,349	3,822	3,381	3,728	48,940	48,335
特食	9,369	8,604	9,778	9,765	8,484	7,964	9,549	8,900	7,638	8,207	9,207	7,950	105,415	188,494
合計	22,324	20,412	21,925	22,972	22,330	21,654	23,399	21,779	21,686	20,462	22,213	20,833	261,989	335,161
調乳本数	2,587	3,055	2,543	2,845	2,930	2,597	2,845	2,421	3,193	2,275	2,251	2,643	32,185	30,199
特食加算率	42%	42%	45%	42%	38%	36%	40%	40%	35%	40%	41%	38%		

スタッフ 薬剤部長：野村浩英
 副部長：足立充司
 課長：池田久雄
 主任：古久保有希子、宮麻紀子
 薬剤師：平田貴宏、六車裕一、千原亜紀子、平田亜紀、森岡浩子、内藤 睦
 小寺由香、藤井克至、宮原阿友美、神原弘和、藤田真弓（2019年11月～）
 パート薬剤師：辻 俊美、中野静香
 事務員：岩城淳子

1. 業務内容

本年度は、医薬品に関する運用について、薬剤師や看護師など多職種チームのもとに策定し、安全でかつ確実な移送など実施した。新病院の新しい環境下でも医薬品の適正な在庫管理、法令を遵守した保管管理のもと調剤、病棟業務を通して、医薬品の安定供給、適正使用、チーム医療へ参画に継続的に取り組んできた。

手術決定時の入院前服用薬の確認業務で、手術決定後、入院前に術前休薬必要薬を確認することで、手術を安全に行えるように支援した。医薬品安全管理について、職員への医薬品安全管理の講演や、医師を含む多職種をメンバーとした医薬品安全管理ワーキングによる院内ラウンドの実施、疑義照会の一元管理可能なデータベース化による可視化による、問題点の把握と共有、業務改善ができる取組みを継続した。注射薬の安全管理、過誤防止・業務効率化に対して運用開始した、注射薬自動払出システムを継続的に活用した。また最適使用推進ガイドラインの遵守確認、DIニュースの定期的な発行、糖尿病、ICT、NST、緩和ケア、褥瘡対策などのチーム医療への参画により医薬品の適正使用を図った。

後発医薬品使用体制加算1算定要件85%の使用率を目標とし、90%以上の高い水準を確保した。

癌化学療法レジメンの登録と円滑な運用を行った。新規申請22レジメンの承認審査並びに登録を行うと共に、オーダ内容の確認・承認、抗癌剤の調製から、被曝・拡散防止など、安全で安心な薬物療法の更なる向上に努めている。

製剤は院内特殊製剤の調製、供給に取り組んでいる。申請のあった特殊製剤について倫理委員会に諮り使用についての有用性や安全性を確認している。製造物責任法に対応するため、日本病院薬剤師会より公示された指標に従って院内製剤の倫理上の検討も行った。新規市販された同効製品の購入にも積極的に関わり、製剤業務量の軽減・効率化を図った。

薬品管理上、採用薬品、削除薬品の審議を薬事管理委員会に諮り、採用品目数は前年度並で推移している。

採用医薬品の製品回収（クラスⅠ、クラスⅡ）が例年に比べ多く発生し、回収に伴う院内の対応、運用の変更や調剤薬局との連携を図りながら患者さんの不利益にならないよう十分な配慮を行いながら対応した。

医療外業務として薬学部5年次学生1期（11週）2～4名の病院実務実習の受け入れ体制を継続した。

今後も、医薬品情報の有用かつ適時な情報管理の強化により、安心して安全な薬物療法の実践を更に深化する組織体制を発展させると共に、常に「患者さんのために何ができるか」を考えて行動できる人材育成を行う。

2. 業務体制

1) 人員配置 2020年3月時点

人員：薬剤師18名（パート2名を含む）、事務員1名
 配置：調剤・製剤業務8名、薬剤管理指導業務8名
 DI（薬品情報室）1名
 臨床研究管理室（事務局）1名
 薬品管理 事務員1名

2) 病棟体制

新病院より専任薬剤師8名とし病棟業務実施加算体制を継続。

手術予定患者の入院前持参薬の確認、薬剤管理指導（服薬指導）、保険診療に定められた病棟業務を実施し、適正かつ、安心・安全な薬物療法に努めた。

3. 活動内容

1) 日常業務

外来処方箋枚数	214枚/日（外来注射処方を含む）
入院処方箋枚数	225枚/日
入院注射処方箋枚数	782枚/日
服薬指導件数	750件/月（薬剤管理指導業務）
病棟業務実施加算	1,677件/月
抗癌剤調製件数	359件/月

2) 院内学術活動（講演）

医療安全講演会・医薬品の安全管理講習会

3) 院内広報活動

医薬品情報（安全性情報）	12通
DSU（医薬品安全対策情報）	12通
新規採用薬情報	4通
お薬ニュース	2通

4. 認定薬剤師など

日本医療薬学会認定薬剤師	3名
がん薬物療法認定薬剤師	3名
感染制御認定薬剤師	1名
抗菌化学療法認定薬剤師	1名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	4名
日本緩和医療薬学会麻薬教育認定薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	4名
(2020年3月31日現在)	

5. 論文・学会発表など

学会発表

1. 池田久雄, 平田貴宏, 神原弘和, 森岡浩子, 足立充司, 野村浩英: スルバクタム／アンピシリンが使用不可能な時期における, 誤嚥性肺炎に対するエンピリックセラピーに用いられた抗菌薬調査, 第29回日本医療薬学会年会, 2019年11月, 福岡
2. 古久保有希子, 辻 亜紀, 岡 藤博, 橋本奈美子, 田中篤志, 野村浩英: 催奇形性リスクの上昇が疑われる妊婦に対して, 初診時から薬剤師が関わる必要性について, 第29回日本医療薬学会年会, 2019年11月, 福岡
3. 辻 亜紀, 池田久雄, 古久保有希子, 足立充司, 野村浩英: 薬剤師による入院前の術前中止薬確認における医師指示遵守調査, 第29回日本医療薬学会年会, 2019年11月, 福岡

研究会発表

1. 野村浩英: 多剤併用のリスク管理, 第123回日本生命病院 医学セミナーUpdate, 2020年2月, 大阪

薬剤関係件数

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
処方箋	外来	枚数	枚数	4,237	4,200	3,922	4,445	4,502	4,347	4,625	4,266	4,595	4,414	3,943	3,938	51,434	46,594
			件数	5,936	6,023	5,557	6,234	6,262	5,935	6,596	5,892	6,232	6,389	5,500	5,691	72,247	62,914
		1日当り	枚数	212	210	196	202	214	217	220	213	230	232	219	197	2,563	2,276
			件数	297	301	278	283	298	297	314	295	312	336	306	285	3,601	3,072
	入院	総数	枚数	6,903	6,339	6,553	7,345	6,883	6,535	7,440	6,797	6,868	6,761	6,802	6,808	82,034	73,500
			件数	13,396	11,711	12,360	13,543	13,023	12,605	14,373	12,583	13,251	12,754	12,773	12,976	155,348	137,307
		1日当り	枚数	230	204	218	237	229	218	240	227	222	218	235	220	2,698	2,426
			件数	447	378	412	437	420	420	464	419	427	411	440	419	5,094	4,518
注射	入院	総数	枚数	23,295	22,736	22,263	26,715	24,007	24,641	26,485	23,787	23,779	23,532	22,098	22,925	286,263	259,817
		1日当り	枚数	777	733	742	862	774	821	854	793	767	759	762	740	9,385	8,569

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
薬剤管理指導業務算定				743	749	760	872	795	716	720	710	686	713	711	823	8,998	8,817
抗がん剤混合調剤件数 (外来化学療法)				233	245	221	248	239	239	282	232	225	258	208	234	2,864	2,305
(入院化学療法)				114	117	117	151	117	136	195	204	166	188	172	190	1,867	1,402
TPN調製件数				8	45	21	16	31	32	68	30	19	45	44	67	426	287

摘 要				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
麻薬処方箋	外来	内 用		0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3	2
		外 用		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		注 射		0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	4	3
	入院	内 用		56	96	79	111	78	90	184	161	132	157	157	176	1,477	823
		外 用		22	2	4	5	8	13	32	10	12	10	6	7	131	255
		注 射		375	359	404	523	412	401	426	433	439	430	365	420	4,987	4,487

製剤室

摘 要		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
一般製剤	件数	29	27	32	36	45	38	38	36	37	28	27	29	402	411
無菌製剤	件数	9	10	12	12	17	14	11	9	12	10	8	9	133	151

[薬剤部]

臨床工学室

スタッフ 室 長：宇津 貴（腎臓内科主任部長、血液浄化センター長、栄養管理室長）
主 任：加藤千尋、三木和美、田中恵介

1. 診療内容

臨床工学室は、2017年4月より中央臨床検査部から独立し新設された。現在10名の臨床工学技士が様々な臨床業務に関わり、医師・看護師や各種医療技術者と共に治療に携わっている。

2. 診療体制

1) 臨床業務

主に下記臨床業務に関わっている。

①手術室

手術支援ロボット業務、心臓ペースメーカーの
植込み・電池交換、血管内治療の清潔介助、術
中自己血回収

②血管造影室

心臓カテーテル検査・治療、経皮的カテーテル
心筋焼灼術

③集中治療室

緊急血液浄化（血液透析、持続血液濾過透析法）、
補助循環業務（IABP・PCPS）

④血液浄化センター

血液透析、オンラインHDF、顆粒球除去療法、
血漿交換療法、末梢血幹細胞採取、顆粒球採取

⑤外来

ペースメーカー外来

⑥その他

腹水濾過濃縮、院内各部署の人工呼吸器や経鼻
高流量酸素療法（NHF）使用時の対応、RST（呼
吸サポートチーム）のメンバーとしてカンファ
レンス・ラウンドの参加

2) 医療機器の保守・修理・点検業務

外来・病棟や手術室・集中治療室などで使用する
院内の様々な医療機器の保守・修理・点検を行い、
医療機器がいつも清潔で安全に使用できるよう管
理運用している。

3. 認定資格

透析技術認定士	7名
心血管インターベンション技師	3名
3学会呼吸療法認定士	4名
臨床ME専門認定士	1名
第1種消化器内視鏡技師	1名

臨床研究管理室

スタッフ 室 長：東山真里（副院長、皮膚科部長）

CRC（臨床研究コーディネーター）：谷口真理子（看護師）

水越由佳子（看護師）（～2020年2月5日）

鈴木あかね（看護師）（2019年7月1日～2020年3月31日）

村崎由紀子（臨床検査技師）

寺西由加里（臨床検査技師）（2019年5月20日～）

事務局：六車裕一（薬剤師）、小原秀子（ソラスト）

1. 活動内容

臨床研究管理室では、治験審査委員会・倫理委員会の事務局として治験、臨床研究、製造販売後調査の窓口業務を行っており、各診療科へ治験受託可能な疾患を調査し治験依頼者（製薬会社）への打診を行いながら案件を受託している。治験受託時に、治験依頼者との調整が円滑に運べるよう病院HPには施設情報チェックリストを公開している。日常業務では、CRCが治験受託時から治験終了まで、安全で質の高い治験・臨床研究が提供できるよう被験者対応、治験依頼者対応、治験責任医師・分担医師への対応を行っている。また、院内各部署との調整を工夫・改善しながらチームとして治験が滞りなく推進出来るよう行っている。

臨床研究管理室会議を1回/月開催し、運営等について協議している。

治験標準業務手順書、事務局マニュアル、CRC業務マニュアル、外部CRC対応マニュアルの改訂も行っている。2019年度より開始した医師主導治験においては標準業務手順書の作成を行った。

2019度は、新人CRA（clinical research associate）6名の施設実習も受託した。また、皮膚科治験においては、PMDAによる信頼性調査が実施された。

2. 活動実績

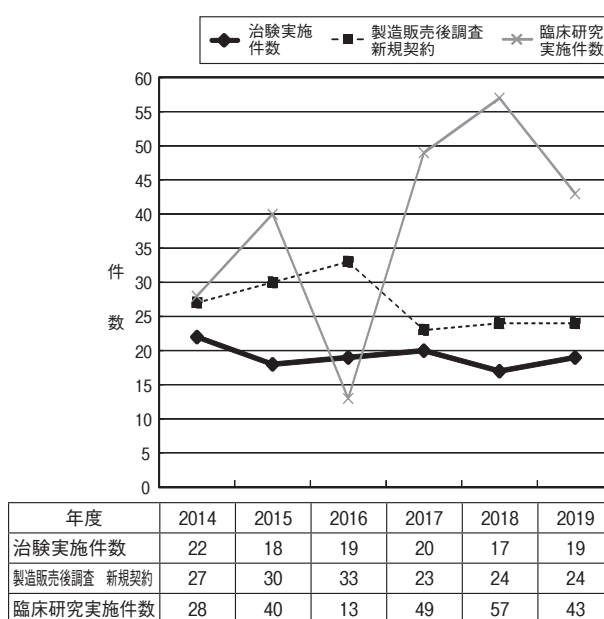
1. 治験審査委員会（IRB） 13回開催
倫理委員会 10回開催
2. 年間治験実施件数 19件（前年度からの継続実施13件、2019年度新規受託6件）
3. 製造販売後調査 新規契約24件
4. 臨床研究 実施件数39件
5. 新人CRA施設実習 6名

年間治験実施件数は19件であり、2014年からの5年間をみると多少増減はあるもののほぼ横ばいであり、安定した治験受託を続けている。2019年度は、皮膚科治験にて、PMDAのGCP実地調査も行われたが指摘事項なしとのことで、改めて当院で実施中の治験が現状のまま遂行可能であることを認識した。臨床研究実施件数は前年と比べ14件減少している（図1）。2018年2月臨床研究法が施行され、主に介入研究では、CRCの関与が必要とされており支援している。また、治験においても来院回数が多いプロトコルがあったため、被験者対応人数が前年と比べ63名増加した。また、モニター対応時間に関しては、被験者数の増加もあるがGCP実地調査にあたり対応時間が増加した（図2）。

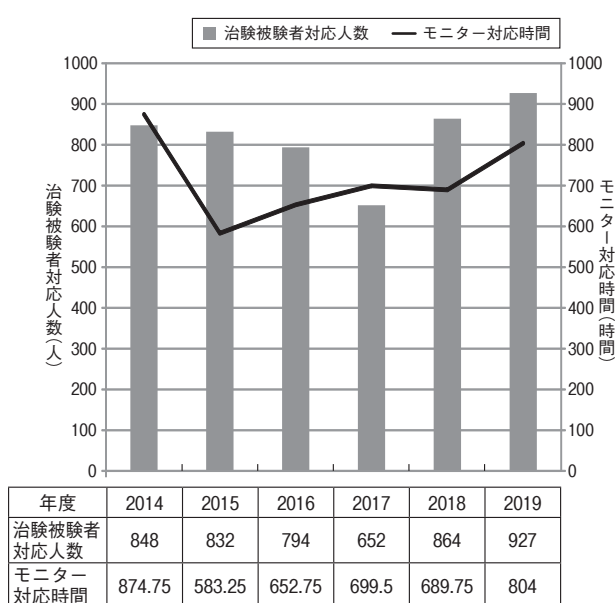
3. 認定

日本臨床薬理学会認定CRC 1名（谷口真理子）

【図1（治験・臨床研究等実施状況）】



【図2（治験被験者対応人数・モニター対応時間）】



スタッフ 室 長：前田 元（特任副院長、呼吸器外科部長）

医療安全管理者：中西三季（副看護部長）（～2019年5月）、阿部恭子（看護師長）（2019年6月～）

室 員：近石克也（医事サービス部長）

1. 概要

インシデント・アクシデントレポート及びオカレンスレポートについての分析・情報共有は週単位で行い、医療安全ミーティングで報告、再発防止策を検討した。引き続き、多職種によるワーキング活動を行った。医療安全管理体制 地域連携加算Ⅰを継続した。

2. 活動内容

1) 医療安全管理マニュアルの見直し、改訂

①死亡・死産報告書について ②注射器カラーシリリングール ③転倒・転落防止マニュアル ④患者相談窓口マニュアル ⑤緊急連絡先 等について見直し、改訂を行った。

2) 医療安全管理者の育成

看護部安全対策委員会では、毎月、事例の共有及び検討を行った。看護管理者のリスクのとりえ方や医療安全管理に対する意識が高まるように働きかけた。

3) 医療安全管理体制 地域連携加算Ⅰ

I－Ⅰ連携 JCHO大阪みなと中央病院（相互ラウンド）

2019年12月4日（水）訪問

2020年1月29日（水）受け入れ

I－Ⅱ連携 大野記念病院

2019年11月27日（水）訪問

訪問にて当院で最も参考にすることとして、画像診断報告書の未読に対してアラートが出るシステムがあった。当院でも必要なシステムであり、現在システム導入の検討中である。

4) ワーキング活動

医療安全管理委員会では、下部組織として2017年度から、医療安全全般ワーキング、医薬品安全管理ワーキング、医療機器安全管理ワーキング、転倒・転落防止ワーキングという4つの実働的な多職種ワーキンググループを設置、活動を開始した。2019年度は、VTE予防ワーキングを設置、活動を開始した。医薬品安全ワーキングでは、定期的なラウンドを行い、疑義照会の内容、件数を報告し情報の共有化を図った。転倒転落ワーキングでは、毎月病棟のラウンドを行い、療養環境の確認、薬剤やりハビリの情報共有、看護計画の見直し等を行った。

5) 医療安全ミーティング

週に1回開催した。週単位でのインシデント・アクシデントレポートの分析、事例の検討を行った。さらに、2017年度11月より合併症の報告促進を目指して導入したオカレンス報告は2018年度には8診療科

から20件、2019年度には13診療科から30件の報告があった。それらについても、検討を行った。

インシデント・アクシデント報告の推移
(2017年度～2019年度)

	薬 剤	転 倒 ・ 転 落	輸 血	治 療 ・ 処 置	ド レ ン ・ チ ュー ブ	検 査	医 療 機 器	療 養 上 の 世 話	そ の 他	合 計
2017年度	356	333	7	163	72	125	38	42	130	1,266
2018年度	419	345	9	116	81	120	43	21	152	1,306
2019年度	562	407	6	94	147	178	47	91	139	1,671

6) 医療安全研修

【第1回】2019年10月25日（金）17：30～18：30

テーマ：Safety－Ⅱ（うまくいくことを増やす）の視点から医療安全を考える～「つながり」の重要性～

講 師：大阪大学医学部附属病院

中央クオリティマネジメント部

北村温美先生

参加者275名（医師39名、研修医6名、薬剤師11名、看護師119名、コメディカル53名、事務職46名）

総合評価「良い」96%

【第2回】2020年2月14日（金）17：30～18：30

1. 2019年度ワーキング活動報告

①医薬品安全管理ワーキング

「麻薬の取扱いと薬剤部での疑義照会報告」

講師：薬剤部副部長 足立充司

②医療機器安全管理ワーキング

「2019年度活動報告」

講師：臨床工学士 田口貴大

③転倒転落予防ワーキング

「転倒転落予防～転倒防止アセスメント表を活用して～」

講師：看護師長 神谷香里

2. 「中心静脈カテーテル挿入に関する認定制度」

講師：副院長 立花功

参加者250名（医師30名、研修医7名、薬剤師13名、看護師97名、コメディカル55名、事務職48名）

総合評価「良い」93%

いずれも未受講者にDVDによる追加研修を実施した。

感 染 対 策 室

スタッフ 室 長：岸 正司（インфекションコントロールドクター、救急診療科主任部長、
救急診療センター長、集中治療室長）

薬 剤 師：池田久雄（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）

検査技師：小西美香（感染制御認定臨床微生物検査技師、認定臨床微生物検査技師）

看 護 師：大野典子（感染症看護専門看護師）

1. 活動内容

感染対策室は病院の理念に基づく最良の医療サービスを目標に、日々の感染症予防と感染が発生した場合にはその拡大を防止する役割、適切な抗菌薬使用など感染症の診断治療の支援の役割を担う。

本年度は、日本生命病院に備えたマニュアルの評価、感染対策システムの導入効果を検証しつつ、さらなる感染対策と、感染症診療支援をめざし活動した。

また2015年度から継続している薬剤耐性菌抑制への取り組みは、抗菌薬適正使用支援チーム（以下AST）を立ち上げ、薬剤師による広域抗菌薬使用状況の把握、微生物検査技士による耐性菌検出状況と無菌材料からの菌検出状況の把握など専門性を活かすことで支援を強化した。

具体的活動は週1回のICTカンファレンスに加え、ASTカンファレンスとして、感染症診療時の抗菌薬使用状況の確認や微生物検査検出状況との関連分析を行った。AST/ICTラウンドではカンファレンス結果に基づく診療支援はもとより薬剤師と微生物検査技師による情報、また感染リンクナースからの情報などを踏まえ、感染対策の実施状況を確認し、加えて抗菌薬適正使用に関する情報を提供した。

社会的活動としては大阪市感染症対策支援ネットワークの幹事病院として地域に向けた学習会を企画開催した。

年度末には新型コロナウイルス肺炎が国内でも発症し、パンデミックの中でも患者・職員ともに安全に日常の医療が継続できるよう取り組んだ。

2. 活動体制

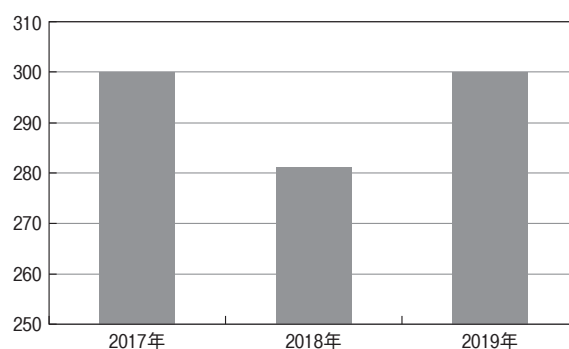
感染対策室には専従者が在籍するため、常時感染症診療や感染防止に関する相談を受け、医師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員などから構成するAST/ICTメンバーに連携し速やかに支援できる体制をとっている。また、看護部が組織する感染リンクナースは患者の最も近くで感染のリスクを評価し、異常時は感染対策室へ報告し速やかに支援が開始できる体制をとっている。

ICTや感染リンクナースでは対応が困難と判断した場合は、院内感染対策委員会の臨時開催や、特定の部門に限定した問題であれば当該部門を含めた拡大院内感染対策委員会を開催するなど組織として早急に対応できるような体制をとっている。

3. 活動実績

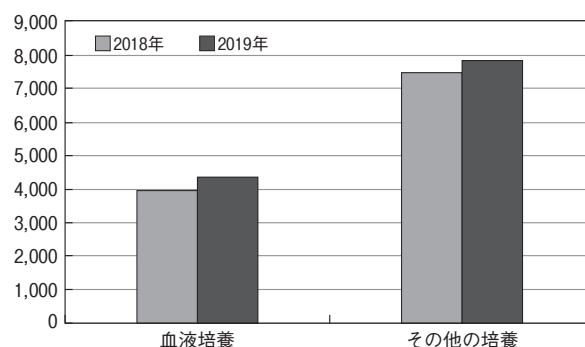
【感染症診療の支援】

ICTの介入件数は300件（平均25件/月）であった。介入内容は届け出抗菌薬の長期使用、治療における抗菌薬の選択と効果判定などに関することで抗菌薬適正使用だった。



（図1）ICT介入件数

感染症診療において重要な指標となる微生物検査血液培養検査は4,371検体（対前年度10.8%増）、血液培養以外は7,841検体（対前年度4.9%増）だった。



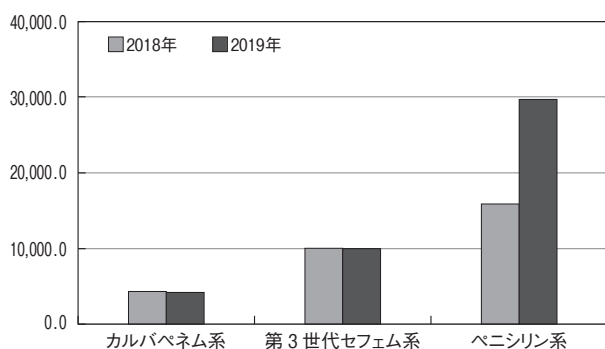
（図2）微生物検査検体数

【耐性菌検出抑制に対する取り組み】

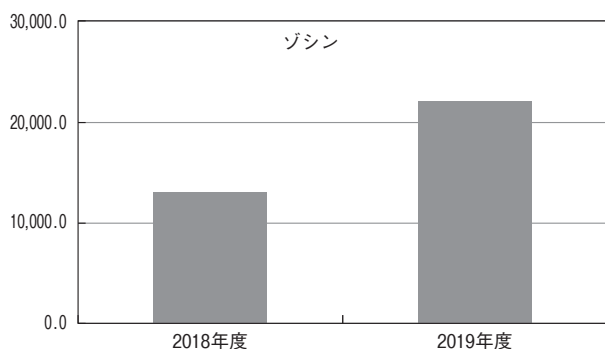
ESBL産生菌をはじめとする薬剤耐性菌の検出状況の把握と各部署への情報提供を行うとともに、抗菌薬使用状況の把握を行った。

【抗菌薬適正使用に対する取り組み】

抗菌薬の年間総使用量はカルバペネム系抗菌薬4,232.8g（2018年度4,420.5g）に増加、第三世代セファロスポリン系抗菌薬9,927.3g（2018年度10,079.5g）に増加、ペニシリン製剤（タゾバクタム・ピペラシリン除く）は29,569.7g（2018年度15,882.8g）（図3）に増加、内タゾバクタム・ピペラシリンは22,008.9g（2018年度12,968.5g）（図4）と大幅に増加した。厚生労働省がAMRアクションプランの成果目標とするフルオロキノロン系抗菌薬は197.4g（2018年度175.2g）に増加した。これらの背景にはCFPMが2018年度から2019年9月まで、アンピシリンナトリウムが2019年10月以降供給停止になったことの影響が考えられる。感染対策室では、アンチバイオグラムの整備や代替薬品の検討など、制限のある中でも適切な抗菌薬投与が行えるよう支援を続けることが課題と考えている。



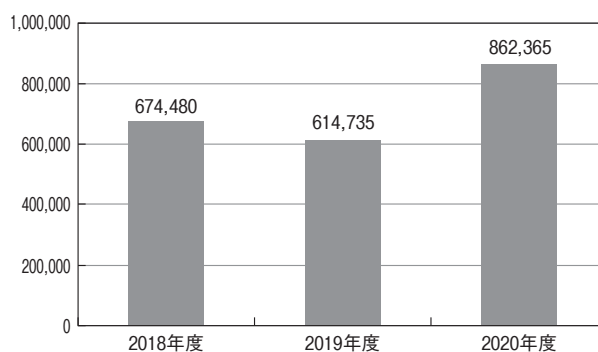
（図3）年間抗菌薬使用量（g） 1



（図4）年間抗菌薬使用量（g） 2

【手指衛生徹底への取り組み】

手指衛生徹底への取り組みとして、感染リンクナースと協同し各部署へ手指衛生材料の使用実績（図5）を情報提供し、感染リンクナース会では手指衛生実施状況の直接観察法を開始した。今年度は使用実績が大幅に増加したが、COVID-19の影響が大きいと考えられる。手指衛生が適切に実施されるよう今後も継続して啓発を行っていききたい。



（図5）擦式手指消毒剤年間購入量

【地域連携施設における取り組み】

感染対策加算Ⅱ取得の病院とは地域連携合同カンファレンスを開催（4回/年）し、感染対策加算Ⅰ取得の病院とは相互ラウンド1回/年を行った。合同カンファレンスでは地域の情報共有が行え、相互ラウンドでは他者評価による感染対策を再確認するよい機会になると評価を受けている。

【職員教育】

第41回院内感染対策委員会教育講演（2019年8月6日）結核の診断と感染対策；出席者135名（内12名外部）ICTメイト・グループウェア視聴411名（COVID-19防止対策のため集合研修を1回とした）参加率92.8%

第42回院内感染対策教育講演（2019年11月18日，他4回開催），感染経路別予防策と咳エチケット；出席者502名レポート提出者118名参加率95.9%

4. 業績

学会発表

1. 池田久雄，平田貴宏：スルバクタム/アンピシリンが使用不可能な時期における誤嚥性肺炎に対するエンピリックセラピーに用いられた抗菌薬調査，第29回日本医療薬学会年会，2019年11月，福岡

あったかサポートセンター

スタッフ センター長：東山真里（副院長、皮膚科部長）

部長：近石克也 担当部長：吉川克巳 副部長：本家裕子

(1) 地域医療サービスグループ

看護師：瓜本恵美子

事務員：西岡千幸、有馬純子（～2019年7月）、森本洋子、高名礼子、中野侑子、
山下智咲（2019年6月～）、谷内千紗（2019年9月～）、山口美里（2019年11月～）、
萩原洋子（2020年3月～）、渡辺喜代美、岩切綾子（～2020年2月）、
谷川志津香（2020年1月～）、西田和馬（2020年1月～）、飯田 香、清藤真由美、山本 勇

(2) 入退院支援センター

センター長：前川明子（副看護部長）

看護師：久留明子（統括師長）、小山佐知子、川瀬俊子、湯阪久美子、田村千穂、中村美智子、
中田宏美

事務員：小谷五月、上村亜友子（～2019年8月）、幸得明美、高山あゆみ（2019年7月～）

(3) 医療福祉相談グループ（入退院支援センター兼務）

医療ソーシャルワーカー：本家裕子（社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員）、
（Medical Social Worker:MSW） 松栄優子（社会福祉士・介護支援専門員）、
福庭加奈（社会福祉士・精神保健福祉士）、黒川曜子（社会福祉士）、
佐竹友貴（社会福祉士）（2019年12月～）

※患者サポートスタッフ：松元真紀（～2019年8月）、浜田麗美、中野敬子（2019年10月～）、
藤原裕美子（2020年2月～）

1. 地域医療サービスグループの活動内容

1) 医療連携

- a. 地域の医療機関からの診療・検査予約
- b. あったかサポートセンター経由の紹介患者受付
- c. 紹介患者の受診結果報告
- d. かかりつけ医紹介（歯科含む）
- e. 病診連携フォーラム・懇話会等の開催、開催協力
- f. 登録医、緊急時入院受入医療機関、在宅患者緊急
時入院希望の登録・契約手続き

g. 開放型病院登録医の共同診療時の対応

h. 人間ドック、健診後受診患者および企業健診後受
診患者の診療・検査予約、受付

i. 病院紹介冊子の作成

j. 地域医療NETWORK開設

k. セカンドオピニオン

2) サービス広報

a. 医療機関向け診療案内の発行

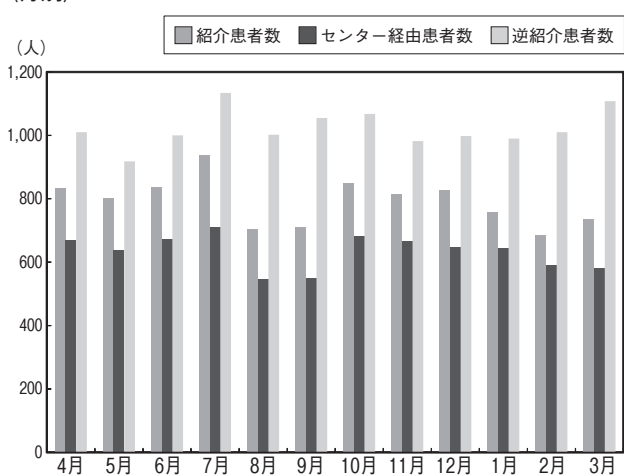
b. 登録医への診療日程案内・情報提供

■ 2019.4～2020.3 診療科別紹介数、あったかサポートセンター経由患者数
（年間）

科 別	紹介患者数* (救急車搬入患者含む)	センター 経由患者数	逆紹介 患者数
循環器内科	341	310	787
消化器内科	709	634	961
総合内科	1,027	784	1,418
血液・化学療法内科	256	232	342
脳神経内科	264	240	241
腎臓内科	138	136	532
消化器外科	84	89	353
呼吸器外科	16	12	80
乳腺外科	113	112	196
心臓血管外科	84	92	158
脳神経外科	35	40	94
産婦人科	1,785	1,182	2,280
小児科	450	309	384
神経科・精神科	205	242	237
整形外科	385	348	699
皮膚科	571	468	420
泌尿器科	266	195	454
眼科	109	79	239
耳鼻咽喉・頭頸部外科	881	561	630
形成再建外科	174	128	254
放射線診断・IVR科	1,002	1,183	1,097
放射線治療科	9	10	15
麻酔・緩和医療科	12	16	11
救急診療科	556	147	367
リハビリテーション科		1	
検査診断科	23	47	26
合計	9,495	7,597	12,275

※紹介患者数は初診算定数。

（月別）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	833	803	836	938	704	711	850	814	828	757	685	736
センター経由患者数	671	638	672	709	545	551	681	667	647	643	591	582
逆紹介患者数	1,010	918	1,000	1,134	1,002	1,055	1,068	982	998	990	1,010	1,108

- c. 患者向け広報誌「あったかサポートセンター通信 Saisei Rimin」の発行
- d. 市民健康セミナー等の開催、開催協力（p.143～144 参照）
- e. 地域医療機関等の情報収集・調査
- f. 患者の声、意見収集等をふまえた患者サービス体制管理
- g. 院内イベント企画・開催、開催協力
- h. 図書・情報コーナーの管理
- i. ボランティアの受付・調整

2. 入退院支援センターの活動内容

2016年より入退院支援センターを開設し4年目となる。入退院支援センターは、入院決定時から各職種が連携して安心して入院生活が送れるよう支援すること、入院時から退院後の生活をふまえた退院支援を実践し、より質の高い医療サービスを提供することを目的としている。

1) 業務内容

- a. 医事部門・入院受付
 - ①入院申し込み・入院当日の入院手続き・病室の希望の把握
 - ②無料低額診療事業等の紹介
- b. 看護師
 - ①病棟師長：入院時間調整
 - ②外来看護師：患者基礎情報の収集・術前オリエンテーション・クリニカルパスの説明

③退院支援専従看護師：退院調整

c. 薬剤師

①術前内服確認

d. MSW

①退院調整

②ソーシャルワーク業務

2) 活動実績

2018年に新病院に移転し2年目は、時間内の入院患者数は増加し、月平均603件（昨年度558.7件）と昨年より7.9%上回った。

外来看護師によるオリエンテーションは、月平均172.6件、薬剤師による術前服薬確認は月平均155.6件（昨年123.3件）であった。

入退院支援加算算定件数は、退院支援専従看護師・MSWを中心に継続的に活動実施し、センター看護師、病棟看護師間の連携も密にとった結果、入退院支援加算1は、月平均152.9件（昨年度123件）で昨年より24.3%上昇、入院時支援加算は、月平均37.7件（昨年度32.2件）で、昨年より16.7%上昇した。

3. 医療福祉相談グループの活動内容

1) 相談援助

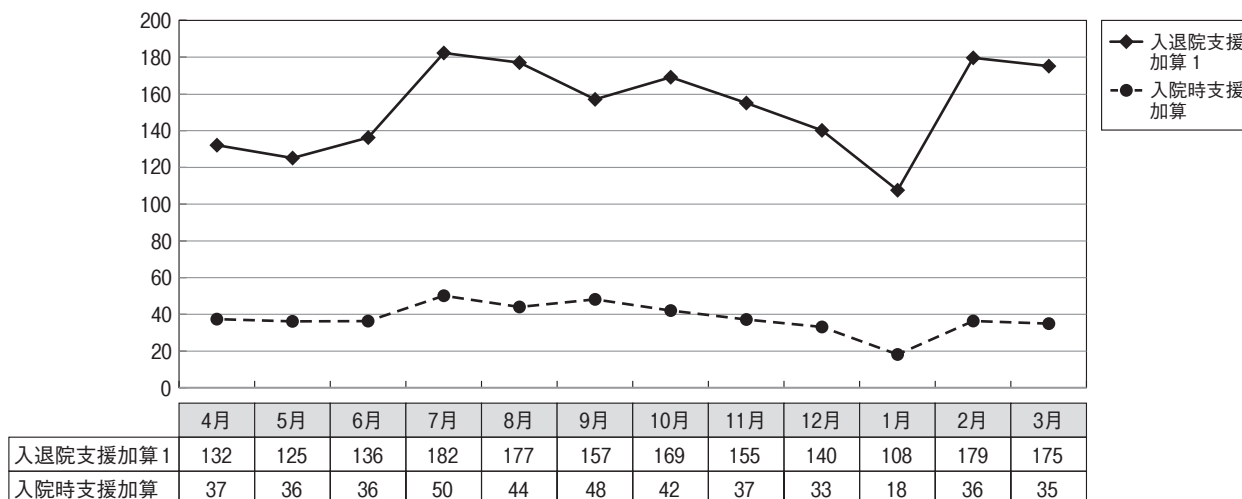
a. 相談援助総件数

2019年度は、総数10,765件（1日平均40.8件、月平均897.1件）の相談を受けた。年々増加の一途を辿っていた相談件数は、退院調整看護師の増員に

■入退院支援センター 活動状況（2019.4～2020.3）

月	時間内 入院実数 (8:30～17:00)	センター看護師		薬剤師 術前服薬確認	外来看護師 術前オリエン テーション
		予定分	予定外 (緊急)		
4月	660	408	240	112	160
5月	574	360	176	181	201
6月	583	368	196	181	192
7月	673	414	186	222	211
8月	612	384	200	185	176
9月	589	341	157	161	164
10月	600	387	192	171	180
11月	588	348	190	152	160
12月	572	344	191	109	141
1月	610	414	181	128	122
2月	539	351	148	127	171
3月	636	428	195	138	193
平均	603	378.9	187.7	155.6	172.6

入退院支援加算実績



より昨年度は減少したが、MSW増員による業務分担見直しも影響し、増加したと推察される。

b. 新規相談

2019年度の新規相談は件（昨年3,385件）であった。紹介経路別にみると、看護師（611件）、医師（543件）およびその他の職員を含め、院内スタッフからの支援依頼が37.2%（昨年は35.4%）を占め、本人（782件）と家族（632件）からの相談が41.7%（昨年は45.0%）であった。

c. 相談援助内容

相談内容は、退院への援助（在宅へ向けての療養環境整備の援助および転院・施設入所先の選定援助）が31.6%と最も多く、次いで無料・低額診療に関する相談援助（30.5%）、介護保険、身体障害者手帳、指定難病、精神保健等の諸制度に関する説明や申請援助（14.5%）、受診・受療に関する問題調整（9.8%）となった。

2) 地域活動

- 近隣施設（医療機関、介護老人保健施設等）への訪問等による連携の促進
- 西区地域支援調整チーム高齢者支援専門部会および西区障がい者・高齢者虐待防止専門部会への参画による地域高齢者施策等への貢献
- 西区在宅医療・介護連携推進会議等に参画し、地域の在宅医療の普及と医療・介護連携を推進
- ニッセイケアプランセンターにて介護支援専門員（ケアマネジャー）を兼務し、在宅生活を支援
- 大阪市子ども虐待医療支援検討会、大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業連絡会にて各関係機関との連携を深め、児童虐待対応向上に尽力
- がん相談支援センターの一員として「がんサロン」の運営に参画
- 脳卒中地域連携パスに加え、新たに大腿骨頸部骨折地域連携パスに参画し、円滑な地域医療連携を促進

■医療福祉相談グループ

〈相談援助件数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度累計
循環器内科	32	32	37	40	86	45	22	39	45	36	51	76	541	557
消化器内科	37	50	35	43	41	36	41	63	55	38	35	28	502	565
総合内科	149	133	123	164	191	129	137	124	112	124	125	173	1,684	1,635
血液・化学療法内科	59	74	91	102	104	146	132	111	88	78	74	111	1,170	818
脳神経内科	75	104	94	128	91	93	75	66	79	41	88	78	1,012	985
腎臓内科	7	10	23	24	47	33	18	13	39	72	60	70	416	342
消化器外科	24	24	33	25	24	32	29	27	48	73	38	30	407	296
呼吸器外科	5	6	0	0	1	1	4	0	3	7	6	1	34	44
乳腺外科	15	14	10	8	18	17	14	12	22	22	24	19	195	189
心臓血管外科	2	3	3	7	0	3	8	5	2	4	5	21	63	33
脳神経外科	19	18	12	13	15	28	15	26	7	5	11	25	194	145
産婦人科	39	21	33	56	41	38	55	45	61	16	38	55	498	446
小児科	18	18	32	23	32	26	24	45	56	53	23	23	373	335
神経科・精神科	51	41	62	86	73	46	77	59	62	54	70	67	748	483
整形外科	53	37	63	70	76	63	78	70	67	37	66	67	747	1,024
皮膚科	35	21	24	21	55	29	17	28	8	23	20	20	301	270
泌尿器科	14	16	20	14	42	19	30	30	43	40	58	27	353	152
眼科	9	4	8	4	7	7	13	14	4	7	6	3	86	82
耳鼻咽喉・頭頸部外科	20	10	23	40	32	23	8	27	17	10	17	29	256	188
形成再建外科	5	2	0	2	6	1	0	8	3	2	1	1	31	75
放射線診断・IVR科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0
麻酔・緩和医療科	3	0	0	1	3	1	4	4	2	3	1	1	23	13
リハビリテーション科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13
救急診療科	32	49	49	46	30	35	25	33	34	84	78	53	548	610
不明・その他	29	57	43	40	56	69	58	58	61	38	22	48	579	570
合計	734	744	818	957	1,071	920	884	908	918	867	917	1,027	10,765	9,885

〈新規相談件数（紹介経路別）〉

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	36	17	0	39	14	1	35	19	4	66	18	0	135	13	0	64	4	2	40	23	1	46	19	2
家族	27	13	0	33	9	0	25	11	1	55	10	0	66	16	1	32	14	1	29	21	1	41	19	0
医師	27	25	0	19	26	1	21	24	0	27	10	0	18	17	0	24	20	0	23	13	0	32	25	0
看護師	3	35	0	5	35	0	8	38	0	8	36	0	10	39	0	10	41	0	9	45	1	6	39	0
その他院内職員	7	5	0	2	5	0	4	4	0	2	2	0	3	3	0	3	3	0	2	8	0	6	6	0
保健福祉関係機関	6	9	1	2	9	0	3	9	0	2	12	0	6	13	0	6	7	0	7	8	1	5	13	0
医療機関	14	4	1	13	1	0	12	1	0	6	3	1	13	6	1	12	2	0	13	2	1	5	2	1
福祉施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
介護保険施設・事業所	16	11	0	17	4	0	7	9	2	13	12	0	8	14	1	12	7	0	23	10	0	30	17	0
その他	0	3	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	2	0	1	1	0	1	1	1	0	0
小計	136	122	2	130	104	2	115	116	8	180	104	1	260	121	5	164	99	4	146	132	6	172	141	3
総合計	260			236			239			285			386			267			284			316		

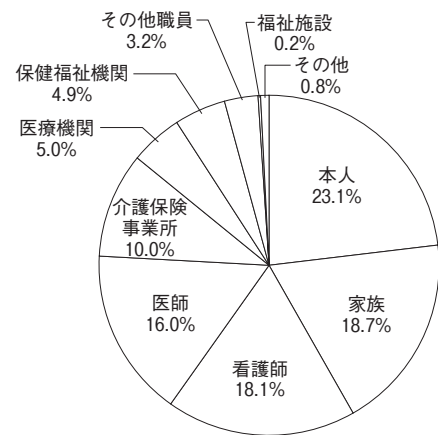
	12月			1月			2月			3月			累計			前年度累計		
	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他	外来	入院	他
本人	33	10	0	43	10	0	22	16	0	32	16	2	591	179	12	603	177	7
家族	45	16	1	38	15	0	21	21	1	35	12	2	447	177	8	438	170	6
医師	23	22	0	25	30	0	20	24	0	23	24	0	282	260	1	227	243	0
看護師	9	43	0	8	49	0	9	56	0	11	58	0	96	514	1	76	481	0
その他院内職員	7	6	0	8	2	0	4	7	0	4	5	0	52	56	0	37	38	0
保健福祉関係機関	5	6	0	5	8	1	5	2	0	4	10	1	56	106	4	52	146	6
医療機関	16	3	1	9	1	2	5	4	0	11	2	1	129	31	9	87	32	4
福祉施設	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	5	3	0	4	0	0
介護保険施設・事業所	17	11	0	17	16	0	13	19	0	24	9	0	197	139	3	146	109	7
その他	0	1	1	2	2	0	1	1	0	1	2	1	6	14	7	8	8	4
小計	156	118	3	156	134	3	101	150	1	145	138	7	1,861	1,479	45	1,678	1,404	34
総合計	277			293			252			290			3,385			3,116		

〈相談援助件数(年度比較)〉

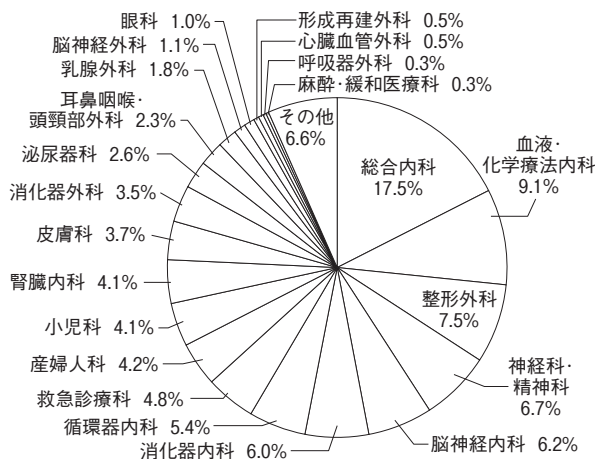
	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
循環器内科	541	557	1,066	1,206	1,072
消化器内科	502	565	583	748	739
総合内科	1,684	1,635	1,946	2,221	1,926
血液・化学療法内科	1,170	818	949	760	656
脳神経内科	1,012	985	920	996	881
腎臓内科 ^{※1}	416	342	553	145	
消化器外科	407	296	269	399	262
呼吸器外科	34	44	19	14	1
乳腺外科	195	189	259	174	118
心臓血管外科 ^{※2}	63	33	7		
脳神経外科 ^{※3}	194	145			
産婦人科	498	446	559	366	264
小児科	373	335	392	369	399
神経科・精神科	748	483	381	378	435
整形外科	747	1,024	1,287	989	1,036
皮膚科	301	270	312	283	215
泌尿器科	353	152	240	305	275
眼科	86	82	53	43	89
耳鼻咽喉・頭頸部外科	256	188	213	250	239
形成再建外科 ^{※2}	31	75	31		
放射線診断・IVR科	1	15	17	21	10
放射線治療科 ^{※2}	2	0	1		
麻酔・緩和医療科	23	13	20	20	1
リハビリテーション科 ^{※2}	1	13	7		
救急診療科	548	610	729	501	649
不明・その他	579	570	727	628	605
合計	10,765	9,885	11,540	10,816	9,872

※1 2016年7月～ ※2 2017年4月～ ※3 2018年6月～

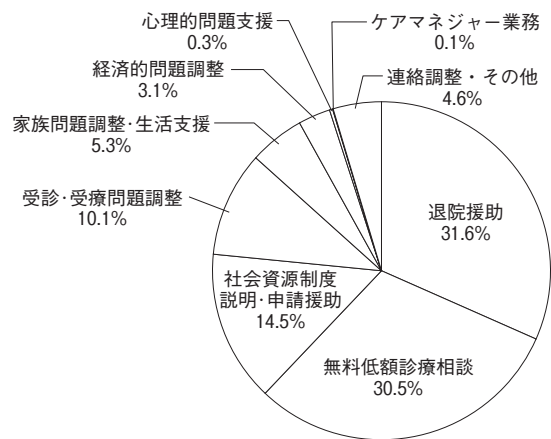
〈新規相談(紹介経路別)〉



〈新規相談(診療科別)〉



〈相談援助内容〉



登録医一覧(438名)

[敬称略](2020.3.31現在)

西 区 72	(医)天野医院	天野 良男
	(医)治生会 石村クリニック	石村 順治
	いとう消化器クリニック	伊藤 裕之
	いぬい小児科	乾 一郎
	近江眼科クリニック	近江 源次郎
	大谷クリニック	大谷 遷
	勝瀬クリニック	勝瀬 健
	耳鼻咽喉科 岸本医院	岸本 勝
	北川医院	北川 久能
	九間クリニック	九間 祥一
	河野外科	河野 実
	佐々木内科クリニック	佐々木 敏作
	下條内科クリニック	下條 信雄
	杉本眼科	杉本 英之
	坪井眼科	坪井 俊児
	ながお医院	永尾 尚子
	(医)敬詢会 永田医院	永田 昌敬
	(医)丹生医院	丹生 純一
	(医)長谷川耳鼻咽喉科	長谷川 進
	新町クリニック	濱田 和哉
	平山眼科クリニック	平山 優子
	(医)フジイ内科クリニック	藤井 繁樹
	阿波座診療所	藤井 省治
	藤田外科・胃腸科	藤田 宗行
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 潔
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 浩一
	(医)弘清会 四ツ橋診療所	安井 博規
	やまもとクリニック	山本 忍
	京町堀整形外科	牧野 正
	さかざきこどもクリニック	坂崎 弘美
	健クリニック	三木 基子
	木下皮フ科クリニック	木下 香里
	なかむら皮フ科	中村 敏明
	藤野歯科医院	藤野 明
	ほりかわ泌尿器科	堀川 直樹
	(医)三慧会 IVFなんばクリニック	森本 義晴
	奥町内科	奥町 富久丸
	かおるレディースクリニック	岡本 薫
	島野医院	島野 直人
	松浦内科クリニック	松浦 良和
	はらだこどもクリニック	原田 由利香
	渋谷内科クリニック	渋谷 孝裕
	藤本クリニック	藤本 聡
	くらち皮フ科クリニック	倉知 貴志郎
	医療法人天方会 AMA Clinic	天方 義人
	西長堀医院	則武 正三
	王内科胃腸科クリニック	王 康義
	(医)天野医院	天野 祥子
	(医)名山会 上杉医院	上杉 雄二
	(医)優昌会 本城整形外科	本城 昌
	ISクリニック	糸原 房宣
	みやざきクリニック	宮崎 裕子
	(医)佐々医院	佐々 成太郎
	(医)佐々医院	佐々 仁美
	大阪きづがわ医療福祉生活協同組合医療生協ながほり通り診療所	蒲生 健
	耳鼻咽喉科 さとうクリニック	佐藤 一雄

西 区 72	整形外科 おうクリニック	王 正道
	福中クリニック	福中 道男
	上嶋内科消化器科クリニック	上嶋 弾
	えのもとクリニック	榎本 準
	すぎた内科クリニック	杉田 潔
	(医)丹生医院	丹生 真理子
	四ツ橋 腎泌尿器科 こじまクリニック	児島 康行
	慶生会クリニック大阪	矢田 智恵
	曲淵ペインクリニック	曲淵 達雄
	ふじわら整形外科	藤原 桂樹
	坂井医院	坂井 貴子
	九条サクラ診療所	吉田 賢哉
	じっしょう内科	實正 哲
	後藤こころのクリニック	後藤 康人
	北堀江奏でレディースクリニック	寺田 裕之
	めぐみ耳鼻咽喉科・アレルギー科	巽 恵美子
	(医)光風会 江口医院	江口 隆
	石村整形外科	石村 俊信
	柿原医院	柿原 幸司
	(医)邦明会 榎原クリニック	榎原 秀一
	小正医院	小正 尚裕
	寒川医院	寒川 通洋
	(医)健人会 弘田医院	弘田 俊行
	藤吉医院	藤吉 庸雅
	(医)松原皮膚科医院	松原 爲明
	荘田診療所	荘田 静
	荘田診療所	荘田 容志
	(医)得伊会中山診療所	中山 秀雄
	横山医院	横山 正博
	にしもと耳鼻咽喉科	西幹 二郎
	西平診療所	西平 守也
	西平診療所	西平 香代
	北新会 藤原耳鼻咽喉科医院	藤原 隆行
	(医)良仁会 西村外科	西村 良彦
	船井医院	船井 俊彦
	加納レディースクリニック	加納 英男
	金城外科脳神経外科	金城 康夫
	五味クリニック	五味 正裕
	(医)明友会 安井整形外科クリニック	安井 明
	本山耳鼻咽喉科	本山 壮一
	(医)田辺耳鼻咽喉科医院	田邊 修一
	一ノ名医院	一ノ名 正
	(医)久志会 黒川眼科	志水 一夫
	ひらいけ内科	平池 豊
	足立医院	足立 俊之
	本山診療所	本山 忠
	(医)秀盛会 さくらクリニック	小松 重幸
	中川耳鼻咽喉科クリニック	中川 浩伸
	山北内科クリニック	山北 哲也
	山北内科クリニック	山北 直子
	中村医院	中村 義弥
	しまもとクリニック	島本 敬三
	しまもとクリニック	島本 里絵
	(医)北村診療所	北村 彰英
	ほんしょう内科クリニック	本庄 尚謙
	アダチ眼科医院	郡 千栄
	大正ファミリークリニック	瓦林 佳子
	マツオ整形外科	松尾 澄治

大正区 47	大阪きつがわ医療福祉生活協同組合 たいしょう生協診療所	鈴木 昇平
	よしむら整形外科	吉村 弘治
	山北整形外科	山北 真也
	大正すずらんクリニック	瓦林 令奈
中央区 (東) 32	医療法人 西平診療所	西平 守和
	(財) 洪庵記念会産婦人科くりにいにおがた	緒方 高志
	かただクリニック	堅田 明浩
	なかがわ 中之島クリニック	中川 晶
	(医) 西川婦人科内科クリニック	西川 吉伸
	岩間クリニック	岩間 令道
	大阪婦人子供既製服健保組合 健康管理室	間島 行春
	船場森野クリニック	森野 高晴
	うづら医院	卯津羅 祥子
	(財) 大阪府結核予防会 相談診療所	増田 國次
	大林組大阪診療所	森島 豊彦
	日本生命健康管理所	石神 真人
	(医) 政明会 春次医院	春次 智三郎
	塩野義製薬本社診療所	秋岡 壽
	柴田耳鼻咽喉科	柴田 重太郎
	トミタクリニック	富田 忠宏
	(医) ラ・ウォール本町クリニック	瀧野 敏子
	(医) アクア アクアメディカルクリニック	石黒 伸
	しもむら本町レディースクリニック	下村 陽祐
	(医) 紀映会 レディースクリニック北浜	奥 裕嗣
	(医) 高折医院	高折 和男
	たがや内科	多賀谷 昌史
	本町 林クリニック	林 宏明
	こうむら女性クリニック	甲村 弘子
	山口あきこクリニック	山口 晶子
	大織診療所	藤原 大美
	前久保クリニック	前久保 邦明
	森ノ宮胃腸内視鏡ふじたクリニック	藤田 実
	浅田診療所	浅田 洋造
	ウィメンズクリニック本町	藤野 祐司
	小川眼科	小川 憲治
	よどやばしメディカルクリニック	田中 基幹
	なかじまあき内科クリニック	中嶋 千晶
阿倍野区 4	(医) 湖崎会 湖崎眼科	湖崎 亮
	(医) 柏蔭会 柏原医院	柏原 紀美
	レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
	れいこ眼科クリニック	杉本 麗子
生野区 3	岸田内科	岸田 泰弘
	(医) 協同診療所	稲次 征人
	医療法人祐星会桃クリニック	後藤 克子
北区 19	鈴木クリニック	鈴木 隆男
	(医) 湖崎会 湖崎眼科アクティ大阪分院	湖崎 亮
	(医) ケイズ会 茶屋町レディースクリニック	出田 和久
	南森町レディースクリニック	平井 光三
	小西統合医療内科	小西 康弘
	北中レディースクリニック	北中 孝司
	(医) 裕弘会 堂山レディースクリニック	本間 裕朗
	志村ウィメンズクリニック	志村 研太郎
	(医) 三慧会 HORACグランフロント大阪クリニック	森本 義晴
	(医) 聖授会 フェスティバルタワークリニック	八木 美佐子
	天神橋ゆかこレディースクリニック	頼 裕佳子
	(医) 豊仁会 荻野レディースクリニック	荻野 瑠美
	本出診療所	本出 肇
	田中内科	田中 裕也

北区 19	(有) 阪神労働衛生コンサルタント 堂島サテライトオフィス	廣部 一彦
	江川メンタルクリニック	江川 功
	天満SORAクリニック	森田 哲史
	中之島フェスティバルタワー・さくらクリニック	苗村 敏
此花区 17	ふくだあやレディースクリニック	福田 綾
	(医) 奥見診療所	奥見 敏彦
	栗栖医院	栗栖 孝臣
	(医) 小山医院	小山 貴子
	(医) 小山医院	小山 高澄
	(医) 木本会 鈴木産婦人科	鈴木 勲
	(医) 板東医院	板東 博志
	松井クリニック	松井 清明
	(医) 徹生会 村上内科	村上 毅
	栗栖クリニック	栗栖 孝一
	谷本医院	谷本 尚穂
	はやしだ診療所	林田 嘉彦
	(医) 森内科	森 滋喜
	大庭眼科医院	大庭 省三
	牧野レディースクリニック	牧野 滋
	柳本産婦人科医院	柳本 時廣
	(医) 良純会朝日橋胃腸科内科小児科診療所	木下 隆弘
城東区 2	こじまクリニック	小島 研太郎
	(医) 金井産婦人科	金井 万里子
天王寺区 11	医療法人よつば会 クローバークリニック	荒木 良守
	おおつかレディースクリニック	大塚 志郎
	夕陽丘 佐藤クリニック	佐藤 利彦
	ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
	上本町ヒロミレディースクリニック	橋本 弘美
	おおさき内科クリニック	大崎 匡
	(医) 池田クリニック	池田 光慶
	小出内科神経科	小出 泰道
	東産婦人科 眼科	東 芳賢
	宮原レディースクリニック	宮原 義良
	遠藤クリニック	遠藤 友一郎
西成区 4	(医) 瑞穂会 ともの木クリニック	三浦 一浩
	腎・泌尿器科安本クリニック	安本 亮二
	(医) 純和会 竹本診療所	八木 純
	イワタ医院	岩田 以津子
西淀川区 7	医療法人ばばやクリニック	馬場谷 勝廣
	高岡診療所	高岡 均
	辻診療所	辻 勝弘
	北野クリニック	北野 英基
	大和田診療所	藤原 久義
	いせぎ整形外科	井石 聡
	(医) 福田診療所	福田 弥一郎
住吉区 1	じくはら医院	竺原 俊光
	桂診療所	桂 勇人
	山口クリニック	山口 時雄
東住吉区 3	山田医院	山田 和彦
	にしかわクリニック	西河 潤
	生野内科クリニック	生野 善康
港区 63	大沢診療所	大澤 理
	大塚医院	大塚 頼宏
	香山医院	香山 仁志
	(医) 誠昌会整形外科くにしげクリニック	國重 昌彦
	塩見医院	塩見 啓二
	(医) 鈴木医院	鈴木 稔也

港 区 63	(医)龍神堂会 龍神堂医院	谷内 幹弘
	土田クリニック	土田 茂
	(医)三愛会 中山整形外科	中山 明
	(医)天斗会 中山医院	中山 富雄
	(医)前田診療所	前田 勉
	やながクリニック	彌永 邦彦
	(医)大和医院	大和 直久
	(医)聖愛会山村耳鼻咽喉科	山村 聖眞
	古林内科	古林 芳範
	宮岡クリニック	宮岡 哲郎
	(医)西診療所	西 紀
	いはら内科	井原 義二
	笹尾医院	出雲谷 剛
	金谷内科医院	金谷 英夫
	北代診療所	北代 勇夫
	北代診療所	北代 修司
	松浦診療所	新井 孝和
	(医)緑龍会 内藤医院	内藤 龍彦
	北村医院	北村 雅哉
	坂元内科クリニック	坂元 一夫
	(医)ほのぼの会にいつクリニック	新津 建樹
	(医)頼医院	頼 明信
	義元診療所	義元 徳祥
	(医)喜馬外科	喜馬 秀樹
	野洲クリニック	野洲 武司
	(医)小嶋整形外科	小嶋 博司
	島崎診療所	島崎 久美子
	(医)大奈会 やすだ耳鼻咽喉科	安田 大作
	(医)堀井耳鼻咽喉科	堀井 睦
	谷内医院	石井 登志枝
	(医)信愛会大和診療所	大和 宗久
	西山眼科	西山 和夫
	みなと生協診療所	倉澤 高志
	金田クリニック	金田 眞一
	太田整形外科クリニック	太田 信彦
	大阪医院	大阪 正視
	やぎクリニック	八木 隆
	賀来医院	賀来 清高
	喜多クリニック 弁天町クリニック	喜多 紀人
	しらはま内科クリニック	白浜 健太郎
	岸医院	岸 良治
	溝口内科	溝口 理映子
	山田医院	山田 卓
	徳寿会 金山記念クリニック	津久井 優
	しん眼科クリニック	秦 尚修
	社会福祉法人秀生会ザイオン診療所	中山 洋子
	(医)尚信会 整形外科 河村医院	河村 禎人
	医療法人社団悠久会 辻クリニック朝潮橋分院	辻 孝教
	(医)隆明会 やぎ眼科クリニック	八木 明恵
	大塚医院	大塚 欣敏
	澤田内科クリニック	澤田 光孝
	かもめクリニック	木下 啓太
	かもめクリニック	石本 英之
	かもめクリニック	中濱 瑛太郎
	歎義堂 小林医院	小林 紀男
	医療法人誠昌会 えさきクリニック (名称変更)	江崎 秀和
浪速区 29	井上医院	井上 宏之
	竹中医院	竹中 秀裕

浪速区 29	(医)徳田クリニック	徳田 修
	(医)徳田クリニック	徳田 好男
	橋村医院	橋村 直隆
	(医)檜山診療所	桧山 寛市
	本田クリニック	本田 秀明
	(医)薫鳳会 落合耳鼻咽喉科	落合 薫
	(医)菱川クリニック	菱川 秀夫
	沢井眼科	澤井 貞子
	佐久間医院	佐久間 靖博
	かねだクリニック	金田 高次
	小池クリニック	小池 洋志
	有田医院	有田 繁広
	木田内科消化器科クリニック	木田 徹
	えびず診療所	久保田 泰弘
	耳鼻咽喉科中村クリニック	中村 泰久
	桜川よしえクリニック	金子 良恵
	(医)泰仁会 やまぐちクリニック	山口 貴也
	おおの耳鼻咽喉科	大野 聡史
	(医)入野医院	入野 宏昭
	笹岡医院	笹岡 英明
	(医)理秀会 なんば南藤吉医院	藤吉 理夫
	川田医院	川田 信哉
	なんば山田クリニック	山田 郁子
	(医)岡藤会 岡藤クリニック	岡藤 龍正
	(医)瑠香会 あーべいんクリニック	池田 秀博
	中村クリニック	山本 昌弘
	(医)孝尽会 透析クリニック大正橋	杉浦 清史
福島区 21	江頭医院	江頭 明盛
	クダラ医院	百済 尊彦
	猿渡レディスクリニック	猿渡 善治
	田仲循環器科・内科医院	田仲 輝光
	林クリニック	林 為仁
	松下医院	松下 正幸
	森山眼科	森山 穂積
	ちもりメディカルクリニック	千森 弘子
	よこいクリニック	横井 秀保
	あおやま医院	青山 晃子
	福島アイクリニック	桑山 泰明
	泌尿器科 やまなかクリニック	山中 幹基
	愛クリニック	上地 正雄
	(医)桜峰会本場診療所	八尾 宜明
	野田診療所	小濱 譲次
	(医)成基会 相坂クリニック	相坂 章爾
	中村クリニック	中村 幸生
	まさこレディースクリニック	霞 雅子
	くまだ内科・小児科クリニック	木畑 正彦
	中島小児科診療院	中島 滋郎
	医療法人臨研会 今川クリニック	福本 素由己
住之江区 7	東口クリニック	東口 等
	岡村クリニック	岡村 弘光
	中島クリニック	中島 静一
	長谷川内科	長谷川 精一
	長谷川内科	長谷川 浩司
	はなのまちファミリークリニック	杉本 匡弘
	医療法人 桑江クリニック	桑江 秀樹
中央区 34	(医)今川医院	今川 得之亮
	岩佐クリニック	岩佐 厚
	イワサキ眼科医院	岩崎 直樹

中央区(南)	34	大島内科医院	大島 久明
		大須賀内科	大須賀 康文
		小島クリニック	小島 昭重
		川崎皮膚科医院	川崎 紀彦
		さとう皮フ科クリニック	佐藤 誠紀
		さとう皮フ科クリニック	瀧北 知子
		(医)田中小児科医院	田中 祥介
		寺内クリニック	寺内 陽
		廣田整形外科皮膚科内科クリニック	廣田 龍二
		益田クリニック	益田 元子
		(医)岩佐診療所	岩佐 真人
		(医)福丸耳鼻咽喉科	福丸 昌宏
		松澤呼吸器クリニック	松澤 邦明
		みつもとレディースクリニック	光本 隆吉
		ふじたクリニック	藤田 富雄
		(医)松本内科クリニック	松本 淳
		すとうレディースクリニック	周藤 雄二
		(医)聖和会 早川クリニック	早川 謙一
		(医)聖和会 早川クリニック	早川 潤
		(医)大生會 さくま診療所	佐久間 航
		(医)大生會 さくま診療所	佐久間 知子
		安田クリニック	安田 光隆
		春木レディースクリニック	春木 篤
		寺内クリニック	寺内 勇
		河合皮フ科医院	河合 公子
		(医)東迎会 東迎クリニック	東迎 高意
		谷口レディースクリニック	谷口 幸一
		きむ医療連携クリニック	金 永進
		心斎橋いぬい皮フ科	乾 重樹
		(医)山田医院	山田 洋
		なんばくろとびハートクリニック	黒飛 俊哉
淀川区	4	(医)医誠会 新大阪医誠会クリニック	横田 甚
		希咲クリニック	山分ネルソン祥興
		かわばたレディスクリニック	河端 良一
		なかにしキッズクリニック	中西 康詞
旭区	3	うつのみやクリニック	宇都宮 健弘
		梅寄クリニック	梅寄 圭吾
		医療法人清水会 森小路清水会クリニック	左古 昌臈
東成区	6	古武診療所	古武 敏彦
		大谷透内科	大谷 透
		山崎診療所	連 美知子
		(医)いながきレディースクリニック	稲垣 実
		中山医院	津久井幾奴子
東淀川区	1	中山医院	津久井 伸一
		タツミ医院	巽 壽一
平野区	2	元林産婦人科内科	元林 和彦
		日野レディースクリニック	日野 晃治
都島区	1	祐クリニック	道清 勉

大阪府内

2	池田市	やまだクリニック	山田 祥晴
		松崎産婦人科クリニック	松崎 昇
4	茨木市	大河内医院	大河内 寿一
		秋岡・西代医院	秋岡 壽
		(医)中尾内科クリニック	中尾 誠
		マキレディースクリニック	田中 善章
1	柏原市	益弘産婦人科クリニック	益弘 和雄
1	吹田市	たてかわ内科クリニック	立川 豊吏
4	豊中市	(医)横野クリニック	横野 淑子
		(医)上宮医院	上宮 正直
		(医)直原ウィメンズクリニック	直原 廣明
		ふなごし呼吸器内科	船越 俊幹
9	東大阪市	(医)由仁会 岡本眼科	岡本 仁史
		(医)近藤医院	近藤 和秀
		永井医院	山崎 章子
		田路医院	田路 秀明
		西岡ファミリークリニック	西岡 宏彰
		医療法人三慧会 IVF大阪クリニック	福田 愛作
		西岡医院	西岡 良泰
		森産婦人科	森 政雄
		(医)弘和会 いわさきクリニック	岩崎 弘登
2	藤井寺市	数尾診療所	数尾 展
		(医)平成会 平松産婦人科クリニック	平松 恵三
1	松原市	(医)光仁幸会 西産産婦人科	西本 関男
3	八尾市	きくちレディースクリニック	菊池 知之
		萩原クリニック	萩原 正久
		なかじまレディースクリニック	中嶋 康雄
4	堺市	小野クリニック	小野 晃範
		典子エンジェルクリニック	船越 典子
		清水レディースクリニック	清水 千賀子
		きららファミリークリニック	吉良 俊彦
1	寝屋川市	森田医院	森田 真也
1	大東市	松下診療所	松下 和広
1	大塚市	たかはしクリニック	高橋 徹
1	高槻市	なかにし産婦人科クリニック	中西 一吉
1	岸和田市	(医)仁睦会 岡森医院	岡森 仁昭

大阪府外

4	奈良県	(医)久産婦人科・内科	久 靖男
		宇山内科クリニック	宇山 宏和
		(医)久産婦人科・内科	久 裕
		田中泌尿器科医院	田中 雅登
5	兵庫県	(医)社団 ふかみレディースクリニック	深見 和之
		黒田医院	黒田 昌男
		玉田クリニック	玉田 大介
		玉田クリニック	北村 哲宏
		風川医院	安田 雄紀

ニッセイ訪問看護ステーション

スタッフ 担当部長：水上洋子（ケアプランセンター兼務）

（保健師・介護支援専門員）

常勤看護師：丸山洋子（訪問看護ステーション師長、ケアプランセンター兼務）

酒井希代子（リンパ浮腫療法士） 吉井好夏、渡部美沙

非常勤看護師：山内祐子、小森奈緒子、永田悦子、笹内 舞、久間田久美子、巽 陽子

青木絵里子、小島加津代（介護支援専門員有資格）、濱田康美

田 弓子（保健師・介護支援専門員有資格） 岡村 要

訪問リハビリ：（日本生命病院リハビリテーション科兼務、理学療法士）

片岡宏一郎、麦田盛穂、廣田将司、田中 孝、藤岡栄悟、白川 桂、

安達幸恵、井手康裕、泉本亮二

1. 活動報告

地域医療支援病院併設の訪問看護ステーションとして、「予防から治療、在宅まで一貫した総合的な医療サービス」を提供するとともに、地域住民の暮らしを繋ぐ役割を担う医療者として、地域の行政、他機関、多職種と連携を図りながら、住民に寄り添う医療体制を整備し、地域から必要とされる看護が提供できるよう効率的で質の高い訪問看護を提供し、地域の人々の健康維持に努めた。

小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象とし、医療依存度の高い利用者や、がん・非がんの終末期、認知症、精神疾患など重度化・多様化・複雑化する医療ニーズに対応するために、訪問看護師と訪問リハビリテーションが協働して自立機能の維持とQOLの向上に配慮した在宅療養の継続に努めた。

月平均利用者数は162名、月平均訪問回数は1,115件（リハビリテーション11件）であった。介護保険利用者は月平均100名（介護予防14名 介護86名）、医療保険利用者は月平均62名であった。（表1）

退院後の在宅移行期の医療的ケアの取得及び介護体制の整備や病状の悪化等により、特別指示書が発行された件数は月平均5件であった。

日本生命病院を主体としつつ、西区を中心とした西部医療圏において多くの医療機関や居宅介護支援事業所と連携を図っている。利用者の居住地は西区が最も多く、次いで港区、大正区の順であった。（表2）

新規利用者の約半数が、日本生命病院から依頼を受け、主治医及び病棟看護師、あったかサポートセンターとの協働による切れ目のない医療・看護の提供及び連携強化に努めた。（表3）

看取りを含め、安心して在宅療養が継続できるよう緊急時及び24時間対応体制を充実させ約6割の利用者が契約している。また、医療機関及び在宅療養診療所との連携、日本生命病院における救急外来との連携や後方支援病院としての入院病床の確保などを行ない日本生命済生会全体として地域の在宅医療の推進に努めた。在宅での看取り件数は21件/年であった。

2. 訪問体制

1) 営業日及び営業時間

月曜日～金曜日：午前9時～午後4時（但し、国民の祝日、年末年始は除く）

また状況に応じては、主治医の指示に基づき、営業日・時間以外も対応している。

希望者には電話等により24時間常時電話連絡が可能な体制を整備し、事業所の電話以外に法人契約の携帯電話2台で対応している。

2) 通常の実施地域

大阪市西区、浪速区、港区、大正区、中央区、福島区、此花区

概ね事業所より、半径3km圏内

3. 地域包括ケアシステムへの貢献

地域に開かれた訪問看護事業所として人材育成や教育機関として多機能化への取り組みと地域ネットワーク事業への参画に尽力した。

1) 教育機能

（1）看護学生の実習受け入れ：森ノ宮医療大学、大阪福祉専門学校、大阪医専

（2）日本生命病院看護部退院支援研修：講義及び訪問看護ステーション実習

（3）大阪府訪問看護実践研修（教育ステーション）事業として地域の訪問看護ステーションや介護事業所を対象に研修を実施

①災害研修

②自己評価ガイドライン研修

③在宅医療推進のための研修

（4）訪問介護事業所への喀痰吸引指導

2) 地域ネットワーク事業への参画

（1）西区在宅医療連絡部会、西区在宅医療・介護連携相談支援事業、認知症等高齢者支援地域連携事業連絡会、認知症初期集中支援事業に参画し地域の高齢者施策へ貢献

表1 保険種別割合 (n=162)

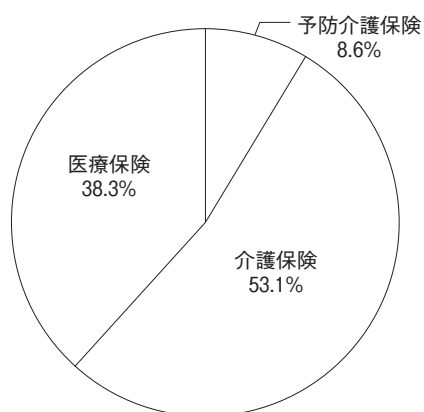


表2 利用者の住居地別割合 (n=162)

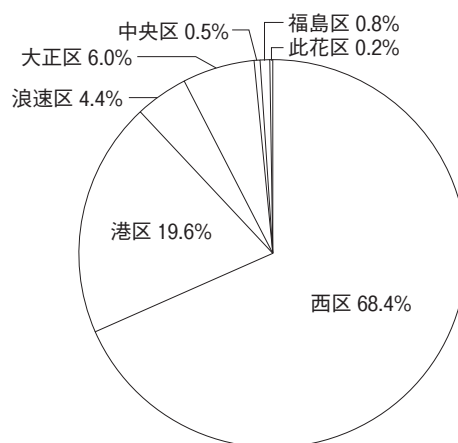


表3 新規利用者 (n=89)

依頼経路		人	割合	
日本生命病院	医師	3	3.4%	47.2%
	あったかサポートセンター	39	43.8%	
他医療機関医師		10	11.2%	15.7%
他医療機関相談員		4	4.5%	
行政・地域包括支援センター		1	1.1%	
本人・家族		8	9.0%	
訪問看護師		2	2.2%	
ケアマネジャー・相談支援センター		22	24.7%	
計		89	100%	

ニッセイケアプランセンター

スタッフ 管 理 者	水上洋子：保健師・介護支援専門員 (訪問看護ステーション担当部長兼任) 丸山洋子：看護師 介護支援専門員 (訪問看護ステーション師長兼任)
常勤スタッフ	本家裕子：社会福祉士・精神保健福祉士、介護支援専門員 (あったかサポートセンター医療福祉相談グループ副部長兼務) 松栄優子：社会福祉士・介護支援専門員 (あったかサポートセンター医療福祉相談グループ兼務)

地域医療支援病院併設の居宅介護支援事業所として、医療ニーズの高い利用者への医療と介護と福祉の連携強化ができるよう地域の医療機関や介護サービス提供機関との連携を図り、「自立支援」と「尊厳の保持」を尊重し、要介護状態の悪化の予防と維持改善を図るケアプランの立案を行っている。

1. 活動状況

①基本的には、当院にて入院中からの関わりの中で、他者との関係性の構築が困難なケースや、在宅療養期間が明らかに短いと予想されるケースなどを担当し利用者本位の自立とQOLの向上を目指したケアプランの作成を徹底した。新規の相談に対し、対応困難な場合には、医療依存度及び在宅での生活状況に応じ、公平・中立性の高い適切な居宅介護支援事業所を選択し紹介した。

②入院から在宅療養へ円滑に移行できるよう、退院指導への関与や、「生活」を見据えた援助ができるよう病院看護師への退院支援の継続的な研修会を開催した。

③介護サービス提供機関との連携強化に努めるとともに、地域における2ヶ月に1回の西区の居宅介護支援事業所連絡会に参加し、ネットワークづくりや情報の共有に努めた。

④地域包括ケアシステムの実現に向けて、医療・介護連携事業、在宅医療部会連絡会、認知症高齢者初期集中チームの多職種連絡会への出席により、地域ネットワーク事業に参画した。

看護部

スタッフ 看護部長：高鳥郁子
副看護部長：前川明子
統括看護師長：鈴木八枝子
専門部長：大野典子
教育担当看護師長：田畑文子
7階病棟看護師長：島津庸子
8階病棟看護師長：神谷香里
9階病棟看護師長：岩本真澄
10階病棟看護師長：森 エミ
集中治療室看護師長：木下園子
外来看護師長：高崎かおり

医療安全担当看護師長：阿部恭子
11階病棟看護師長：酒井亜紀子
12階病棟看護師長：川端千里
13階病棟看護師長：大和由紀子
14階病棟看護師長：賀戸ひとみ
手術室看護師長：木下園子（併任）
救急外来看護師長：高崎かおり（併任）

1. 看護部の理念

（公財）日本生命済生会の基本理念『済生理民』に従い、一人ひとりの状態と立場と気持ちに沿った看護を提供します。

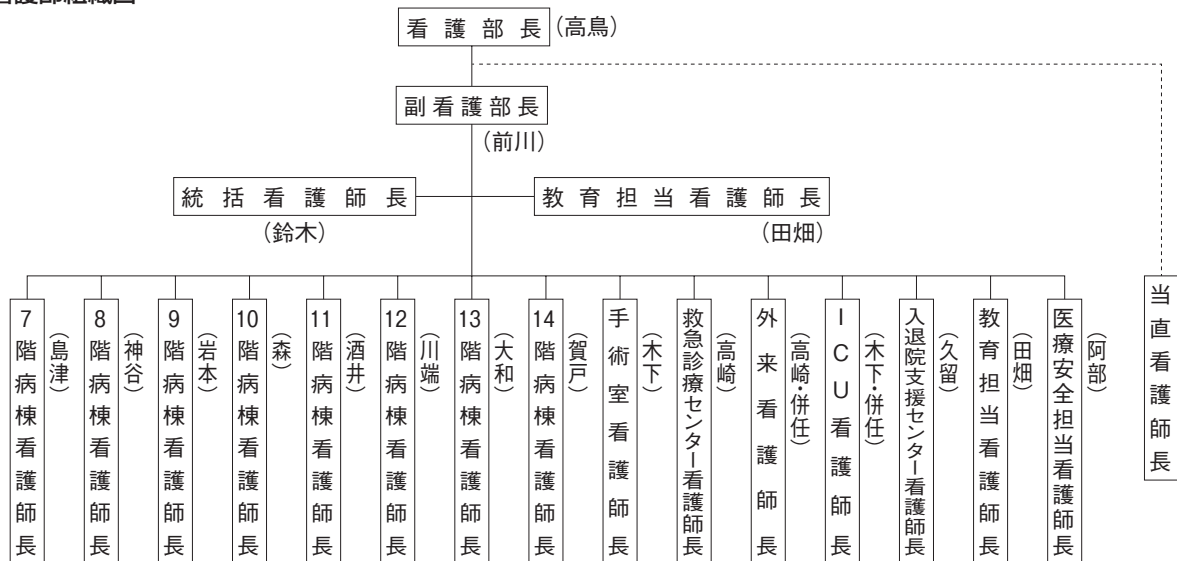
2. 看護部基本方針

- 1) 患者さんの生命の尊厳と人権を尊重し、心のこもった看護を提供します。
- 2) 患者さんの生活環境を整え、安全で確実な看護を

提供します。

- 3) 患者さんの視点に立って業務改善や効率化をはかり個々の職務満足度を高めるよう努めます。
- 4) 専門職としての自己研さんに努め看護職の責務を果たします。
- 5) 地域医療に貢献する急性期病院としての役割を担い、地域住民から信頼される看護サービスの向上を目指します。

3. 看護部組織図



4. 平成30年度看護部目標

2019年度は、4つの目標を掲げ、看護部委員会、看護師長会、次席師長会が中心となって活動した。目標及び計画立案にあたっては、前年度の活動の振り返りとともに、病院・看護部を取り巻く環境の変化等を考慮しSWOTクロス分析を用いて課題を抽出した。特に2019年度は日本生命病院移転・開設2年目となり、新病院としての真価が問われる年度として、各看護単位が連携、協働し病院の運営に一致団結できることを意識して目標を立案した。また、目標の達成基準、責任者

を明確にし、計画立案、中間報告、期末報告を通して達成状況を共有し、目標達成に向けて取り組んだ。

年度末に発生したCOVID-19の対応においては、感染対策委員会の方針の下「帰国者・接触者外来」、陰圧室10室を活用しての入院患者対応に全部署参加し丁寧な患者対応に努めた。

2019年度看護部目標

1. チーム日本生命病院の一員として、チーム医療を推進し患者満足度の向上を図る
 - 1) 多職種連携を強化し、チーム医療の推進

- 2) 各部署の連携を強化し、入退院支援の充実
- 3) 看護のやりがいを感じ活き活き働ける職場環境作り
2. 固定チームナーシングのチーム活動を通して、OJTを推進し看護の質向上を図る
 - 1) 固定チームナーシング・ペア体制を整備し、ケアの責任体制の明確化と効率のよいチーム活動の推進
 - 2) 看護のケアプロセスがわかる看護記録の充実
 - 3) DiNQLデータを活用しての業務改善
 - 4) リスク感性を高め、医療安全文化の醸成
3. 地域から信頼される看護実践力の向上を図る
 - 1) 患者の生活を支える視点を持ち、患者の意思決定支援ができる看護師の育成
 - 2) 専門領域を目指す看護師の育成・支援
 - 3) がん診療拠点病院としての看護の役割を発揮
4. 診療機能の充実に対応し、積極的な病院経営への参画
 - 1) 病床稼働率86.6%達成に向け、効率的な病床運営と各部署の連携強化
 - 2) 診療報酬の取得漏れ防止対策の徹底

5. 看護部の概要

施設基準：急性期一般入院料 1 7 : 1
 夜間看護体制加算16 : 1 (6月より)
 看護体制：二交代制 (夜勤時間15時間)
 看護方式：固定チームナーシング
 継続受け持ち制 (ペアナース制)

6. 看護職員数 (2020年3月1日現在)

看護師：228名 助産師：21名
 看護助手：27名

7. 研修参加状況

- 1) 院内研修 (別表)
- 2) 院外研修 (別表)
- 3) 学会発表 5題

8. 看護学生実習受け入れ

- ・大阪保健福祉専門学校 (3年課程)

6月～8月 (母性看護学)	9名
1月 (成人看護学)	4名
- ・大阪府病院協会看護専門学校 (3年課程)

5月～6月・2月～3月 (母性看護学)	14名
6月～7月・2月～3月 (成人看護学)	14名
- ・甲南女子大学 (4年課程)

5月～6月 (統合実習)	6名
9月～12月 (母性看護学)	24名
(成人看護学)	47名
8月～12月 (助産学)	2名

- ・森之宮医療大学 (4年課程)

4月～2月 (母性看護学)	14名
---------------	-----
- ・関西医療大学 (4年課程)

10月～11月 (母性看護学)	9名
11月～12月 (成人看護学)	9名
- ・四條畷学園大学 (4年課程)

7月 (総合実習)	12名
1月 (母性看護学)	9名
1月～2月 (成人看護学)	16名
- ・南大阪看護専門学校 (3年課程)

5月～9月 (小児看護学)	18名
---------------	-----
- ・大阪医専 (3年課程)

6月 (統合実習)	10名
5月～3月 (成人/老年看護学)	59名
9月～10月 (小児看護学)	5名

9. 看護体験受入れ

- ・大阪府主催一日看護師体験 高校生 7名

10. 看護フェア

6月15日 参加者73名
 身体測定 (体重・身長・血圧・体脂肪)、
 アロマ・マッサージ、
 ミニレクチャー (乳がんのセルフチェック方法)

11. 日本生命病院地域連携看護セミナー

昨年度より、地域の看護職者とともに学び研鑽できる場として専門・認定看護師を中心に企画した「日本生命病院地域連携看護セミナー」は、定期開催が定着し院外の参加者からも毎回好評を得た。

- | | |
|---|----------------|
| 5/16 「HIV/AIDSで発展した感染対策～感染予防の過去・現在 (いま)・未来～」
感染症看護CNS大野典子 | 参加50名 (院外22名) |
| 7/18 「症例から考えるストーマ周囲皮膚障害の対策」
皮膚・排泄ケアCN田中敬子 | 参加81名 (院外42名) |
| 9/19 「バイタルサインで救急受診の必要性を見極める」
救急看護CN牧田佐和子 | 参加134名 (院外43名) |
| 11/22 「静脈血栓塞栓症について～リスクと予防」
手術看護CN二井千里 | 参加60名 (院外19名) |
| 1/16 「外来がん化学療法を受ける患者の病院と地域のがん看護連携～ケアをつなぐ支援の実例～」
がん化学療法看護CN大島千春 | 参加66名 (院外25名) |

3月企画のセミナーは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期とした。

12. 病棟状況

部署	定床	2019年度 平均患者数	病床稼働率	平均在院日数	看護師配置数 (2020.3.1現在)	勤務人員(2020.3月平均勤務人数)			平均夜勤回数
						深	日	準	
7階	41	30.8	87.7%	6.0	27(1)	3.4	9.2	3.4	3.8
8階	44	33.5	85.8%	8.1	25	2.9	8.8	2.9	3.8
9階	43	35.8	88.7%	15.2	25	3.0	8.4	3.0	3.8
10階	42	32.6	86.0%	9.4	25(1)	3.0	9.5	3.0	3.7
11階	43	36.0	89.4%	15.3	25(1)	3.0	9.0	3.0	3.6
12階	44	36.4	87.1%	19.5	26	3.1	9.7	3.1	3.6
13階	43	36.2	90.0%	15.3	25	3.0	9.4	3.0	3.9
14階	42	31.3	82.3%	9.8	26(1)	3.0	9.9	3.0	3.6
ICU	8	2.8	35.5%	17.7	16	2.0	4.2	2.0	4
外来 救急診療センター					39(22)				
手術					20(2)				
管理					15(1)				
計	350	275.5	86.0%	10.9	294(29)				

() パート

13. 専門・認定看護師活動

1) 感染症看護専門看護師 大野典子

2019年度は新病院移転後に新設あるいは変更した感染対策の見直しを行った。

年度末にはCDVID-19が国内でも流行し、大阪ではクラスターが発生した。未知の感染症は診療機能に大きな影響をもたらすが、可能な限り患者、職員の安全を目標にマニュアルの作成と指導、実際の診療やケア場面での確認指導を行った。

今年度の課題とした倫理調整は臨床倫理コンサルティングチーム(CECT)による定期的なラウンドを開始した。CECTへの相談は52件(延べ数)と増加し、4事例のカンファレンスを開催した。

専門看護師、感染担当看護師として相談219件、教育・指導207件、調整471件に介入した。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動

- ・ICTリンクナースの会委員長
- ・研修講師 新人研修 感染管理
- ・看護研究指導
- ・感染対策委員会、安全衛生委員会、栄養給食委員会(NST)、倫理委員会(臨床倫理コンサルティングチーム)、治験委員会

【院外活動】

- 厚生労働省行政推進調査事業補助金(エイズ対策政策研究事業) HIV感染症及びその合併症の課題を克服する事業(研究協力者) HIVサポートリーダー養成講習 講師
- 大阪教育センター附属高校 HIV/AIDS予防教育 講師
- 大阪府立今宮工科高等学校 HIV/エイズ予防講座 講師

4. 大阪市立東中学校 性感染症予防授業 講師

5. 大阪府立大学大学院看護学研究科訪問看護研修会 講師

6. 大阪医専 専攻授業(感染症看護) 講師

7. 大阪府立大学大学院看護学研究科 臨床准教授

8. 論文: 中規模急性期病院における臨床倫理に関する取り組み(2019年7月, 古結敦士他, 共著)

9. 学会参加

- ・第35回日本環境感染学会総会(2020年2月, 横浜)
- ・第6回日本CNS学会(2019年6月, 愛知)
- ・第93回日本感染症学会学術集会(2019年4月, 名古屋)

2) がん性疼痛看護認定看護師 小山佐知子

医師からのがんの告知、病状説明の際に同席しがん患者、家族を支援。がん患者指導管理料1算定、がん患者指導管理料2算定など合わせて387件行った。がん相談件数は131件であった。緩和ケアチーム介入数は、238件で前年度より増加。うちがん214件(90%)非がん24件(10%)であった。がん患者の介入依頼時期は診断から治療前が23件、治療中98件、治療終了後が93件であった。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動

- ・緩和リンクナースの会: 月1回
- ・緩和ケアチーム回診および緩和ケアチームカンファレンス: 1回/週
- ・NSTラウンド: 1回/週

2. 研修講師

- ・3年目: 「ベッドサイドの看護倫理」
- ・市民健康セミナー30分でよくわかる健康講座: 「ご存じですか? 緩和ケア」

【院外活動】

1. 研修講師
 - ・大阪府看護協会主催：短期研修「がん患者の症状緩和を図る看護」（2019年9月27日）
 - ・淀川キリスト教病院主催：ELNEC「疼痛」（2019年10月26日）
2. 学会参加（一般参加）
 - ・第24回日本緩和医療学会学術大会（2019年6月、横浜）
- 3) 救急看護認定看護師 牧田佐和子
救急診療センターに所属し、救急来院した患者を迅速に病態把握して診察・処置・検査の介助を行い苦痛の緩和に努めている。また救急診療センターに来院する事は非日常であるため、患者や家族の精神的なケアも同時に行っている。また、院内で起こった急変時には現場に駆けつけて、急変時処置・ケアがスムーズに行えるように病棟看護師と共に対応している。
今年度は、防災管理向上のために病棟用のアクションカードを作成し、防災訓練時に使用して改良を図った。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・当直・救急・集中治療室検討委員会：2ヶ月に1回
 - ・防災管理委員会：2ヶ月に1回
 - ・ACLS委員会：月に1回
 - ・救急リンクナース：月に1回
 - ・RSTチーム：人工呼吸器装着を装着した患者に対し装着後4日以内にチームラウンドを行う
2. 研修講師
 - ・新人研修
「フィジカルアセスメント」「BLS」
「救急診療センター研修」
 - ・2年目研修
「ISBARCについて」「気管挿管介助」
「急変時の対応シミュレーション」
 - ・第6回 地域連携看護セミナー
「バイタルサインで救急受診の必要性を見極める」
 - ・各病棟でのシミュレーション教育

【院外活動】

1. 研修講師
 - ・大阪府看護協会主催BLSインストラクター
 - ・ニッセイこどもフェア：BLS・AED講師
- 4) 手術看護認定看護師 二井千里
手術を受ける患者が安心・安全にまた最良の状態です手術に臨むことができるよう入院支援センターや各科外来と連携し、周術期を通した看護ケアの提供に努めた。術前看護外来は54件（内5件はスタッフと共に実施）、術前呼吸リハ1件、禁煙指導3件であった。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・現任教育委員会：月1回
 - ・入退院支援リンクナース会：月1回

【院外での活動】

1. 学会参加（一般参加）
 - ・第33回日本手術看護学会年次大会（2019年10月、岡山）
- 5) 糖尿病看護認定看護師 角南ちえ子
糖尿病・内分泌センターにおいて外来患者療養支援、入院患者の末梢神経機能検査、フットケア指導などを行っている。糖尿病・内分泌センター全体での実績は、総指導患者数2111名で、指導加算該当は在宅療養指導515件、糖尿病合併症管理121件、糖尿病透析予防指導管理515件であった。また糖尿病・メタボ精査入院は31件実施した。また、2020年1月より血液浄化センターと協働し、透析患者へのフットケアを開始した。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・糖尿病・内分泌センター運営委員会：不定期
 - ・糖尿病チーム回診：週1回
 - ・糖尿病・内分泌センター勉強会：不定期
 - ・医薬品の安全管理ワーキンググループ：月1回
2. 研修講師
 - ・新人研修：「インスリン療法」

【院外活動】

1. 研修講師
 - ・大阪府看護協会主催：「糖尿病重症化予防（フットケア）」研修 ファシリテーター（2019年8月11日・12日）
2. 学会参加（発表）
 - ・「週末3日間の糖尿病教育/精査入院パスの作成とその有用性」第62回日本糖尿病学会年次学術集会（2019年5月、宮城）
3. 学会参加（一般参加）
 - ・第24回日本糖尿病教育・看護学会年次学術集会（2019年9月、千葉）
 - ・第56回日本糖尿病学会近畿地方会（2019年11月、大阪）

- 6) 乳がん看護認定看護師 水越 梓
7階レディース病棟に所属し、乳がん患者・家族に対して必要なケアの実践・指導を行い、患者自身が苦痛を少なく日常生活を過ごすことができるようにセルフケア能力の向上に努めている。また、レディース病棟のスタッフに対して、その時に必要な患者ケアの相談や指導を行い、ベッドサイドでのケアの充実化に取り組んでいる。
病名告知の際には医師の説明の補足を行い、患者・家族の意志決定支援を行った。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・口腔ケアサポートチーム：週1回ラウンド

【院外活動】

1. 研修講師
 - ・スヴェンソン主催：講師（2019年8月）
 - ・第15回With you関西：関西実行委員（2019年9月）
2. 学会参加（一般参加）
 - ・第27回日本乳癌学会学術総会（2019年7月、東京）
- 7) がん化学療法看護認定看護師 大畠千春
化学療法室で勤務し、がん化学療法を受ける患者の症状マネジメントやセルフケア支援を実践している。平成31年度実績は、外来化学療法加算2947件、加算なしを含めた総延べ件数3163件の化学療法を行い、安全な投与管理に努めた。治療方針変更の際には、医師と協働しがん薬物療法補足説明を実施し意思決定支援を行った。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・化学療法運営委員会：年2回不定期
 - ・緩和ケアリンクナースの会：月1回
 - ・がん患者サロン：月1回
 - ・口腔ケアサポートチーム：週一回ラウンド
2. 研修講師
 - ・2019年5月15日 新人研修「がん化学療法と曝露対策」

【院外活動】

1. 学会参加（発表）
 - ・「遺伝カウンセリングを必要とする患者に関わる認定看護師の役割」第57回日本癌治療学会学術集会（2019年10月、福岡）
 - ・「当院でのチーム医療の実践と地域医療構想」（共同演者）第57回日本癌治療学会学術集会（2019年10月、福岡）
2. 学会参加（一般参加）
 - ・第27回日本乳癌学会学術総会（2019年7月、東京）
 - ・第4回日本がんサポーターブケア学会学術集会（2019年9月、青森）
- 8) 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中敬子
褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定を6月から開始し、50件/月以上を算定した。それに伴いリスクアセスメントや褥瘡予防治療計画書の作成、カンファレンス・褥瘡回診を毎週行うことで重点的な褥瘡対策を実施することができ、自重関連褥瘡の推定発生率は1.25%と昨年度より0.2%減少した。MDRPUの推定発生率は0.46%であった。ストーマケアにおいては、ストーマサイトマーキングを16件、ストーマ外来を延べ94件行い、ストーマ保有者の社会復帰支援を行った。

【院内活動】

1. 役割/委員会活動
 - ・褥瘡対策委員会：不定期
 - ・褥瘡リンクナースの会：月1回
 - ・褥瘡ハイリスクカンファレンス及び褥瘡回診：1回/週
 - ・NSTラウンド：1回/週
2. 研修講師
 - ・新人研修：「スキンケアの基礎 褥瘡の基礎知識と予防法」

【院外活動】

1. 研修講師
 - ・（株）大黒ヘルスケアサービス主催、（社）日本オストミー協会共催：第6回ストーマケアセミナー 講師（2019年11月2日）
 - ・新大阪病院：ストーマケアセミナー 講師（2020年1月24日）
2. 学会参加（一般参加）
 - ・第21回日本褥瘡学会学術集会（2019年8月、京都）
3. 第37回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会（2020年2月、静岡）

14. 看護部委員会活動

1) 現任教育委員会委員会 田畑文子

<2019年度目標>

- ①教育計画に沿った研修を実施し、評価を行う。
- ②部署内で教育を行う指導者を支援する。
- ③6年目以上の研修計画を検討・企画する。

<活動内容>

①研修を教育計画通り実施した。

- 1年目：看護技術研修、フィジカルアセスメント、看護倫理、医療安全、など36テーマ
- 2年目：メンバーシップ研修、看護診断、フィジカルアセスメント、ISBARCなど、6テーマ
- 3年目：リーダーシップ、訪問看護実習研修、看護倫理、看護診断、ディベートなど6テーマ
- 4年目：アサーティブ、看護過程など3テーマ
- 5年目：看護過程、看護倫理など3テーマ 臨床実習指導者・・・効果的な指導方法など、3テーマ 合計57テーマを実施した。

また、事例検討会を1年目から5年目まで各年毎に実施。1年目研修では、救急診療センター、集中治療室、手術室での技術研修と多職種でのリフレッシュ研修を今年度より実施した。

- ②来年度に向けて認知症看護、皮膚排泄ケア災害看護などの企画を検討し2020年度の教育計画に組み入れた。
- ③クリニカルラダー、ラダーⅢの認定評価の実施し、10名を認定した。また、IVナース レベルⅡの認定を実施し、46名を認定した

2) 看護記録委員会 神谷香里

<2019年度目標>

- ①ケアプロセスのわかる看護記録ができる
- ②看護記録の適正化を図る

<活動内容>

- ①看護基準に基づいた看護基準計画の修正、追加を実施した。消化管出血、腰椎麻酔、呼吸不全、免疫抑制剤使用中、ショックの看護基準計画が追加された。次年度にも更に追加すべき計画があり、基準手順委員会と連携し継続して行く必要がある。
新人、3年目、4・5年目研修を実施しそれぞれのレベルに応じた看護計画立案について演習を行った。
看護記録マニュアルを改訂した。
- ②看護記録監査を実施し、2019年度の監査率は85.4%であった。形式監査に注力している傾向があり、今後は質監査の充実に向けて働きかける必要がある。
入院診療計画書を監査していたが、看護計画についての内容が個別性に欠ける傾向があった。又、転科や状態変化時に計画書の発行ができていないこともあり、次年度の課題とした。

3) 基準・手順委員会 賀戸ひとみ

<2019年度目標>

- ①看護業務基準の修正、周知、遵守
- ②看護業務手順の修正、周知、遵守
- ③ナーシングメソッドの有効活用

<活動内容>

- ①現存する全ての看護基準の見直し、修正、追加を行った。
免疫抑制剤を服用中の患者の看護基準計画がなく、計画立案に苦慮していた為、記録委員会と協力を行い、新たに「免疫抑制剤の使用中の基準」を作成した。また、「同種造血幹細胞移植の基準」「ショックの基準」を新たに作成した。
- ②現存する全ての看護手順の見直し、修正、追加を行った特に注意喚起の必要な、「バルンカテーテル留置」「CVカテーテル挿入」「心電図装着」の手順を修正。また、周知が出来ているか、アンケート調査を行った。70%の周知率であった。引き続き、周知できる活動が必要である。
- ③ナーシングメソッドの必要物品、目的の編集を行った。当院で使用する物品に編集した事で、より実践に役立てる事ができた。

4) 看護部経営改善委員会 川端千里

<2019年度目標>

- ①重症度、医療・看護必要度の精度管理を行い、B項目の看護記録が適正に記録される。
- ②認知症加算・入退院支援加算が適正に評価され

各リンクナースと協力して対象者の増加を目指し、取り漏れを防ぐ。

<活動内容>

- ①今年度より監査用紙が廃止となり入力漏れを防ぐ為「看護必要度記載確認表」を作成、B項目に関しては2名での看護記録の最終見直し強化にて、2019年度の重症度、医療・看護必要度は30%以上を維持する事ができた。
- ②診療報酬に関しては、認知症ケア加算2の算定の為、入院数・認知症高齢者日常自立度判定を評価した数・判定されたうちⅢ以上の数・Ⅲ以上で看護計画を立案した数の監査を行い、リンクナースと協力し評価見直しや計画立案を働きかけた。入退院支援加算では2018年度の取得率と取得の項目の1DAY調査を行い、リンクナースと協力し取得を妨げる要因解明を行い加算の増加に繋げた。新たに6月から「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」649件、10月から「排尿自立指導料」52件を計上した。各リンクナースとの協力にて、指導管理料が昨年度より上回っており、スタッフのコスト取り漏れに対する認識が高まった。

5) 広報委員会 島津庸子

<2019年度目標>

- ①日本生命病院のホームページをタイムリーに更新する。
- ②看護フェア、夏休み子供医療体験、病院見学会などの行事を関連部署と協力し、企画運営評価する。

<活動内容>

- ①各関連部署で看護部のホームページを見直し、現状にあったものへと更新した。
- ②5月17日に看護フェアをあったかふれあいホールにて開催した。各部署の看護の紹介ポスターを作成し掲示した。また来場者に造花を渡し、『良い看護』をしていると思う部署のポスターの下に貼ってもらい、最も良い看護をしている部署を決定した。
夏休み子供医療体験や中学生の職業体験を各部署の広報委員が中心になって、子供達に病院における看護師の役割を知ってもらった。
病院見学会のマニュアルを作成し、スムーズに会が進行できるようにした。
地域連携看護セミナーの会場準備や、地域の医療機関への広告郵送など、専門・認定看護師と協力し運営した。

6) 看護の質改善委員会 岩本真澄

<2019年度目標>

- ①看護の質を患者の視点で評価し改善する。
- ②看護業務に関するデータを収集し、改善に活かす。

＜活動内容＞

- ①退院時アンケートを4月、9月、1月に実施し、変化を確認することとした。「看護は継続していたか」の項目は改善がみられたが、その他の項目に関してはばらつきがみられた。入院への総合満足度は改善していた。
- ②看護業務に関しては、退院支援カンファレンスが日々の看護計画や看護記録に結びついているかを確認した。結果、「看護計画にカンファレンスの内容が反映されていない」「看護計画が患者の状態に合っていない」「患者さんの状態ではなく病名から先に看護計画を立ててしまいがち」などの評価がされた。今後は、退院支援カンファレンスについて、医師の参加や医師の治療方針の確認についての意識を持つことと退院支援について、看護計画へ反映し、日々の看護記録を充実させることが課題である。

15. 業績

学会発表

1. 角南ちえ子:週末3日間の糖尿病教育/精査入院パスの作成とその有用性, 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 2019年5月, 宮城
2. 大畠千春, 高島郁子, 中内千暁, 西田幸弘:遺伝カウンセリングを必要とする患者に関わる認定看護師の役割, 第57回日本癌治療学会学術集会, 2019年10月, 福岡
3. 和田仁美, 溝辺由美, 寺川 梓:産後2週間健診における助産師の関わり～育児経験のある助産師の対応に焦点を当てて～, 第58回大阪母性衛生学会学術集会・研修会, 2019年12月, 大阪

2019年度 看護部継続教育実績 (院内)

研修会名	年月	内容	参加者数
新人研修	2019年4月	看護部理念・目標、看護部の組織、看護職の責任と役割、職業倫理、看護サービス	34
	2019年4月	社会・地域に求められる当院の役割と機能	34
	2019年4月	リスク管理・個人情報保護	34
	2019年4月	看護部の教育体制	34
	2019年4月	接遇	34
	2019年4月	災害・防災について	34
	2019年4月	院内感染指針・標準予防策・感染経路別予防策	34
	2019年4月	安全な採血	34
	2019年4月	安全な薬剤管理	34
	2019年4月	安心・安全な注射技術	34
	2019年4月	クリニカルパス	34

研修会名	年月	内容	参加者数
新人研修	2019年4月	看護師としての社会人基礎力とは	34
	2019年4月	チーム医療	34
	2019年4月	医療安全管理体制と安全管理の技術	34
	2019年4月	看護記録	34
	2019年4月	移乗・移送・ポジショニング	34
	2019年5月	フィジカルアセスメントの基礎	34
	2019年5月	コミュニケーション 報告・連絡・相談とは	34
	2019年5月	薬剤・放射線曝露防止	34
	2019年5月	吸入・吸引	34
	2019年6月	導尿・膀胱留置カテーテル挿入	34
	2019年6月	重症度 医療・看護必要度	34
	2019年6月	インスリン療法と看護	34
	2019年6月	褥瘡の基礎知識と予防おむつ交換	34
	2019年7月	ストレス・マネジメント リラクゼーション	33
	2019年7月	3ヶ月の振り返り	33
	2019年7月	輸液ポンプ・シリンジポンプ	33
	2019年7月	KYT	33
	2019年7月	心電図の装着、見方、アラーム等の対応	33
	2019年8月	BLS 気管挿管介助	32
	2019年8月	救急薬品	32
	2019年9月	多重課題に取り組もう	30
	2019年10月	リフレッシュ研修	31
	2019年10月	麻薬の取り扱いと主作用・副作用	31
	2019年10月	看護過程・看護記録	31
	2019年10月	輸血時の看護	31
	2019年9月～10月	救急診療センター・手術室・ICU研修	31
	2019年11月	基礎から学ぶ人工呼吸器管理と看護	29
	2019年11月	ベッドサイドの看護管理	29

研修会名	年月	内容	参加者数
新人研修	2019年12月	食について考える	29
	2020年 2 月	1 年の振り返り	28
2 年目研修	2019年 5 月	メンバーシップ	26
	2019年 6 月	看護過程と看護診断	26
	2019年 7 月	IVナース認定研修	26
	2019年 9 月	フィジカルアセスメントと ISBARC	26
	2019年11月	「急変を防ごう！急変時の対応を学ぼう！」	25
	2020年 2 月	看護過程事例検討	25
3 年目研修	2019年 6 月	自分の役割の中で果たすべきリーダーシップとは	22
	2019年 7 月	訪問看護研修	22
	2019年 8 月	看護過程研修	21
	2019年 9 月	ディベートをやってみよう	22
	2019年11月	ベッドサイドの看護倫理	22
	2020年 1 月	看護過程事例検討	22
4 年目研修	2019年 7 月	アサーションで看護業務を円滑に	17
	2019年11月	看護過程事例検討	17
4・5 年目研修	2019年 8 月	看護過程研修	29
5 年目研修	2019年10月	ベッドサイドの看護倫理	12
	2019年12月	看護過程事例検討	12
臨地実習指導者研修	2019年 7 月	指導者って何だろう 自身を見直してみよう	10
	2019年 8 月	現代の看護学生の気質とコミュニケーション事例を通して効果的な指導を考える	9
	2019年12月	看護学生との関わりを通しての学び	9
看護研究	2019年 5 月	看護研究の基礎・進め方	33
	2019年 7 月	テーマの絞り込み	34
	2019年 9 月	研究計画書発表	38
	2019年12月	分析	34
	2020年 2 月	看護研究発表会	110

2019年度 看護部継続教育実施状況（院外）

主催	日程	研修テーマ	氏名
大阪府看護協会	6 月	病棟看護師としてできる退院支援・調整	森川智代 篠部 郁
大阪府看護協会	6 月	一次救命処置を学ぼう	藪内由梨 村越颯希
大阪府看護協会	6 月	がん化学療法を受ける患者の支援	坂本美津子
大阪府看護協会	7 月	病棟看護師としてできる退院支援・調整	中西 舞 小池瑞希
大阪府看護協会	7 月	高齢者の特性を踏まえたエンド・オブ・ライフケア	湯峯里恵
大阪府看護協会	7 月	看護研究シリーズ～研究計画書の作成～	森蘭祐子
大阪府看護協会	7 月	第 2 回 国際看護師養成研修	大谷ひとみ
大阪府看護協会	8 月	一般病棟における急変を防ぐ観察と看護のポイント	松下かりん
大阪府看護協会	8 月	救急集中領域におけるクリティカルケア	松下かりん
大阪府看護協会	8 月	「看護職の賃金モデルの考え方」について	鈴木八枝子
大阪府看護協会	8 月	アドバンス・ケア・プランニング～人生の最終段階における医療・看護のあり方を考える	小山佐知子 田畑文子 大和由起子 湯峯里恵
大阪府看護協会	8 月	医療・看護場面で使う英会話	田畑文子
大阪府看護協会	9 月	医療安全管理者養成研修	大和由起子
大阪府看護協会	9 月	病気・障がいを持つ子どもと家族への看護ケア	東 景子
大阪府看護協会	9 月	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②	宮田綾佳 泰久美子
大阪府看護協会	10月	看護研究シリーズ④～学会発表を目指して～	森蘭祐子
大阪府看護協会	10月	新人看護職員研修責任者研修	柱本明子
大阪府看護協会	10月	みんなで取り組む業務カイゼン②	小谷口早苗 森園祐子
大阪府看護協会	10月	「ナッジ」って何？～意思決定を支援する行動経済学～	鈴木あかね 河村理香 久留明子 湯坂久美子
大阪府看護協会	10月	チームマネジメントにおけるリーダーシップ①	原澤里美 上村優子
大阪府看護協会	11月	看護師向けワークショップ 看護職の働き方改革～健康で安全な職場を目指して	神谷香里

主催	日程	研修テーマ	氏名
大阪府看護協会	11月	摂食・嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ	森本悦世
大阪府看護協会	11月	災害看護における初期医療支援活動	原澤里美
大阪府看護協会	11月	地域包括ケア時代の主任・副看護師長の役割	源 真子 久留明子
大阪府看護協会	11月	災害訓練（警察病院）	三好優子
大阪府看護協会	11月	チームで取り組む医療安全～やってみよう！TeamSTEPPS～	高崎かおり
大阪府看護協会	11月	「新人看護職員研修責任者フォローアップ研修」	田畑文子
大阪府看護協会	12月	今日から実践出来る褥瘡ケア	中川弥紀
大阪府看護協会	12月	JNAラダーの理解 JNAラダー活用のための手引きの解説	鈴木八枝子
大阪府看護協会	12月	経済学で読み解く看護サービス	島津庸子 大和由紀子
大阪府看護協会	12月	健康と生活を大切にしたい働き方 ヘルシーワークプレイスを目指して	神谷香里
大阪府看護協会	1月	主任・副看護師長のための人材育成とチームマネジメント	川瀬俊子
大阪府看護協会	1月	助産師職能委員会 開催「周産期災害研修」	溝辺由美 丁野貴巳
大阪府看護協会	1月	働き方改革の推進 多様な勤務形態の普及に向けた活動	島津庸子 森 エミ 森園祐子
大阪府看護協会	1月	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会フォローアップ研修	鶴田千里
大阪府看護協会	1月	大阪市看護職員認知症対応力向上研修	小谷口早苗 水越 梓 石川奈津実 澤山 曜 森本悦世 西田朋子
大阪府看護協会	2月	大人の発達障害～共に働くために～	新部里美
大阪府看護協会	2月	労働環境支援事業部 現場が知っておきたい外国人患者対応の基礎知識	一川万里也 山本由理香 三好優子
大阪府看護協会	2月	暴力やハラスメントのない職場づくり	田畑文子 阿部恭子 三好優子

看護部 長期およびその他の研修

主催	日程	研修テーマ	氏名
大阪府看護協会	5月17日～ 6月29日	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	高崎かおり
大阪府看護協会	5月17日～ 7月23日	第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会	姉川友里江
日本病院薬学会	8月28日～ 8月30日	第22回CRC養成研修会	鈴木あかね
大阪市立総合医療センター	7月6日	糖尿病・高血圧の最新情報そして緩和医療の今	鈴木あかね
大阪国際がんセンター	9月17日 10月1日 11月19日 12月17日	看護師に対する緩和ケア研修会	宮田綾香
全国助産師教育協議会	7月19日、 20日、21日 8月23日、 24日、25日	実習指導者講習会（特定分野：助産）	溝辺由美
大阪市立大学医学部	10月9日～ 10月21日	造血幹細胞移植HCTC研修	奥山未来
大黒ヘルスケアサービス	11月2日	ストーマケアセミナー	大山祐果 小川真生
日本臨床看護マネジメント学会	11月10日、 1月26日	「認知症ケア加算2」の施設基準に対応した研修	酒井亜紀子
日本医療機能評価機構	2020年 2月16日	病院機能評価受信ポイントと業務改善資料作成・プレゼンのコツ	賀戸ひとみ
S-Q研究会	2020年 3月21日	令和2年度診療報酬改定説明と解説	川端千里 賀戸ひとみ

国 際 室

スタッフ 室 長：許斐正啓（事務局長）
副 部 長：陶 彬毅（国際医療コーディネーター）
中国語医療通訳：飯田 香（常勤）、張 婷（非常勤）

概要：

在日・訪日外国人の増加に伴い、日本語の不自由な患者さんが来院するケースも増加している。言語の壁を無くし、安全・安心な医療を受けられるように、2019年4月より国際医療コーディネーターと医療通訳者を配置、中国語と英語のサポートを開始した。対応患者数が増加してきたため、10月に国際室を新設した。

2019年5月には、「大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関」に採択された。

2020年2月には、渡航受診者の受入体制や取組が所定の水準を満たす病院が推奨を受ける「ジャパンインターナショナルホスピタルズ（JIH）」の訪問審査を受け、2020年4月16日付で認証された。

1. 業務内容

1) 言語サポート

日本語の不自由な患者さんが受診する際に、言語サポートを行っている。

①対面通訳

原則として、外来診療日の診療時間内では、中国語と英語の対面通訳が対応できる体制を整えている。

②電話通訳

診療時間外の対応は、「大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関」の支援事業による電話通訳で、24時間365日カバーしている。（英語・中国語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語）

③その他のツールの活用

- ・各現場に合わせ、オリジナルのコミュニケーションツール（指差しボード）を作成・活用している。
- ・通訳のニーズが高い部署には翻訳機器（ポCKET、74言語対応）を配置し、簡単なコミュニケーションが現場で取れるようにしている。

2) 医療の国際化に対応する院内体制の整備

院内標記や院内書類の多言語化など、日本語の不自由な患者さんがスムーズに受入れられる環境を整備している。

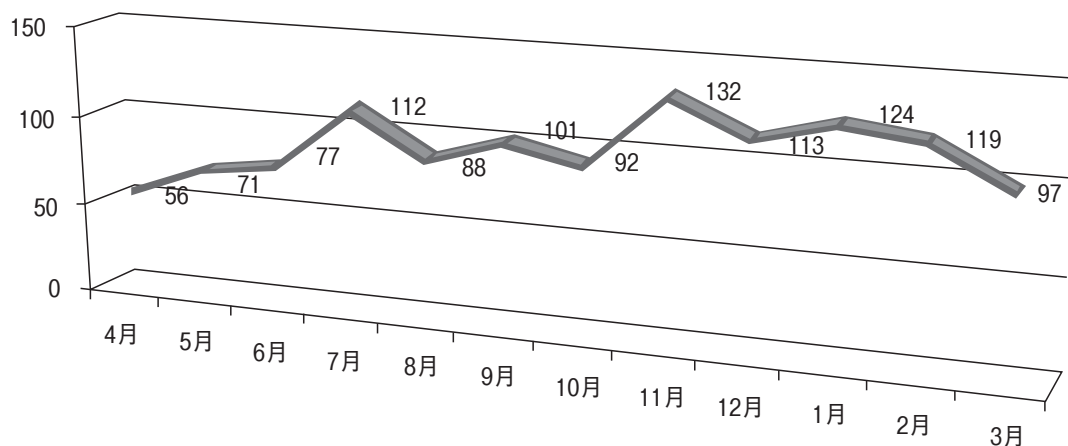
3) 国際関係の連絡窓口

日本語・中国語・英語での診療問合せ等（電話・メール）に対応している。

2. 業務実績

2019年度、国際室が対応した延べ件数は1182件となった。

図1 国際室対応延べ数（月次推移）



このデータベースにより、国際室が対応した日本語の不自由な患者の国籍は、図2の通りである。
言語別では約9割が中国語、約1割が英語等であっ

た。なお、居住地別では約8割が在日であり、約2割が訪日であることが分かった。

図2 国籍別対応延べ数（年度）

国籍	対応数
中国	1,012
日本	46
アメリカ	38
ネパール	16
パキスタン	10
モンゴル	8
インド	6
フランス	5
アイルランド	3
オーストラリア	3
オランダ	3
タイ	3
フィリピン	3

国籍	対応数
カナダ	2
ドイツ	2
ハンガリー	2
アルゼンチン	1
ウカンダ	1
キルギス	1
コロンビア	1
シンガポール	1
ナイジェリア	1
ベトナム	1
英国	1
韓国	1
(不明)	11

スタッフ センター長：中村秀次

副センター長：大山摩佐子

担当部長：住谷 哲（糖尿病・内分泌センター長）

常勤医師：藤岡滋典（特任顧問）、泉由紀子、河面 聡、眞弓周子、永田彩織、
佐藤文三（特別顧問）

1. 2019年の概要

予防医学センターは2018年4月30日に新築開院した日本生命病院に移転し、今年度は2年目となった。人間ドック受診者総数は14,883名に達し、対前年度103%増と引き続き大きな伸びを示した（表1）。定期健診受診者も37,637名と対前年度104%の増加となった。また、治療・精検の必要症例に対して、人間ドック受診当日に日本生命病院への紹介予約を積極的に行い、日本生命病院全診療科への紹介数は1,696名であった。

健診の質および快適な受診環境の維持・向上を目指して、専門医師による診察、内視鏡検査、読影、診断、およびダブルチェック体制を維持し、看護師による専門的なケア、保健師による指導、放射線技師、臨床検査技師による専門的検査を行うようにしている。また人間ドックの午前3診体制を平日毎日実施するとともに、協会けんぽを対象とした午後健診を含む午後の診察も平日実施した。更に、繁忙期の人間ドック運営体制を強化し、土曜日2診運営を6、7月に計3回実施し、需要増に対応した。消化器内視鏡センターとの連携を密にし、鎮静下内視鏡・経鼻内視鏡増にも対応した結果、上部消化管内視鏡検査は5,803件と対前年度より285件増となった。当センターの特徴である女性に優しい健診施設としての特色をより充実させるため女性医師による婦人科検診を平日毎日実施するとともに、レディースデイを月2回、2診体制としている。また、ハッピーマンデーの休日ドックを年2回、5月と9月に2診体制で実施した。メンタルヘルスサポート事業では、産業医受託企業を中心に35社、1万名強のストレスチェックを実施し、そのうち4社で集団分析を実施し報告した。精神科医師、臨床心理士によるコンサルテーションも実施し、メンタルサポート体制をより充実させ、産業医も含めてストレスチェックの実績は着実に積みあがっている。一方、受診者アンケートを毎日実施し、結果を毎週検討して、受診者の声を積極的に反映させるようにして、接遇の改善と待ち時間の短縮など受診当日の運営体制の改良を随時行い、CSの向上に常に努めている。受診者のリピート率の向上を目指しており、2019年度は人間ドック全体で87.8%であった。

社会福祉事業として、児童福祉施設を中心として25施設、入所者1,168名を対象として無料低額健診を継続実施した。また、8月に母子家庭に対する公募方式による無料乳がん検診を引き続き実施した。

先制医療への着手として、日本生命と共同で糖尿病予

防プログラムを開発し、最新の情報通信技術を活用した遠隔指導を行った。日本生命職員や地方自治体職員等730名を対象に実施し指導結果が判明している団体データでは体重や血糖値などで着実な改善が認められた。また学会活動として人間ドック学会に3題発表した。

2019年度人間ドック受診者の解析結果を以下に示す。人間ドック受診者の要治療率、要精密検査率は総計で10.5%、53.6%であり、昨年度とほぼ同率であった。年代別、性別の要治療（D1）率、要精密検査（D2）率を表2に示す。要治療率は今年度も男性より女性で3%高く、女性40歳未満では6.5%であるが、40～50歳未満の女性では要治療率が最高の14.5%を示した。要精密検査率では男性では40歳以下では40.9%であったが、年齢とともに増加し、50歳以上では50%を超え、60歳以上で62.8%に達した。女性では要精密検査率は40歳未満でも46.5%を示し、やはり年齢とともに上昇して、60歳以上では男性より高い65.4%であった。要精密検査率もすべての年代で女性が男性を上回るのとは異なる傾向であった。要治療（治療中を含む）、要精密検査項目の男女別の上位5項目を表3に示す。要治療では、男性はTop5すべてが今年度も生活習慣病であり、1～3位は昨年と同じで、1位は高血圧で23.6%、2位は高コレステロール血症で18.0%、3位は高中性脂肪14.0%であった。4位は高尿酸血症10.5%で、僅差で糖尿病10.2%を上回った。一方、女性でも、1～3位は昨年と全く同じで、高コレステロール血症、高血圧、高中性脂肪であったが、昨年5位の眼科疾患が4位に上がり貧血が主体と思われる血液疾患は5位であった。高尿酸血症が女性では少なく男性で多いのは飲酒の影響と考えられた。要精密検査では、眼科疾患が男女とも1位でそれぞれ23.3%、18%であった。肝機能異常が男性では2位16.1%であった。女性では、潜血尿が大部分を占める腎尿路系が昨年よりさらに低下し15.5%で2位となり、婦人科疾患、乳腺疾患が昨年同様3位、5位を占めた。便潜血陽性は男女ともに4位となり（男性9.4%、女性8.0%）であり、呼吸器疾患は男性では5.8%で5位に入った。

精度の高い健診に努めた結果、悪性疾患の発見は、2019年度は胃がん7例、前立腺がん7例、大腸がん5例、肺がん4例等、合計41例のがん症例を発見し、対前年2名の増であった。D1,D2判定者で健診精査内科および日本生命病院各診療科に紹介した人間ドック受診者の内訳を表4に示す。各専門診療科の協力により病院の受診者数は増加した。消化器内科、総合内科、眼科、産婦

人科、乳腺外科、循環器内科が上位を占めた。精密検査の確実な実施を含めたD1、D2フォロー体制を強化するため、1か月後フォローの実施と3か月フォローの複数回勧奨を定着させ、人間ドック診察説明時の対応も工夫し、要治療要精検者の病院受診率の向上に努めている。

2. 業績

学会発表

1. 泉由紀子, 永田沙織, 眞弓周子, 河面 聡, 住谷 哲, 大山摩佐子, 藤岡滋典, 佐藤文三, 中村秀次: 簡略更年期指数の経年的変化と生活習慣病因子との関連性について, 第60回日本人間ドック学会学術大会, 2019年7月, 岡山
2. 永田沙織, 眞弓周子, 河面 聡, 住谷 哲, 泉由紀子, 大山摩佐子, 藤岡滋典, 中村秀次, 佐藤文三: 高輝度膵(bright pancreas)と将来における糖尿病発症の関連性の検討, 第60回日本人間ドック学会学術大会, 2019年7月, 岡山
3. 眞弓周子, 永田沙織, 河面 聡, 住谷 哲, 泉由紀子, 大山摩佐子, 藤岡滋典, 中村秀次, 佐藤文三: 肝線維化マーカーFib4 indexは骨密度と関連する, 第60回日本人間ドック学会学術大会, 2019年7月, 岡山

表1 定期健康診断・人間ドック受診者数(運営会議資料抜粋)

	2019年度	対前年	備考
	名	%	
定期健康診断	37,637	104%	
人間ドック (日帰り)	8,238	102%	標準コースの 人間ドック
人間ドック (生活習慣病)	6,496	103%	協会けんぽなどの 簡易ドック
専門ドック (脳・肺ドック)	149	143%	
人間ドック 合計	14,883	103%	

表2 日帰り人間ドック受診者の年齢別、性別の要治療項目と要精密検査項目の頻度

	要治療項目 (D1)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	9.2%	35	6.5%	27	7.8%	62
40-49歳	1.2%	13	14.5%	186	8.3%	199
50-59歳	12.5%	197	12.9%	182	12.7%	379
60歳以上	11.6%	137	9.6%	87	10.7%	224
総計	9.0%	382	12.0%	482	10.5%	864

	要精密検査項目 (D2)					
	男		女		全体	
	%	人数	%	人数	%	人数
39歳以下	40.9%	155	46.5%	192	43.8%	347
40-49歳	45.3%	500	51.1%	657	48.4%	1,157
50-59歳	51.3%	806	55.1%	775	53.1%	1,581
60歳以上	62.8%	741	65.4%	594	64.0%	1,335
総計	52.0%	2,202	55.3%	2,218	53.6%	4,420

※健診システム(タック)より日帰り人間ドックコースのみ、判定D1(要治療)、D2(要精密検査)を抽出
 %は年齢別要治療・要精密検査数/年齢別全受診者数*100
 総計の%は性別総計数/全受診者数*100

表3 性別による要治療(治療中含)・要精密検査の上位5項目(日帰り人間ドック受診者)

NO	男性			NO	男性		
	要治療項目(D1)	%	人数		要精密項目(D2)	%	人数
1	高血圧	23.6%	987	1	眼科疾患	23.3%	970
2	高コレステロール血症	18.0%	754	2	肝機能疾患	16.1%	673
3	高中性脂肪血症	14.0%	587	3	腎・尿路疾患	11.9%	498
4	高尿酸	10.5%	441	4	肛門・大腸疾患	9.4%	384
5	糖尿病	10.2%	429	5	呼吸器疾患	5.8%	242

NO	女性			NO	女性		
	要治療項目(D1)	%	人数		要精密項目(D2)	%	人数
1	高コレステロール血症	17.5%	572	1	眼科疾患	18.0%	719
2	高血圧	13.6%	444	2	腎・尿路疾患	15.5%	618
3	高中性脂肪血症	12.1%	391	3	婦人科疾患	17.4%	496
4	眼科疾患	5.6%	182	4	肛門・大腸疾患	8.0%	307
5	血液疾患	5.5%	178	5	乳房疾患	6.4%	199

※各検査項目の数値・判定より抽出(センター医師による判断)
 要治療・要精密検査項目は治療中Eを含む
 %は各検査要治療受診者数/各検査受診者数*100 %は各検査要精密受診者数/各検査受診者数*100

表4 要治療・要精密検査判定者の日本生命病院への紹介(運営会議資料より抜粋)

総数	1,696人		
消化器内科	539人	循環器内科	109人
内視鏡センター	46人	腎臓内科	96人
総合内科	314人	乳腺外科	81人
眼科	296人	泌尿器科	38人
産婦人科	174人	精査内科	3人

表5 2019年度 人間ドック・協会けんぽリポート率

	前年リポート数	リポート率
人間ドック(日帰り)	7,226人	87.7%
協会けんぽ(生活習慣病)	4,643人	71.5%

※リポート率は前年リポート数/人間ドック(協会けんぽ)総受診者数*100

1. 日本医師会生涯教育講座カリキュラム

月 日(曜日)	時間	場所	カリキュラムの内容	担当者氏名 (部署名)
10月25日(金)	14時00分～15時00分	大会議室 1	秋冬のスキンケアと外用指導 秋冬に増悪する皮膚疾患の治療	東山副院長 (皮膚科)
11月 7 日(木)	15時00分～16時00分	読影室	胸部単純X線とCT	前田(宗)部長 牧副部長 (放射線診断・IVR科)
11月18日(月)	15時00分～16時00分	生理検査室	心エコーLive	岡部部長 (循環器内科)

2. 日本生命病院医学セミナーUpdate

開催月日	テ ー マ	講 師		参加人数
2019年 5 月10日	癌の免疫治療 ～肺癌を中心に～	総合内科 医長	甲原雄平	83名
2019年 6 月 7 日	危険なめまいを見逃さない・・・ 救急医療におけるめまい診断のポイント ／耳鼻咽喉科における耳科・めまい診療 のご紹介	耳鼻咽喉・頭頸部外科 副部長	小泉敏三	67名
2019年 7 月 5 日	RI検査について（主にPETを除く）	放射線診断・IVR科 副部長	小林美登利	51名
2019年 8 月 9 日	バイタルサインの使い方	総合内科 副部長	宇都佳彦	113名
2019年 9 月 6 日	新病院での新たな取り組み 同種造血幹細胞移植	血液・化学療法内科 副部長	中江吉希	99名
2019年10月 4 日	Onco-cardiology 循環器内科医の癌診療への参加	循環器内科 部長	岡部太一	55名
2019年11月 8 日	内視鏡診断・治療について	消化器内科 副部長	田中敏雄	88名
2019年12月 6 日	日本生命病院の放射線治療	放射線治療科 部長代行	丸岡真太郎	94名
2020年 1 月10日	脳神経内科医の役割	脳機能センター センター長	芳川浩男	88名
2020年 2 月 7 日	多剤併用のリスク管理	薬剤部 部長	野村浩英	76名
2020年 3 月 6 日	身近にある形成外科疾患について	形成再建外科 部長代行	宮崎裕子	65名

3. 1年目研修医オリエンテーション

日 程	研修項目	講 師
4月1日	辞令交付	総務人事G
	研修医の就業規則、入会書類説明、その他	
	説示	笠山院長
	入会式・オリエンテーション	事務長、総務人事G
	研修プログラム説明・4月オリエンテーション説明	臨床研修部長（宇都部長代行）
4月2日	進発式及び懇親会	総合企画部・総務人事G
	接遇・身だしなみ	看護部
	部署紹介	看護部（各所属長）
	災害・防災について	看護部（前川副看護部長） ・総務人事G（阪本）
4月3日	院内見学	看護部（田畑師長、他3名）
	院内感染対策指針など	看護部（大野専門部長） ・各部署感染リンクナース
4月4日	安心安全な採血	看護部 次席手順担当者
	高潮・津波ステーション見学	大阪府
	振り返り 一泊研修説明会	
4月5日	安心安全な注射技術	看護部 次席手順担当者
	クリカルパス	クリニカルパス委員会
	安全な薬剤管理	薬剤部（野村部長）
4月6日	医師会パーティー	大阪府医師会
4月8日	一泊研修	看護部
4月9日	一泊研修	看護部
	救急診療	救急診療科（岸部長）
4月10日	医療安全管理体制と安全管理の技術	看護部（中西副看護部長）
	院長回診	笠山院長
	時間外診療について	臨床研修部（中川部長）
4月11日	ローテーション決定、死亡診断書、その他	臨床研修部長代行（宇都医師）
	抗菌薬適正使用	中央臨床検査部（小瀬戸部長）
4月12日	退院支援・医療福祉相談	医療福祉相談G（本家副部長）
	病診連携	あったかサポートセンター（西岡課長）
	リハビリ依頼について	リハビリテーション室（片岡副技師長）
	薬剤処方	薬剤部（古久保職員）
	カルテ記載、病歴管理、文献検索等	診療情報管理室（橋本部長・宮本課長）
4月18日	造影CT検査	放射線科（前田部長）
	電子カルテ基本操作	情報システムG
	剖検、CPC	病理診断科（城光寺部長代行）
	検血、生化学、輸血など	中央臨床検査部
	生理機能検査、心エコーの基礎	
	腹部超音波検査など	
	微生物検査、病理検査室	医事サービス部（村上担当部長）
	レセプト、医療費など	
	栄養指導	

4. 実習生等受け入れ

部門	学校名	期間	人数
総 合 内 科	大 阪 大 学	2019.5.7～2019.5.17	1名
血液・化学療法内科		2019.4.1～2019.4.19	2名
		2019.7.1～2019.7.12	2名
神経科・精神科		2019.9.9～2019.9.12	2名
		2019.9.30～2019.10.3	2名
皮 膚 科		2019.9.9(1日)	3名
		2019.10.21(1日)	2名
泌 尿 器 科		2019.10.21～2019.10.25	1名
総 合 内 科	兵 庫 医 科 大 学	2019.4.1～2019.4.26	2名
		2019.4.1～2019.4.12	1名
		2019.4.12～2019.4.26	1名
産 婦 人 科		2019.4.1～2019.4.12	1名
循環器内科		2019.4.12～2019.4.26	1名
血液・化学療法内科		2020.2.17～2020.2.28	1名
		2020.2.17～2020.2.28	1名
形成再建外科		2020.3.2～2020.3.8	1名
消化器内科	神 戸 大 学	2020.1.7～2020.1.31	4名
		2020.2.3～2020.2.28	3名
循環器内科	大 阪 医 科 大 学	2019.5.7～2019.5.31	2名
		2019.6.3～2019.6.28	2名
脳神経内科		2019.5.7～2019.5.31	2名
		2019.6.3～2019.6.28	1名
消化器内科	杏 林 大 学	2019.5.7～2019.5.31	1名
神経科・精神科	武庫川女子大学	2019.9.30～2019.12.23	1名
薬 剤 部	神戸学院大学薬学部	2019.5.27～2019.8.11	1名
	大 阪 薬 科 大 学	2019.5.27～2019.8.11	1名
		2019.8.26～2019.11.11	1名
	立 命 館 大 学	2019.8.26～2019.11.11	1名
	同志社女子大学	2019.8.26～2019.11.10	1名
	武庫川女子大学	2019.5.27～2019.8.11	1名
		2019.8.26～2019.11.11	1名
		2019.11.25～2020.2.16	1名
京 都 薬 科 大 学	2019.11.25～2020.2.16	1名	
リハビリテーション室	大 阪 リ ハ ビ リ テーション専門学校	2019.8.26～2019.10.18	1名
	藍 野 大 学	2019.11.11～2019.12.7	1名
	大阪保健医療大学	2019.4.8～2019.6.8	1名
		2020.2.3～2020.2.21	1名

部門	学校名	期間	人数
中央臨床検査部	大阪医療技術専門学校	2019.4.3～2019.9.6	2名
	関西医療大学	2019.10.23～2019.12.20	1名
	森ノ宮医療大学	2019.10.1～2019.11.29	2名
中央放射線部	大阪物療大学	2019.9.24～2019.12.10	2名
	大阪行岡医療専門学校校長柄校	2019.6.3～2019.7.31 2019.9.2～2019.10.31	4名
栄養管理室	甲子園大学	2019.7.1～2019.7.12 2019.7.16～2019.7.29	4名
	大手前栄養製菓学院専門学校	2019.7.29～2019.8.2	2名
	羽衣国際大学 ⇒コロナで中止	2020.3.2～2020.3.13	2名
	大手前大学	2020.1.27～2020.2.7	4名
	相愛大学	2019.11.11～2019.11.22	2名
看護部	甲南女子大学	2019.5.27～2019.6.6	6名
	大阪病院協会 看護専門学校	2019.4.8～2019.7.24	28名
		2019.7.1～2019.7.30	28名
	森ノ宮医療大学	2019.4.15～2019.4.26	4名
	甲南女子大学	2019.8.19～2019.9.27	2名
		2019.11.11～2019.12.18	2名
	大阪保健福祉専門学校	2019.6.24～2019.7.12 2019.8.5～2019.8.23	94名
		2020.1.15～2020.1.30	4名
		2019.7.16～2019.7.24	4名
	四條畷学園	2020.1.7～2020.1.16	5名
		2020.1.7～2020.1.21	5名
		2020.1.21～2020.1.29	5名
		2020.1.28～2020.2.12	5名
		2019.10.29～2019.11.6	5名
	関西医療大学	2019.11.12～2019.11.20	5名
		2019.11.25～2019.12.13	10名
	南大阪看護専門学校	2019.5.7～2019.9.3	14名
	大阪医専	2019.5.8～2020.3.11	63名
	大阪府立大学	2019.7.1～2019.7.21	1名
臨床研究管理室	アイコンジャパン	2019.8.23	5名
麻酔・緩和医療科	大阪市消防局 (救急救命士)	2020.2.26～2020.3.24	1名

5. 講演会・研修会

【院内職員対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月21日	2019年度第1回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 大阪掖済会病院、大阪みなと中央病院、日本生命病院 ・大阪掖済会病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	大阪掖済会病院
8月6日	院内感染対策委員会（ICT）第42回教育講演 第2回感染防止対策病院連携合同カンファレンス ・感染対策教育委員会教育講演 「結核の診断と感染対策」 大阪急性期・総合医療センター 総合内科部長・感染制御室 室長 大場 雄一郎 ・職種別分科会	感染対策委員会	あったかふれあいホール 院内各所
9月5日	接遇研修会 「医療現場におけるつながる心 ～多職種との関係性を構築する6つのポイント～」 一般社団法人日本地域総合人材育成機構 理事長 重田 由美	教育委員会 看護部 あったかサポートセンター 総務人事G	あったかふれあいホール
10月8日	保険診療に関する講習会 ①DPCの仕組みについて ②診療報酬に関するコストについて 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	あったかふれあいホール
10月15日	2019年度第3回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日本生命病院 ・大阪みなと中央病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	大阪みなと中央病院
10月25日	2019年度第1回医療安全研修 「Safety-II（うまくいくことを増やす）の視点から医療安全を考える」 ～「つながり」の重要性～ 大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 北村 温美	医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
10月29日	臨床倫理研修会 「人生は選択の連続である－ハムレット（シェイクスピア）」 ～患者や家族に良い結果をもたらすための決断～ 大阪大学大学院医学系研究科 医の倫理と公共政策学 古結 敦士	倫理委員会 臨床研究管理室 臨床倫理カンファレンスチーム	あったかふれあいホール
11月18日 他 5回	院内感染対策委員会（ICT）第42回教育講演 ①ICT研修：「消毒薬使用時のあれこれ」 ②ビデオ研修：感染経路別予防策と咳エチケット	感染対策委員会	あったかふれあいホール
11月29日	施設基準に係る職員向け研修会 ①総合評価加算のコストについて 医事サービス部 担当部長 村上 学 ②総合評価加算に関する評価方法について 血液・化学療法内科 副部長 加藤 るり	医事サービス部	あったかふれあいホール
12月10日	医療ガスの安全な取り扱い研修会 ・「医療ガスの安全管理について」 ・ヒヤリハット事例と事故事例及び医療用ガスの取扱いにおける注意事項 ・医療ガス供給設備について ・災害対策を考える	医療ガス安全管理委員会	あったかふれあいホール
1月24日	輸血療法講演会 「輸血による止血戦略：大量出血、中心静脈カテーテル挿入への対応」 血液・化学療法内科 部長 川上 学	輸血療法委員会	あったかふれあいホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
2月8日	I 第40回 看護研究発表会 ①「人生最終段階における透析患者のケアの振り返り」 ～今後の看護の方向性を導くために～ 外来 河村 理香 ②「血液がん患者における理学療法士と協働してすすめる がんリハビリテーションの効果」 9階病棟 島田 朋佳 ③「侵襲的手術を受けた患者の身体症状に伴う精神的なケア」 10階病棟 大鳥 仁見 ④「生活環境の変化に対応できない高齢患者の生活リズム を整える取り組み」 11階病棟 木村 祐貴 ⑤「子宮頸部円錐切除術を受けた患者が退院後に感じる疑問や戸惑い」 7階病棟 奥出 侑華 ⑥「退院前後訪問を取り入れた病棟看護師の関わり」 13階病棟 藤本 華子 ⑦「慢性疾患患者の内服のアドヒアランス向上への動機付け」 14階病棟 立貝 美怜 ⑧「当院での腰椎手術における外回り看護師の褥瘡予防対策の実態について」 ～4点支持器を使用した腹臥位手術～ 手術室 川原 沙季 ⑨「乳幼児の点滴固定方法」 8階病棟 岡崎 志織 ⑩「弾性ストッキングによるMDRPU発生要因の実態調査と事例検討」 12階病棟 中川 綾 II 看護部委員会活動報告会	看護部	あったかふれあいホール
2月14日	2019年度第2回医療安全研修 I 2019年度 ワーキング活動報告 ①医療品の安全管理ワーキング（医療品安全管理のための講習会） 薬剤部 副部長 足立 充司 ②医療機器ワーキング（医療機器安全管理のための講習会） 臨床工学室 田口 貴大 ③転倒転落ワーキング 8F看護師長 神谷 香里 II 中心静脈カテーテル挿入に関する認定制度 副院長 立花 功	医療安全管理委員会	あったかふれあいホール
2月18日	2019年度第4回 感染防止対策病院連携合同カンファレンス 大阪みなと中央病院、大阪掖済会病院、日本生命病院 ・日本生命病院のラウンド ・合同カンファレンス ・職種別分科会	感染対策委員会	院内各所
2月27日	研修医発表会 1年目研修医症例報告会	臨床研修部	あったかふれあいホール
3月5日	研修医発表会 2年目研修医臨床研究発表会	臨床研修部	あったかふれあいホール
3月27日	2020年度診療報酬改定説明会 医事サービス部 担当部長 村上 学	医事サービス部	あったかふれあいホール

【医療関係者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月16日	第4回 日本生命病院地域連携看護セミナー 「HIV/AIDSで発展した感染対策」 ～感染予防の過去・現在（いま）・未来～ 感染症看護専門看護師 大野 典子	看護部	あったか ふれあい ホール
5月28日	日本生命病院 緩和ケア講演会 「がん支持療法に役立つ漢方薬」 芝大門 いまづクリニック 院長 今津 嘉宏	看護部	あったか ふれあい ホール
6月15日	第20回 あわぎフォーラム 病診連携学術講演会 Ⅰ講演 ①「当院における形成再建外科の役割 ～チーム医療の重要性～」 形成再建外科部長代行 藤原 敏宏 ②「『私らしく』生きる ～現代を生きる女性のための産婦人科医療を目指して～」 産婦人科部長 橋本 奈美子 Ⅱ特別講演 「膀胱癌 ～予後改善を目指して～」 神戸大学内科学講座 消化器内科学分野 教授 児玉 裕三	あったかサポートセンター	あったか ふれあい ホール
7月18日	第5回日本生命病院地域連携看護セミナー 「症例から考えるストーマ囲皮膚障害の対策」 皮膚・排泄ケア認定看護師 田中 敬子	看護部	あったか ふれあい ホール
8月2日	勤務医・看護師必見！ 在宅医療のススメ 講演会 「『在宅医療』という選択」 四つ橋診療所 副院長 安井 博規 ニッセイ訪問看護ステーション 担当部長 水上 洋子	大阪市西区医師会 ニッセイ訪問看護 ステーション	あったか ふれあい ホール
9月19日	第6回日本生命病院地域連携看護セミナー 「バイタルサインで救急受診の必要性を見極める」 救急看護認定看護師 牧田 佐和子	看護部	あったか ふれあい ホール
9月26日	あわぎ病診連携セミナー 総合座長 永田医院 院長 永田 昌敬 Session1 「病態・患者背景に応じた2型糖尿病薬物治療」 医療法人警和会 大阪警察病院 糖尿病・内分泌内科 部長 安田 哲行 Session2 「肺の生活習慣病COPD ～予防から最新治療まで～」 大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫内科学 講師 武田 吉人	あったかサポートセンター	あったか ふれあい ホール
9月27日	日本生命病院ベーシック実践医療セミナー 「認知症と自動車運転」 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学分野 教授 池田 学	あったかサポートセンター ニッセイ訪問看護 ステーション	あったか ふれあい ホール
9月29日	第6回日本生命病院JMECCコース 日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会	ACLS委員会	あったか ふれあい ホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
10月19日	第12回あわぎクリニカルカンファレンス I クリニカルカンファレンス ①「皮膚筋炎と悪性腫瘍の気になる関係－TIF1抗体陽性皮膚筋炎」 皮膚科 高田 洋子 ②「動悸症状で経過観察中に冠攣縮狭心症を発症した症例について」 循環器内科 友渕 彰人 ③「悪性腫瘍や感染症との鑑別に難渋した胸水の症例について」 総合内科 田中 雅樹 ④「痙攣、片麻痺で発症した成人インフルエンザ脳症について」 脳神経内科 佐藤 智彦 ⑤「ペムプロリズマブを用いた局所進行膀胱癌治療について」 消化器内科 花本 浩一 II 講演 「症例から学ぶ糖尿病のトータルマネジメント」 院長 笠山 宗正	皮膚科 循環器内科 総合内科 脳神経内科 救急診療科 消化器内科 あったかサポートセンター	ホテル 日航大阪
11月22日	第7回日本生命病院地域連携看護セミナー 「静脈血栓塞栓症について ～リスクと予防～」 手術看護認定看護師 二井 千里	看護部	あったか ふれあい ホール
12月11日	大阪府指定がん診療拠点病院 医科歯科連携推進事業研修会 ①「がん治療前の口腔健康管理の実際と治療中の副作用対策・ケアについて」 大阪市西部地区歯科医師会 槇田 雅之 ②「口腔機能障害の診方（みかた） ～問診を中心に～」 大阪府歯科医師会理事 小谷 泰子	がん治療センター あったかサポートセンター	あったか ふれあい ホール
1月16日	第8回日本生命病院地域連携看護セミナー 「外来がん化学療法を受ける患者の病院と地域のがん看護連携」 ～ケアをつなぐ支援の実際～ がん化学療法看護認定看護師 大島 千春	看護部	あったか ふれあい ホール
1月17日	日本生命病院 褥瘡対策委員会特別講演 「褥瘡対策における急性期病院の取り組みと課題」 医療法人社団 廣仁会 札幌皮膚科クリニック 院長 安部 正敏	褥瘡対策委員会	あったか ふれあい ホール
2月2日	第7回日本生命病院JMECCコース 日本内科学会認定 内科救急・ICLS講習会	ACLS委員会	あったか ふれあい ホール
2月3日	ACP研修会 「～いまを幸せに生きる～ エンドオブライフケアとACP（人生会議）」 公益財団法人 田附興風会医学研究所 北野病院 緩和ケア科部長 梶山 徹	教育委員会 がん治療センター	あったか ふれあい ホール
3月9日	第9回日本生命病院地域連携看護セミナー 「高齢者と薬」 老人看護専門看護師・診療看護師 長瀬 亜岐	看護部	あったか ふれあい ホール

【一般・患者対象】

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
5月17日	ニッセイ看護フェア ・身体測定（身長、体重、血圧、体組成等） ・アロママッサージ ・認定・専門看護師による講演（ミニレクチャー） ・AED体験	看護部	あったかふれあいホール
6月29日	2019年度 第1回 ニッセイ市民健康セミナー Ⅰ セミナー ①「美味しく減塩！腎症予防！」 栄養管理室 坂本 彩弥 ②「眼瞼下垂のおはなし」 ～まぶたが開けにくくありませんか？～ 形成再建外科部長代行 藤原 敏宏 Ⅱ 落語会 「アマチュア落語寄席」 桜川 小糸、幸亭 花凜、浪速家 喜久五郎	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
7月26日	ニッセイ夏休みこども医療体験2019 ・見学体験：看護部、臨床工学室、リハビリテーション室、中央臨床検査部、薬剤部、中央放射線部、事務管理部 ・実習：内視鏡下手術、あかちゃん沐浴、AED、松葉杖、調剤 等	事務管理部 あったかサポートセンター 福祉事業局	院内各部
7月29日(大阪) 8月9日(東京)	「2019年度 ニッセイグループ夏休み自由研究フェス！」 ・AED体験 看護部 ・松葉杖体験 リハビリテーション室	日本生命保険相互会社 総合企画部	—
9月6日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「高齢になってからの骨折を防ぐために」 ～知って得する「骨粗しょう症」のお話～ 院長 笠山 宗正	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
10月16～17日 (花乃井中学校) 11月14～15日 (堀江中学校)	花乃井中学校及び堀江中学校からの職場体験学習 ・病院見学：情報システム室、中央臨床検査部、中央放射線部、防災センター ・実習：看護師、薬剤部、診療情報管理室、リハビリテーション室、臨床工学室、ボランティア ・ドクター講和：花乃井中学校 副院長 立花 功 堀江中学校 予防医学センター長 中村 秀次	看護部 総務人事G 福祉事業局	院内各部
10月4日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「ご存じですか？緩和ケア」 がん性疼痛看護認定看護師 小山 佐知子	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
11月7日	第2回あわぎ乾癬セミナー Ⅰ 情報提供 Ⅱ 一般講演 ①「長期外用のみで加療されていた多数の併存症を有する乾癬性紅皮症・関節炎」 皮膚科 高田 洋子 ②「アダリムマブで加療した乾癬性脊椎関節炎の4症例」 社団医療法人 頌徳会 日野クリニック 院長 小塚 雄民 ③「頭部に多発膿瘍を生じた尋常性乾癬の1例」 市立東大阪医療センター 皮膚科 福田 美輝 Ⅲ 特別講演 「エコーによる乾癬性関節炎の早期発見と治療」 大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科 病棟講師 岡野 匡志	皮膚科	あったかふれあいホール

日程	講演会・研修会	主催・関係課等	場所
11月8日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「わかりやすく。 遺伝子検査について」 中央臨床検査部 医療技能部長 浅野 正宏	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
11月15日	日本生命病院 いい皮膚の日 Ⅰ ミニコンサート Ⅱ 講演 ①「カビにご用心」 11階病棟看護師 ②「正しい洗い方ご存じですか？」 外来看護師 ③「そのできもの大丈夫？皮膚腫瘍について」 皮膚科医師 山下 千佳紗 Ⅲ お肌についての医療・看護相談	皮膚科 あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
11月22日	日本生命病院糖尿病フェア Ⅰ 各種測定・相談 ・血糖値測定 看護師 ・血管年齢測定 臨床検査技師 ・筋肉量・握力測定 理学療法士 ・栄養相談 管理栄養士 ・お薬相談 薬剤師 ・簡易医師相談 医師 Ⅱ 医師によるミニセミナー 「糖尿病との付き合い方」 総合内科 鈴木 茂仁	糖尿病・内分泌センター あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
12月13日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「冬もスキンケアは大切です」 皮膚科 部長 東山 真里	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
1月10日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「健やかな100年ライフのための食事アドバイス」 栄養管理室 出口 暁子	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
1月31日	日本生命病院糖尿病ランチ&セミナー Ⅰ 昼食会 「『バランス弁当～和食～』を試食してみよう」 Ⅱ 講演会 ①「糖尿病と有酸素運動について」 リハビリテーション室 新井 聖章 ②「糖尿病の最近の話題」 糖尿病・内分泌センター長 糖尿病患者会「錦会」顧問医 住谷 哲 ③「水溶性食物繊維のはたらき ～食後の血糖値抑制・排泄改善～」 太陽化学株式会社 中川 博樹	栄養管理室 糖尿病・内分泌センター	あったかふれあいホール
2月13日	日本生命病院 市民健康セミナー 「慢性めまいにお困りの方へ ～原因不明のめまいの対処法～」 奈良県立医科大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科 教授 めまいセンター センター長 北原 紘	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
2月14日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「どこでもできる骨盤底筋体操」 ～インナーマッスルを鍛えて、尿漏れなどを予防しましょう～ リハビリテーション室 理学療法士 藤岡 栄悟	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール
3月6日	日本生命病院 市民健康セミナー ～30分でよくわかる健康講座～ 「長引く 咳（せき） その原因は？」 副院長・総合内科部長 立花 功	あったかサポートセンター	あったかふれあいホール

6. 日本生命病院医学賞・医学奨励賞

日本生命病院医学賞

該当者なし

日本生命病院医学奨励賞

所属	氏名	受賞内容
消化器外科	山下晋也 (医師)	Impact of endoscopic stent insertion on detection of viable circulating tumor cells from obstructive colorectal cancer. (大腸癌イレウスに対するステント留置の功罪－ステント留置に伴う微小循環がん細胞の遊出は予後に影響するのか？－)
腎臓内科	藤野佳彦 (医師)	Recurrent pleuroperitoneal leak caused by diaphragm blebs in a peritoneal dialysis patient: a case report with literature review (腹膜透析患者における横隔膜ブレブを介した横隔膜交通症：症例および文献的考察)
中央臨床検査部	倉本訓子 (臨床検査技師)	A case of monoclonal gammopathy of undetermined significance with abnormal low levels of plasma glycosylated albumin by M protein (意義不明の単クローン性 γ グロブリン血症のM蛋白により血漿グリコアルブミンが偽低値を示した1症例)
臨床研修部	高森啓成 (医師)	A Case of Idiopathic Chyluria with Nephrotic-range Proteinuria and Hypothyroidism (ネフローゼレベルの蛋白尿と甲状腺機能低下症を来した1例)

7. 地域活動

事業等	出務場所	出務日	講師/出務医師	備考
急病診療所出務	西九条休日急病診療所	4月28日(日) 10:00～17:00	吉川秀人	内科担当
		7月14日(日) 10:00～17:00	二宮隆介	内科担当
		2月23日(日) 10:00～17:00	藤田真祐子	小児科担当
	中央急病診療所	12月7日(土)深夜 22:00～翌2:00	吉川秀人	内科担当
3か月児健康診査	西区保健福祉センター	毎月第3水曜日 13:30～	池原千衣子	
		6・8・9～12月 第4水曜日 13:30～	池原千衣子	
3歳児健康診査 (耳鼻咽喉科)	西区保健福祉センター	5月29日(水) 13:45～	藤田信哉	
		12月4日(水) 13:45～	藤田信哉	
BCG接種	西区保健福祉センター	4～8・1・3月 第4金曜日 13:15～	藤田真祐子	問診担当
		9・10月第4金曜日 13:15～	赤木幹弘	
		2月第4金曜日 13:15～	池原千衣子	
西区医師会第1回学術講演会 講演1「多様な血糖降下薬を いかに使いこなすか」	日本生命病院 あったかふれあいホール	4月25日(木) 19:00～20:30	住谷 哲	西区医師会主催の学術講演会
大阪西地域産業保健 センター 労働健康相談	西区民センター	10月17日(木) 17:30～19:30	高橋 励	産業医による小規模事業所の 労働健康相談

8. ボランティアについて

地域に開かれた病院としてボランティアを一般市民から受け入れ、地域との信頼関係を強化し、より一層地域社会に貢献したい。

また、ボランティアは職員と協力し、患者さんが安心して治療を受けられるよう一人一人の患者さんにきめ細かいサービスを提供し、より良い療養環境を作り上げるよう努めていく。

■ 概要

名 称 「あったかサポートクラブ」
発 足 2001年（平成13年）
登録人数 26人（男性5人、女性21人）
工房（ワークショップの講師4人）

活動内容

案内ボランティア

初再診手続きのサポート、車いす患者の介助、診察・検査等場所の案内
入院患者さんのサポート（買い物代行・お洗濯代行等）

図書ボランティア

外来図書コーナー、病棟図書コーナーの管理

ものづくりボランティア

患者さんや、図書の寄付者へのプレゼント作り

ガーデンボランティア

ニッセイ四季彩ガーデンの手入れ

工房ボランティア（ワークショップの講師）

- ・ボタニカルアート教室
- ・ビーズ・アクセサリ教室
- ・水墨画教室
- ・絵だより教室

9. 広報関係（テレビ、新聞、雑誌等）

(1) テレビ

- ・2019年7月27日 毎日放送 医のココロ（立花功）

(2) 新聞

- ・2019年8月25日 読賣新聞 朝刊
「病院の実力」（橋本奈美子）
- ・2019年10月25日 サンケイリビング新聞 リビング北摂
「教えてドクター!」（東山眞里）

(3) 雑誌

- ・2019年10月 メディナスタイムズ 第7号（小川莉永）
- ・2019年11月 OSAKA看護だより 第136号（高崎かおり）

(4) 表彰

- ・第39回大阪都市景観建築賞（愛称：大阪まちなみ賞）
「緑化賞」

(5) 監修（日本生命関連）

- ・がん読本（2020年度版）
- ・NISSAYデータブック（2020年度版）
- ・経営情報（コラム：カラダは語る）
2019年4月号 乳がん（西田幸弘）
2019年5月号 乾癬（東山眞里）
2019年6月号 子宮がん（橋本奈美子）
2019年7月号 気管支喘息（宮武明彦）
2019年9月号 多発性骨髄腫（川上学）



毎日放送 医のココロ



第39回大阪都市景観建築賞「緑化賞」



がん読本（2020年度版）



NISSAYデータブック（2020年度版）



経営情報（コラム：カラダは語る）

10. 院内行事

〈2019年〉

4月1日	・新入職員入会式
4月1日	・進発式
4月8日	・新人1泊研修（～4月9日）
4月17日	・がん患者さん・ご家族のための「ニッセイあったか茶論（サロン）」（～2月19日まで全11回）
4月20日	・日本生命病院ICLSコース
4月24日	・CS・ES進発
4月26日	・糖尿病患者友の会「錦会」総会
5月6日	・COOLBIZ（～10月31日）
5月6日	・休日診療（5月6日、9月16日）
5月7日	・監査法人トーマツによる会計監査（5月7～18日、12月9～12日、2月25～26日、3月9～13日・31日）
5月10日	・ニッセイ医学セミナー Update（～3月6日まで全11回）
5月16日	・日本生命病院地域連携看護セミナー（5月16日、7月18日、9月19日、11月22日、1月16日）
5月17日	・大阪乾癬友の会「梯の会」総会（5月17日、12月20日）
5月17日	・ニッセイ看護フェア
5月21日	・感染防止対策病院連携合同カンファレンス（5月21日、8月6日、10月15日、2月18日）
5月28日	・緩和ケア講演会
5月31日	・定時理事会
6月8日	・江之子島エリアまちびらきイベント「えのこじまグルグル」
6月15日	・あわぎフォーラム（特別講演：神戸大学内科学講座消化器内科学分野 児玉裕三教授）
6月15日	・開放型病院登録医総会
6月15日	・開放型病院運営委員会
6月18日	・日本生命病院地域医療支援運営委員会（6月18日、9月17日、12月17日、3月17日）
6月18日	・定時評議員会・臨時理事会
6月18日	・理事会・評議員会報告会（決算報告会）
6月29日	・ニッセイ市民健康セミナー（第2部：桂文喬主宰アマチュア落語研究会による寄席）
7月1日	・日生稲荷神社・日生白玉神社 神事（稲荷祭）
7月5日	・ニッセイあったか七夕コンサート
7月20日	・医局OB・OG会
7月26日	・ニッセイ夏休みこども医療体験2019
7月29日	・ニッセイグループ 夏休み自由研究フェス！（7月29日、8月9日）
7月29日	・相愛大学音楽学部学生によるあったかふれあいコンサート
8月5日	・CPC（8月5日、11月8日、12月3・23日、1月24日、2月18日、3月24日）
8月5日	・消防・防災訓練（8月5日、12月3日）
8月6日	・院内感染対策教育講演会
8月18日	・無料乳がん検診・健康診査
9月5日	・接遇研修会
9月6日	・よくわかる健康講座（9月6日、10月4日、11月8日、12月13日、1月10日、2月14日）
9月13日	・褥瘡対策委員会×NST合同研修会
9月20日	・あったかふれあいコンサート（9月20日、10月30日、1月9日、2月19日）
9月26日	・あわぎ病診連携セミナー
9月27日	・人権研修会
9月27日	・JMECC（9月27日、2月2日）
10月8日	・保険診療研修会
10月9日	・新人リフレッシュ研修
10月16日	・花乃井中学校 職場体験学習（～10月17日）
10月18日	・下期進発式、日本生命病院医学賞・医学奨励賞表彰式、永年勤続表彰
10月19日	・あわぎクリニカルカンファレンス
10月25日	・医療安全教育講演会（10月25日、2月14日）
10月28日	・大阪市保健所立入検査
10月29日	・臨床倫理研修会
11月7日	・あわぎ乾癬セミナー

11月13日	・篤志解剖者慰霊祭
11月14日	・堀江中学校 職場体験学習（～11月15日）
11月15日	・ニッセイいい皮膚の日
11月18日	・院内感染症対策委員会教育研修会（11月18日、12月9・11・18日）
11月21日	・認知症対応力研修（11月21日、12月3日）
11月22日	・日本生命病院糖尿病フェア
11月27日	・医療安全対策相互評価ラウンド（11月27日、12月4日、1月29日）
11月29日	・ニッセイあったかJAZZコンサート
11月29日	・総合評価加算研修会
12月4日	・人間ドック受診施設機能評価 訪問調査
12月10日	・医師臨床研修病院実地調査
12月10日	・医療ガスの安全な取扱研修会
12月10日	・大阪府指定がん診療拠点病院 医科・歯科連携研修
12月12日	・感染防止対策相互評価ラウンド（12月12日、12月26日）
12月13日	・ニッセイあったかクリスマスコンサート
12月20日	・日本生命病院 大忘年会

〈2020年〉

1月6日	・新年互礼会
1月14日	・大阪まちなみ賞「緑化賞」授賞式
1月17日	・褥瘡対策委員会特別講演会
1月24日	・輸血療法講演会
1月28日	・卒後臨床研修評価機構（JCEP）受審
1月31日	・糖尿病ランチ&セミナー
1月31日	・新型コロナウイルスに関する説明会
2月3日	・ACP研修会
2月7日	・大阪市福祉局監査（ニッセイ訪問看護ステーション）
2月8日	・看護部研究発表会
2月10日	・ジャパン・インターナショナル・ホスピタルズ（JIH）訪問調査
2月13日	・日本生命病院市民健康セミナー（講師：奈良県立医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学 北原紘教授）
2月27日	・1年目研修医症例報告会
2月28日	・排尿ケアチーム講演会
3月5日	・2年目研修医臨床研究発表会
3月16日	・定時理事会（書面による決議・報告の省略）
3月25日	・臨時評議員会（書面による報告の省略）
3月27日	・2020年度診療報酬説明会

公益財団法人 日本生命済生会
日 本 生 命 病 院 年 報
公第8巻（通算第19巻） 2020年9月発行

編 集 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院 年報WG
発 行 公益財団法人 日本生命済生会 日本生命病院
住 所 〒550-0006 大阪市西区江之子島2丁目1番54号
T E L (06) 644-33-446（代表）
U R L <https://www.nissay-hp.or.jp/>